義務教育基本調査報告書
【概要版】

平成 27 年 3 月

堺市教育委員会事務局

総務部教育政策課

◆◇◆　目　次　◆◇◆

１．　調査概要 1
（１）調査目的 1
（２）調査対象 1
（３）調査方法 1
（４）回収状況 2
（５）報告書内指標化について 2

２．　小中学生本人調査の結果 3
（１）回答者の属性 3
（２）日常生活について 4
（３）学校での勉強や活動のことについて 33
（４）学校や勉強についての意見 62
（５）生活の中で感じていることや将来のことについて 72

３．　小中学生保護者調査の結果 87
（１）回答者の属性 87
（２）学校との関わり 89
（３）学校教育について 93
（４）家庭教育や放課後の子どもの様子について 113

４．　教員調査の結果 119
（１）回答者の属性 119
（２）学習指導などの状況 124
（３）学校教育について 135

１．調査概要

（１）調査目的

本市における児童生徒の生活実態・意識・満足度及び、義務教育に関する保護者や教員の意識やニーズを把握するとともに、平成 21 年度調査結果との経年比較を行うことによって、義務教育の現状や課題、状況の変化等を的確に捉え、分析することを目的として実施したものである。また、「未来をつくる堺教育プラン（平成 23 年策定）」の評価・分析を行い、総括及び次期教育振興基本計画の策定にいかすための基礎資料とするものである。

（２）調査対象

本調査では、6 種類の調査を実施した。各調査の対象・配布数は以下の通りである。

調査種類	調査対象	配布数
小学生本人調査（3･4 年生）	堺市立小学校に通学する 3･4 年生の児童	2,115 票
小学生本人調査（5･6 年生）	堺市立小学校に通学する 5･6 年生の児童	2,091 票
中学生本人調査	堺市立中学校に通学する 1～3 年生の生徒	3,178 票
小学生保護者調査	堺市立小学校に通学する 3～6 年生の児童保護者	4,206 票
中学生保護者調査	堺市立中学校に通学する 1～3 年生の生徒保護者	3,178 票
教員調査	堺市立小中学校に勤務する教員	952 票

（３）調査方法

■小学生・中学生本人調査

・学校を通じて自記式調査票の配布・回収

（堺市立小中学校全校から各校 1～2 クラスを抽出し、対象クラス全員に配布）

■小学生・中学生保護者調査

・児童生徒を通じて自記式調査票の配布・回収

（上記の小学生・中学生本人調査の対象児童生徒の保護者全員に配布）

■教員調査

・自記式調査票の郵送配布・回収

（堺市立全小中学校の校長・教頭及び上記調査対象クラスの担任を含む教員各校 7 名に配布）

■調査時期

・平成 26 年 10 月

（4）回収状況

各調査の有効回収数・回収率は以下の通りである。

調査名	有効回収票数	回収率
小学生本人調査(3･4 年生)	2,063 票	97.5%
小学生本人調査(5･6 年生)	2,021 票	96.7%
中学生本人調査	2,965 票	93.3%
小学生保護者調査	3,522 票	83.7%
中学生保護者調査	2,250 票	70.8%
教員調査	896 票	94.1%

（5）報告書内指標化について

報告書内の一部設問（頻度・好感度・認知度等の設問）においては、指標化にて比較を行っている。指標化については以下の通りである。

点数	項目例			
10 点	よくしている	とても好き	とてもそう思う	よく知っている
5 点	ときどきしている	まあ好き	まあそう思う	－
0 点	－	どちらともいえない	－	－
−5 点	あまりしていない	あまり好きでない	あまりそう思わない	あまり知らない
−10 点	まったくしていない	まったく好きでない	まったくそう思わない	まったく知らない

※上記の点数にてスコア化を行い、重み付けを行っている。

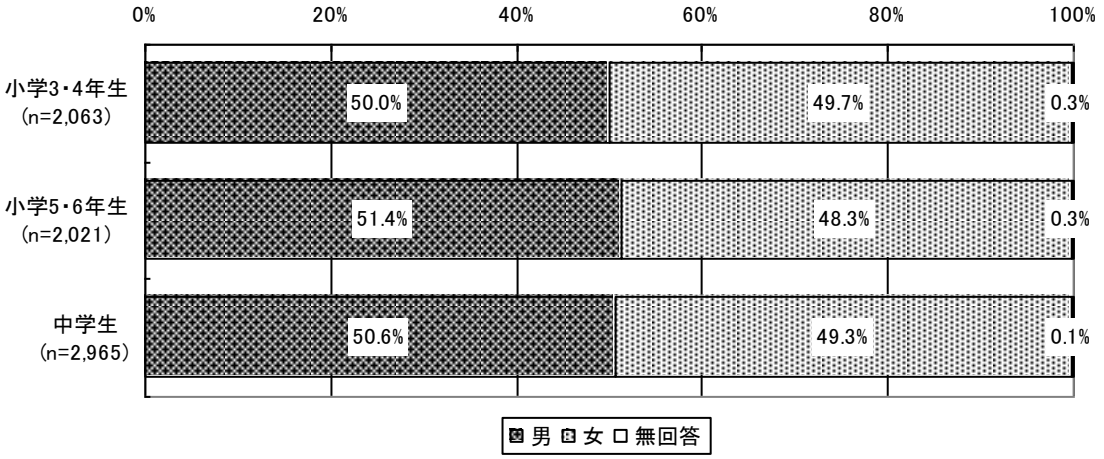
２．小中学生本人調査の結果

(１)回答者の属性

１）性別

回答者の性別をみると、小学３・４年生、小学５・６年生、中学生とも、男女の割合は同程度となっている。

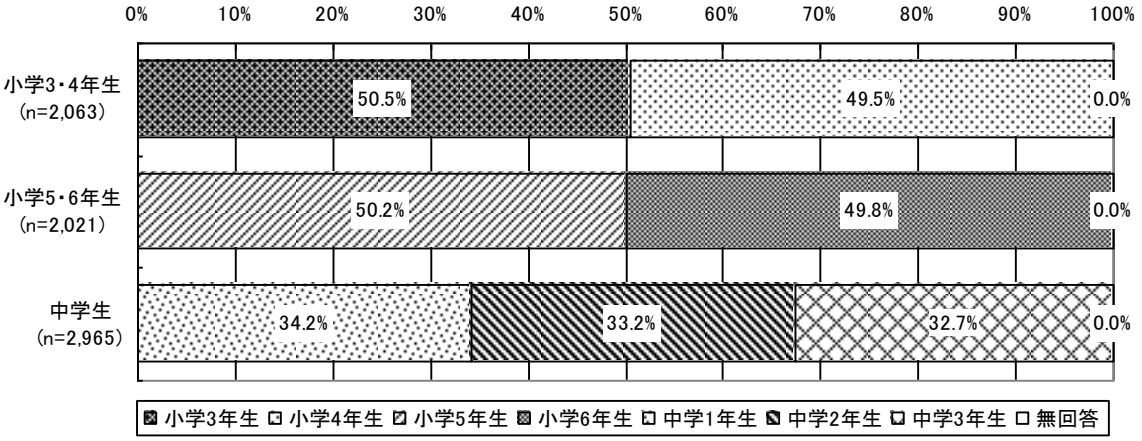
図表　２-１　性別



２）学年

小学生・中学生とも、各学年でほぼ均等な割合となっている。

図表　２-２　学年

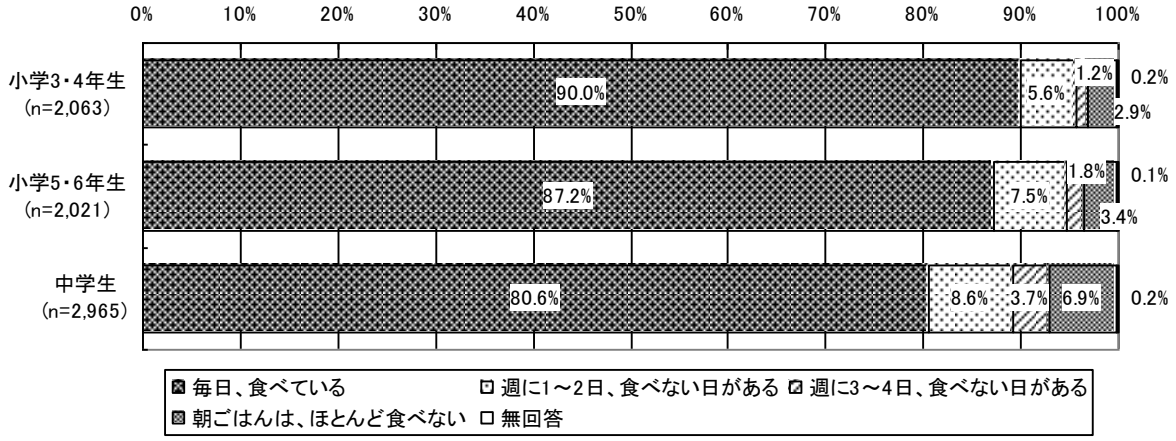


（2）日常生活について

３）朝食摂取の状況

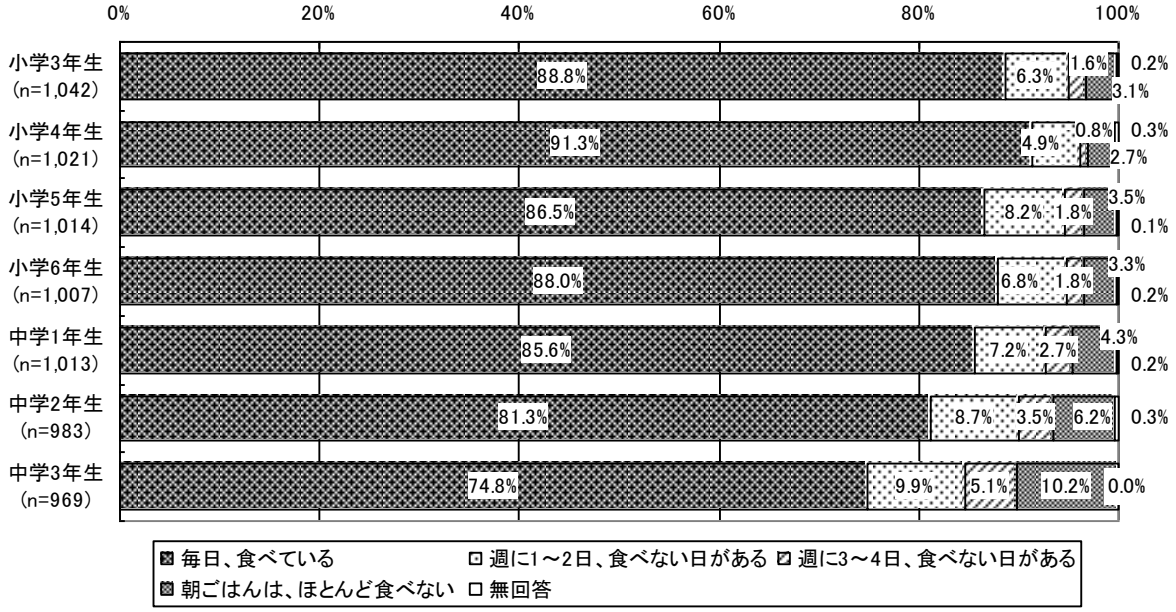
朝食摂取の状況をみると、小学３・４年生で「毎日、食べている」が 90.0%、小学５・６年生で 87.2%、中学生で 80.6%となっている。一方、「朝ごはんは、ほとんど食べない」と回答した児童生徒は、中学生で最も高い 6.9%であった。

図表 ２-３ 朝食摂取の状況



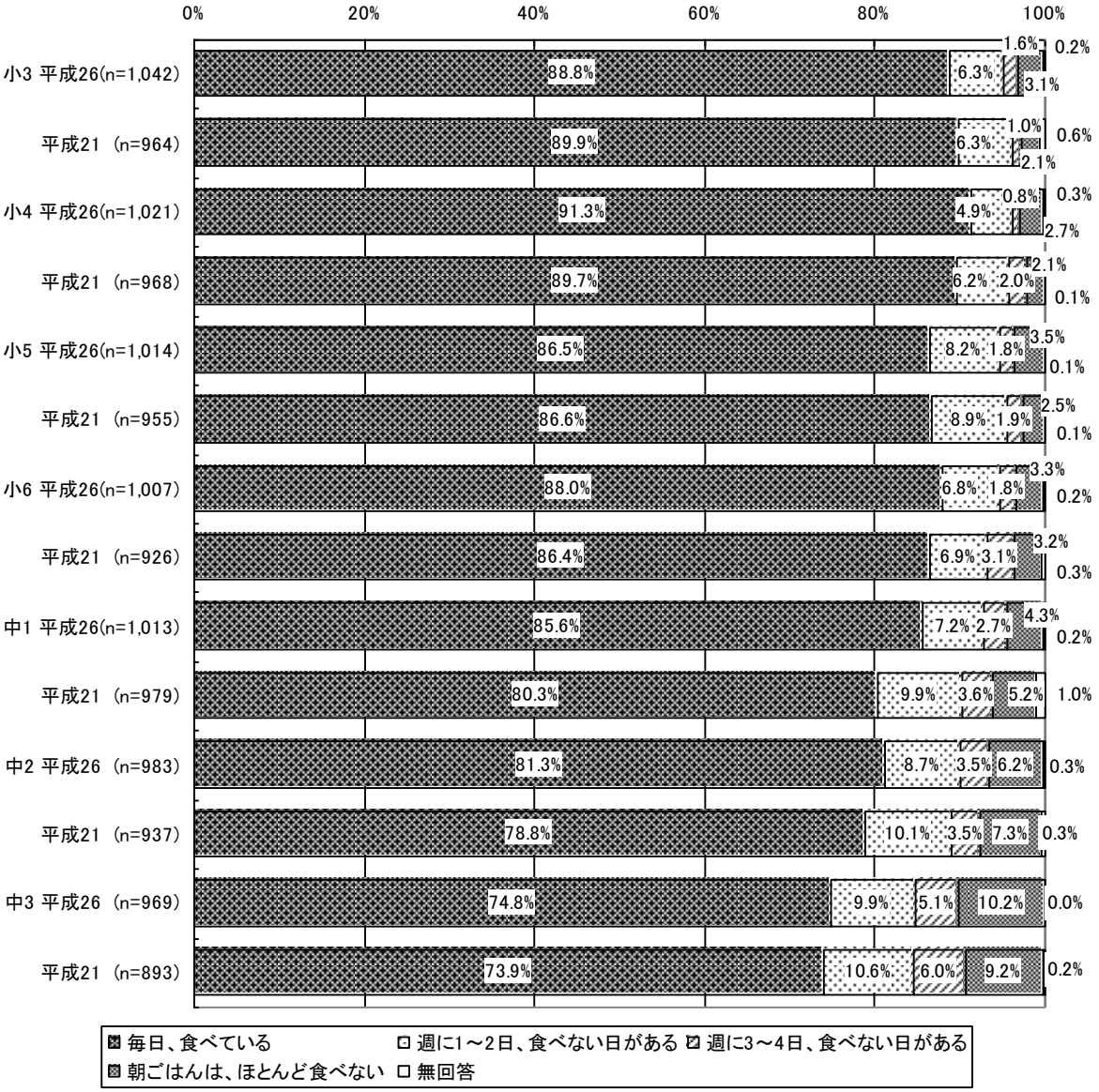
学年別では、小学生から中学生へと学年が上がるにつれ、朝食を摂らない児童生徒が増え、中学３年生では約１割の生徒が「朝ごはんは、ほとんど食べない」と回答した。

図表 ２-４ 朝食摂取の状況【学年別】



次に平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）の結果と比較すると、「毎日、食べている」と回答した児童生徒において、小学 3 年生、5 年生で若干の低下がみられたものの、他の学年では 21 年度調査よりも割合が高くなっている。特に、中学 1 年生では 5.3 ポイントの大きな上昇がみられた。

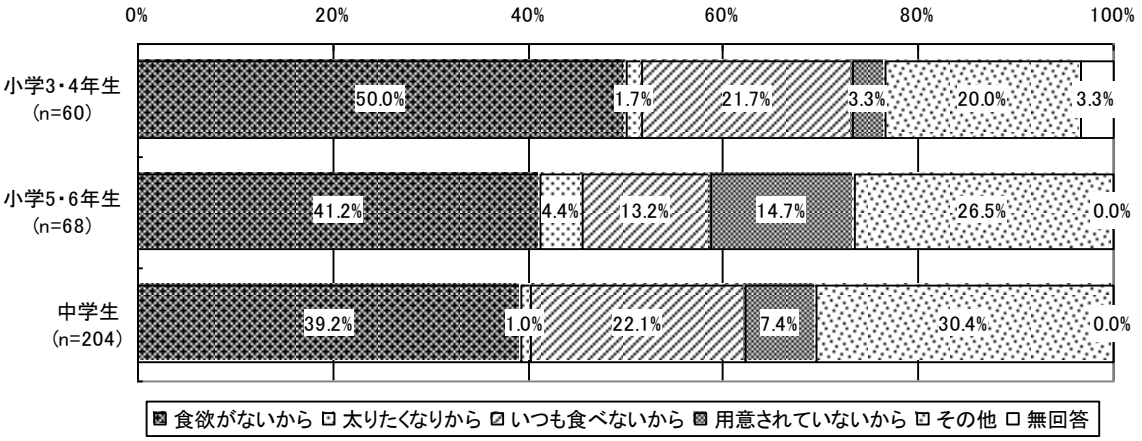
図表 2-5 朝食摂取の状況【平成 21 年度調査との比較】



４）朝食をほとんど食べない理由

朝食をほとんど食べない児童生徒に、その理由を聞いてみると、小学３・４年生では「食欲がないから」を理由とする児童が半数を占め、他の学年と比べても高い割合となっている。また、小学５・６年生においては、「太りたくないから」4.4%、「用意されていないから」14.7%が他の学年と比べて高い。

図表　２-６　朝食をほとんど食べない理由

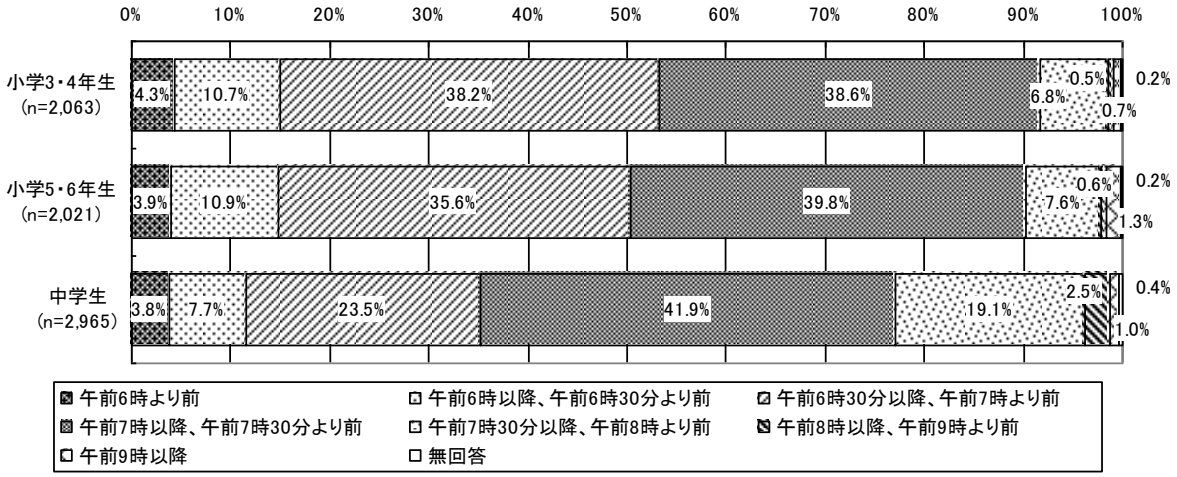


５）学校のある日の起床時刻と就寝時刻

①学校のある日の起床時刻

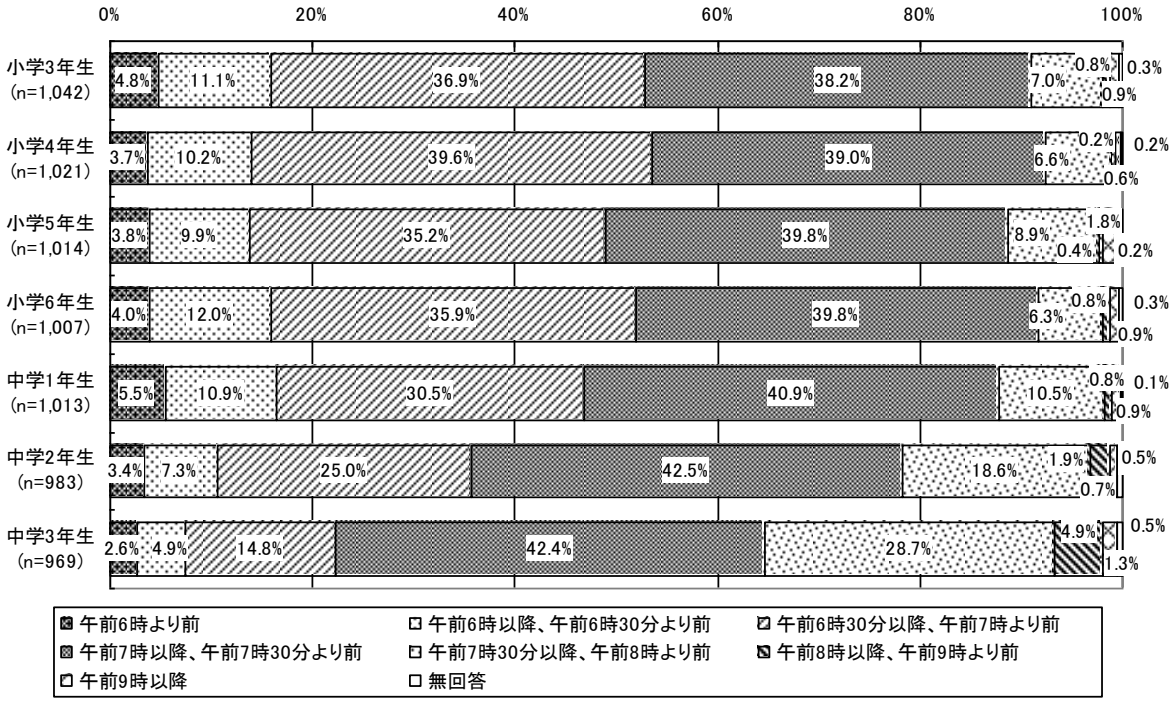
学校のある日の起床時刻は、「午前７時以降、午前７時30分より前」が最も高く、小学３・４年生38.6%、小学５・６年生39.8%、中学生41.9%となっている。全体的に小学生と比べて中学生の起床時刻が遅い。

図表　２-７　学校のある日の起床時刻



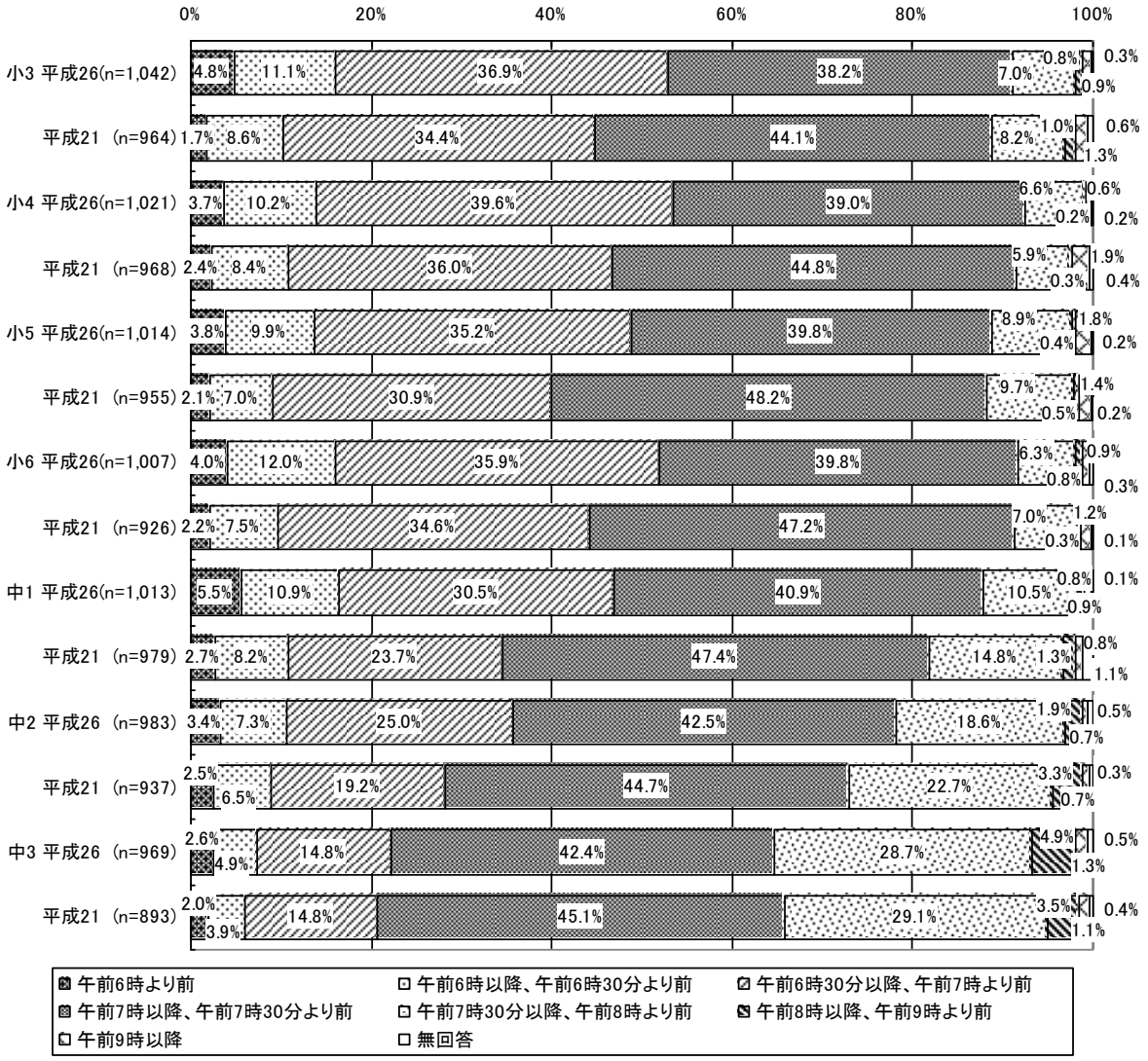
次に起床時刻を学年別でみると、小学生においては大きな差はみられないものの、中学生では学年が上がるにつれて遅い起床時刻となっている。

図表 2-8 学校のある日の起床時刻【学年別】



学校のある日の起床時刻を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学生では全学年で起床時刻が早くなっている傾向がみられた。また、中学生では特に中学 1 年生の起床時刻に大きな変化がみられ、「午前 7 時より前」に起床する生徒は、平成 21 年度調査で 34.6%、平成 26 年度調査では 46.9%と、12.3 ポイントの増加となっている。

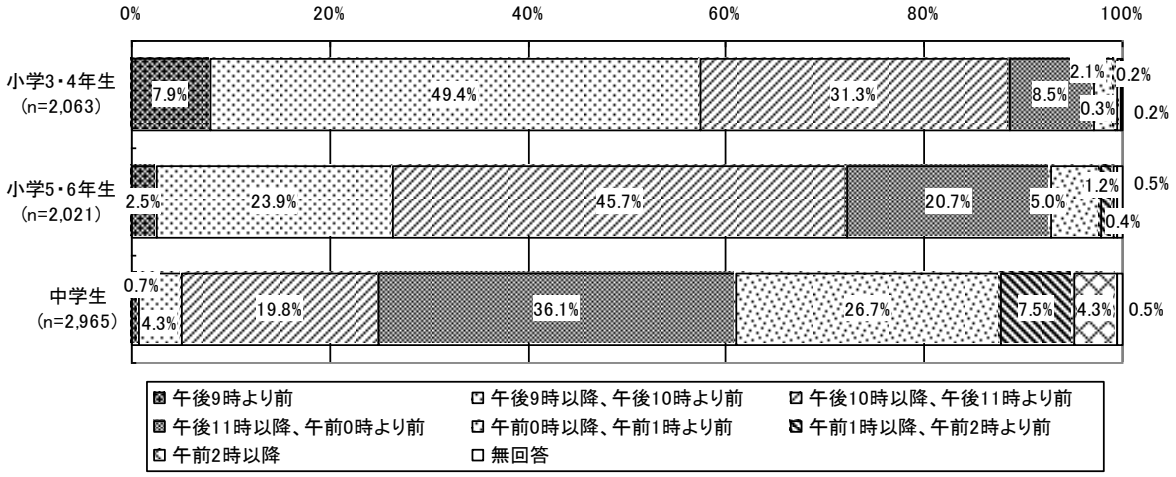
図表 2-9　学校のある日の起床時刻【平成 21 年度調査との比較】



②学校のある日の就寝時刻

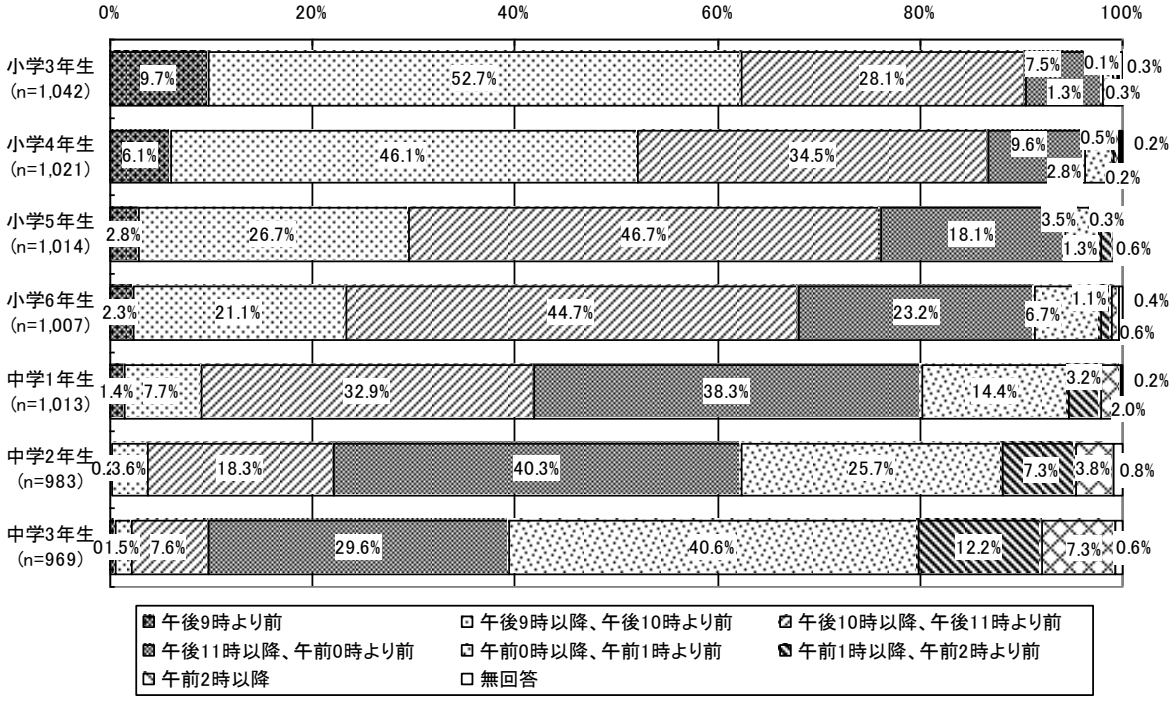
次の日に学校がある日の就寝時刻では、それぞれ小学 3・4 年生で「午後 9 時以降、午後 10 時より前」、小学 5・6 年生で「午後 10 時以降、午後 11 時より前」、中学生で「午後 11 時以降、午前 0 時より前」が最も高く、中学生においては、午前 0 時以降に就寝する生徒が全体の約 4 割を占めている。

図表 2-10 学校のある日の就寝時刻



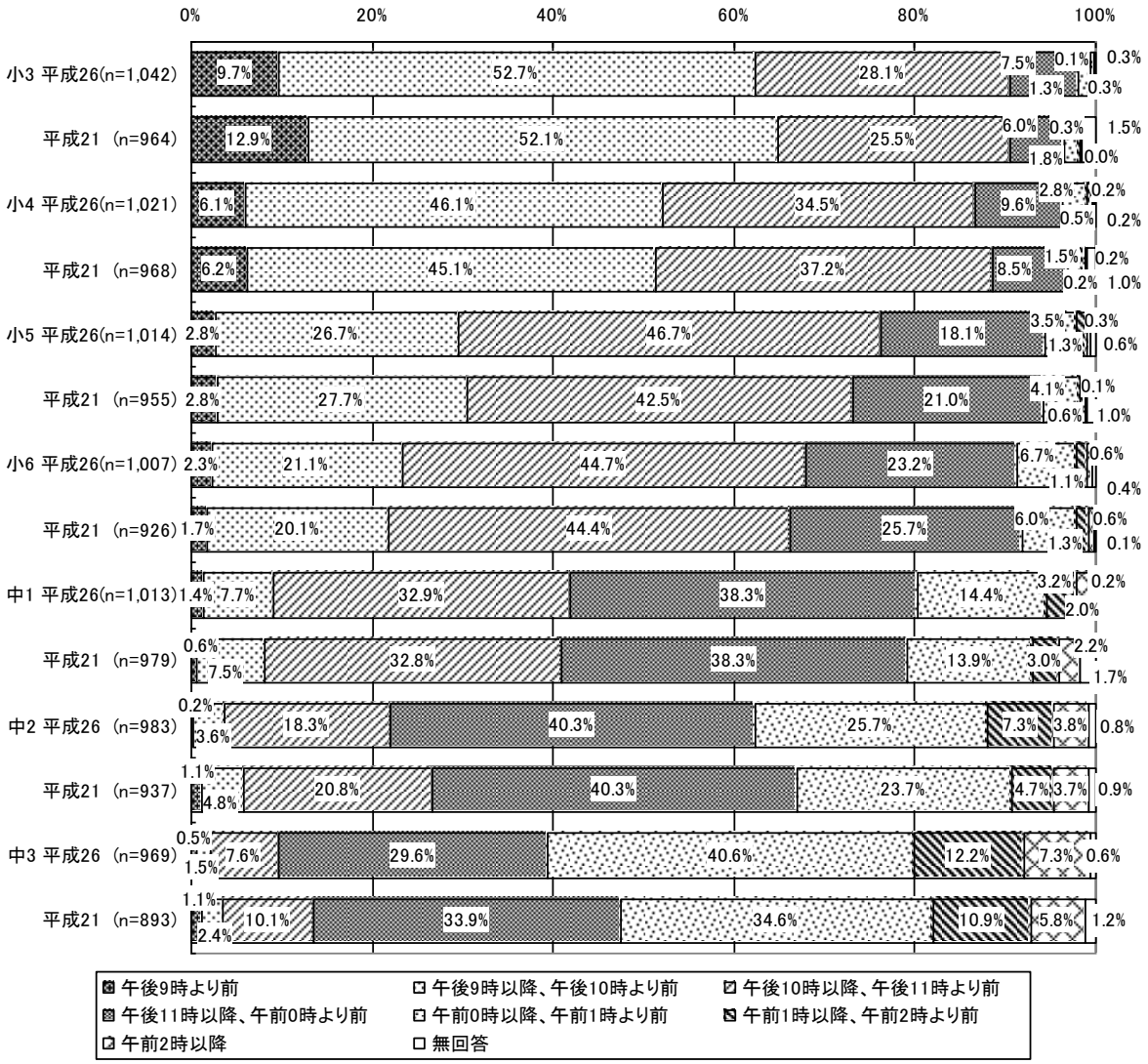
学年別に就寝時刻をみると、学年が上がるにつれて就寝時刻は遅くなっており、最も遅い時刻の「午前 2 時以降」に就寝する生徒は、中学 3 年生で 7.3%となっている。

図表 2-11 学校のある日の就寝時刻【学年別】



次の日に学校のある日の就寝時刻について、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に大きな変化はみられないものの、中学 2・3 年生において就寝時刻がやや遅くなっている。中学 2・3 年生で「午前 0 時以降」に就寝する生徒は、平成 21 年度で 2 年生 32.1%、3 年生 51.3%であったのに対し、平成 26 年度では 2 年生 36.8%、3 年生 60.1%と、それぞれ 4.7 ポイント、8.8 ポイントの増加となっている。

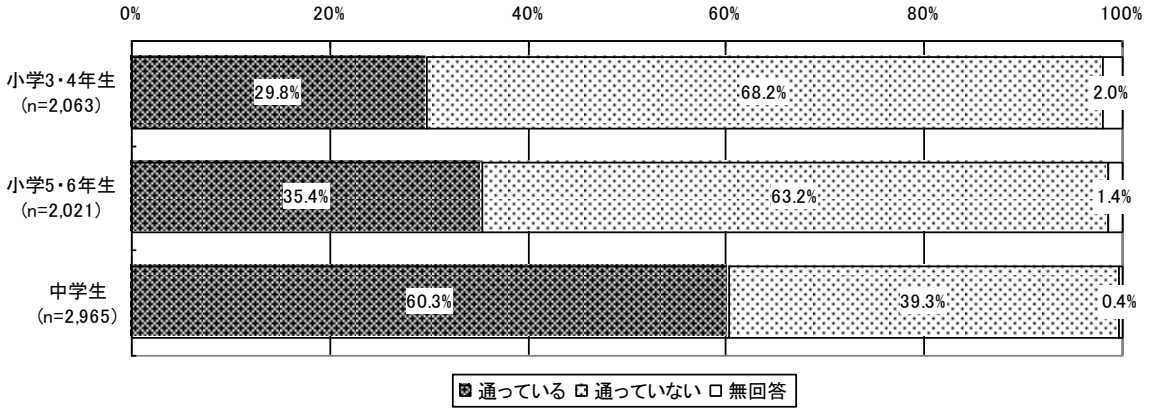
図表 2-12　学校のある日の就寝時刻【平成 21 年度調査との比較】



６）学習塾

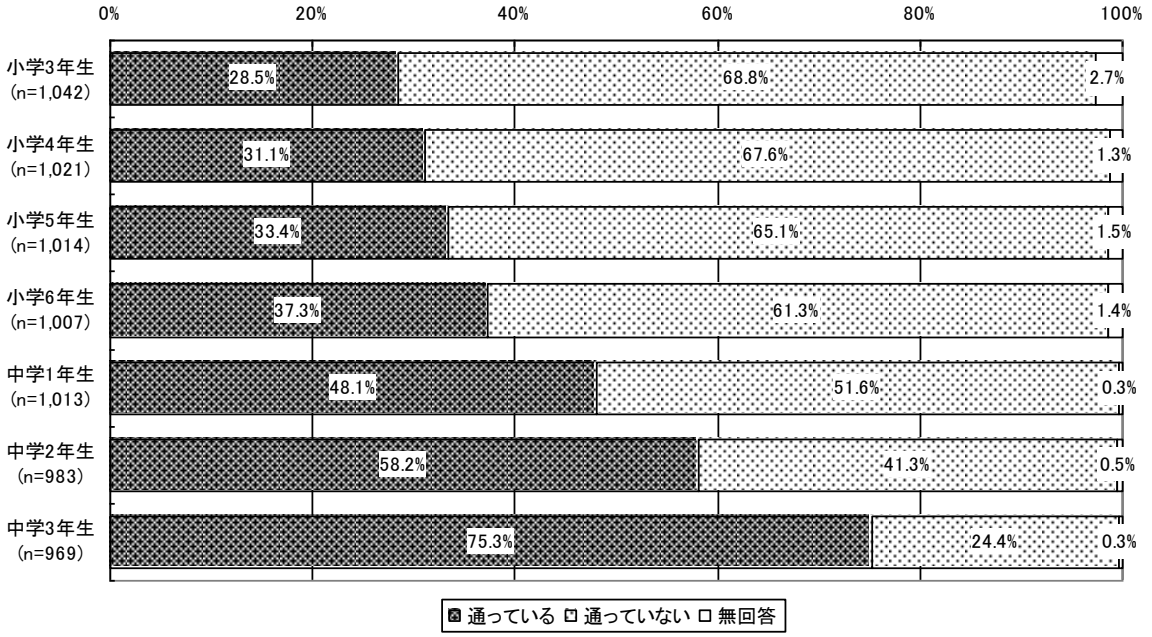
学習塾に通っているかを聞いたところ、「通っている」児童生徒は、小学 3･4 年生で 29.8%、小学 5・6 年生で 35.4%、中学生で 60.3%となっている。

図表 ２-１３　学習塾に通っているか



次に学年別でみると、学年が上がるにつれて学習塾に通っている割合が高くなり、中学 3 年生ではおよそ 4 人に 3 人が学習塾に通っている。

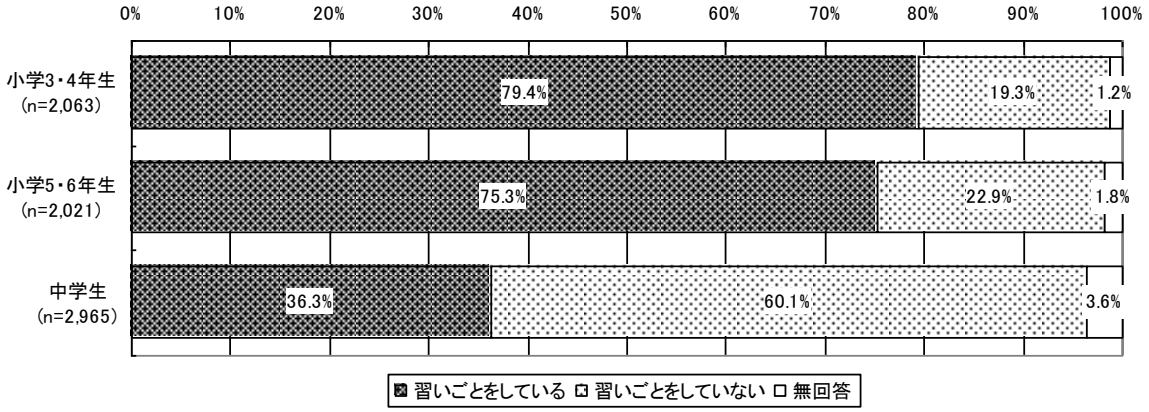
図表 ２-１４　学習塾に通っているか【学年別】



７）学習塾以外の習いごと

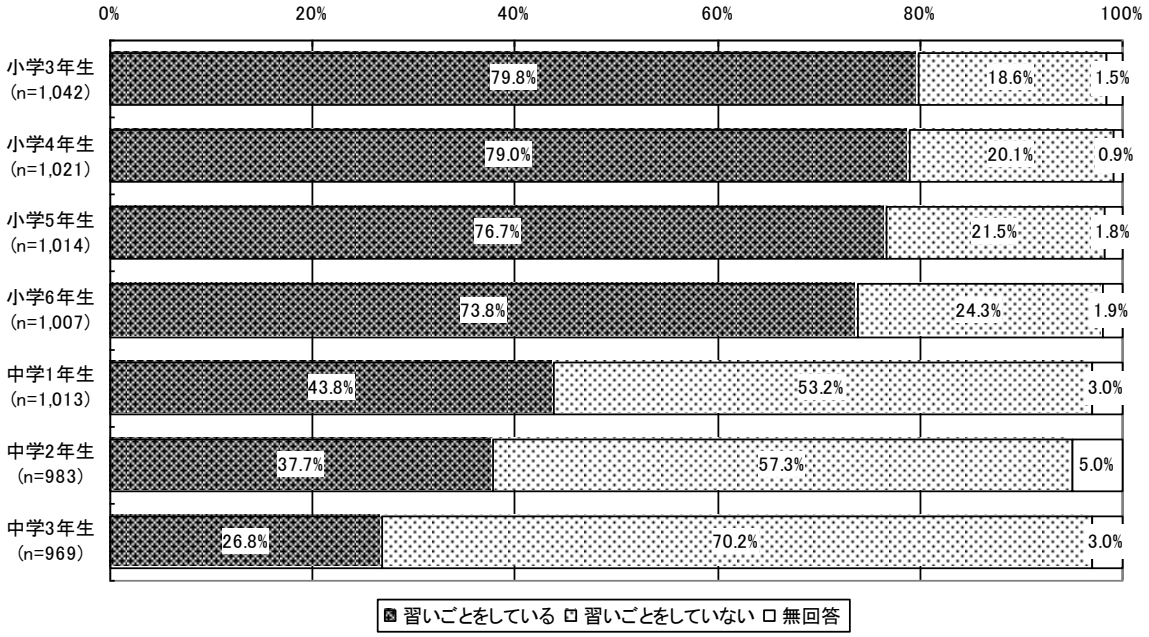
学習塾以外の習いごとについては、小学生の約 7～8 割は「習いごとをしている」と回答している。一方、中学生では「習いごとをしている」割合が 36.3%にとどまっている。

図表 ２-１５　学習塾以外の習いごと



次に学年別でみると、学年が上がるにつれて「習いごとをしている」と回答した割合が減少している。

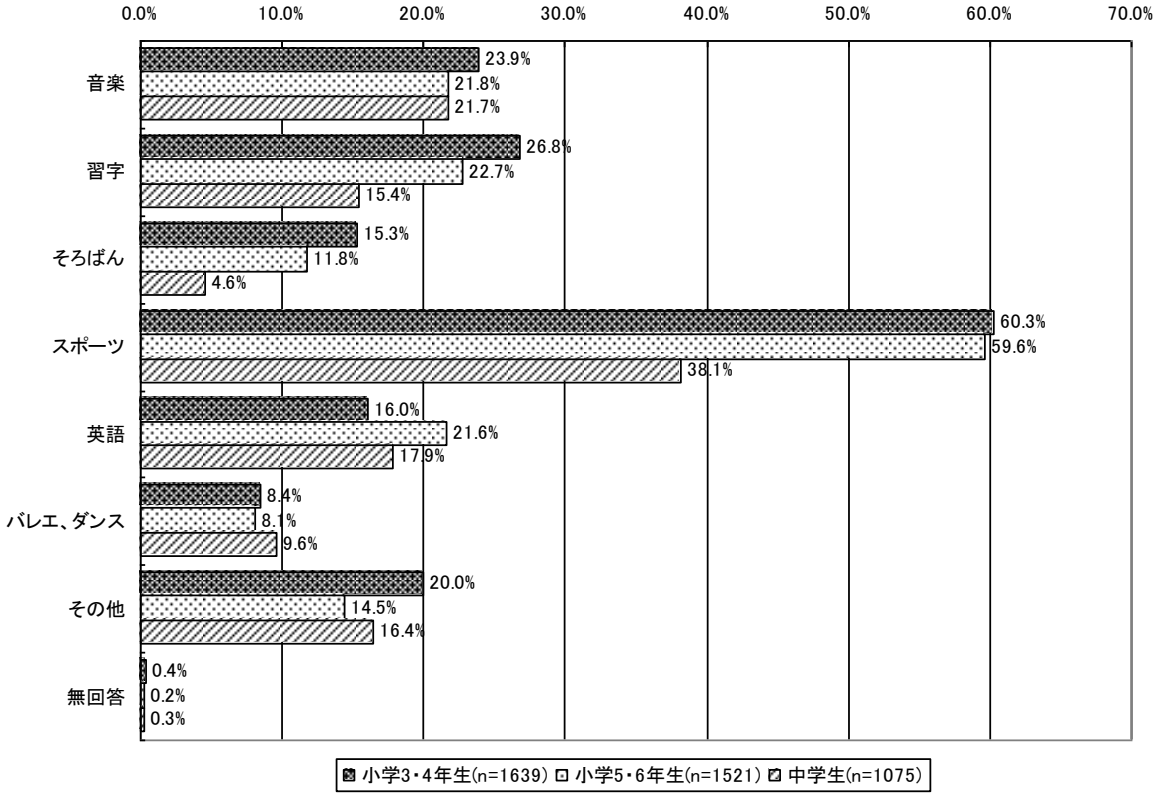
図表 ２-１６　学習塾以外の習いごと【学年別】



８）習いごとの種類

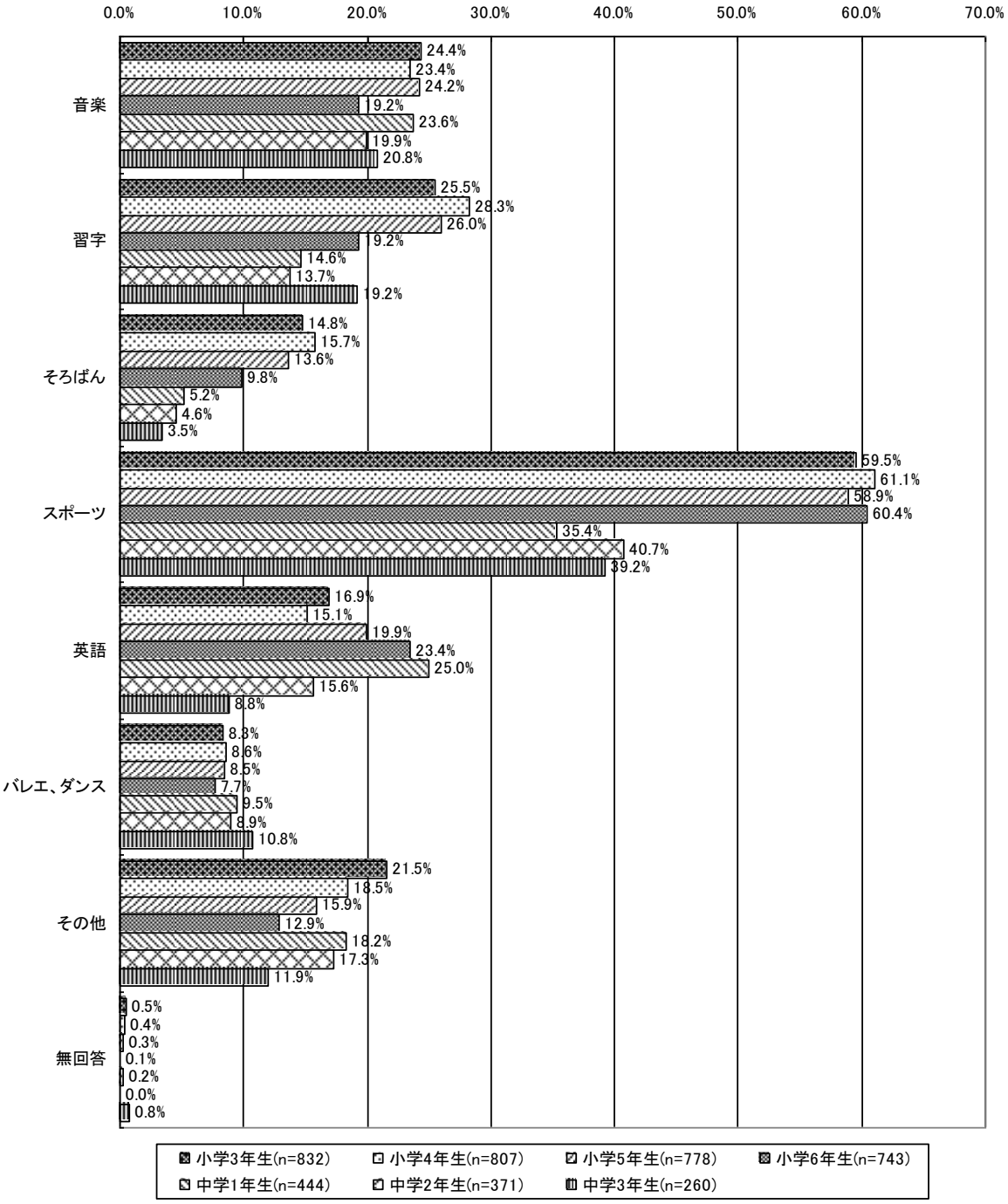
「習いごとをしている」児童生徒に、習いごとの種類を聞いたところ、小学生・中学生ともに「スポーツ」が最も高く、次いで「習字」「音楽」と続いている。全体的に小学生と比べて中学生の割合が低く、特に「スポーツ」において顕著である。

図表 ２-１７　習いごとの種類



次に、学年別でみると、「習字」「そろばん」は学年が上がるにつれて概ね低下しているが、「音楽」「バレエ、ダンス」では、学年別で大きな変化はみられなかった。また、「英語」は中学 1 年生までは徐々に割合が増えているものの、中学 2 年生・3 年生になると大幅に低下する傾向がみられた。

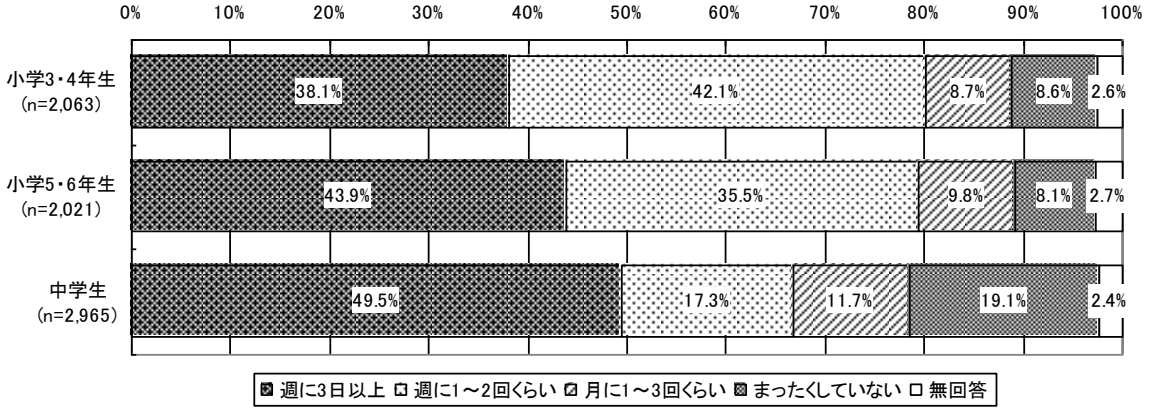
図表 2-18 習いごとの種類【学年別】



９）運動やスポーツの頻度

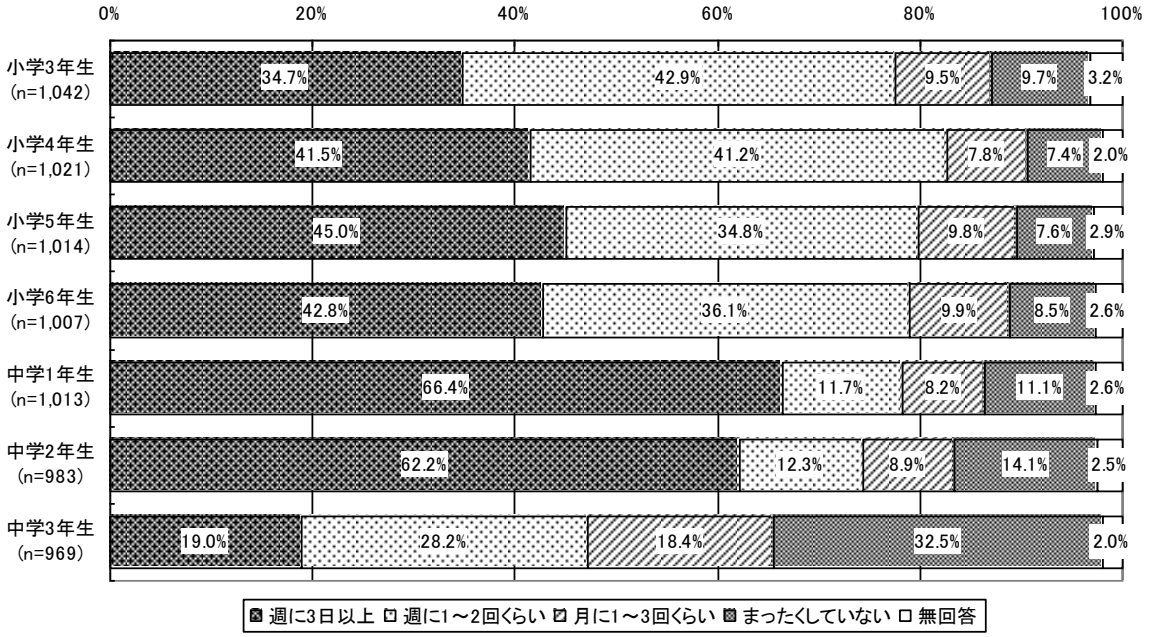
体育の授業を除いた運動やスポーツの頻度を聞くと、最も頻度が高い「週に 3 日以上」と回答した割合は、小学 3・4 年生 38.1%、小学 5・6 年生 43.9%、中学生が約半数の 49.5%と徐々に高くなっている。一方、中学生では「まったくしていない」と回答した生徒も 19.1%と小学生と比べて高い。

図表 ２-１９　運動やスポーツの頻度



学年別では、中学 1 年生、中学 2 年生の 6 割弱が「週に 3 日以上」運動やスポーツをしていると回答しており、他の学年と比較して突出して高い。ただ、中学 3 年生になると運動やスポーツの頻度は極端に減少し、「まったくしない」生徒は 32.5%に上る。

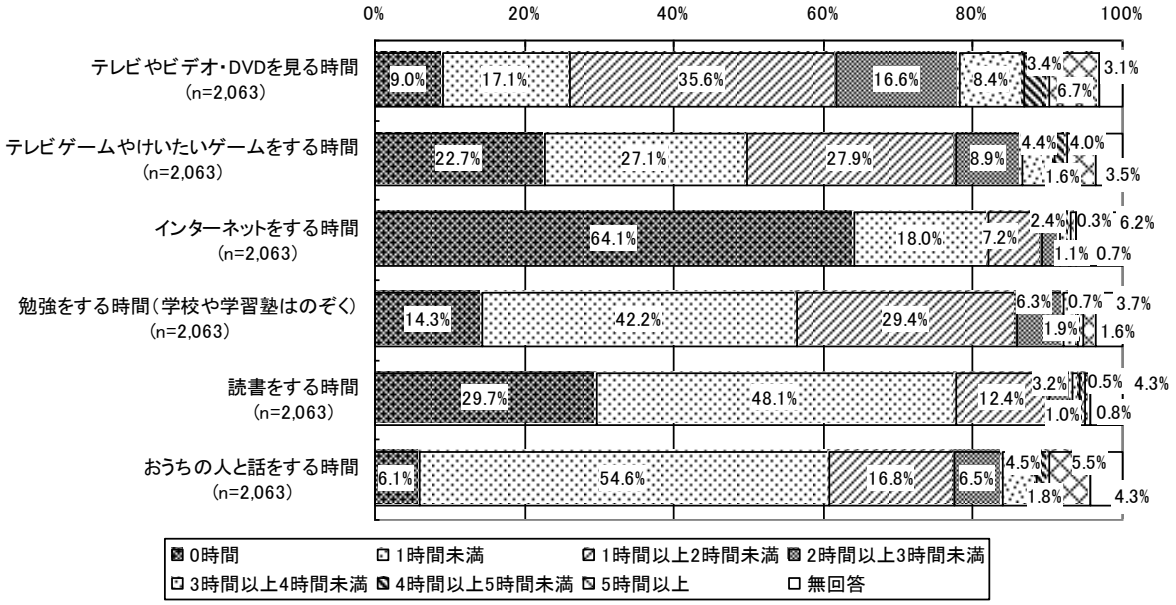
図表 ２-２０　運動やスポーツの頻度【学年別】



１０）平日に自宅で過ごす時間

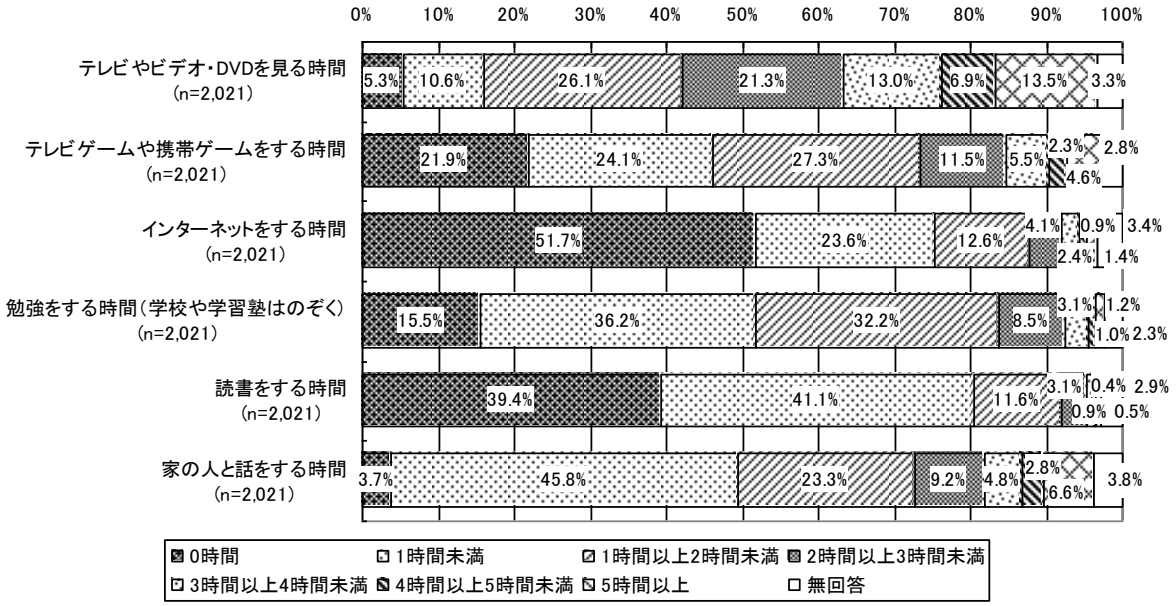
平日に自宅で過ごす時間について聞いたところ、小学３・４年生では「テレビやビデオ・DVD を見る時間」が最も高く、2 時間以上見る児童は 35.2%となっている。次いで「おうちの人と話をする」「テレビゲームやけいたいゲームをする時間」が長い。

図表 ２-２１　平日に自宅で過ごす時間【小学３・４年生】



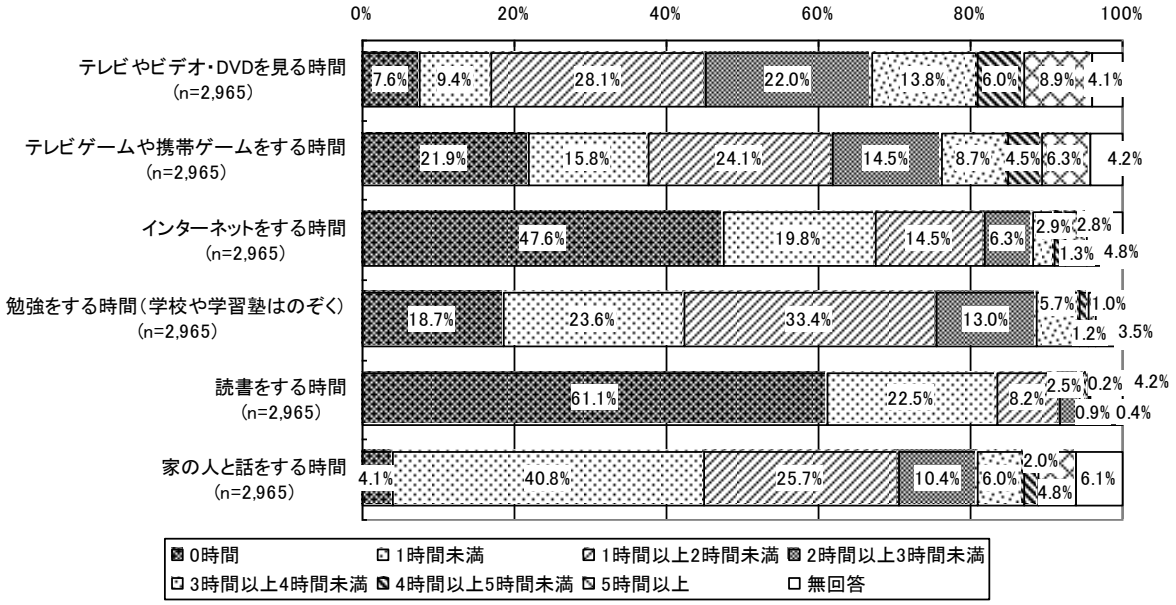
小学５・６年生では、半数を超える 54.7%の児童が「テレビやビデオ・DVD を見る時間」を 2 時間以上と回答した。

図表 ２-２２　平日に自宅で過ごす時間【小学５・６年生】



中学生においても、「テレビやビデオ・DVD を見る時間」が 2 時間以上と回答した生徒が半数を超える 50.7%と高く、次いで「テレビゲームや携帯ゲームをする時間」「家の人と話をする時間」が長くなっている。

図表 2-23 平日に自宅で過ごす時間【中学生】



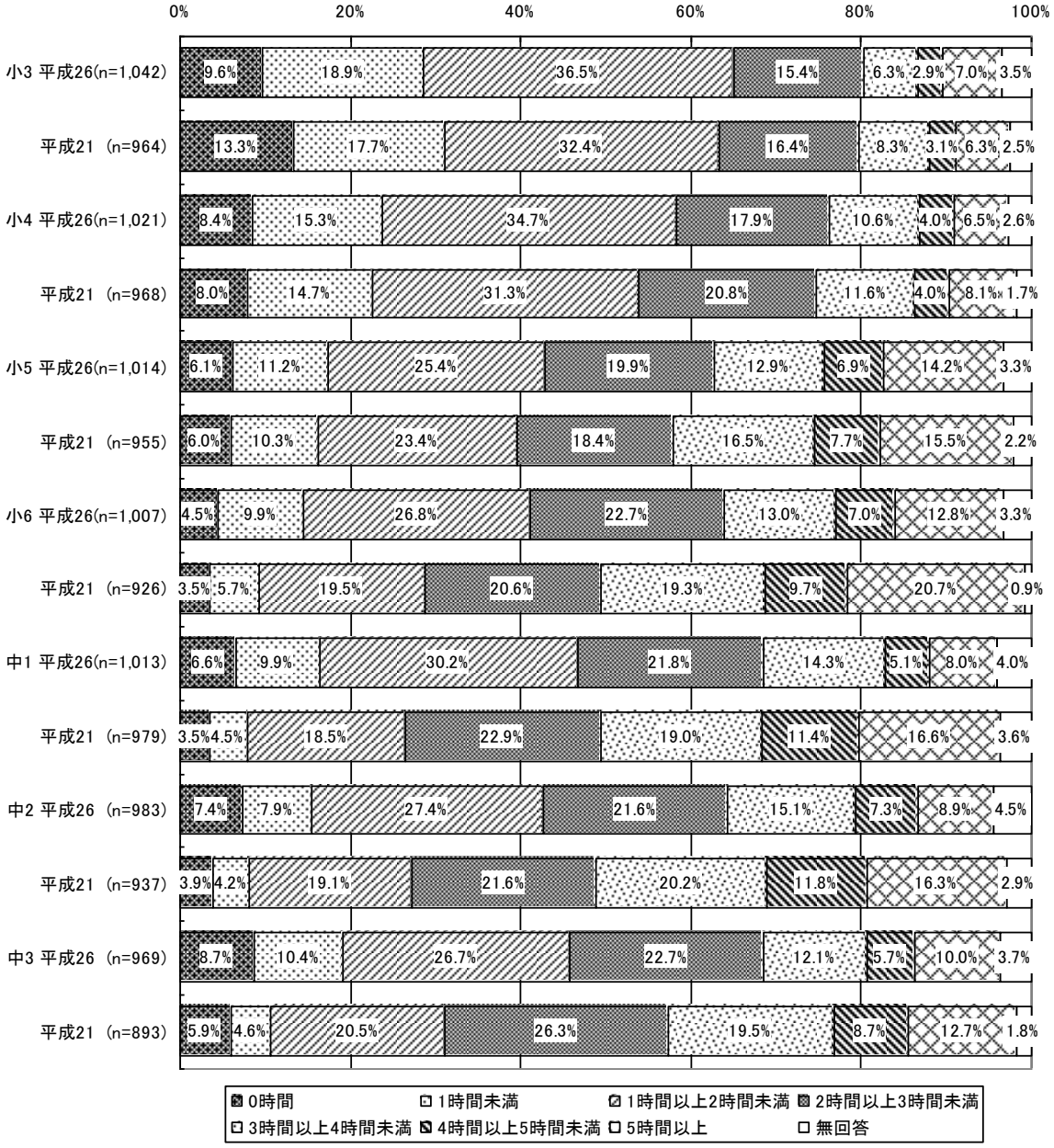
次に学年別に平均時間を比べると、全学年で「テレビやビデオ・DVD を見る時間」が最も長く、小学 5 年生から上の学年では平均 2 時間以上となっている。また、「インターネットをする時間」が学年が上がるにつれて上昇しているのに対し、「読書をする時間」は減少傾向にある。また、「勉強をする時間」では、中学 3 年生が平均 1.39 時間と突出した結果となっている。

図表 2-24 平日に自宅で過ごす時間【学年別平均時間】

□	小学3年生 (n=1,042)	小学4年生 (n=1,021)	小学5年生 (n=1,014)	小学6年生 (n=1,007)	中学1年生 (n=1,013)	中学2年生 (n=983)	中学3年生 (n=969)
テレビやビデオ・DVDを見る時間	1.71	1.83	2.45	2.37	2.05	2.17	2.07
テレビゲームや携帯ゲームをする時間	1.07	1.15	1.29	1.22	1.47	1.63	1.53
インターネットをする時間	0.26	0.37	0.51	0.57	0.64	0.72	0.79
勉強をする時間	0.96	0.85	0.96	0.99	0.96	0.84	1.39
読書をする時間	0.55	0.50	0.47	0.42	0.35	0.31	0.24
家の人と話をする時間	1.02	1.31	1.30	1.42	1.25	1.28	1.37

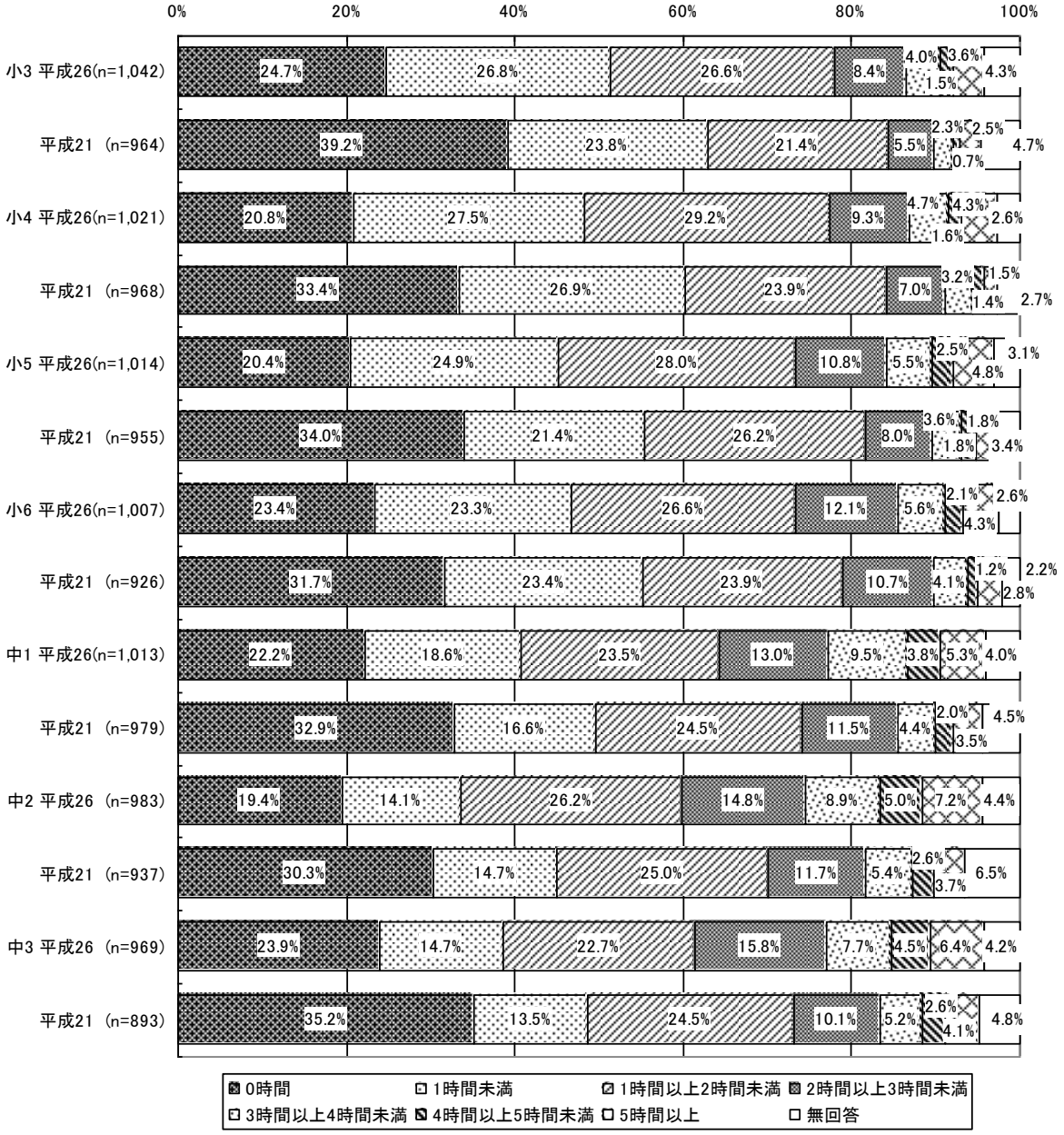
「テレビやビデオ・DVD を見る時間」を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全学年でテレビやビデオ・DVD を見る時間は低下しており、小学 6 年生、中学 1 年～3 年生については、2 時間以上見る児童生徒の割合が約 15～20 ポイントの減少となっている。

図表 2-25　テレビやビデオ・DVD を見る時間【平成 21 年度調査との比較】



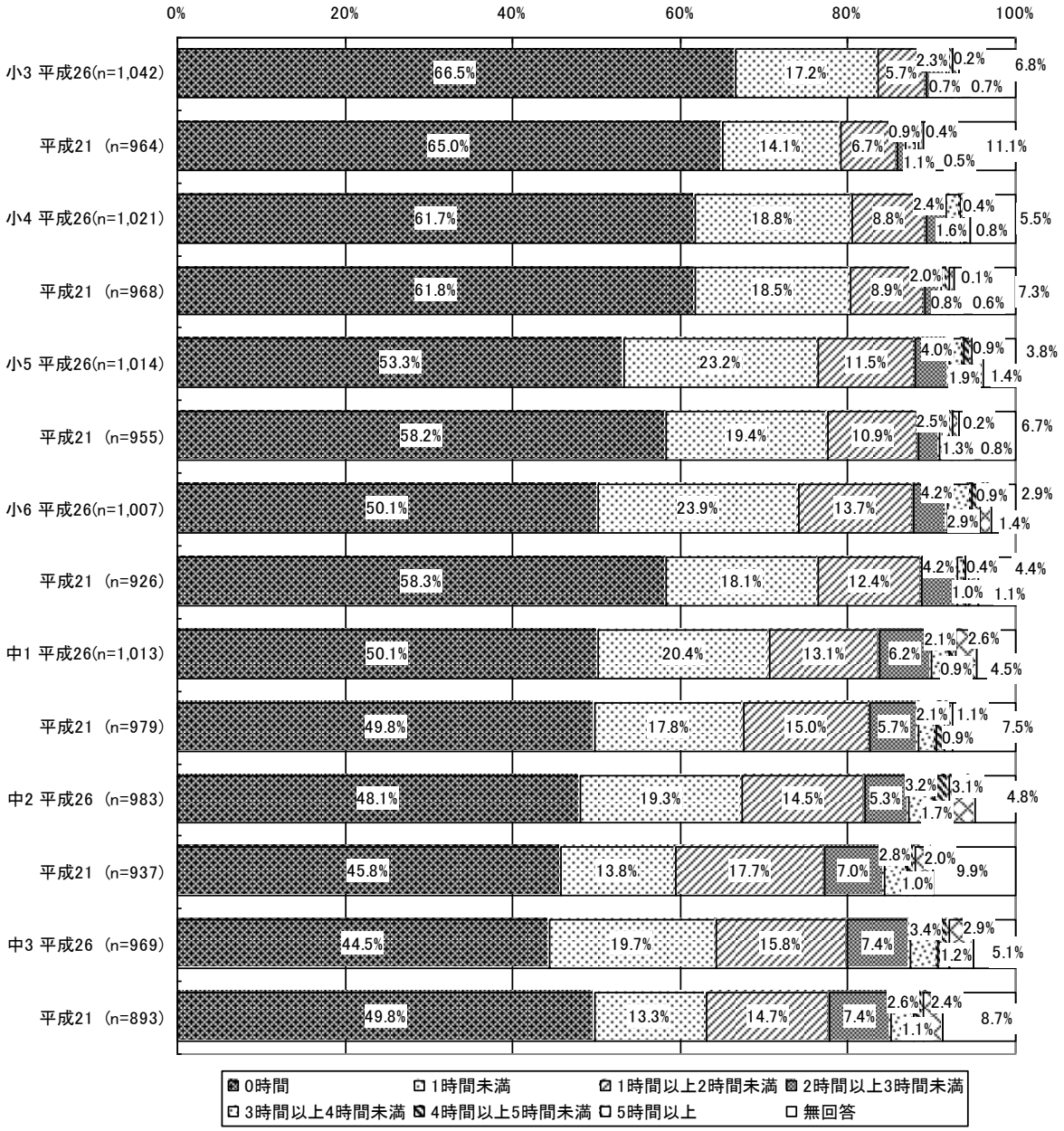
次に「テレビゲームや携帯ゲームをする時間」を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全学年を通じて前回調査よりも時間の増加がみられた。特に中学生では、平日に 2 時間以上テレビゲームや携帯ゲームをする生徒が各学年ともに 30%を超え、平成 21 年度調査より 10 ポイント以上増えている。

図表 2-26　テレビゲームや携帯ゲームをする時間【平成 21 年度調査との比較】



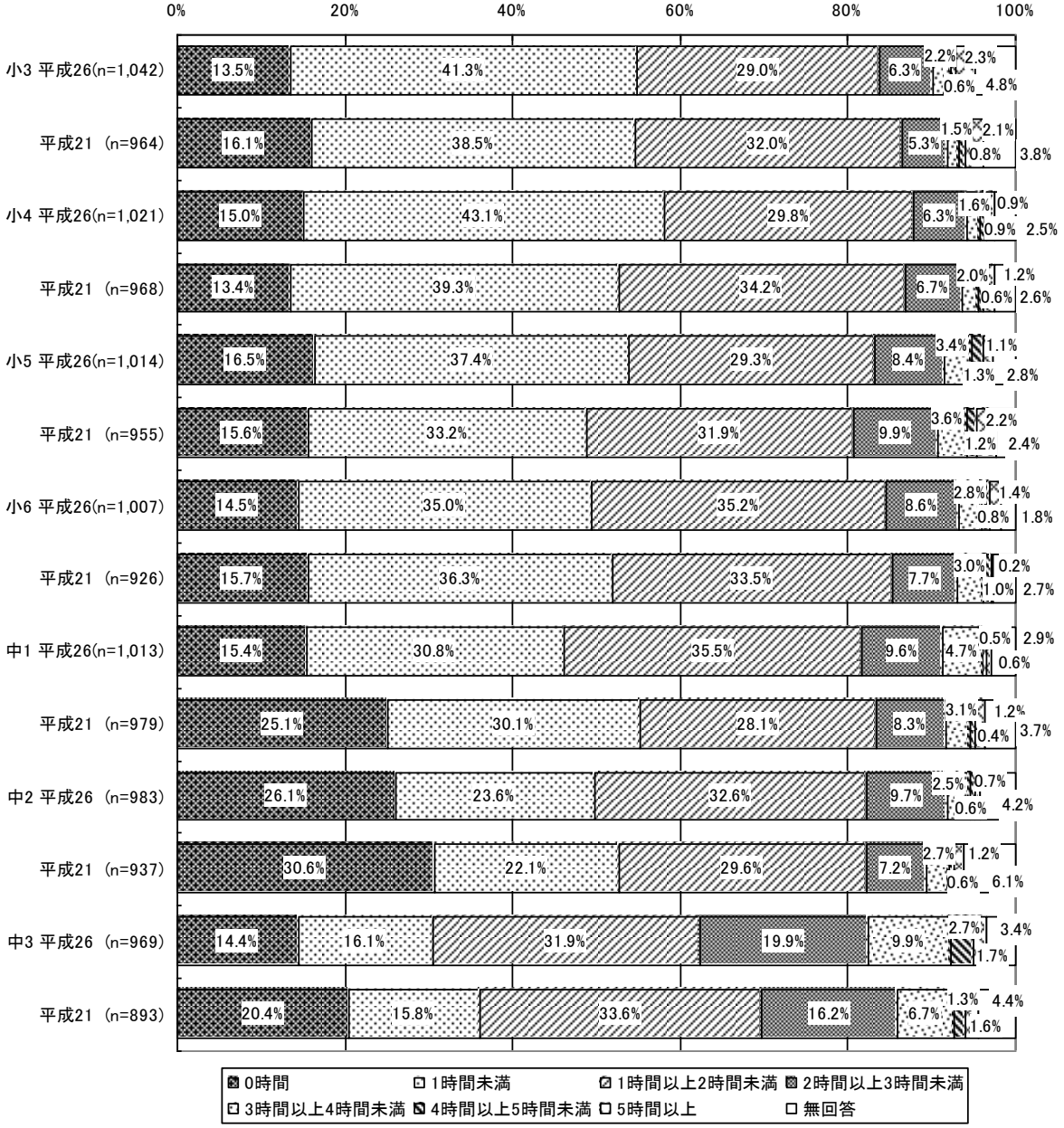
「インターネットをする時間」を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に大きな変化はみられないものの、2 時間以上インターネットをする児童生徒は若干の増加となっている。

図表 2-27　インターネットをする時間【平成 21 年度調査との比較】



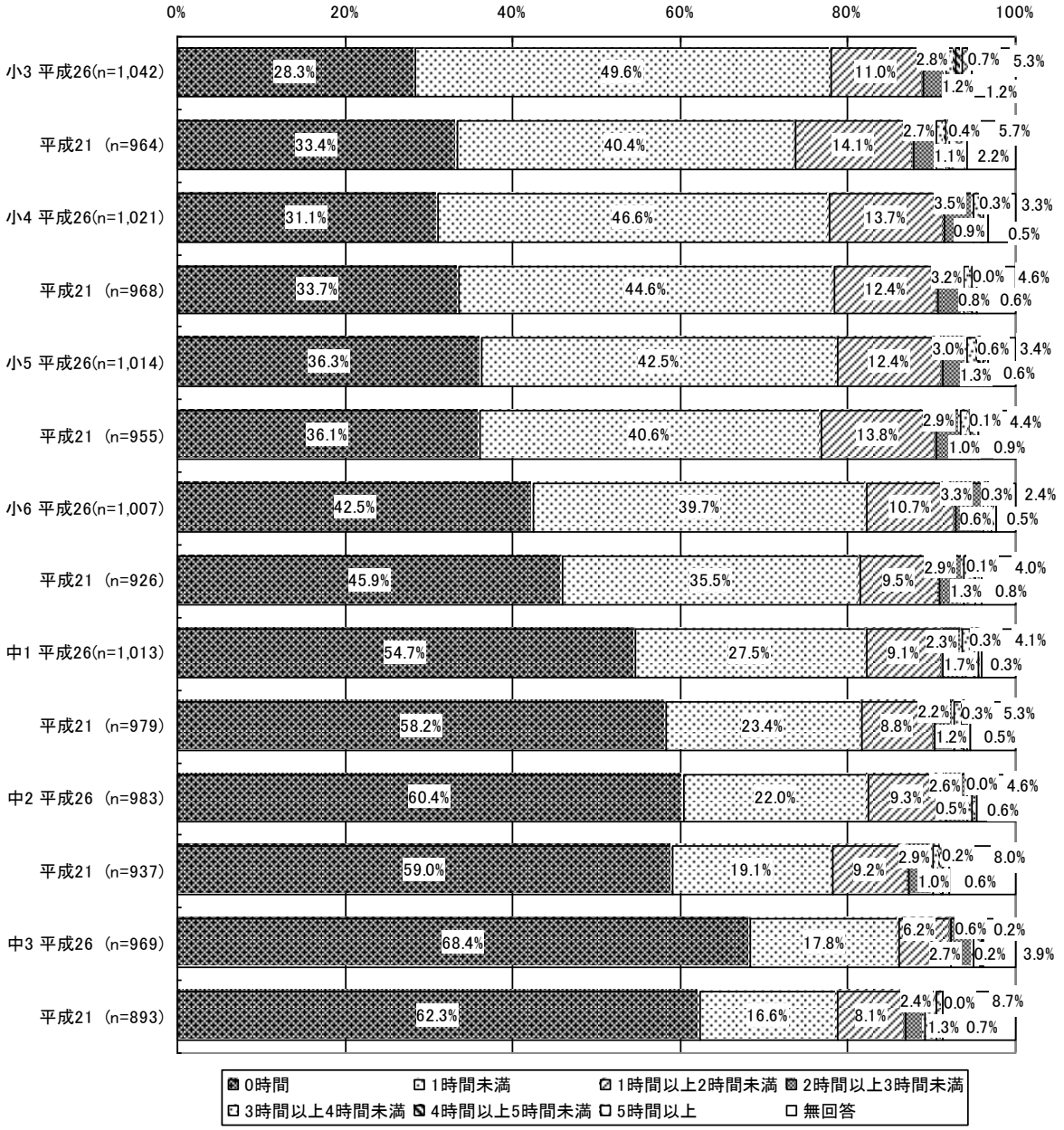
「勉強をする時間」を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学生において「0 時間」の低下がみられ、中学 1 年生で 9.7 ポイント、中学 2 年生 4.5 ポイント、中学 3 年生 6.0 ポイントの減少となっている。また、勉強をする時間が 2 時間以上と回答した割合が中学生で増加しており、中学 1 年生 2.4 ポイント、中学 2 年生 1.8 ポイント、中学 3 年生 8.4 ポイントと、中学生においては勉強時間が増加傾向にある。

図表 2-28 勉強をする時間【平成 21 年度調査との比較】



「読書をする時間」を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に大きな変化はないが、中学 3 年生の「0 時間」が前回調査より 6.1 ポイント増加している。

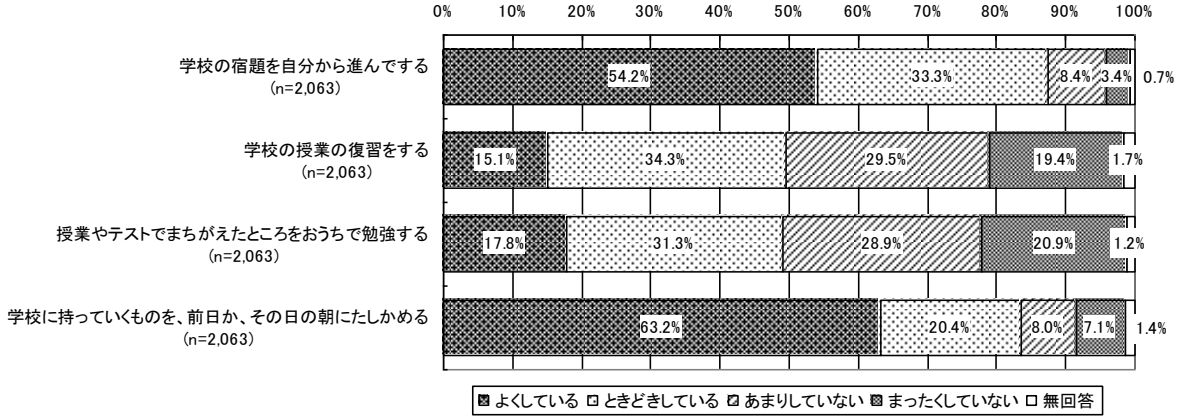
図表 2-29　読書をする時間【平成 21 年度調査との比較】



１１）学校での勉強のために自宅でしていること

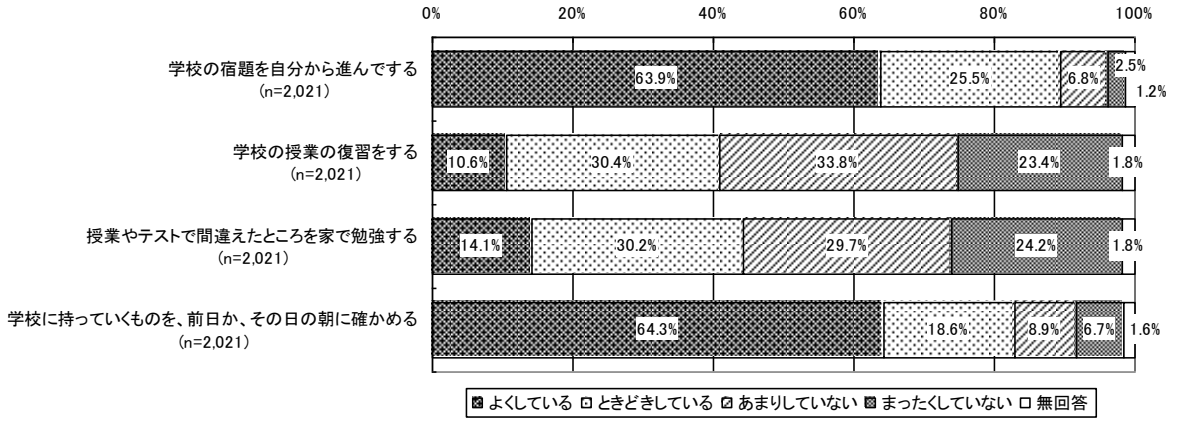
学校での勉強のために自宅でしていることを聞いたところ、小学３・４年生では「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝にたしかめる」で「よくしている」が 63.2%と最も高く、次いで「学校の宿題を自分から進んでする」が 54.2%となっている。また、「学校の授業の復習をする」「授業やテストで間違えたところを家で勉強する」で「まったくしていない」児童は約２割となっている。

図表 ２-３０　学校での勉強のために自宅でしていること【小学３・４年生】



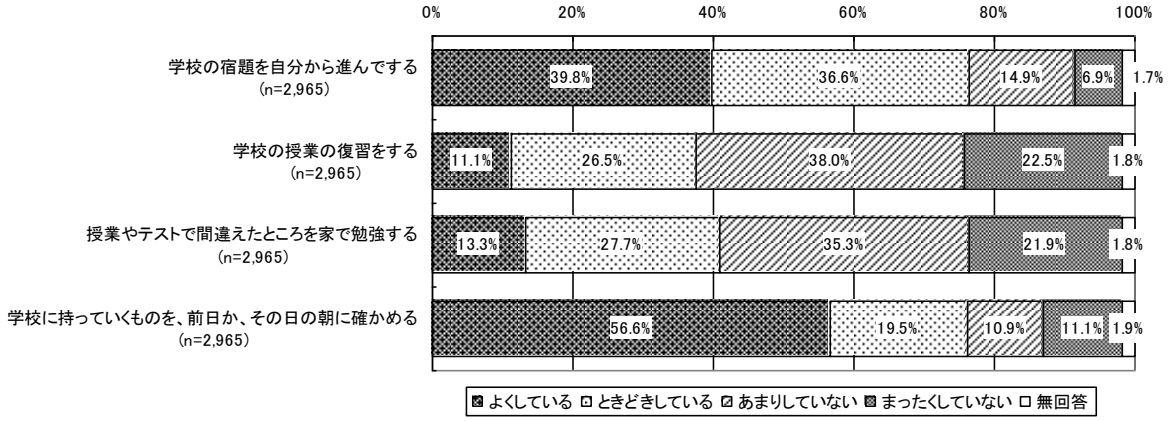
小学５・６年生も同様に、「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる」で「よくしている」が 64.3%と最も高く、次いで「学校の宿題を自分から進んでする」が 63.9%となっている。一方、「学校の授業の復習をする」「授業やテストで間違えたところを家で勉強する」で「まったくしていない」と回答した児童は、それぞれ 23.4%、24.2%となっている。

図表 ２-３１　学校での勉強のために自宅でしていること【小学５・６年生】



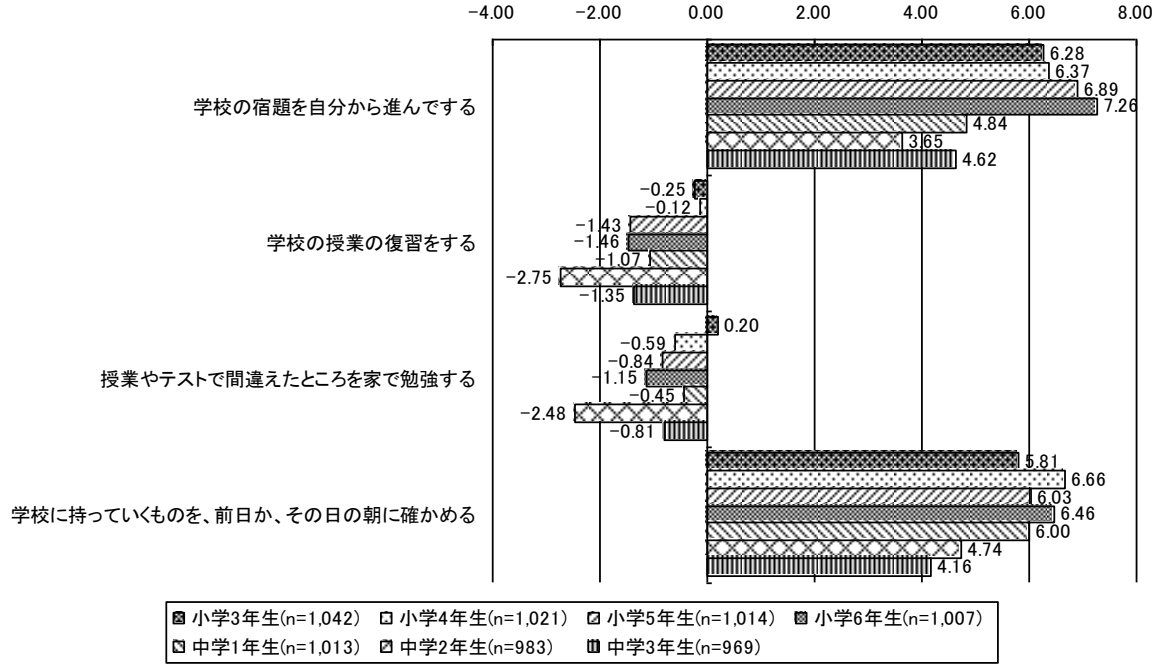
中学生においても、「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる」で「よくしている」が 56.6%と最も高い。また、「まったくしていない」と回答した生徒が高い項目をみると、「学校の授業の復習をする」が 22.5%、「授業やテストで間違えたところを家で勉強する」が 21.9%と、それぞれ 2 割弱となっている。

図表 2-３２　学校での勉強のために自宅でしていること【中学生】



次に、頻度を指標化※してみると、全体的に小学生に比べて中学生の点数が低く、特に中学 2 年生の「学校の授業の復習をする」「授業やテストで間違えたところを家で勉強する」が他学年と比べて低くなっている。

図表 2-３３　学校での勉強のために自宅でしていること【学年別】



※指標化については、2 ページ参照

学校での勉強のために自宅でしていることを指標化し、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学 6 年生では「学校の授業の復習をする」「授業やテストで間違えたところを家で勉強する」において、それぞれ 1.54 点、1.83 点の上昇となっている。また、「学校の授業の復習をする」では、中学 1 年生で 2.41 点、中学 3 年生で 1.57 点の上昇がみられた。

図表 2-３４　学校での勉強のために自宅でしていること【平成 21 年度調査との比較】

1.50点以上の増減に網掛け	小学3年生		小学4年生		小学5年生		小学6年生	
	平成26 (n=1,042)	平成21 (n=964)	平成26 (n=1,021)	平成21 (n=968)	平成26 (n=1,014)	平成21 (n=955)	平成26 (n=1,007)	平成21 (n=926)
学校の宿題を自分から進んでする	6.28	6.60	6.37	6.51	6.89	6.59	7.26	6.36
学校の授業の復習をする	−0.25	0.13	−0.12	−0.53	−1.43	−1.90	−1.46	−3.00
授業やテストで間違えたところを家で勉強する	0.20	−0.28	−0.59	−0.61	−0.84	−2.18	−1.15	−2.98
学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる	5.81	5.93	6.66	6.18	6.03	5.84	6.46	5.42

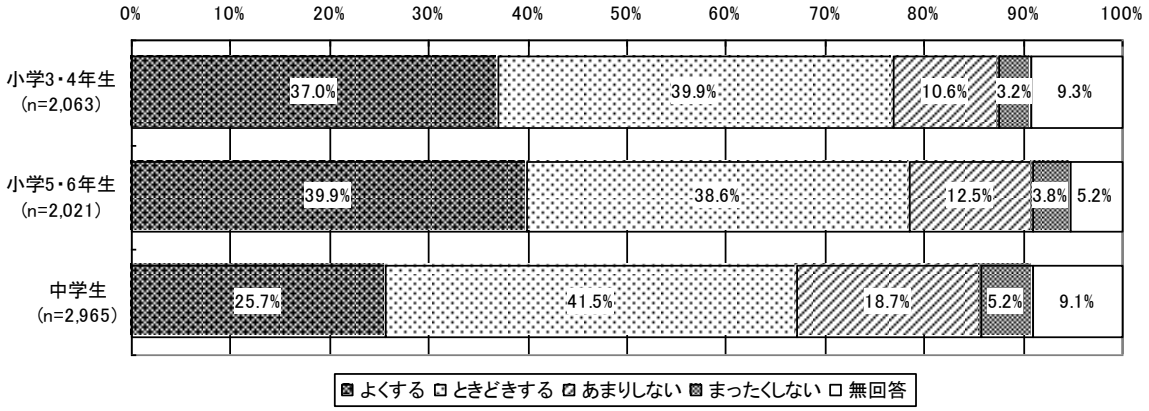
1.50点以上の増減に網掛け	中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	平成26 (n=1,013)	平成21 (n=979)	平成26 (n=983)	平成21 (n=937)	平成26 (n=969)	平成21 (n=893)
学校の宿題を自分から進んでする	4.84	3.24	3.65	2.45	4.62	4.04
学校の授業の復習をする	−1.07	−3.48	−2.75	−4.04	−1.35	−2.92
授業やテストで間違えたところを家で勉強する	−0.45	−1.53	−2.48	−2.12	−0.81	−1.39
学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる	6.00	5.40	4.74	4.08	4.16	3.82

※指標化については、2 ページ参照

１２）家の手伝いについて

家の手伝いについて聞いたところ、「よくする」「ときどきする」を合わせた「家の手伝いをする」割合は小学 3・4 年生 76.9%、小学 5・6 年生 78.5%、中学生 67.2%となっている。

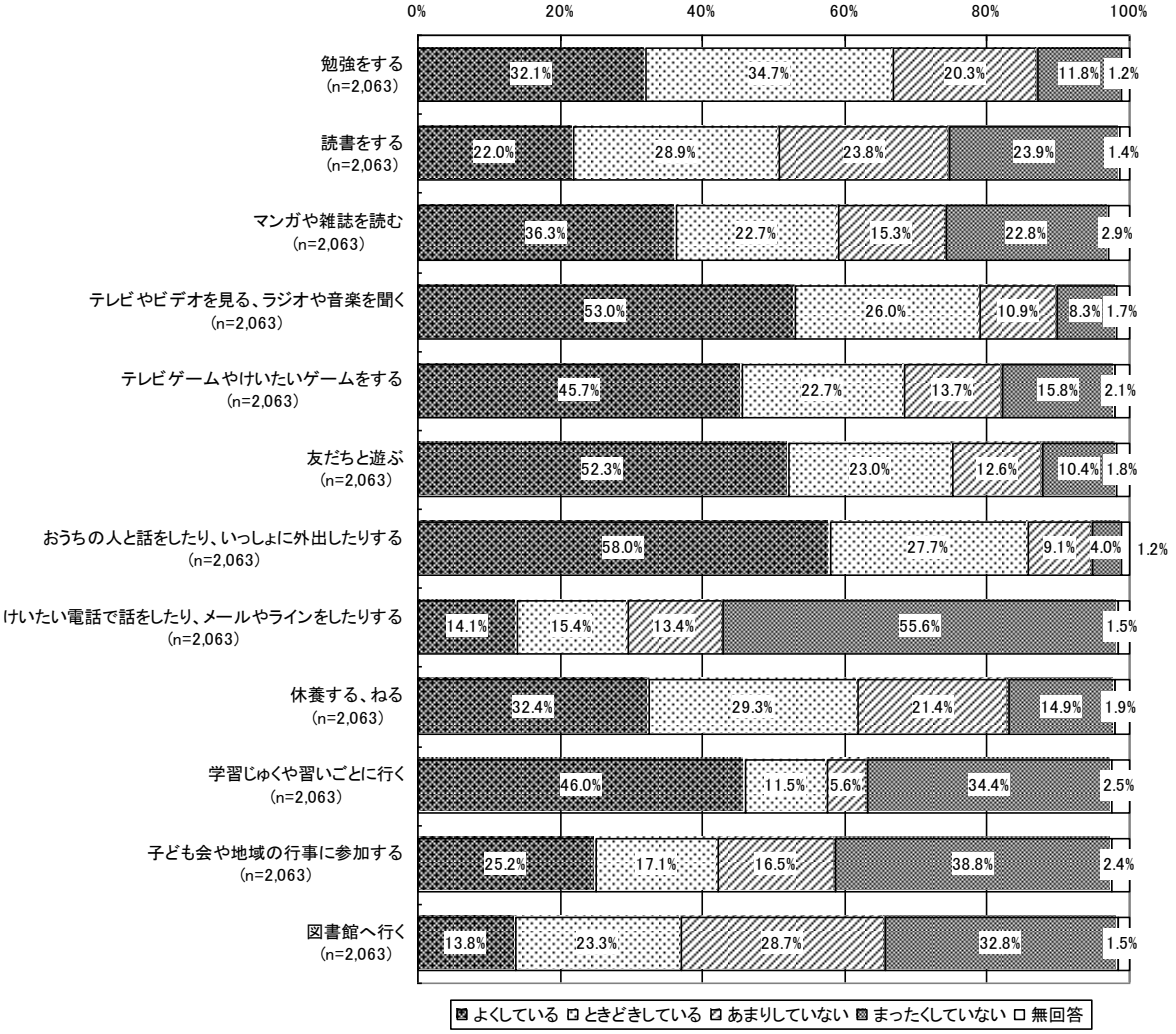
図表 2-３５　家の手伝いについて



１３）休日にしていること

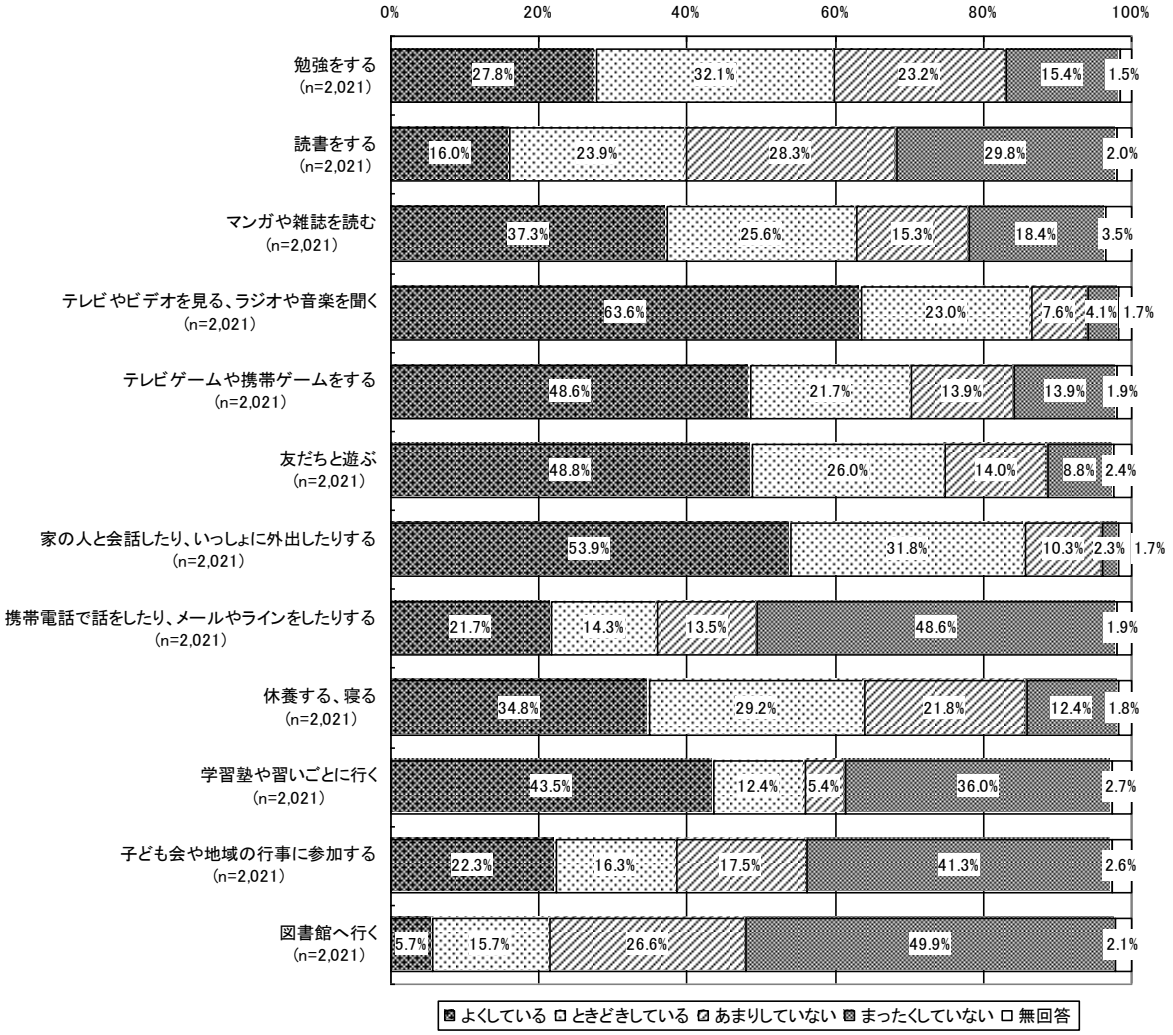
休日にしていることについて、小学３・４年生では、「おうちの人と話をしたり、いっしょに外出したりする」「テレビやビデオを見る、ラジオや音楽を聞く」「友だちと遊ぶ」で「よくしている」が過半数を超え、「けいたい電話で話をしたり、メールやラインをしたりする」児童は低い割合となっている。

図表 ２-３６ 休日にしていること【小学３・４年生】



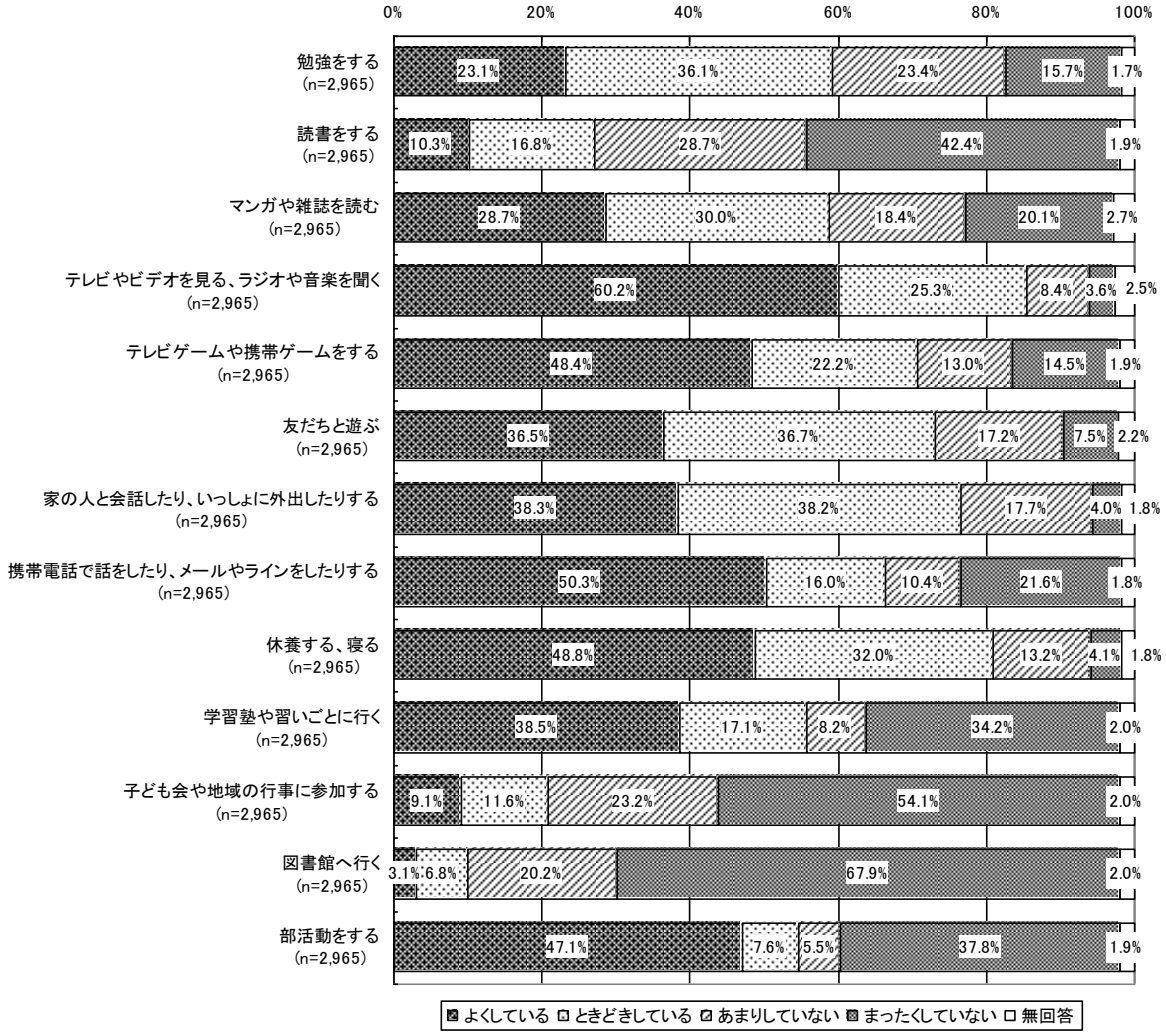
小学５・６年生においても、「テレビやビデオを見る、ラジオや音楽を聞く」「家の人と会話したり、いっしょに外出したりする」「友だちと遊ぶ」で「よくしている」と回答した児童が多い。一方、「図書館へ行く」児童は低い割合となっており、「まったくしていない」は約半数の 49.9%に上っている。

図表 ２-３７　休日にしていること【小学５・６年生】



次に中学生をみると、「テレビやビデオを見る、ラジオや音楽を聞く」で「よくしている」の割合が最も高く、次いで「休養する、ねる」「友だちと遊ぶ」と続いている。一方、「図書館へ行く」「子ども会や地域の行事に参加する」と回答した生徒の割合は低い。

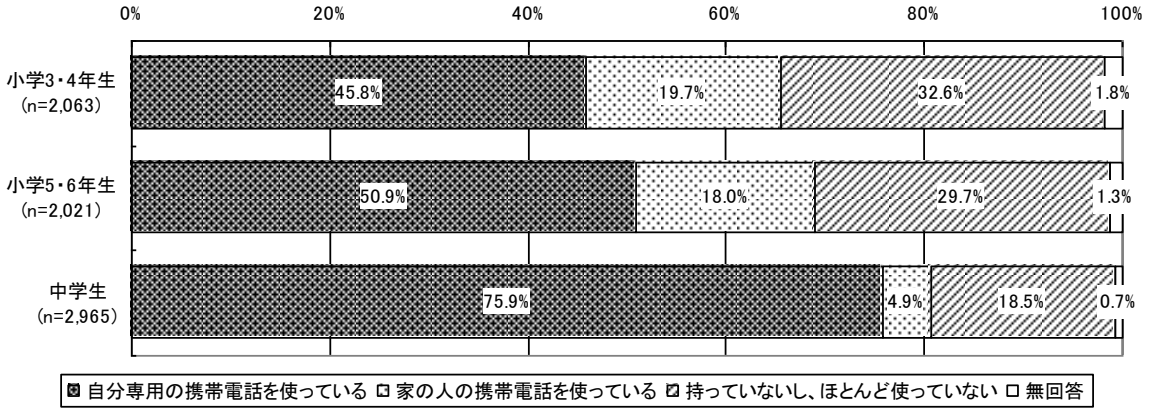
図表 2-38 休日にしていること【中学生】



１４）携帯電話の使用状況

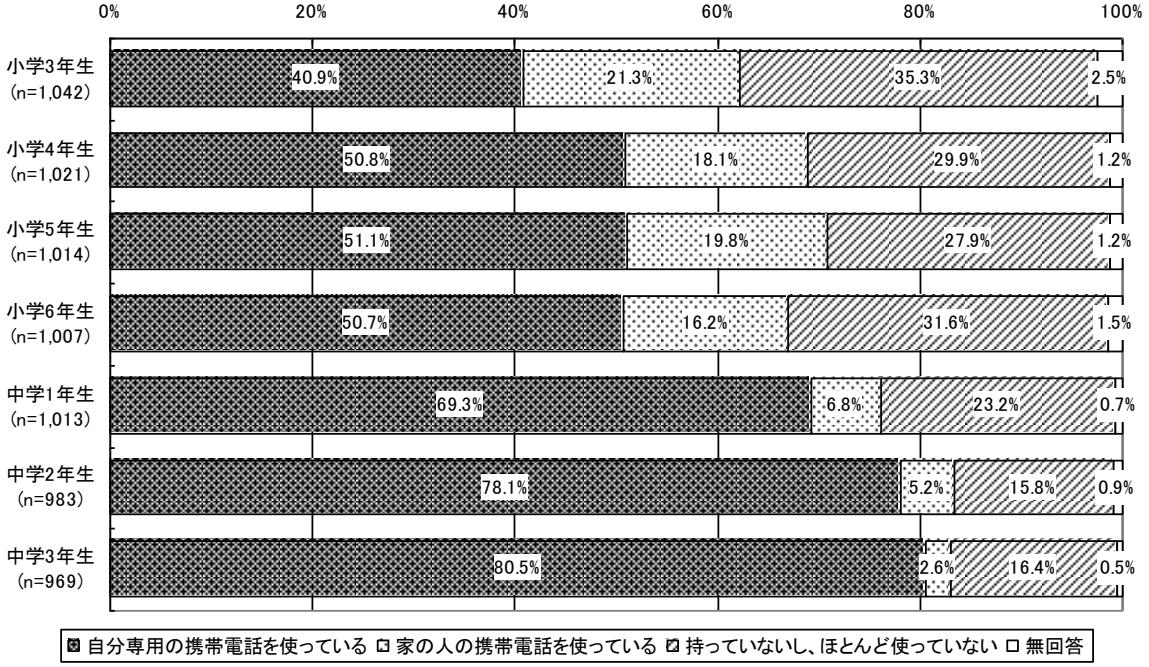
携帯電話の使用状況を聞くと、小学生では「自分専用の携帯使用」と「家の人の携帯使用」を合わせて、「携帯電話を使っている」割合が６割を超え、中学生では８割に達している。

図表 ２-３９ 携帯電話の使用状況



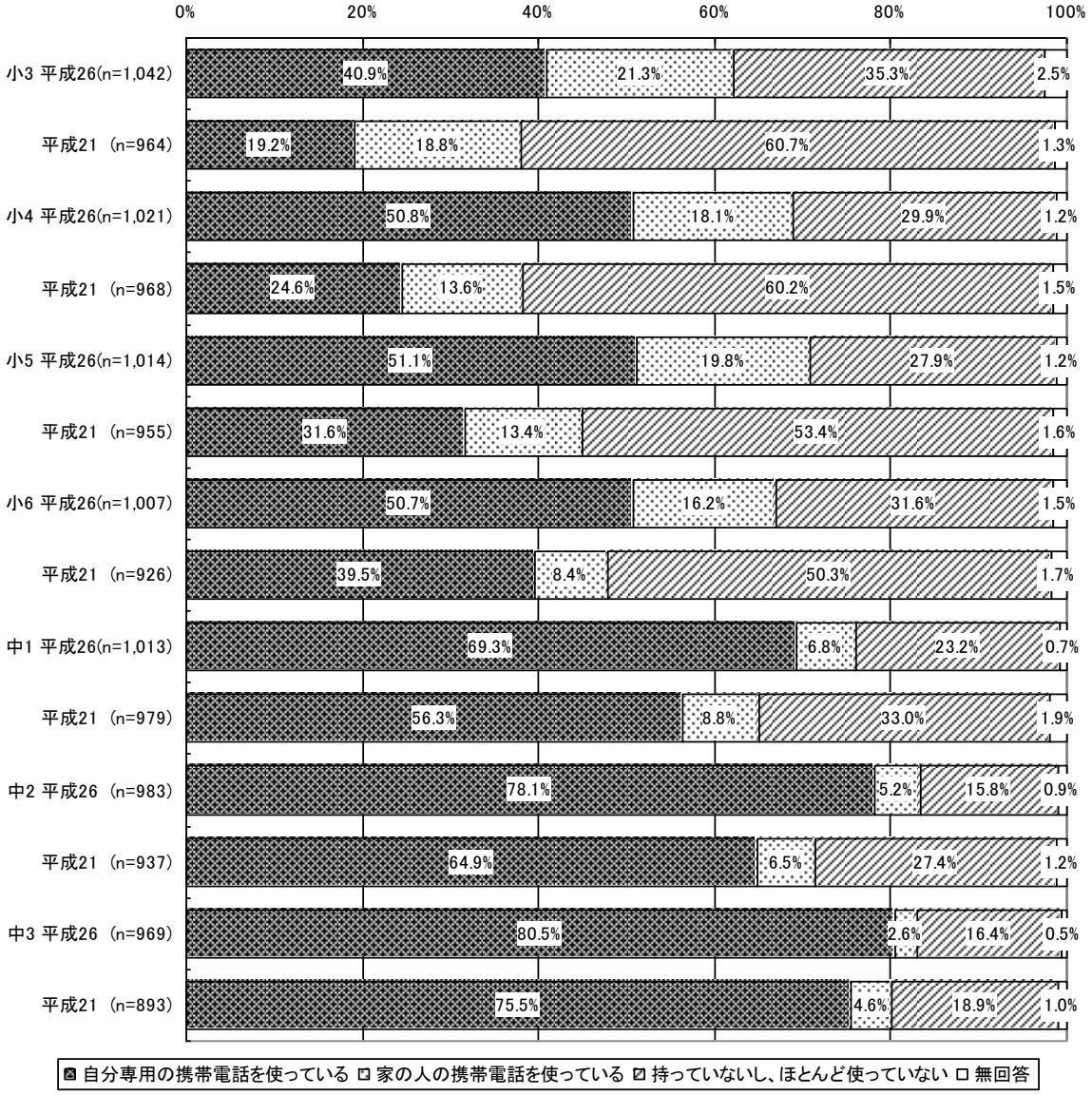
学年別では、学年が上がるにつれて「自分専用の携帯電話を使っている」割合が高くなり、中学生では約８割の生徒が自分専用の携帯電話を使用している。

図表 ２-４０ 携帯電話の使用状況【学年別】



携帯電話の使用状況を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全学年で「自分専用の携帯電話を使っている」割合が前回調査より非常に高くなっており、特に小学生では「家の人の携帯電話を使っている」も合わせて「携帯電話を使用している」児童の割合が、約 20～30 ポイントの大幅な増加となっている。

図表 2-41 携帯電話の使用状況【平成 21 年度調査との比較】

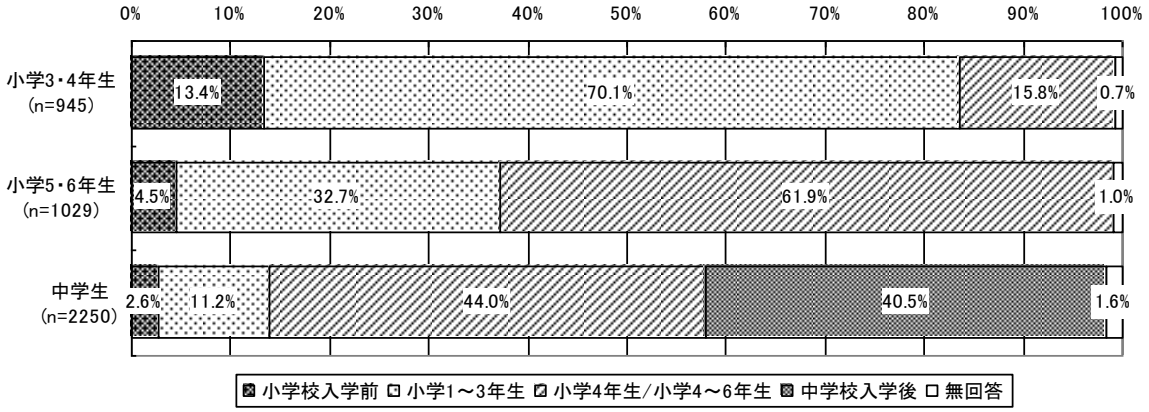


１５）自分専用の携帯電話について

①自分専用の携帯電話の入手時期

自分専用の携帯電話を使用している児童生徒に、携帯電話の入手時期を聞いたところ、小学 3・4 年生では「小学 1～3 年生」70.1%、小学 5・6 年生では「小学 4～6 年生」61.9%が最も高い。また、中学生においては、「小学 4～6 年生」が 44.0%、「中学校入学後」が 40.5%の割合となっている。

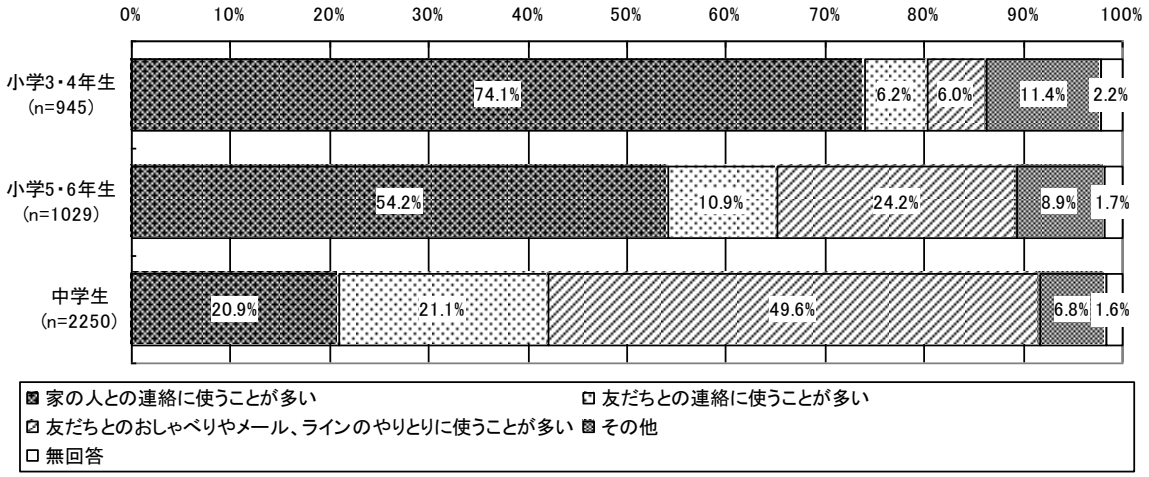
図表 2-42 自分専用の携帯電話の入所時期



②自分専用の携帯電話の使用目的

自分専用の携帯電話の使用目的をみると、小学生では「家の人との連絡に使うことが多い」と回答した割合が最も高いものの、学年が上がるにつれて減少傾向にある。逆に、「友だちとのおしゃべりやメール、ラインのやりとりに使うことが多い」割合は、学年が上がるにつれて増加傾向となっている。

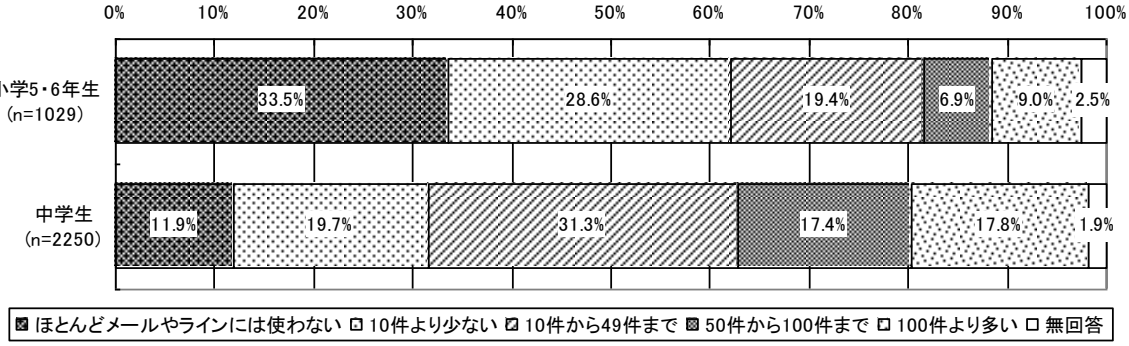
図表 2-43 自分専用の携帯電話の使用目的



③1 日の携帯電話のメールやラインの頻度

携帯電話の 1 日のメールやラインの頻度を聞いたところ、小学 5・6 年生では「ほとんどメールやラインを使わない」が 33.5%と最も高く、次いで「10 件より少ない」28.6%、「10 件から 49 件まで」19.4%と続いている。一方、中学生では「10 件から 49 件まで」の 31.3%が最も高く、1 日「100 件より多い」と回答した生徒は 17.8%であった。

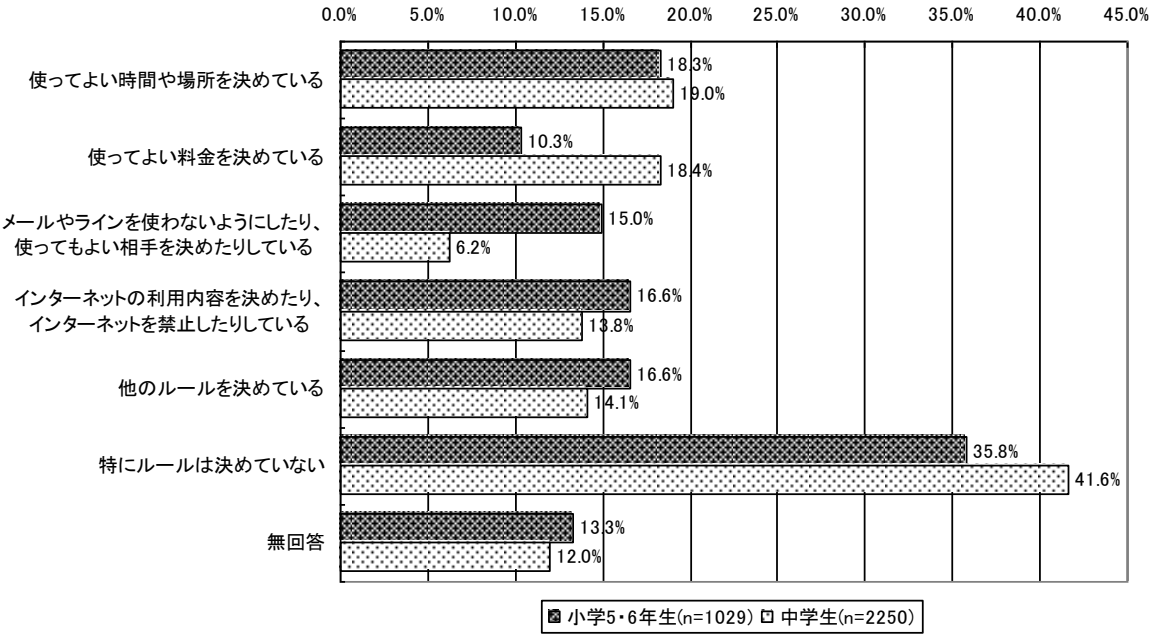
図表 2-44 1日の携帯電話のメールやラインの頻度



④携帯電話使用についてのルール

携帯電話使用のルールについては、小学 5・6 年生、中学生ともに「特にルールを決めていない」の割合が高く、中学生になると「使ってよい料金を決めている」割合が増加し、「メールやラインを使わないようにしたり、使ってもよい相手を決めたりしている」の割合は減少している。

図表 2-45 携帯電話使用についてのルール



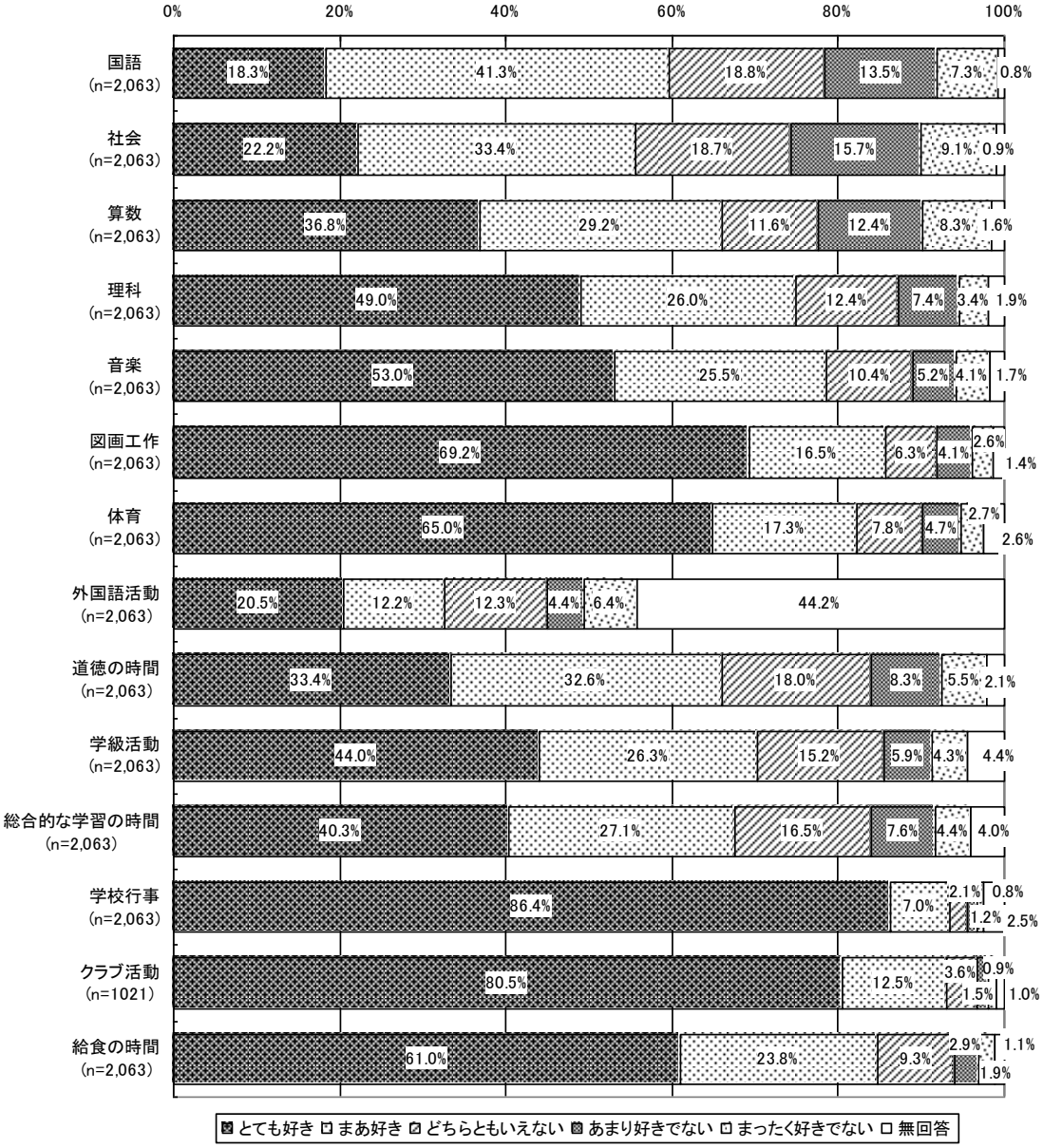
（３)学校での勉強や活動のことについて

１６）教科や活動についてどれくらい好きか

教科や活動についてどれくらい好きかを聞いたところ、小学３・４年生では、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた概ね「好き」な教科は、「図画工作」85.7%が最も高く、次いで「体育」82.3%、「音楽」78.5%と続いている。「国語」「社会」「算数」「理科」の４教科では、「理科」の割合が 75.0%と比較的高い。一方、「学校行事（遠足や運動会など)」「クラブ活動」「給食の時間」は、８割以上の児童が概ね「好き」と回答している。

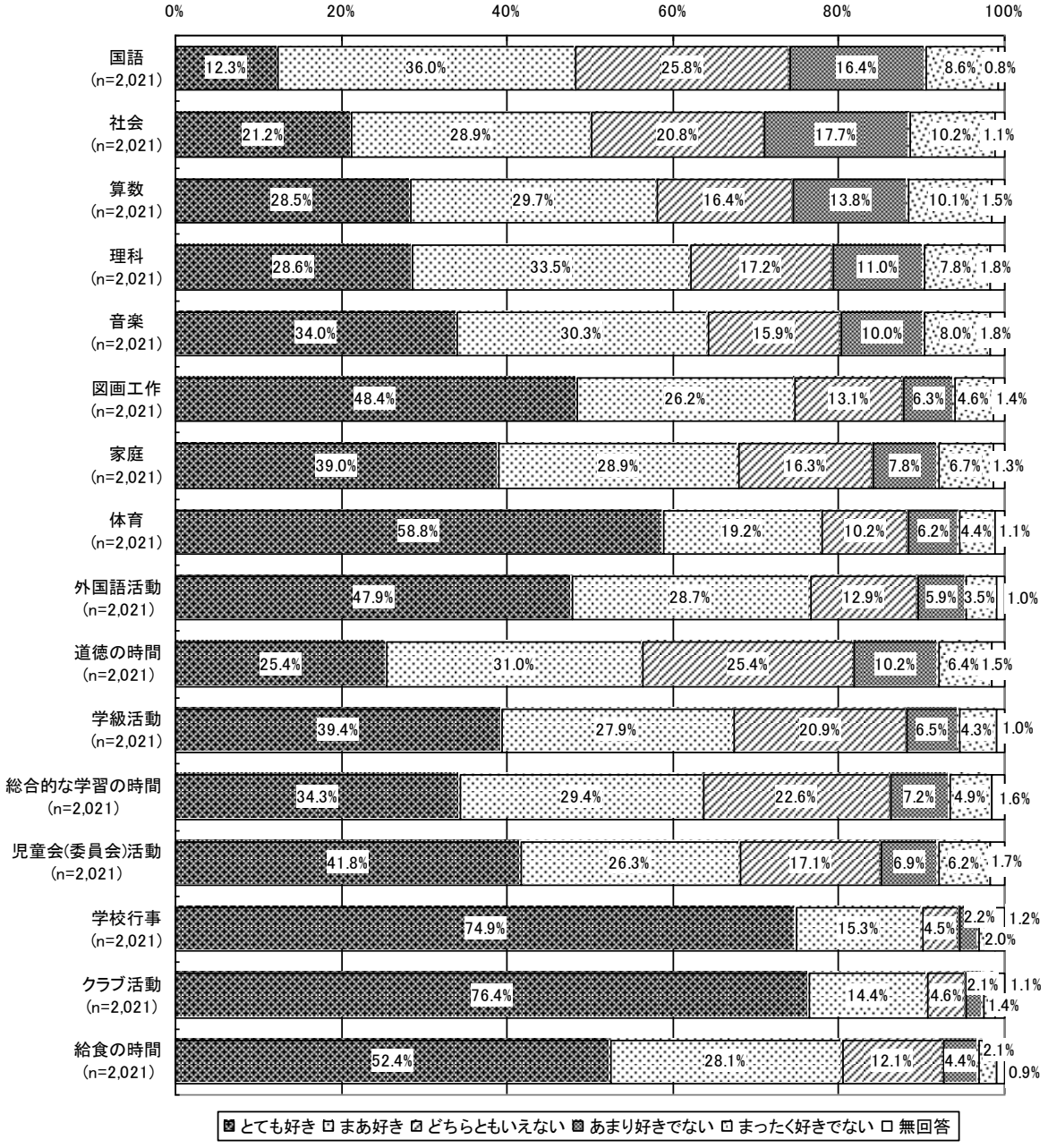
小学３・４年生では「外国語活動」は全校実施ではないため、「外国語活動」の無回答の割合が高くなっている。

図表 ２-４６　教科や活動についてどれくらい好きか【小学３・４年生】



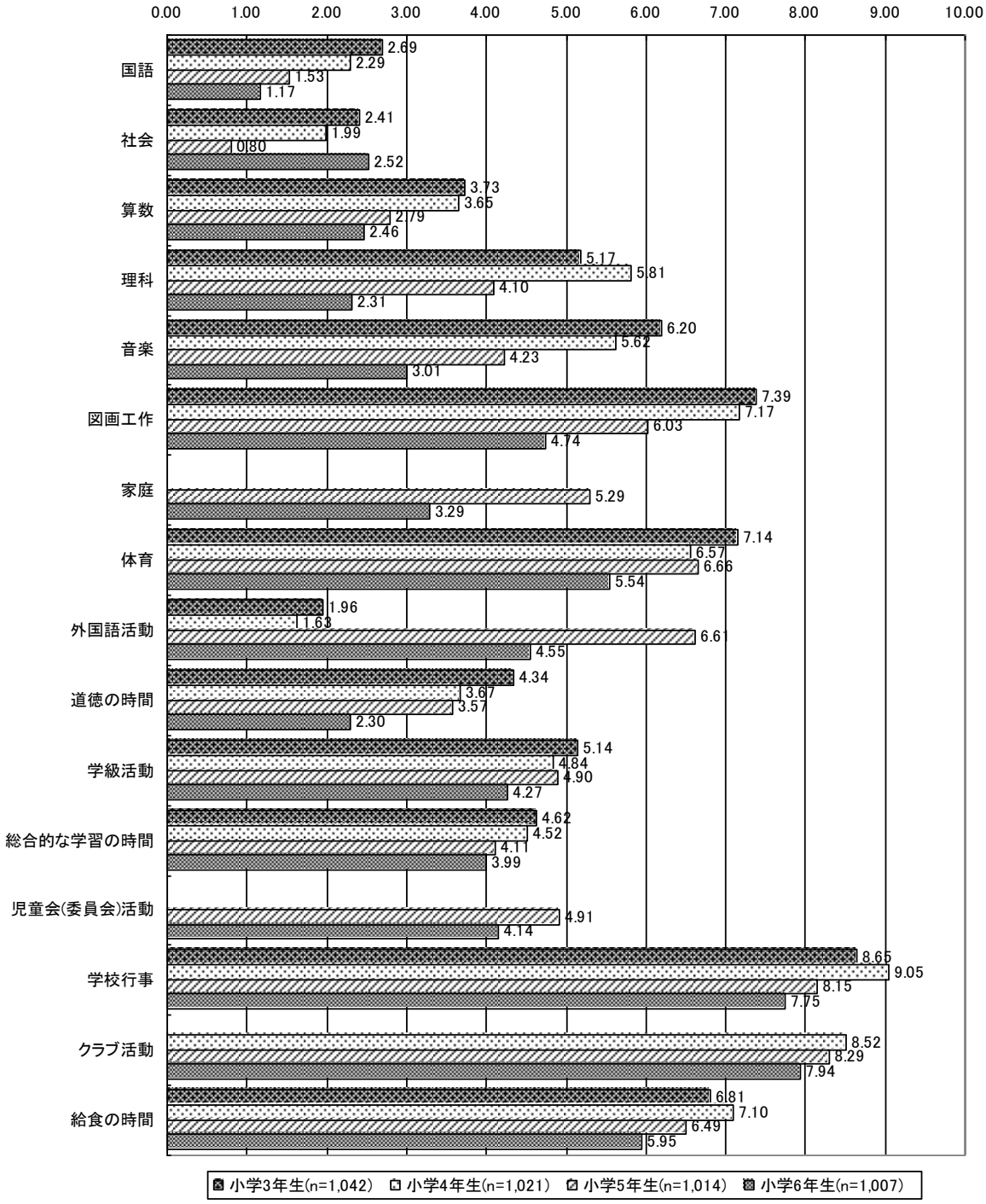
小学 5・6 年生についても、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた概ね「好き」な教科でみると、「体育」の 78.0%が最も高く、次いで「外国語活動」76.6%、「図画工作」74.6%と続いている。「国語」「社会」「算数」「理科」の 4 教科では、「理科」の割合が 62.1%とやや高くなっている。また、「学校行事（遠足や運動会など)」「クラブ活動」「給食の時間」は、8 割以上の児童が概ね「好き」と回答している。

図表 2-47　教科や活動についてどれくらい好きか【小学 5・6 年生】



学校の教科や活動の好感度を指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて好感度が低下する傾向であるが、「外国語活動」においては、小学５年生、小学６年生で高い点数となっている。

図表 ２-４８　教科や活動についてどれくらい好きか【小学生/学年別】



※指標化については、２ページ参照

指標について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学 5 年生、小学 6 年生の「国語」「社会」「算数」「理科」の 4 教科において、全教科で上昇がみられた。また、特に大きな変化としては、小学 3 年生の「道徳の時間」が前回調査より 1.97 点の低下、小学 6 年生の「児童会（委員会）活動」が 1.51 点の上昇となった。

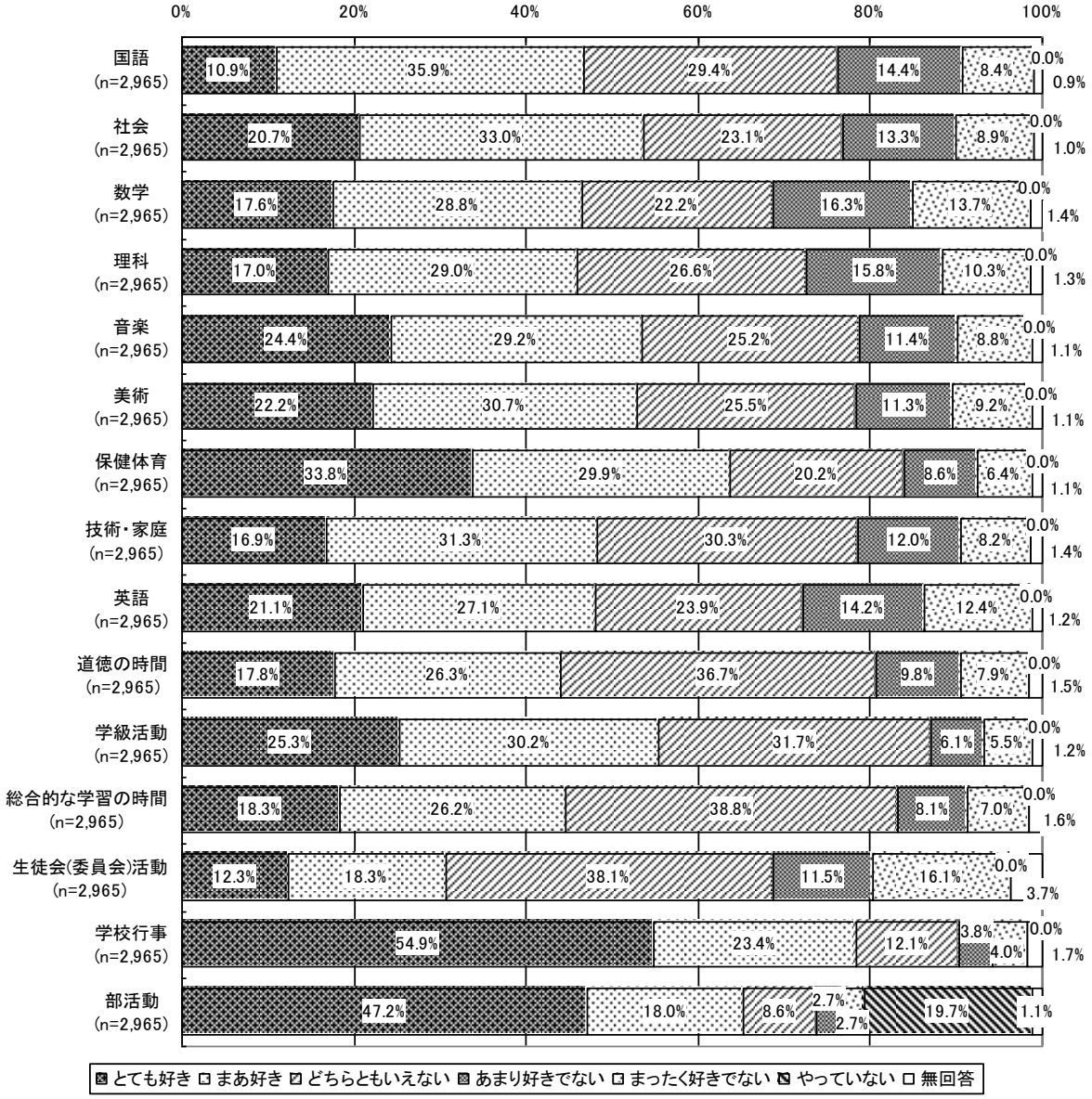
図表 2-49 教科や活動についてどれくらい好きか【平成 21 年度調査との比較】

1.50点以上の増減に網掛け	小学3年生		小学4年生		小学5年生		小学6年生	
	平成26 (n=1,042)	平成21 (n=964)	平成26 (n=1,021)	平成21 (n=968)	平成26 (n=1,014)	平成21 (n=955)	平成26 (n=1,007)	平成21 (n=926)
国語	2.69	3.08	2.29	2.47	1.53	1.22	1.17	0.82
社会	2.41	2.36	1.99	0.80	0.80	0.02	2.52	1.88
算数	3.73	4.03	3.65	3.22	2.79	2.72	2.46	1.16
理科	5.17	5.05	5.81	4.87	4.10	3.15	2.31	1.13
音楽	6.20	6.32	5.62	5.27	4.23	3.71	3.01	1.89
図画工作	7.39	7.41	7.17	6.54	6.03	5.55	4.74	3.66
家庭	－	－	－	－	5.29	5.43	3.29	2.00
体育	7.14	7.82	6.57	6.90	6.66	6.29	5.54	5.17
外国語活動	1.96	－	1.63	－	6.61	－	4.55	－
道徳の時間	4.34	6.31	3.67	4.49	3.57	3.34	2.30	1.87
学級活動	5.14	5.68	4.84	4.64	4.90	4.20	4.27	3.49
総合的な学習の時間	4.62	5.13	4.52	4.09	4.11	3.32	3.99	2.92
児童会(委員会)活動	－	－	－	－	4.91	4.37	4.14	2.63
学校行事	8.65	8.86	9.05	8.70	8.15	7.84	7.75	7.29
クラブ活動	－	0.00	8.52	8.17	8.29	7.83	7.94	7.48
給食の時間	6.81	7.33	7.10	6.88	6.49	5.76	5.95	5.88

※指標化については、2 ページ参照

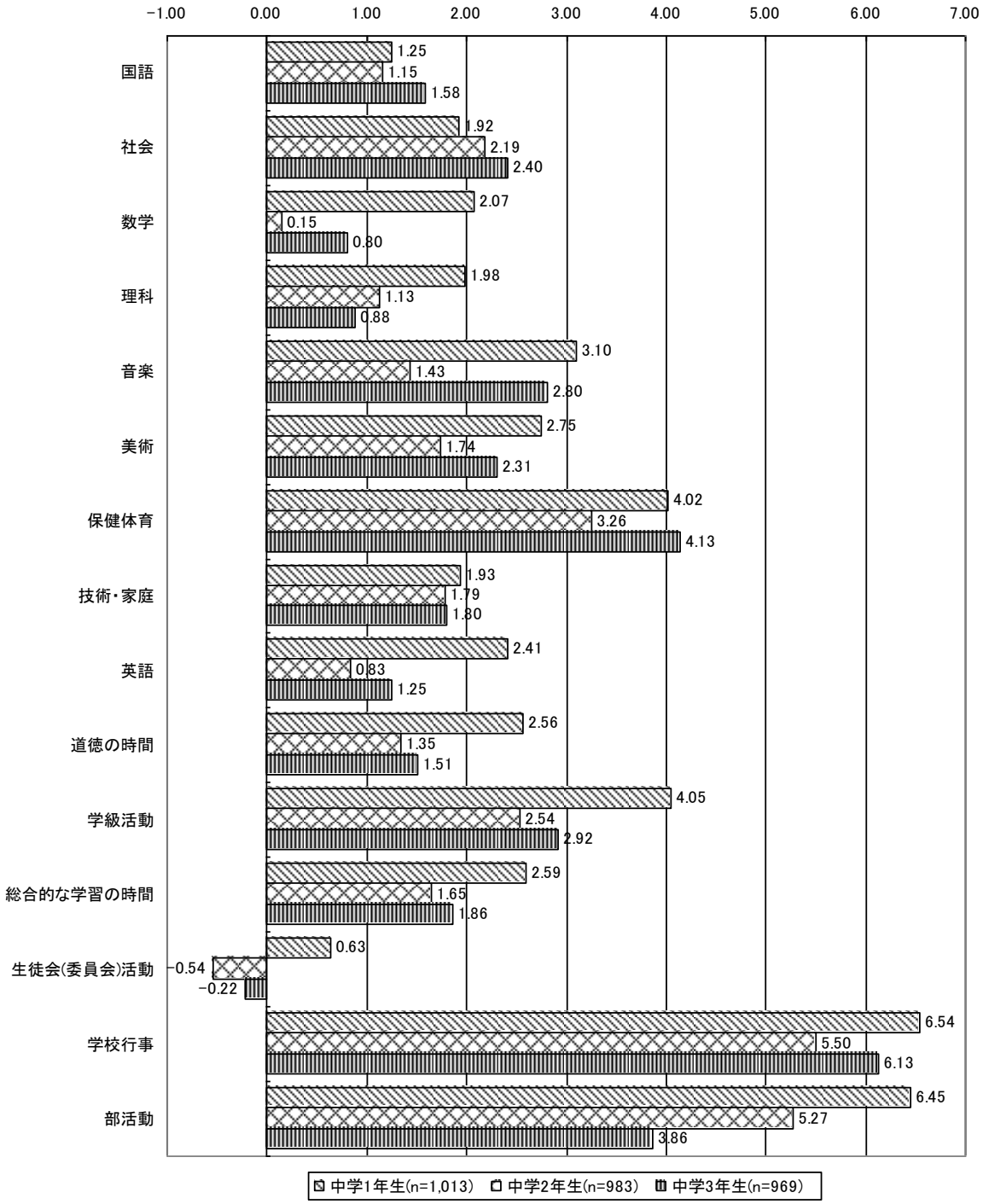
中学生において、「とても好き」「まあ好き」を合わせた割合をみると、「保健体育」が 63.7%で最も高く、次いで「社会」53.7%、「音楽」53.6%と続く。「国語」「社会」「数学」「理科」「英語」の 5 教科では、「社会」の割合が比較的多く、他の教科より 5.0 ポイント以上高い割合となった。また、「学校行事」を「とても好き」と回答する生徒が多く、「まあ好き」を合わせると 78.3%の生徒が「好き」と回答している。

図表 2-50 教科や活動についてどれくらい好きか【中学生】



次に指標化して学年別に比較すると、「国語」「社会」では中学 3 年生の好感度が最も高く、「数学」「理科」「英語」では中学 1 年生が高い傾向にある。特に「数学」「理科」「英語」では中学 1 年生の得点が他学年と比べて目立って高い。「数学」においては、中学 1 年生と中学 2 年生を比較すると 1.92 点と大きな点数の開きがみられた。

図表 2-５１　教科や活動についてどれくらい好きか【中学生/学年別】



※指標化については、2 ページ参照

指標について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学 1 年生において「社会」「数学」「理科」など、8 項目の教科や活動で 1.50 点以上の大きな上昇がみられた。また、中学 2 年生において若干減少した教科や活動がみられるものの、全体的に前回調査よりも点数は上昇している。

図表 2-52 教科や活動についてどれくらい好きか【平成 21 年度調査との比較】

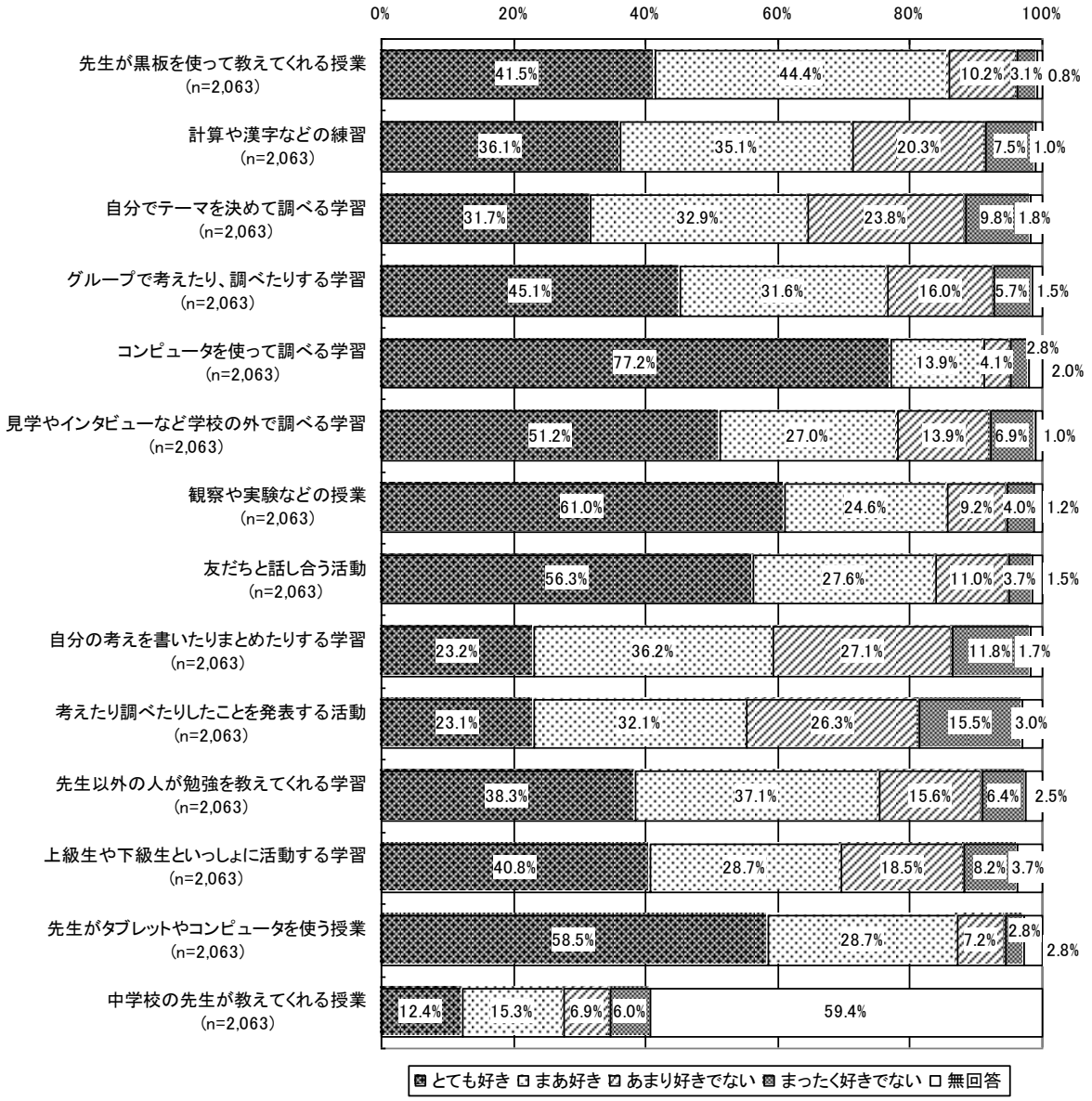
1.50点以上の増減に網掛け	中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	平成26 (n=1,013)	平成21 (n=979)	平成26 (n=983)	平成21 (n=937)	平成26 (n=969)	平成21 (n=893)
国語	1.25	0.20	1.15	0.75	1.58	0.75
社会	1.92	0.31	2.19	2.19	2.40	1.84
数学	2.07	0.35	0.15	−0.26	0.80	−0.33
理科	1.98	0.27	1.13	1.18	0.88	0.87
音楽	3.10	1.08	1.43	1.26	2.80	2.13
美術	2.75	1.55	1.74	1.29	2.31	1.79
保健体育	4.02	3.69	3.26	3.09	4.13	3.49
技術・家庭	1.93	0.97	1.79	0.99	1.80	1.65
英語	2.41	1.98	0.83	0.48	1.25	0.82
道徳の時間	2.56	1.68	1.35	1.18	1.51	1.11
学級活動	4.05	2.14	2.54	1.77	2.92	1.93
総合的な学習の時間	2.59	0.93	1.65	0.74	1.86	0.86
生徒会(委員会)活動	0.63	−1.16	−0.54	−1.42	−0.22	−1.28
学校行事	6.54	5.03	5.50	4.14	6.13	4.94
部活動	6.45	5.98	5.27	4.80	3.86	3.51

※指標化については、2 ページ参照

１７）学校での授業や学習がどれくらい好きか

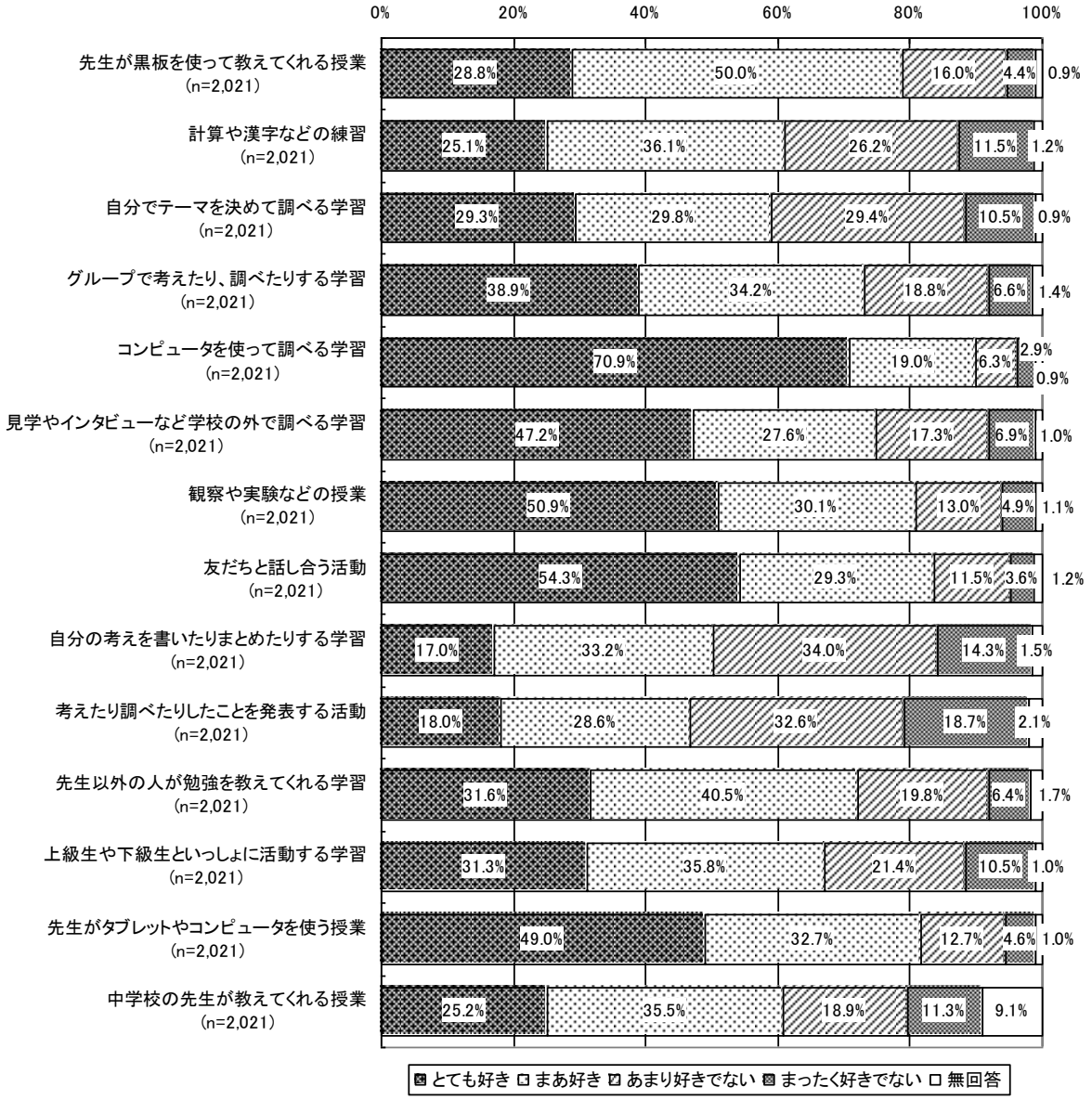
小学３・４年生に学校で好きな授業や学習形式を聞いたところ、「とても好き」「まあ好き」を合わせた概ね「好き」と回答した割合では、「コンピュータを使って調べる学習」が 91.1%と非常に高く、次いで「先生がタブレットやコンピュータを使う授業」87.2%、「先生が黒板を使って教えてくれる授業」85.9%と続いている。一方、「あまり好きではない」と「まったく好きではない」を合わせた割合をみると、「考えたり調べたりしたことを発表する活動」41.8%、「自分の考えを書いたりまとめたりする学習」38.9%が高い。

図表 ２-５３　学校での授業や学習がどれくらい好きか【小学３・４年生】



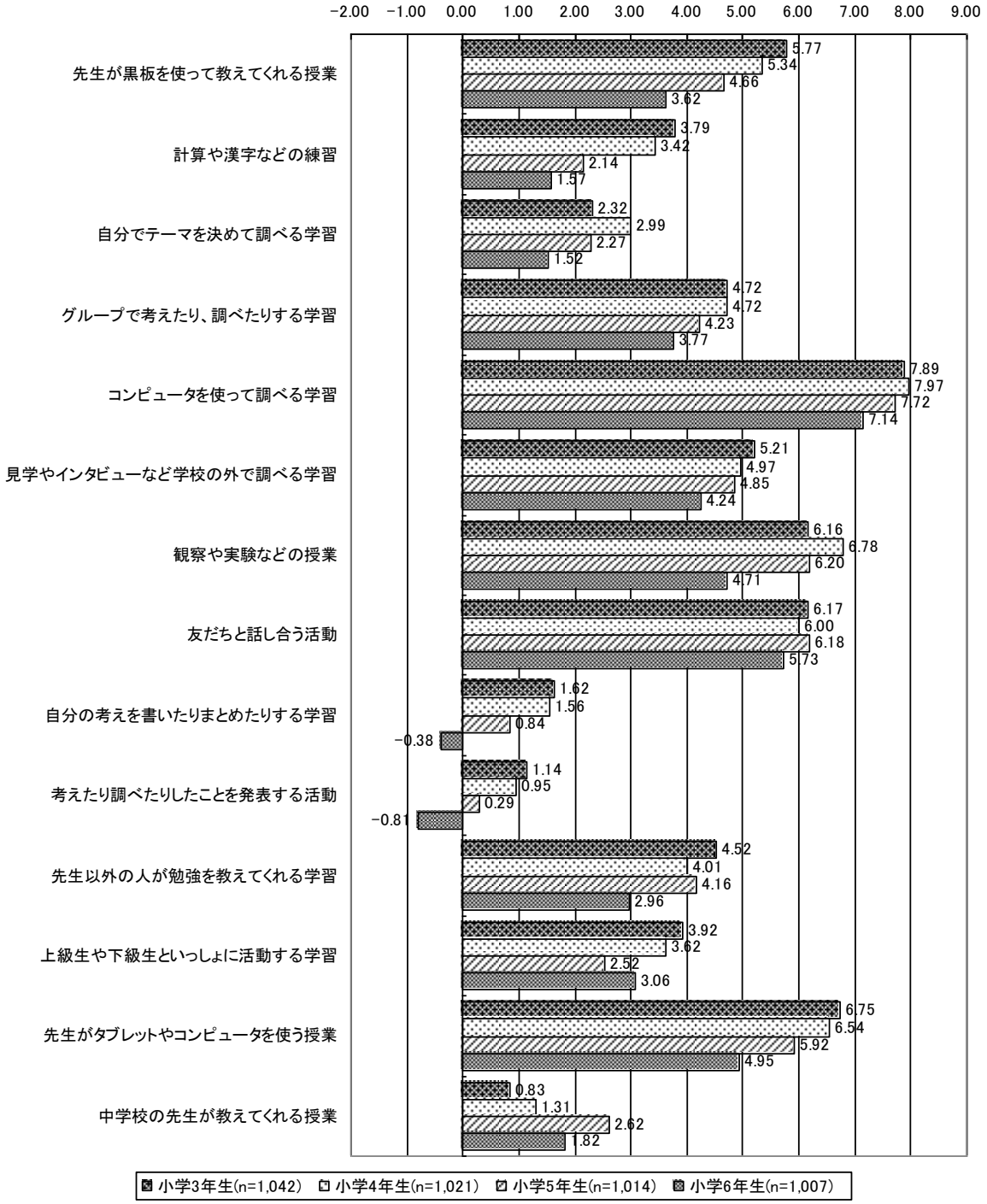
同様に、小学５・６年生について「とても/まあ好き」を合わせた割合をみると、「コンピュータを使って調べる学習」が 89.9%と最も高く、次いで「友だちと話し合う活動」83.6%、「先生がタブレットやコンピュータを使う授業」81.7%と続いている。また、「あまり/まったく好きではない」を合わせた割合では、「考えたり調べたりしたことを発表する活動」51.3%、「自分の考えを書いたりまとめたりする学習」48.3%と、それぞれ約半数の児童が「好きではない」と回答している。

図表 2-５４　学校での授業や学習がどれくらい好きか【小学 5･6 年生】



学校での授業や学習形式について、「好き」の程度を指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて点数が低下する傾向となっている。

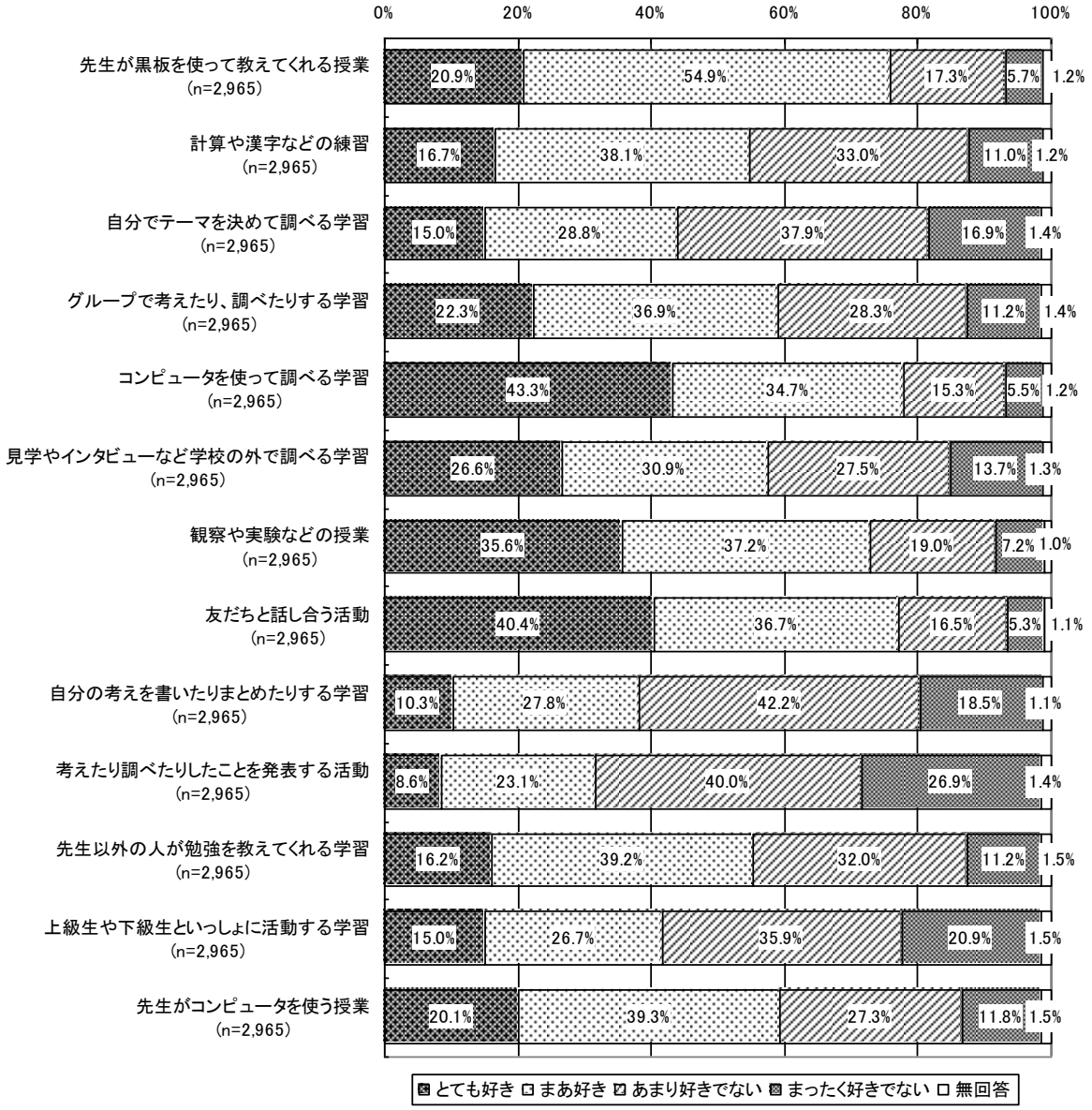
図表 2-55 学校での授業や学習がどれくらい好きか【小学生/学年別】



※指標化について、2ページ参照

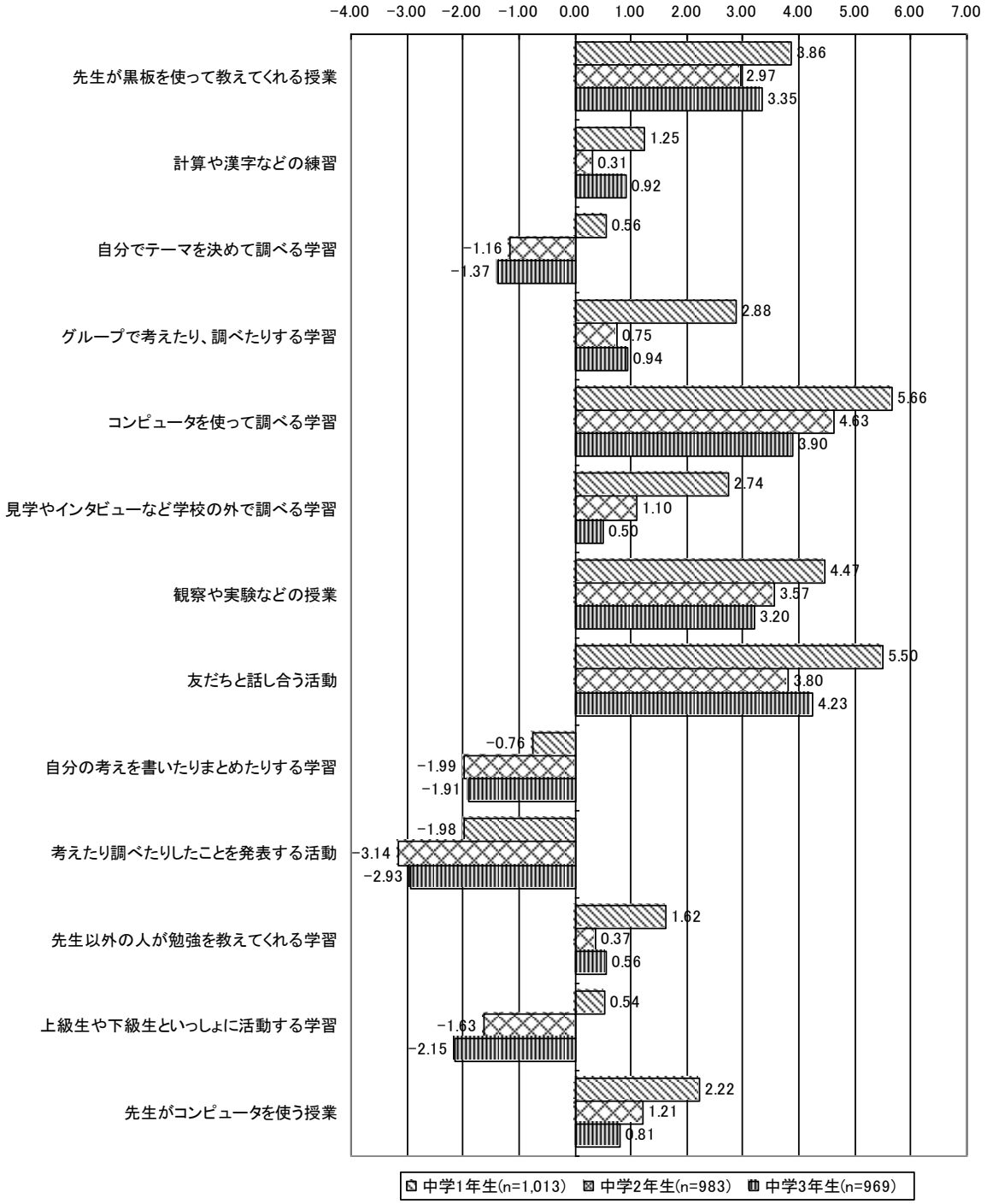
次に、中学生について、「とても/まあ好き」を合わせた割合をみると、「コンピュータを使って調べる学習」が 78.0%と最も高く、次いで「友だちと話し合う活動」77.1%、「先生が黒板を使って教えてくれる授業」75.8%と続いている。一方、「あまり/まったく好きではない」を合わせた割合では、「考えたり調べたりしたことを発表する活動」が 66.9%、「自分の考えを書いたりまとめたりする学習」が 60.7%で、「好きではない」と回答した生徒が半数を超える。

図表 2-５６　学校での授業や学習がどれくらい好きか【中学生】



次に指標化して学年別に比較すると、小学生と同様に、学年が上がるにつれて点数は低下傾向となっている。

図表 2-57 学校での授業や学習がどれくらい好きか【中学生/学年別】



※指標化については、2ページ参照

指標について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学 1 年生で大きく上昇した項目が多く、特に「自分でテーマを決めて調べる学習」「見学やインタビューなど学校の外で調べる学習」「考えたり調べたりしたことを発表する活動」において、前回調査より 2 点以上の上昇となった。また、小学 5・6 年生の「先生以外の人が勉強を教えてくれる学習」「上級生や下級生といっしょに活動する学習」においても高い上昇がみられた。

図表 2-58 学校での授業や学習がどれくらい好きか【平成 21 年度調査との比較】

1.50点以上の増減に網掛け	小学3年生		小学4年生		小学5年生		小学6年生	
	平成26 (n=1,042)	平成21 (n=964)	平成26 (n=1,021)	平成21 (n=968)	平成26 (n=1,014)	平成21 (n=955)	平成26 (n=1,007)	平成21 (n=926)
先生が黒板を使って教えてくれる授業	5.77	5.74	5.34	4.80	4.66	3.57	3.62	2.94
計算や漢字などの練習	3.79	4.29	3.42	3.24	2.14	1.69	1.57	0.55
自分でテーマを決めて調べる学習	2.32	2.59	2.99	1.91	2.27	1.19	1.52	0.21
グループで考えたり、調べたりする学習	4.72	4.60	4.72	4.13	4.23	3.50	3.77	3.04
コンピュータを使って調べる学習	7.89	7.92	7.97	7.49	7.72	7.35	7.14	6.62
見学やインタビューなど学校の外で調べる学習	5.21	4.67	4.97	3.82	4.85	3.74	4.24	3.12
観察や実験などの授業	6.16	6.50	6.78	6.24	6.20	5.62	4.71	4.01
友だちと話し合う活動	6.17	6.02	6.00	6.16	6.18	6.10	5.73	5.46
自分の考えを書いたりまとめたりする学習	1.62	−	1.56	−	0.84	−	−0.38	−
考えたり調べたりしたことを発表する活動	1.14	0.96	0.95	0.63	0.29	−0.75	−0.81	−1.78
先生以外の人が勉強を教えてくれる学習	4.52	3.68	4.01	3.03	4.16	2.55	2.96	1.19
上級生や下級生といっしょに活動する学習	3.92	3.65	3.62	2.46	2.52	0.96	3.06	0.58
先生がタブレットやコンピュータを使う授業	6.75	−	6.54	−	5.92	−	4.95	−
中学校の先生が教えてくれる授業	0.83	−	1.31	−	2.62	−	1.82	−

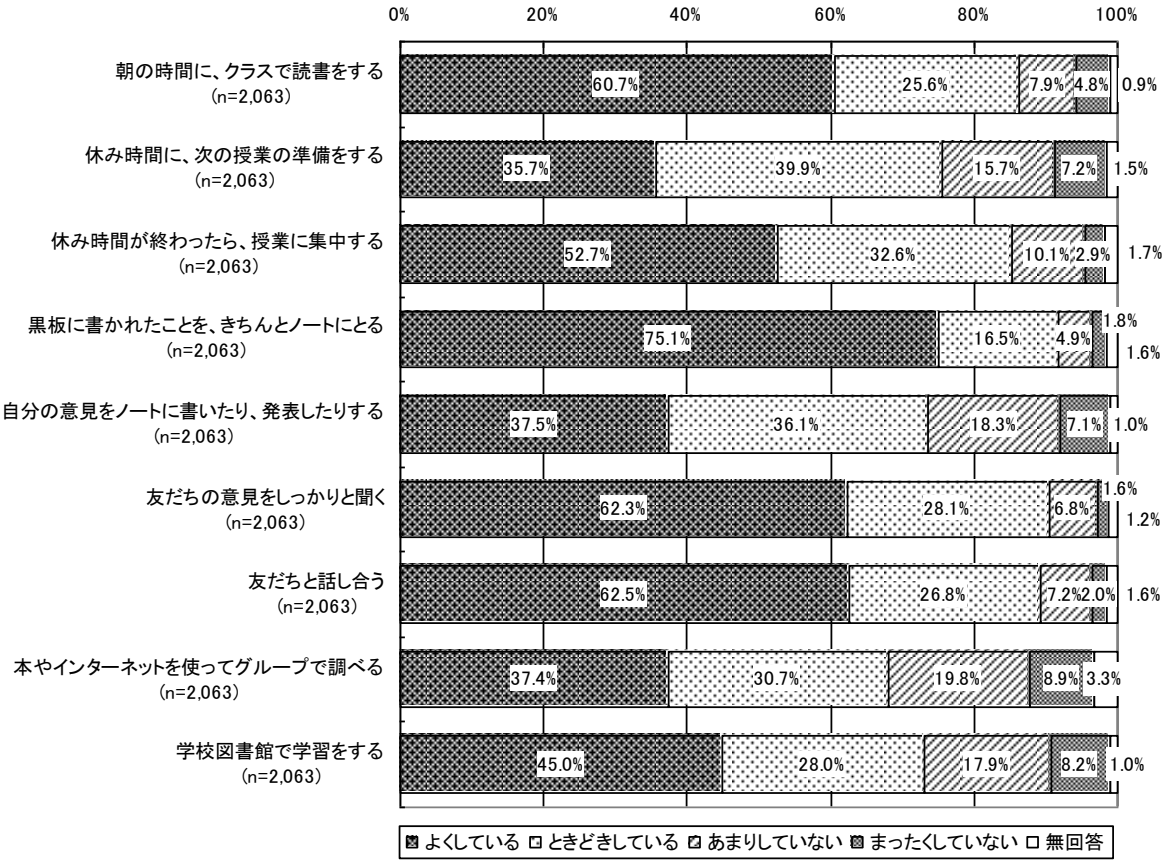
1.50点以上の増減に網掛け	中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	平成26 (n=1,013)	平成21 (n=979)	平成26 (n=983)	平成21 (n=937)	平成26 (n=969)	平成21 (n=893)
先生が黒板を使って教えてくれる授業	3.86	1.88	2.97	2.03	3.35	1.89
計算や漢字などの練習	1.25	−0.71	0.31	−1.10	0.92	−0.32
自分でテーマを決めて調べる学習	0.56	−1.51	−1.16	−1.75	−1.37	−2.28
グループで考えたり、調べたりする学習	2.88	1.49	0.75	0.55	0.94	−0.04
コンピュータを使って調べる学習	5.66	4.48	4.63	3.51	3.90	3.20
見学やインタビューなど学校の外で調べる学習	2.74	0.70	1.10	−0.39	0.50	−0.18
観察や実験などの授業	4.47	3.12	3.57	2.48	3.20	3.03
友だちと話し合う活動	5.50	5.51	3.80	4.17	4.23	3.94
自分の考えを書いたりまとめたりする学習	−0.76	−	−1.99	−	−1.91	−
考えたり調べたりしたことを発表する活動	−1.98	−3.99	−3.14	−3.98	−2.93	−3.60
先生以外の人が勉強を教えてくれる学習	1.62	0.21	0.37	−0.27	0.56	0.05
上級生や下級生といっしょに活動する学習	0.54	−1.43	−1.63	−2.61	−2.15	−2.76
先生がコンピュータを使う授業	2.22	−	1.21	−	0.81	−

※指標化については、2 ページ参照

１８）授業中に行っていること

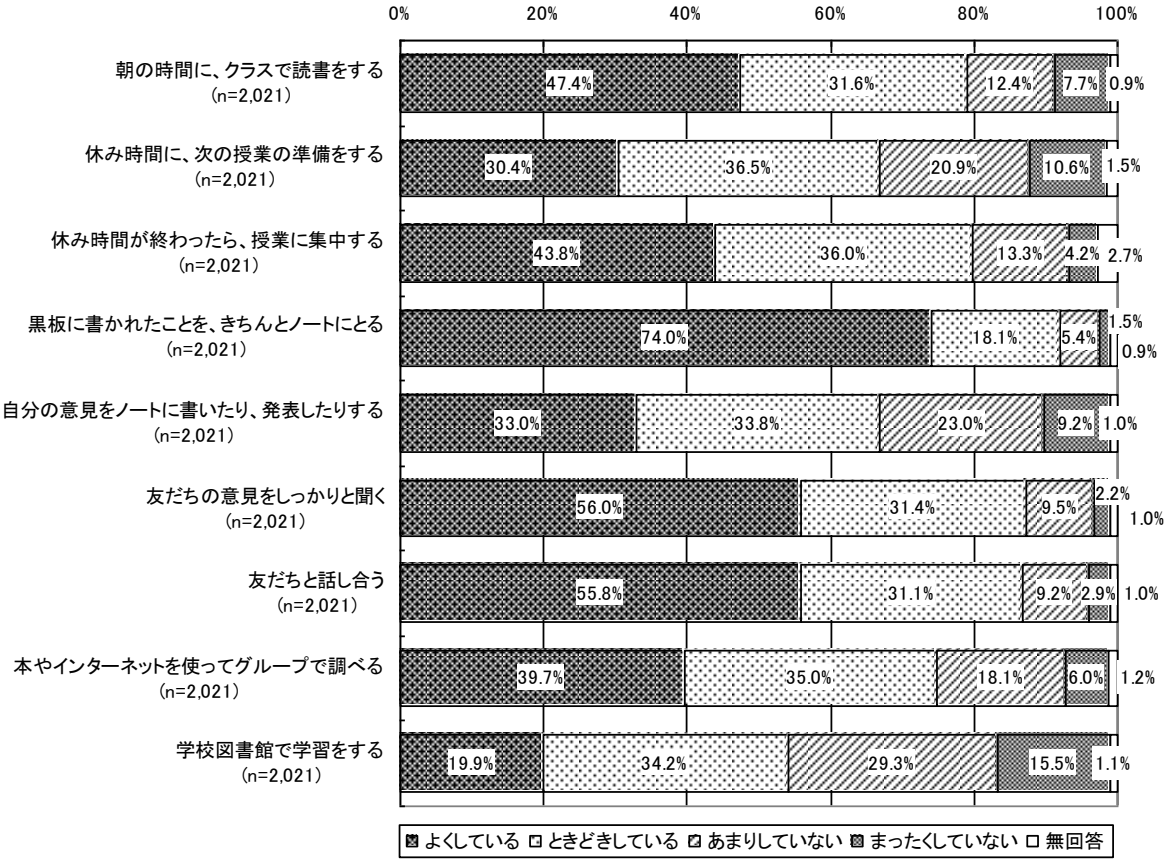
授業中に行っていることについて小学３・４年生に聞いたところ、「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた割合では、「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」「友だちの意見をしっかりと聞く」と回答した児童が９割を超えて高い。一方、「あまりしていない」「まったくしてない」を合わせた割合をみると、「本やインターネットを使ってグループで調べる」「学校図書館で学習をする」「自分の意見をノートに書いたり、発表したりする」において、４人に１人の児童が「あまり/まったくしていない」と回答している。

図表 ２-５９　授業中に行っていること【小学３・４年生】



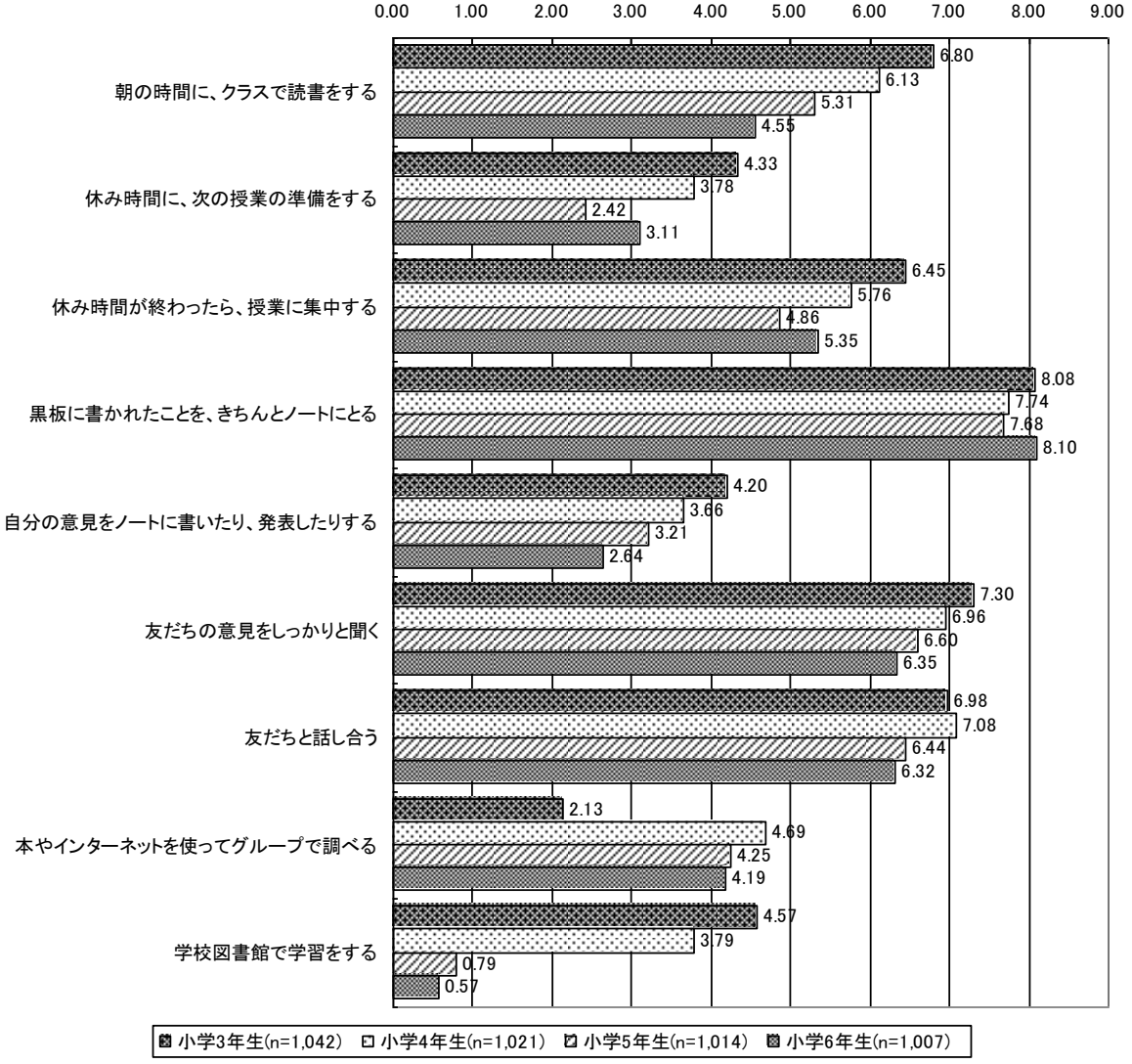
小学 5・6 年生では、「よく/ときどきしている」を合わせた割合をみると、「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」が 92.1%と最も高く、次いで「友だちの意見をしっかりと聞く」87.4%、「友だちと話し合う」86.9%と続いている。一方、「あまり/まったくしてない」を合わせた割合では、「学校図書館で学習をする」が 44.8%で高い。

図表 2-60 授業中に行っていること【小学 5・6 年生】



授業中に行っていることについて、指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて点数が低下する傾向がみられるものの、「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」については、全学年で高い点数となっている。

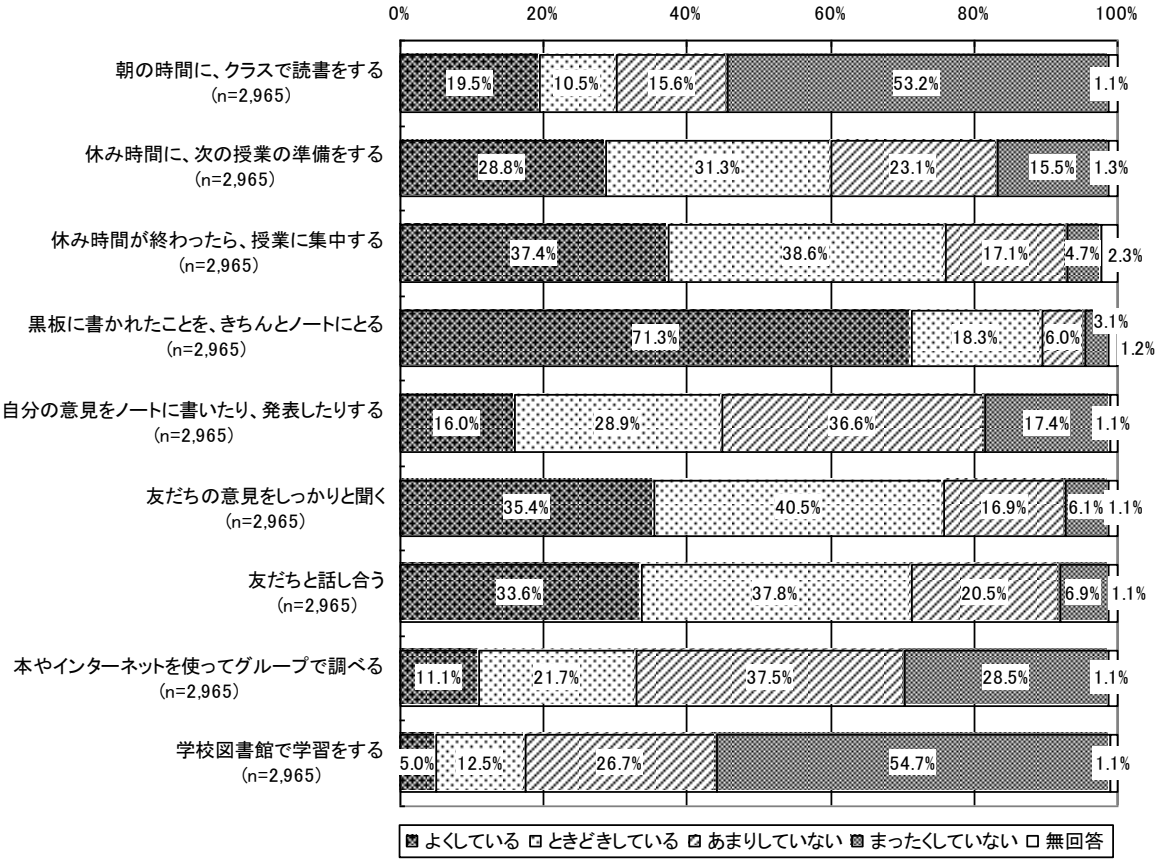
図表 2-61 授業中に行っていること【小学生/学年別】



※指標化については、2 ページ参照

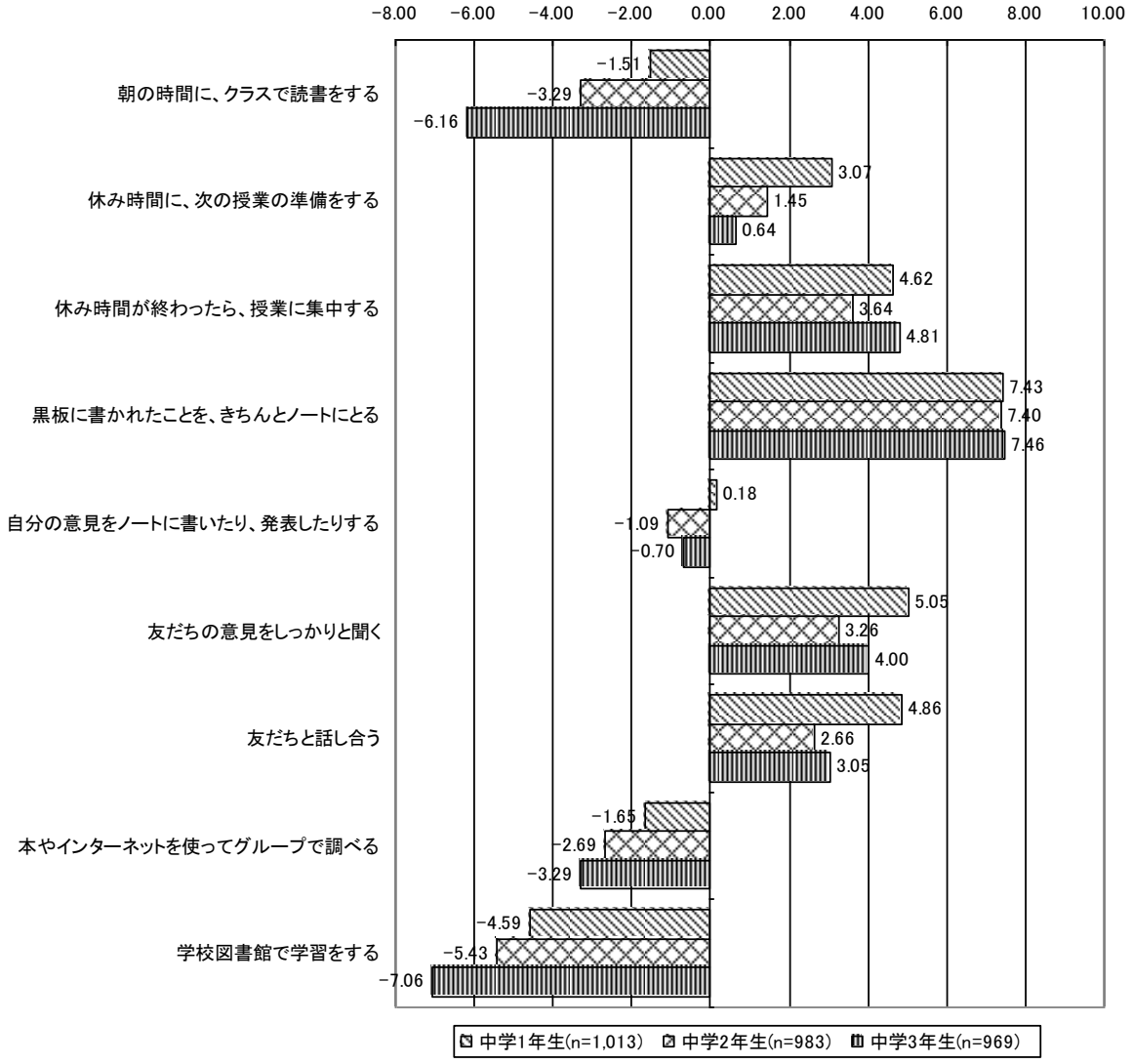
次に、中学生において、「よく/ときどきしている」を合わせた割合をみると、「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」が 89.6%で最も高く、「あまり/まったくしてない」を合わせた割合では、「学校図書館で学習をする」81.4%、「朝の時間に、クラスで読書をする」68.8%などが高い。

図表 2-62 授業中に行っていること【中学生】



指標化して学年別に比較すると、小学生と同様に全体的に学年が上がるにつれて点数が低下する傾向がみられるものの、「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」については、全学年で高い点数となっている。

図表 2-63 授業中に行っていること【中学生/学年別】



※指標化については、2ページ参照

指標について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に大幅な点数の上昇がみられる。特に中学生においては、「友だちの意見をしっかりと聞く」「友だちと話し合う」の 2 項目で全学年が、前回調査よりも 3 点以上の上昇となっている。しかし、中学 3 年生の「朝の時間に、クラスで読書をする」においては、4 点の大きな低下がみられた。

図表 2-64 授業中に行っていること【平成 21 年度調査との比較】

3.00点以上の増減に網掛け	小学3年生		小学4年生		小学5年生		小学6年生	
	平成26 (n=1,042)	平成21 (n=964)	平成26 (n=1,021)	平成21 (n=968)	平成26 (n=1,014)	平成21 (n=955)	平成26 (n=1,007)	平成21 (n=926)
朝の時間に、クラスで読書をする	6.80	7.20	6.13	6.18	5.31	5.38	4.55	3.50
休み時間に、次の授業の準備をする	4.33	4.09	3.78	3.29	2.42	1.31	3.11	0.69
休み時間が終わったら、授業に集中する	6.45	5.75	5.76	5.36	4.86	3.87	5.35	3.12
黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる	8.08	6.98	7.74	6.86	7.68	6.11	8.10	6.47
自分の意見をノートに書いたり、発表したりする	4.20	3.08	3.66	2.48	3.21	0.88	2.64	−0.02
友だちの意見をしっかりと聞く	7.30	6.54	6.96	6.06	6.60	4.77	6.35	3.84
友だちと話し合う	6.98	4.65	7.08	4.33	6.44	2.98	6.32	2.56
本やインターネットを使ってグループで調べる	2.13	0.17	4.69	3.04	4.25	1.58	4.19	1.41
学校図書館で学習をする	4.57	−	3.79	−	0.79	−	0.57	−

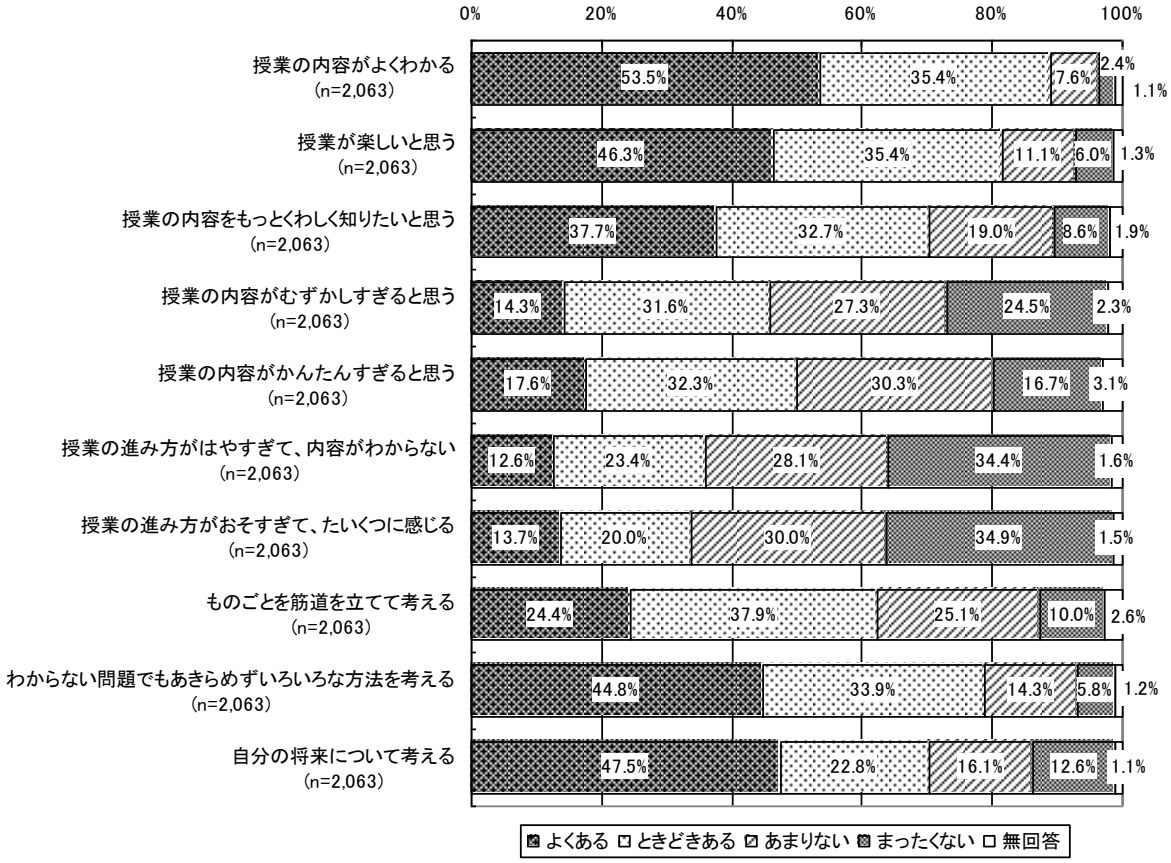
3.00点以上の増減に網掛け	中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	平成26 (n=1,013)	平成21 (n=979)	平成26 (n=983)	平成21 (n=937)	平成26 (n=969)	平成21 (n=893)
朝の時間に、クラスで読書をする	−1.51	−0.81	−3.29	−4.22	−6.16	−2.16
休み時間に、次の授業の準備をする	3.07	−0.20	1.45	−1.82	0.64	−1.16
休み時間が終わったら、授業に集中する	4.62	2.39	3.64	2.07	4.81	3.16
黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる	7.43	6.34	7.40	6.02	7.46	6.94
自分の意見をノートに書いたり、発表したりする	0.18	−3.63	−1.09	−4.18	−0.70	−3.68
友だちの意見をしっかりと聞く	5.05	1.45	3.26	0.10	4.00	0.35
友だちと話し合う	4.86	−0.57	2.66	−1.54	3.05	−1.90
本やインターネットを使ってグループで調べる	−1.65	−4.25	−2.69	−4.48	−3.29	−4.47
学校図書館で学習をする	−4.59	−	−5.43	−	−7.06	−

※指標化については、2 ページ参照

１９）授業中に思ったり考えたりすること

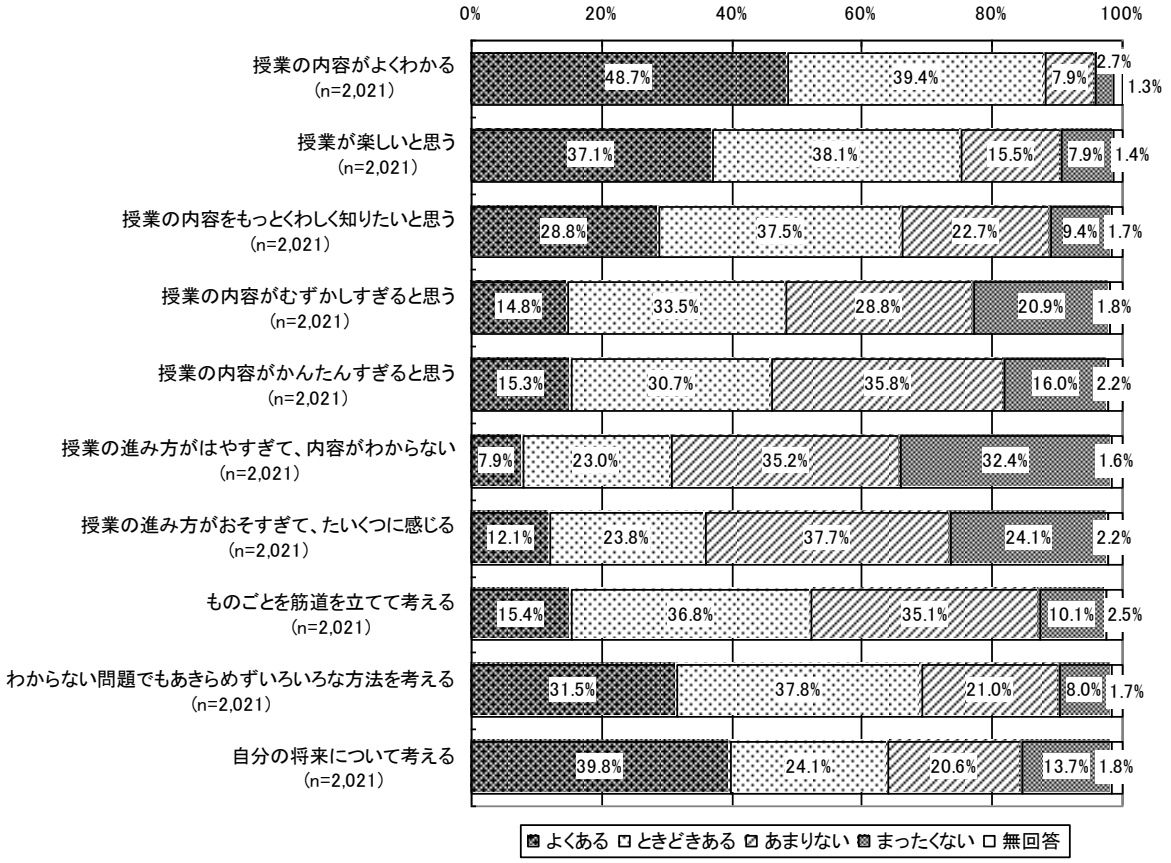
授業中に思ったり考えたりすることについて、小学３・４年生の「よくある」「ときどきある」を合わせた割合でみると、「授業の内容がよくわかる」「授業が楽しいと思う」でそれぞれ８割を超える回答となっている。また、授業の内容については、「むずかしすぎる」と「かんたんすぎる」はほぼ同じ割合となっており、進み方でも同様に「はやすぎて、内容がわからない」と「おそすぎてたいくつに感じる」がほぼ程度の割合となっている。

図表 ２-６５　授業中に思ったり考えたりすること【小学３・４年生】



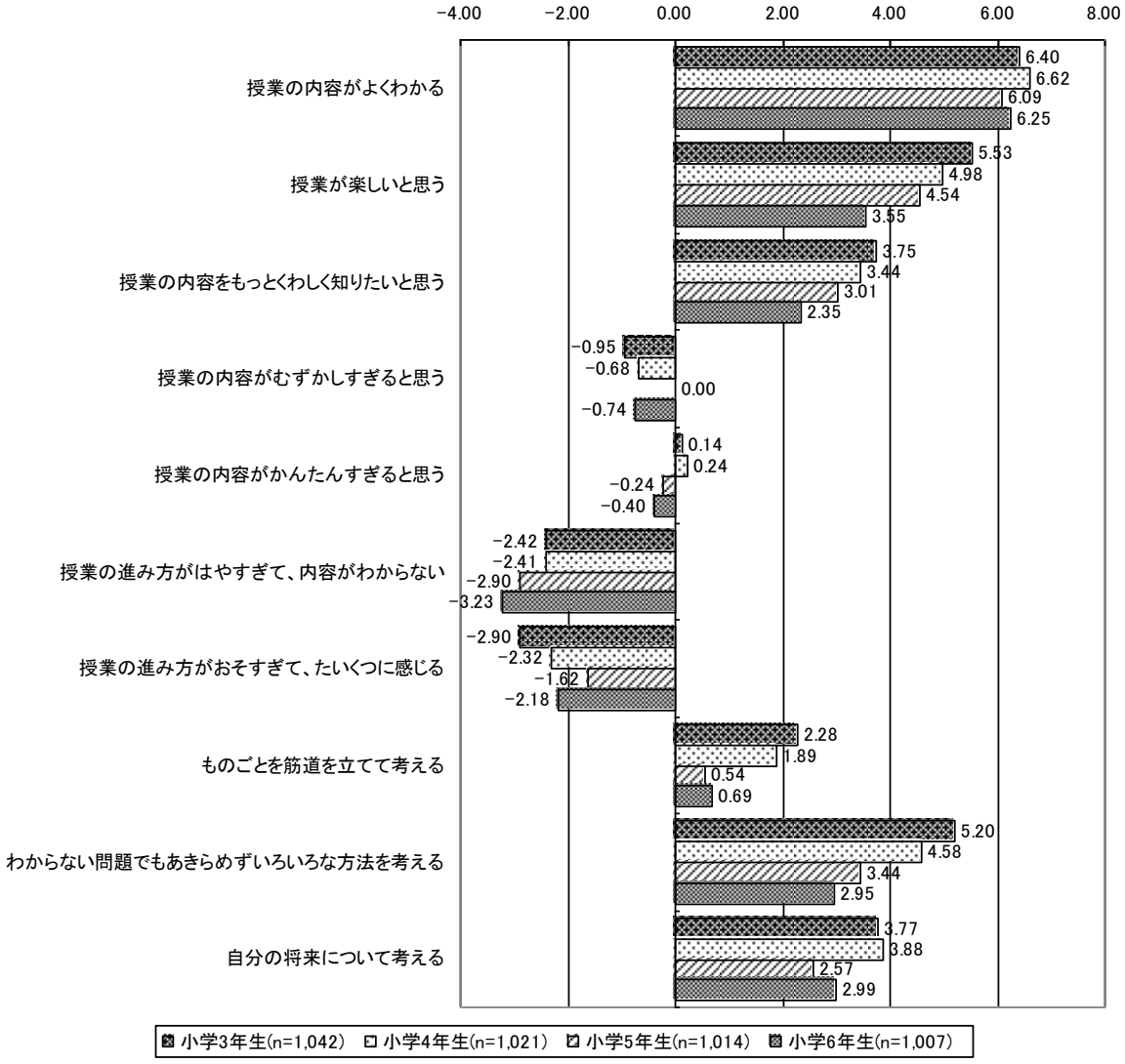
小学５・６年生の「よく/ときどきある」を合わせた割合では、「授業の内容がよくわかる」が 88.1%と最も高い。また、授業の内容をみると、「むずかしすぎる」と「かんたんすぎる」の割合に大きな差はないものの、授業の進み方では「おそすぎてたいくつに感じる」で「よく/ときどきある」と回答した児童が若干多い。

図表 2-66 授業中に思ったり考えたりすること【小学５・６年生】



授業中に思ったり考えたりすることについて、指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて点数は低下する傾向がみられた。その中で「授業の内容がよくわかる」は全学年で６点台と高い点数となっている。

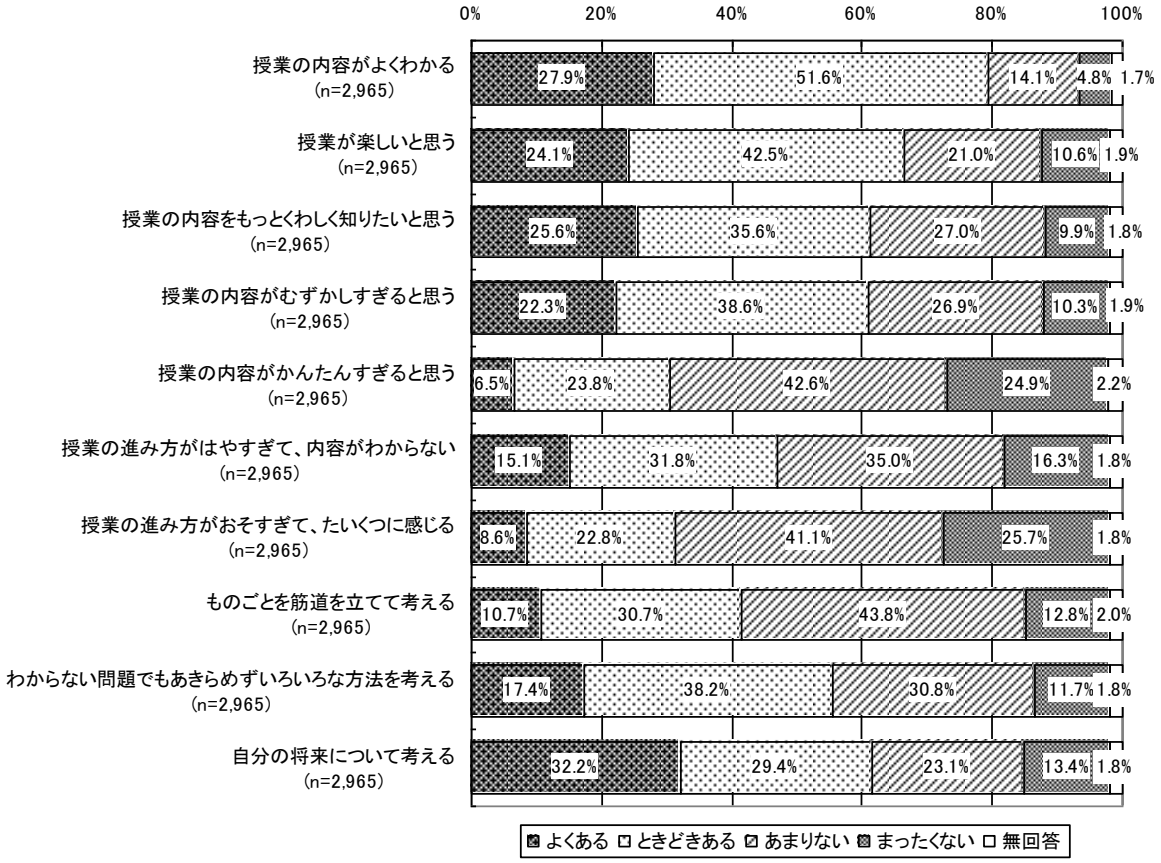
図表 ２-６７　授業中に思ったり考えたりすること【小学生/学年別】



※指標化については、２ページ参照

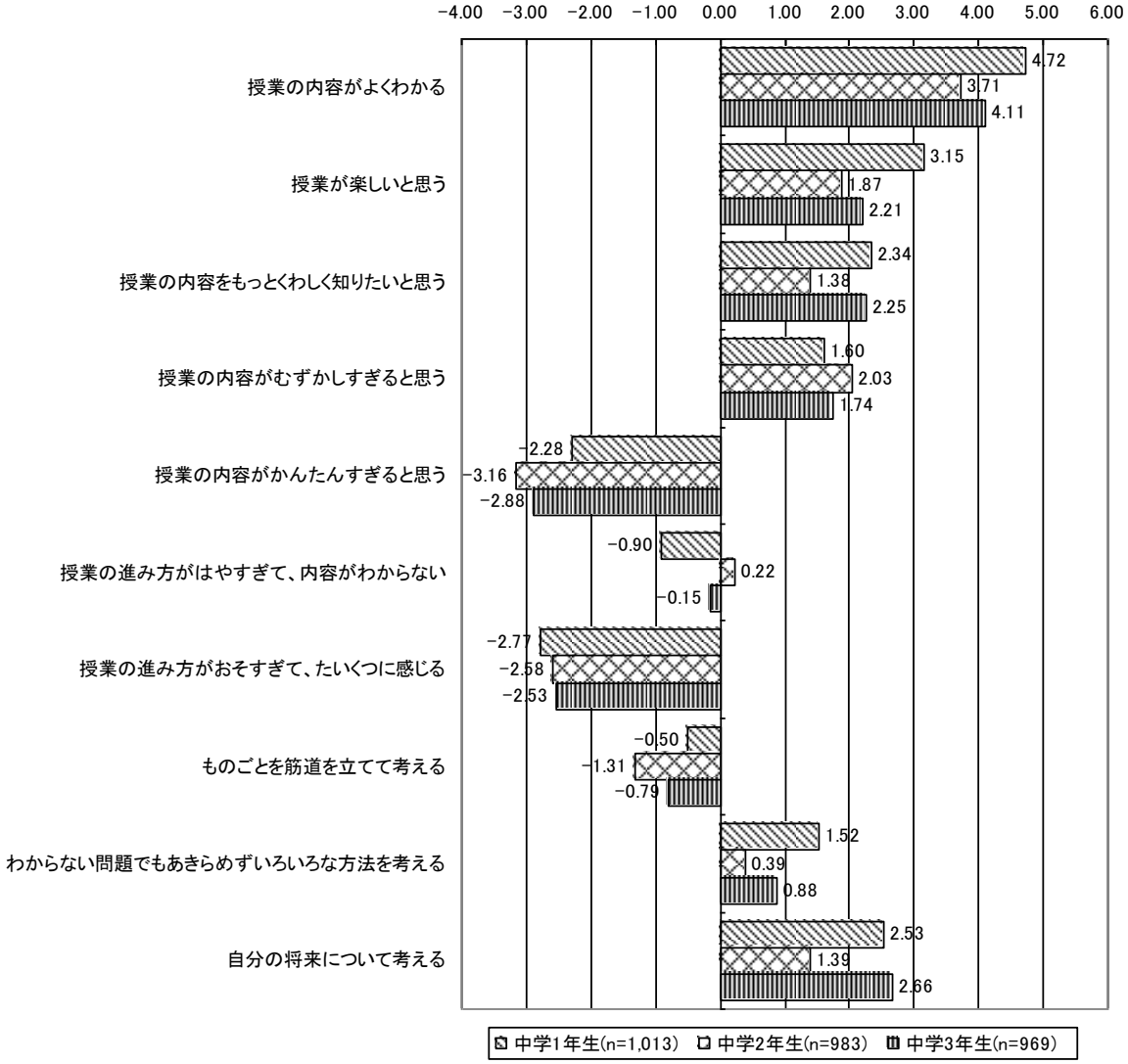
次に、中学生において「よく/ときどきある」を合わせた割合をみると、「授業の内容がよくわかる」が 79.5%と最も高く、次いで「授業が楽しいと思う」66.6%、「自分の将来について考える」61.6%と続いている。また、授業の内容についてみると、「むずかしすぎる」と感じている生徒が多く、「かんたんすぎる」と回答した生徒と 30.6 ポイントの開きがみられた。授業の進み方においても同様に、「おそすぎて、たいくつに感じる」よりも「はやすぎて、内容がわからない」と回答した生徒が 15.5 ポイント多い。

図表 2-68 授業中に思ったり考えたりすること【中学生】



指標化して学年別に比較すると、学年による大きな変化はみられないが、中学 2 年生が他学年と比べて若干点数が低い。

図表 2-69 授業中に思ったり考えたりすること【中学生/学年別】



※指標化については、2 ページ参照

指標について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、「授業が楽しい」と感じる児童生徒が増加しており、小学 5・6 年生、および中学生では前回調査より 2 点以上の上昇となっている。また、中学生においては全学年のほとんどの項目で上昇がみられた。

図表 2-70 授業中に思ったり考えたりすること【平成 21 年度調査との比較】

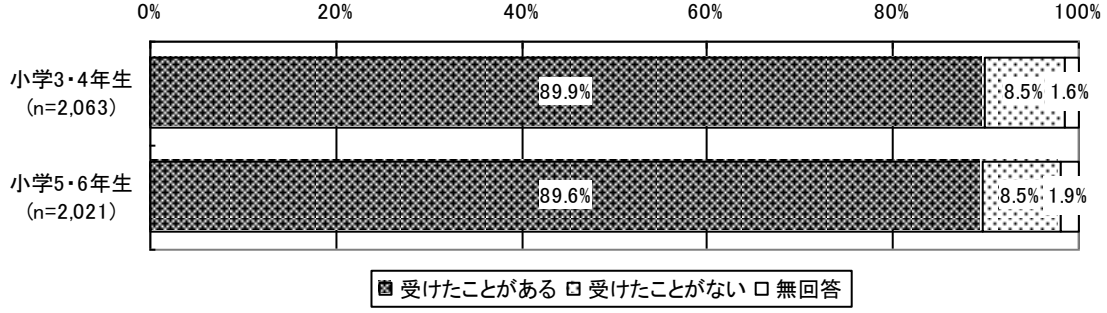
2.00点以上の増減に網掛け	小学3年生		小学4年生		小学5年生		小学6年生	
	平成26 (n=1,042)	平成21 (n=964)	平成26 (n=1,021)	平成21 (n=968)	平成26 (n=1,014)	平成21 (n=955)	平成26 (n=1,007)	平成21 (n=926)
授業の内容がよくわかる	6.40	−	6.62	−	6.09	−	6.25	−
授業が楽しいと思う	5.53	4.36	4.98	3.24	4.54	1.99	3.55	1.50
授業の内容をもっとくわしく知りたいと思う	3.75	3.82	3.44	2.38	3.01	1.14	2.35	−0.24
授業の内容がむずかしすぎると思う	−0.95	−0.53	−0.68	−0.54	0.00	−1.34	−0.74	−1.80
授業の内容がかんたんすぎると思う	0.14	1.03	0.24	0.12	−0.24	−0.04	−0.40	−1.74
授業の進み方がはやすぎて、内容がわからない	−2.42	−1.81	−2.41	−2.87	−2.90	−3.18	−3.23	−3.60
授業の進み方がおそすぎて、たいくつに感じる	−2.90	−1.28	−2.32	−1.97	−1.62	−1.06	−2.18	−2.49
ものごとを筋道を立てて考える	2.28	3.37	1.89	2.54	0.54	−0.15	0.69	−0.79
わからない問題でもあきらめずいろいろな方法を考える	5.20	5.20	4.58	4.10	3.44	2.93	2.95	1.31
自分の将来について考える	3.77	3.78	3.88	3.36	2.57	2.20	2.99	1.20

2.00点以上の増減に網掛け	中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	平成26 (n=1,013)	平成21 (n=979)	平成26 (n=983)	平成21 (n=937)	平成26 (n=969)	平成21 (n=893)
授業の内容がよくわかる	4.72	−	3.71	−	4.11	−
授業が楽しいと思う	3.15	−0.44	1.87	−0.15	2.21	0.00
授業の内容をもっとくわしく知りたいと思う	2.34	−0.16	1.38	−0.06	2.25	0.49
授業の内容がむずかしすぎると思う	1.60	1.04	2.03	1.07	1.74	0.99
授業の内容がかんたんすぎると思う	−2.28	−4.34	−3.16	−4.01	−2.88	−3.58
授業の進み方がはやすぎて、内容がわからない	−0.90	−1.00	0.22	−0.52	−0.15	−0.92
授業の進み方がおそすぎて、たいくつに感じる	−2.77	−3.26	−2.58	−3.39	−2.53	−2.56
ものごとを筋道を立てて考える	−0.50	−3.19	−1.31	−3.34	−0.79	−2.69
わからない問題でもあきらめずいろいろな方法を考える	1.52	−0.44	0.39	−1.52	0.88	−0.69
自分の将来について考える	2.53	0.67	1.39	−0.05	2.66	1.52

２０）タブレットを使った授業

小学３・４年生、小学５・６年生に、タブレットを使った授業を受けたことがあるかどうかを聞いたところ、いずれも「受けたことがある」と回答した児童が約９割に達している。

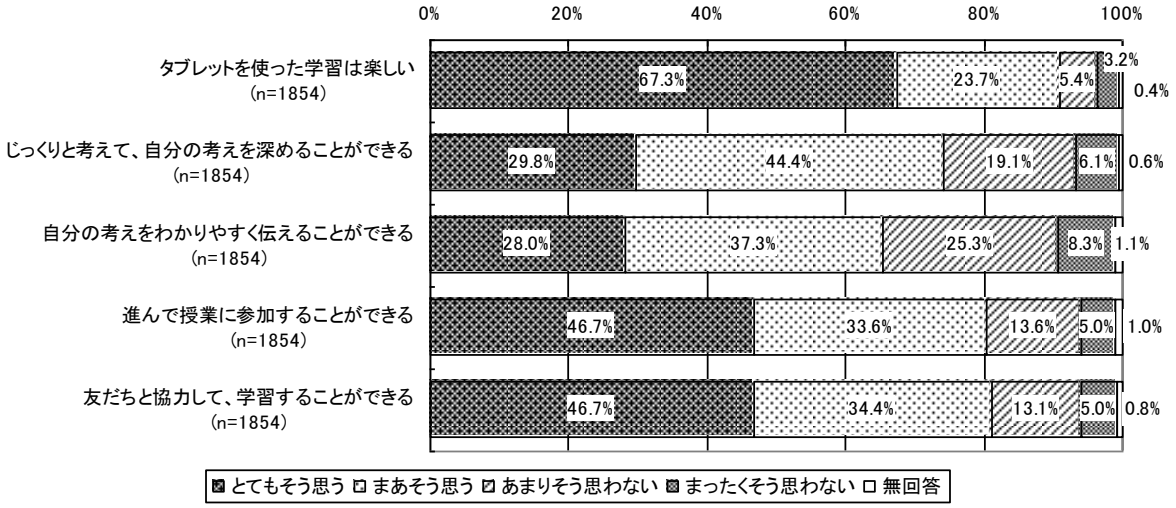
図表 ２-７１　タブレットを使った授業



２１）タブレットを使った授業を受けて思うこと

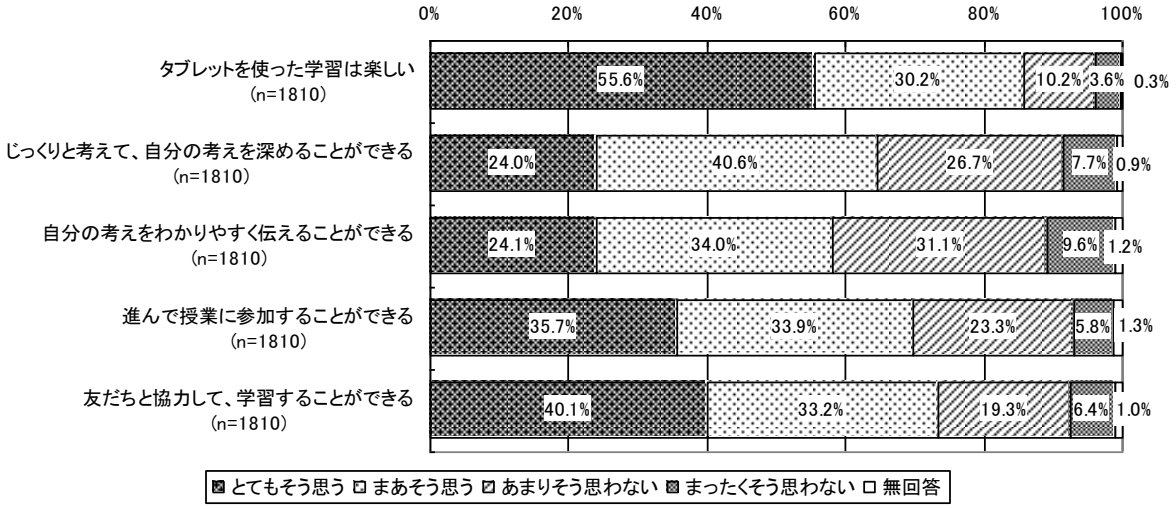
タブレットを使った授業を受けたことがある児童に、タブレットを使った授業を受けて思うことを聞くと、小学３・４年生では「タブレットを使った学習は楽しい」で「とてもそう思う」が 67.3%と最も高く、次いで「進んで授業に参加することができる」「友だちと協力して、学習することができる」がともに 46.7%となっている。

図表 ２-７２　タブレットを使った授業を受けて思うこと【小学３・４年生】



小学 5・6 年生においても、「タブレットを使った学習は楽しい」で「とてもそう思う」が 55.6%と最も高く、次いで「友だちと協力して、学習することができる」40.1%、「進んで授業に参加することができる」35.7%と続いている。

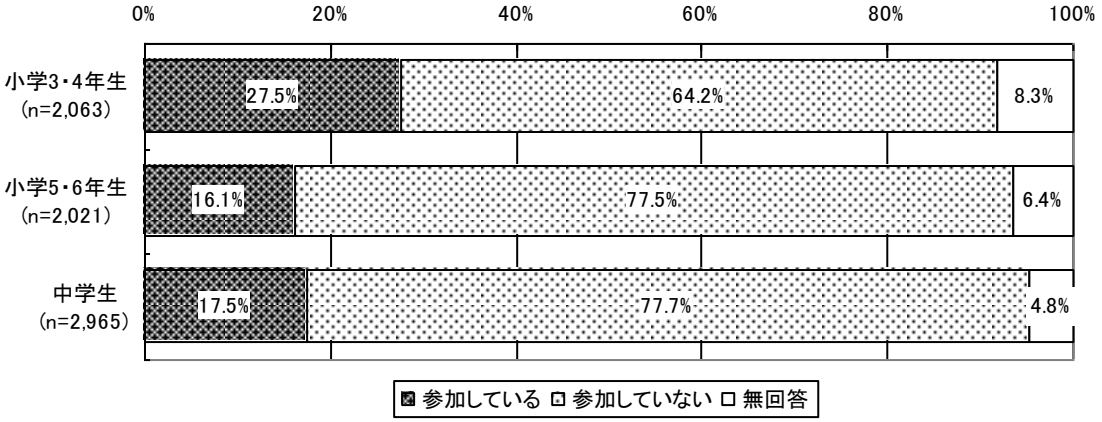
図表 2-73 タブレットを使った授業を受けて思うこと【小学 5・6 年生】



２２）マイスタディへの参加

マイスタディへの参加について聞くと、小学 3・4 年生の「参加している」が最も高い 27.5%、次いで中学生 17.5%、小学 5・6 年生 16.1%となっている。

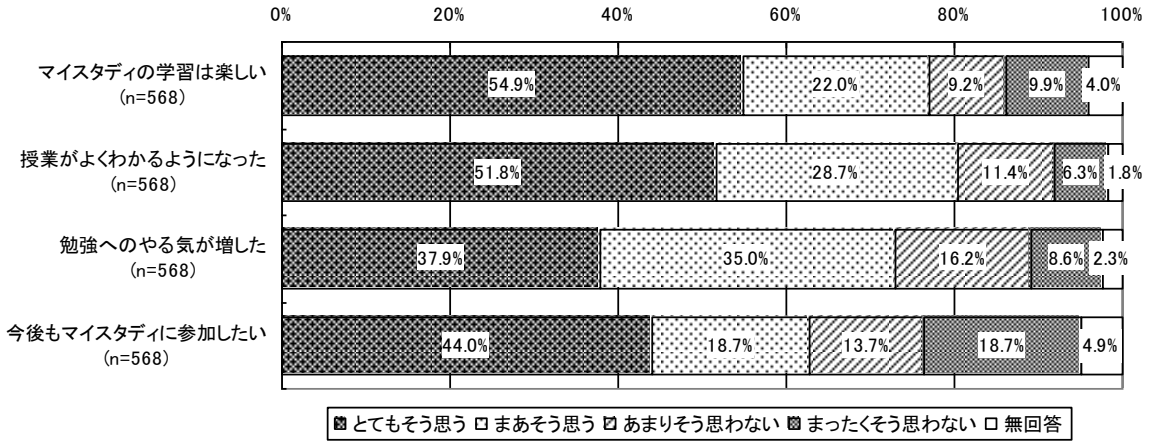
図表 2-74 マイスタディへの参加



２３）マイスタディに参加して思うこと

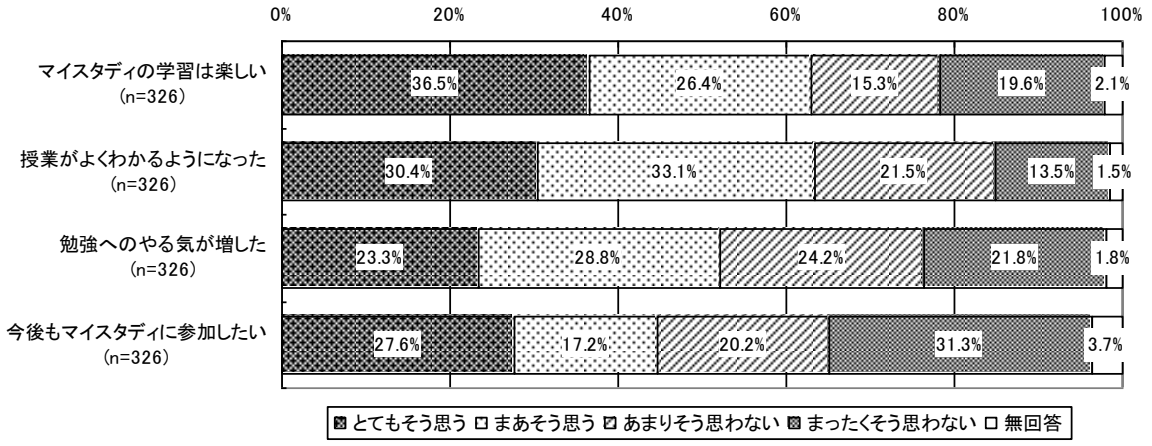
マイスタディに参加した児童生徒に、マイスタディに参加して思うことを聞いたところ、「とてもそう思う」「まあそう思う」を合わせた割合でみると、小学 3・4 年生では「授業がよくわかるようになった」が 80.5%で最も高く、次いで「マイスタディの学習は楽しい」が 76.9%と続いている。また、「今後もマイスタディに参加したい」意向は 62.7%となっている。

図表 2-75 マイスタディに参加して思うこと【小学 3・4 年生】



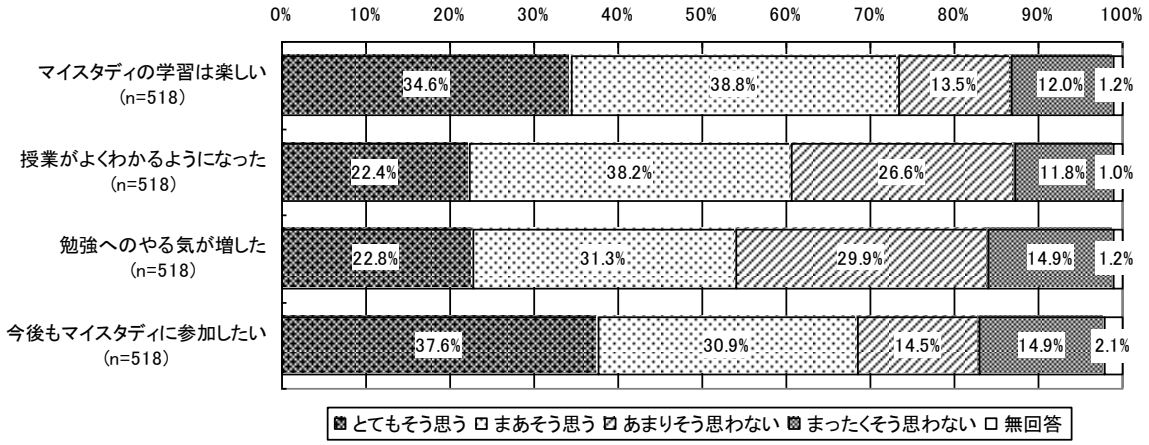
小学 5・6 年生について、「とても/そう思う」を合わせた割合でみると、「授業がよくわかるようになった」が 63.5%と最も高い。また、「今後もマイスタディに参加したい」意向は 44.8%となっており、全体的に小学 3・4 年生よりも評価がやや低い傾向となっている。

図表 2-76 マイスタディに参加して思うこと【小学 5・6 年生】



中学生の「とても/そう思う」を合わせた割合では、「マイスタディの学習は楽しい」が73.4%で最も高く、次いで「今後もマイスタディに参加したい」が 68.5%と続き、参加意向は小学生より高い。

図表 2-77 マイスタディに参加して思うこと【中学生】

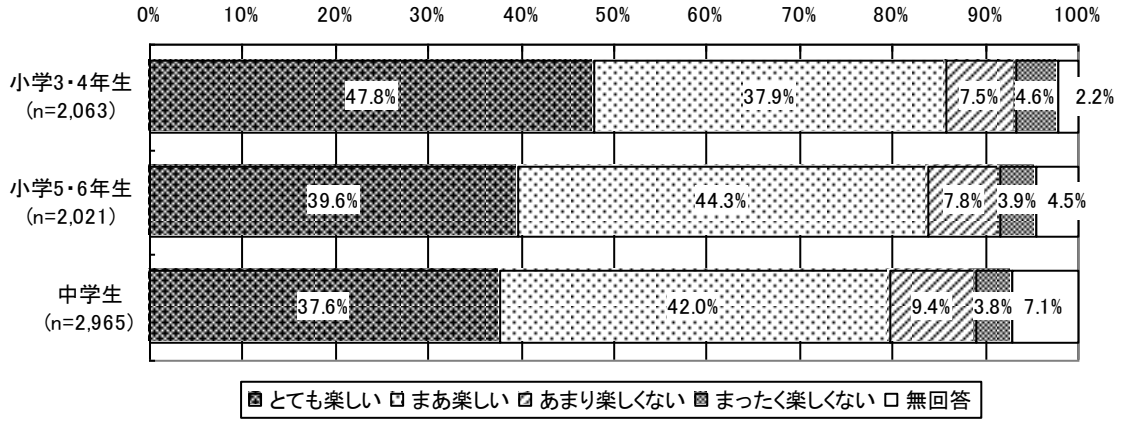


（４)学校や勉強についての意見

２４）学校に通うのが楽しいか

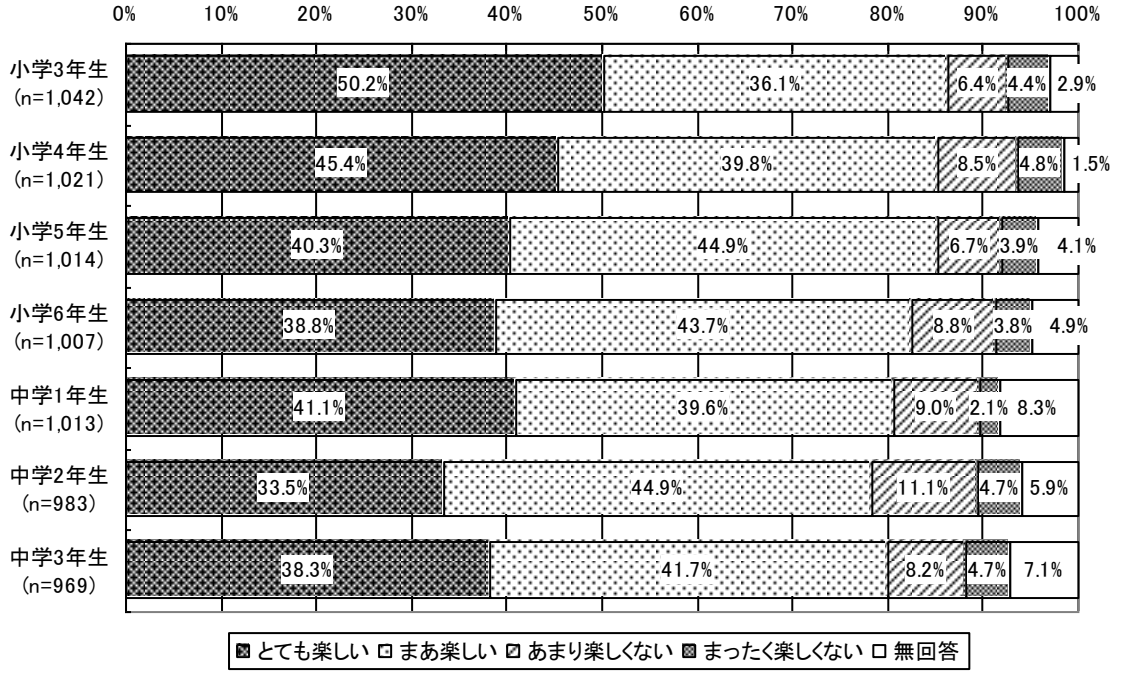
学校に通うのが楽しいかを聞いたところ、「とても楽しい」「まあ楽しい」を合わせた割合でみると、小学 3・4 年生が 85.7%と最も高く、次いで小学 5・6 年生 83.9%、中学生 79.6%となっている。

図表 ２-７８ 学校に通うのが楽しいか



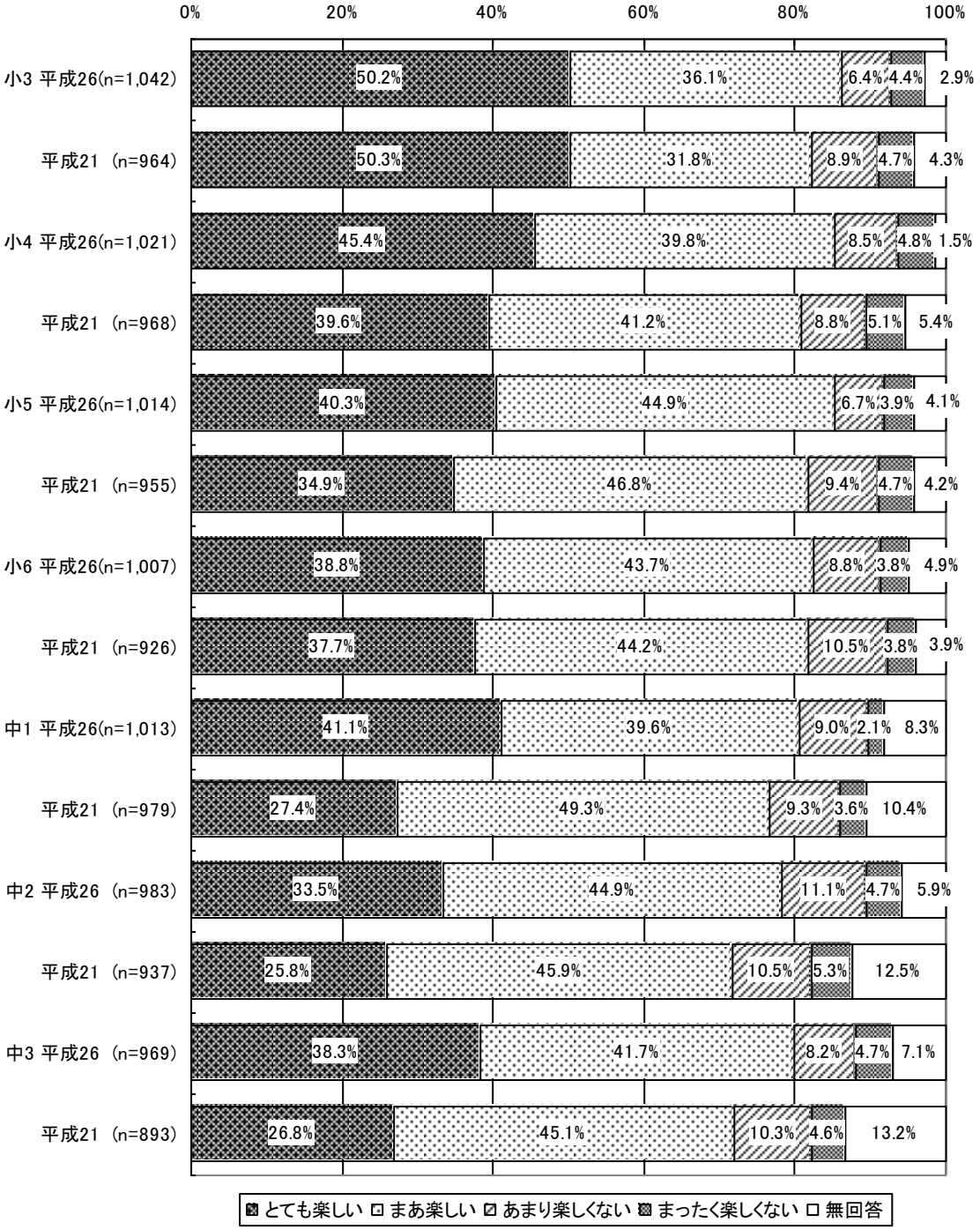
学年別でみると、全体的に学年が上がるにつれて「とても/まあ楽しい」を合わせた割合は低下する傾向にあり、最も低いのは中学 2 年生の 78.4%であった。

図表 ２-７９ 学校に通うのが楽しいか【学年別】



次に、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全学年で「とても楽しい」と「まあ楽しい」を合わせた割合が増えており、中学 3 年生では 8.1 ポイントの上昇がみられた。

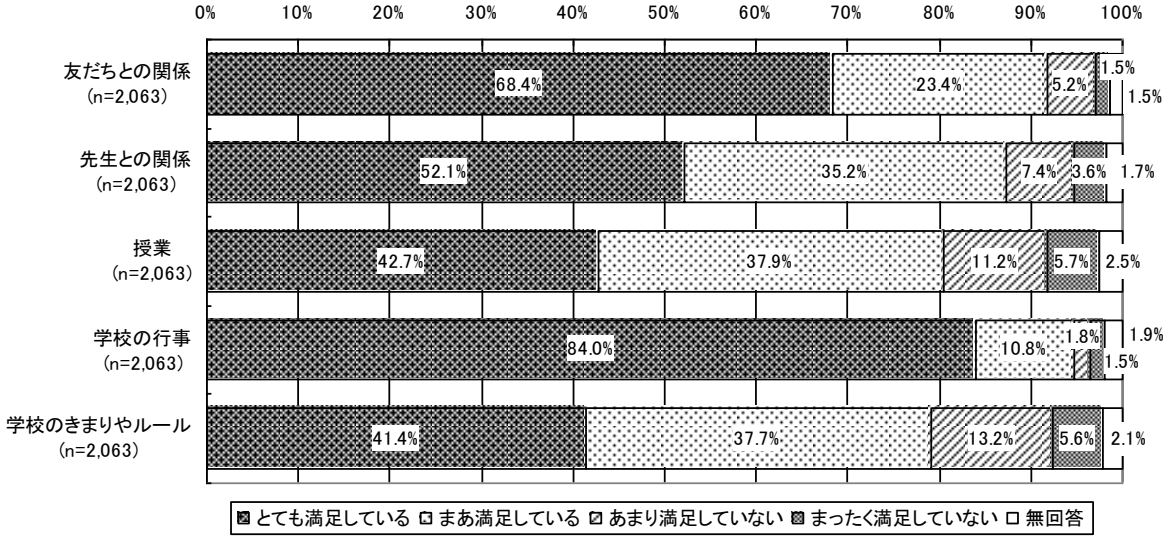
図表 2-８０　学校に通うのが楽しいか【平成 21 年度調査との比較】



２５）学校生活の満足度

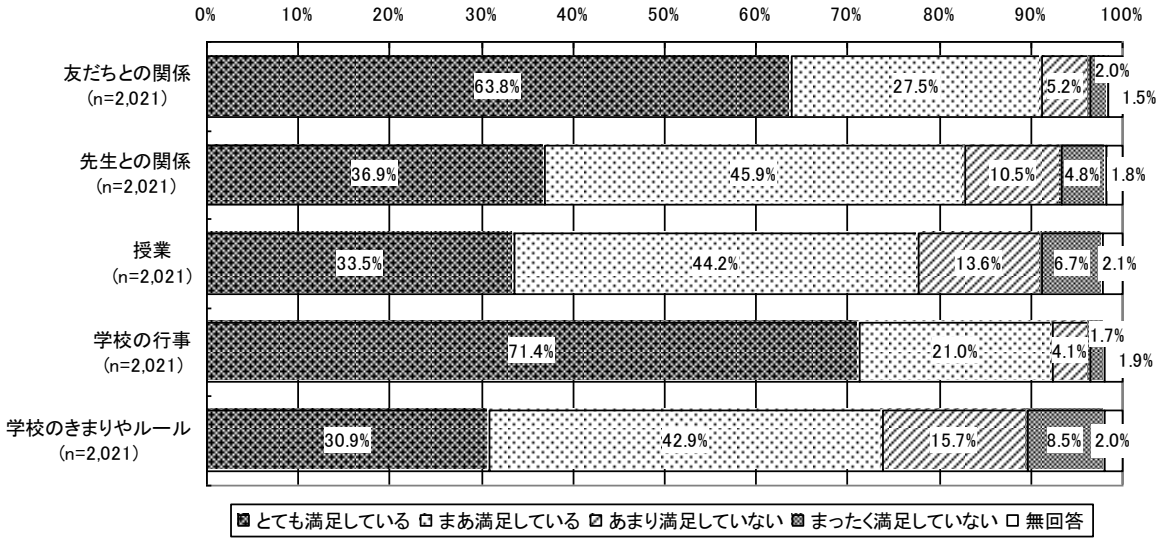
学校生活の満足度について聞いたところ、小学３・４年生をみると、「学校の行事」で「とても満足している」が 84.0%と最も高く、次いで「友だちとの関係」68.4%、「先生との関係」52.1%となっている。

図表 ２-８１　学校生活の満足度【小学３・４年生】



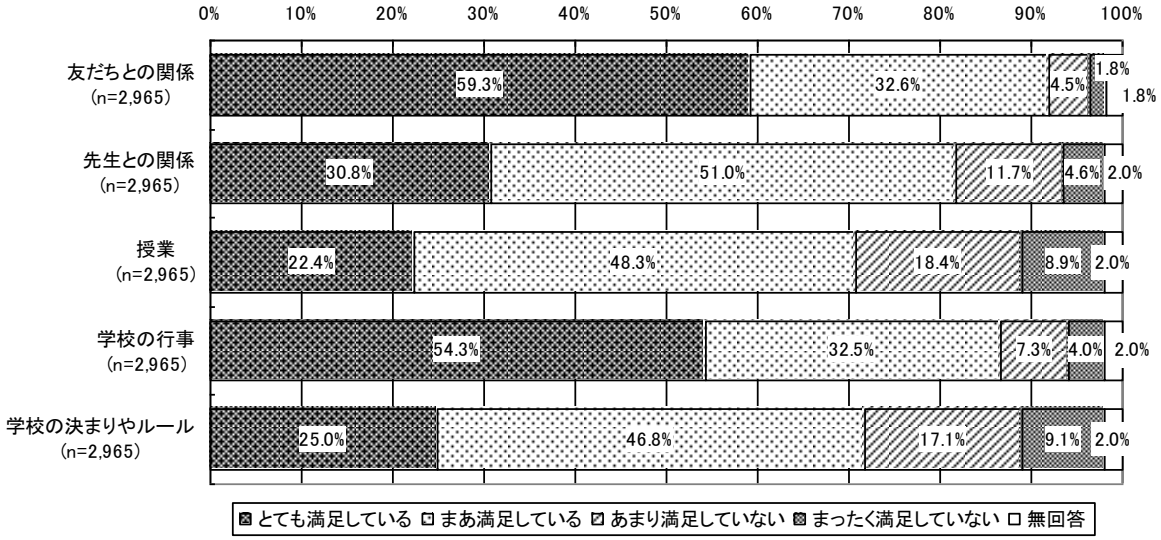
小学５・６年生でも同様に、「学校の行事」で「とても満足している」が 71.4%と最も高く、次いで「友だちとの関係」63.8%、「先生との関係」36.9%となっている。

図表 ２-８２　学校生活の満足度【小学５・６年生】



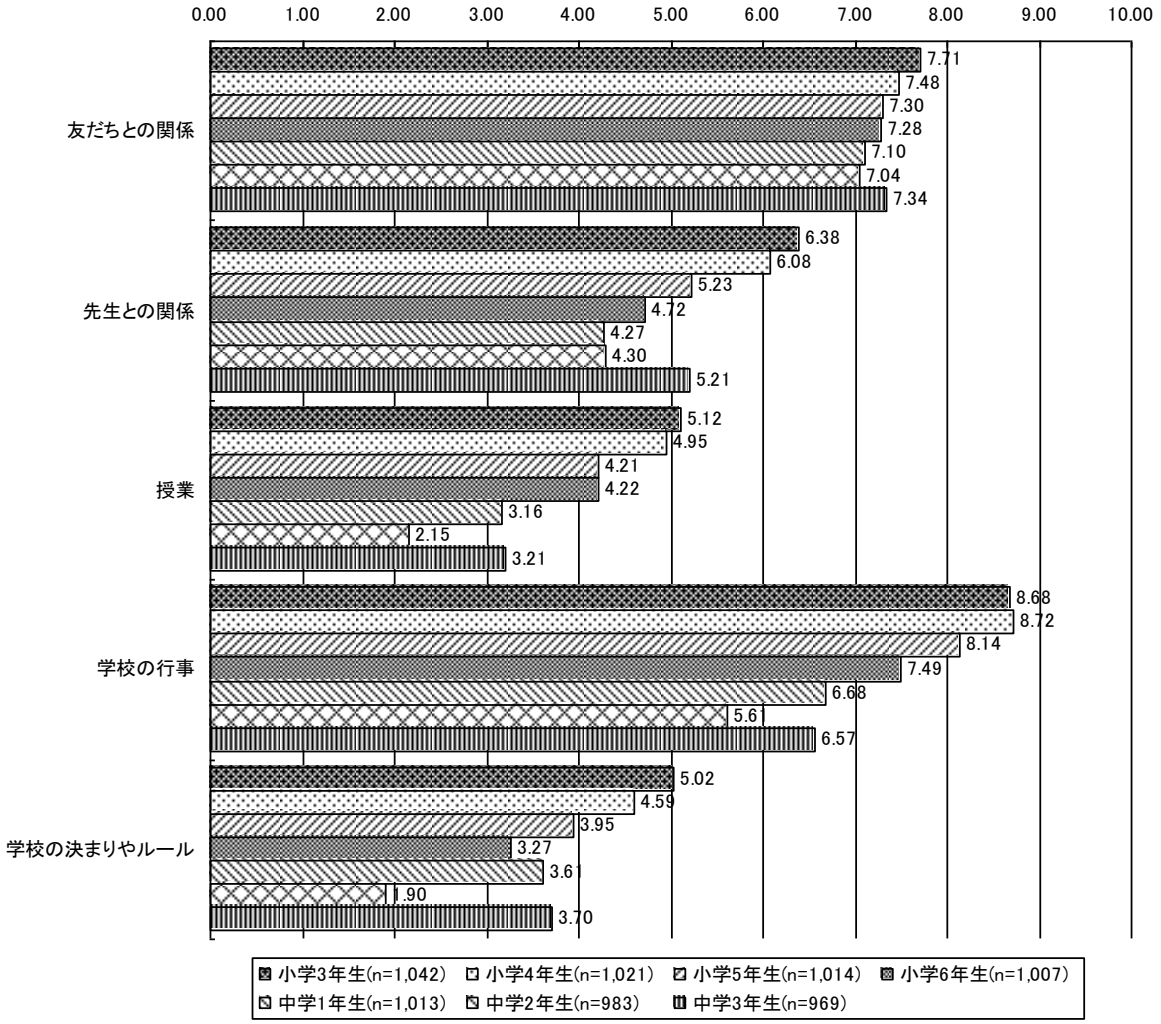
中学生では、「友だちとの関係」で「とても満足している」と回答した生徒が 59.3%と最も高く、次いで「学校行事」54.3%、「先生との関係」30.8%となっている。

図表 2-83 学校生活の満足度【中学生】



次に、満足度を指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて満足度は低下する傾向にあるが、「友だちとの関係」については全学年で 7 点台と高い。

図表 2-84 学校生活の満足度【学年別】



※指標化については、2 ページ参照

満足度の指標について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学生で満足度の上昇が多くみられ、特に「学校の決まりやルール」において全学年で 2～3 点の大幅な上昇となっている。また、「先生との関係」「授業」についても、各学年で上昇傾向となっている。

図表 2-85 学校生活の満足度【平成 21 年度調査との比較】

1.50点以上の増減に網掛け	小学3年生		小学4年生		小学5年生		小学6年生	
	平成26 (n=1,042)	平成21 (n=964)	平成26 (n=1,021)	平成21 (n=968)	平成26 (n=1,014)	平成21 (n=955)	平成26 (n=1,007)	平成21 (n=926)
友だちとの関係	7.71	7.72	7.48	7.42	7.30	7.30	7.28	7.32
先生との関係	6.38	6.30	6.08	4.99	5.23	3.50	4.72	3.77
授業	5.12	5.16	4.95	3.68	4.21	2.30	4.22	2.65
学校の行事	8.68	8.90	8.72	8.51	8.14	7.46	7.49	6.50
学校のきまりやルール	5.02	4.82	4.59	3.87	3.95	2.07	3.27	1.52

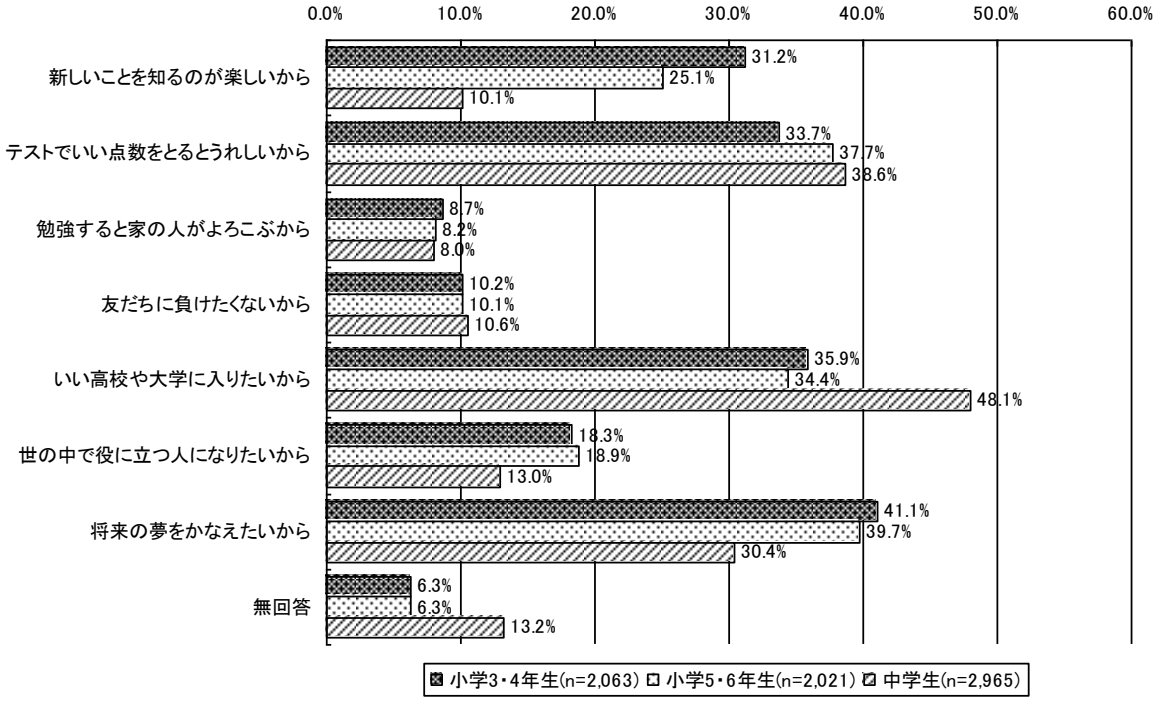
1.50点以上の増減に網掛け	中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	平成26 (n=1,013)	平成21 (n=979)	平成26 (n=983)	平成21 (n=937)	平成26 (n=969)	平成21 (n=893)
友だちとの関係	7.10	6.76	7.04	6.57	7.34	6.46
先生との関係	4.27	2.37	4.30	2.65	5.21	3.65
授業	3.16	1.18	2.15	1.23	3.21	2.16
学校の行事	6.68	4.64	5.61	3.75	6.57	4.83
学校の決まりやルール	3.61	0.50	1.90	−0.12	3.70	1.20

※指標化については、2 ページ参照

２６）勉強する理由

勉強する理由について聞いたところ、小学生では「将来の夢をかなえたいから」「いい高校や大学に入りたいから」「テストでいい点数をとるとうれしいから」が高い割合となっている。また、中学生では「いい高校や大学に入りたいから」が 48.1%で突出して高く、回答した生徒の約半数を占める。一方、「新しいことを知るのが楽しいから」「将来の夢をかなえたいから」の割合については、小学生と比べて低くなっている。

図表 2-８６　勉強する理由

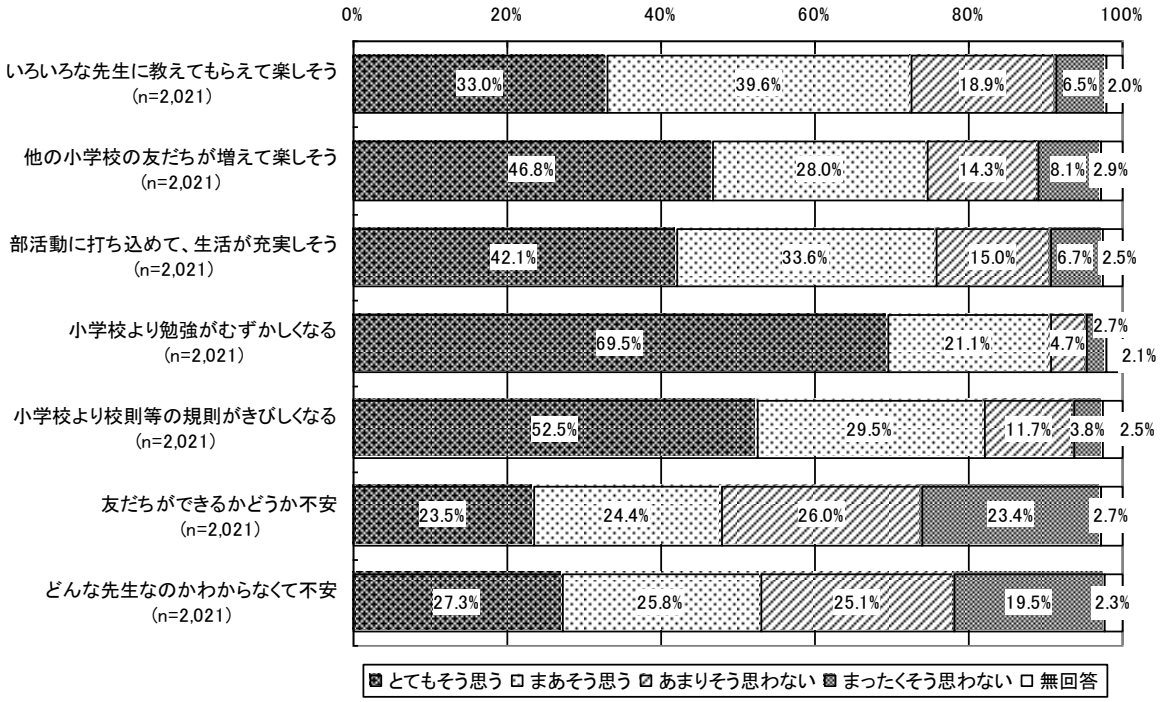


２７）中学校の生活への期待・不安、中学校で感じること

①中学校生活への期待・不安

小学 5・6 年生に、中学校の生活に期待すること、不安に思うことを聞いたところ、「小学校より勉強がむずかしくなる」「小学校より校則等の規則がきびしくなる」で「とてもそう思う」がそれぞれ 69.5%、52.5%と高い。一方、「友だちができるかどうか不安」「どんな先生なのかわからなくて不安」については、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合わせた割合が約半数となっており、不安は低い傾向にある。

図表 ２-８７　中学校の生活への期待・不安



次に、指標化して平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、「いろいろな先生に教えてもらえて楽しそう」において、小学 5・6 年生ともに 2 点以上の大幅な上昇がみられた。

図表 2-８８　中学校の生活への期待・不安【平成 21 年度調査との比較】

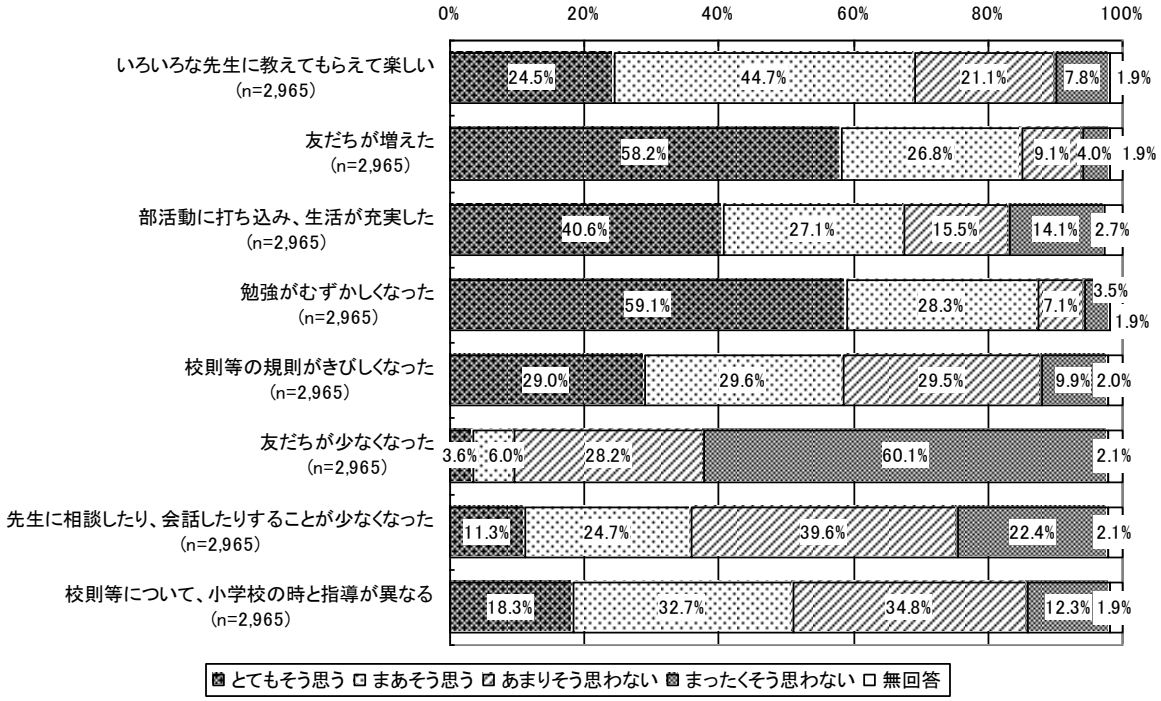
2.00点以上の増減に網掛け	小学5年生		小学6年生	
	平成26 (n=1,014)	平成21 (n=955)	平成26 (n=1,007)	平成21 (n=926)
いろいろな先生に教えてもらえて楽しそう	4.20	1.50	3.18	0.67
他の小学校の友だちが増えて楽しそう	4.70	3.46	4.40	3.10
部活動に打ち込めて、生活が充実しそう	4.69	3.24	4.25	2.76
小学校より勉強がむずかしくなる	7.54	6.08	7.47	6.26
小学校より校則等の規則がきびしくなる	6.07	4.72	5.48	4.18
友だちができるかどうか不安	−0.15	0.27	0.02	−0.15
どんな先生なのかわからなくて不安	0.93	0.71	0.68	0.02

※指標化については、2 ページ参照

②小学校と比べて中学校で感じること

中学生に、小学校と比べて中学校で感じることを聞くと、「友だちが増えた」「勉強がむずかしくなった」で「とてもそう思う」が高い割合となっている。

図表 2-８９　小学校と比べて中学校で感じること



次に、指標化して平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全学年で「いろいろな先生に教えてもらえて楽しい」の点数が上昇している。また中学 1 年生の「部活動に打ち込み、生活が充実した」、中学 3 年生の「勉強がむずかしくなった」についても、それぞれ 1 点以上の上昇となっている。

図表 2-９０ 小学校と比べて中学校で感じること【平成 21 年度調査との比較】

1.00点以上の増減に網掛け	中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	平成26 (n=1,013)	平成21 (n=979)	平成26 (n=983)	平成21 (n=937)	平成26 (n=969)	平成21 (n=893)
いろいろな先生に教えてもらえて楽しい	3.67	0.34	1.96	0.69	2.86	1.17
友だちが増えた	6.64	6.27	5.74	5.61	6.54	5.95
部活動に打ち込み、生活が充実した	4.40	2.68	2.52	2.03	2.71	1.78
勉強がむずかしくなった	6.22	5.97	6.60	5.86	7.04	5.82
校則等の規則がきびしくなった	2.96	2.88	2.02	2.15	0.71	1.05
友だちが少なくなった	−6.94	−7.27	−6.69	−6.59	−6.66	−5.97
先生に相談したり、会話したりすることが少なくなった	−1.33	−1.55	−1.88	−2.29	−2.38	−2.73
校則等について、小学校の時と指導が異なる	1.13	−	0.29	−	0.04	−

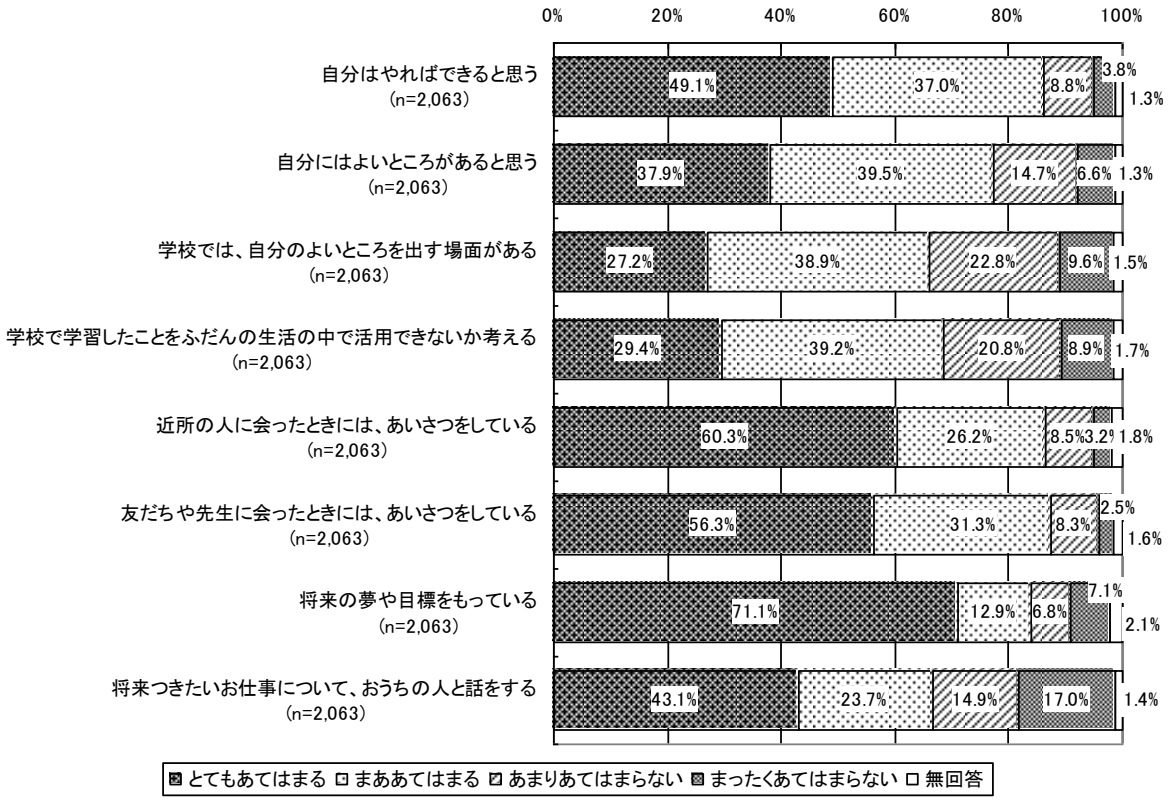
※指標化については、2 ページ参照

（５）生活の中で感じていることや将来のことについて

２８）自分にあてはまること

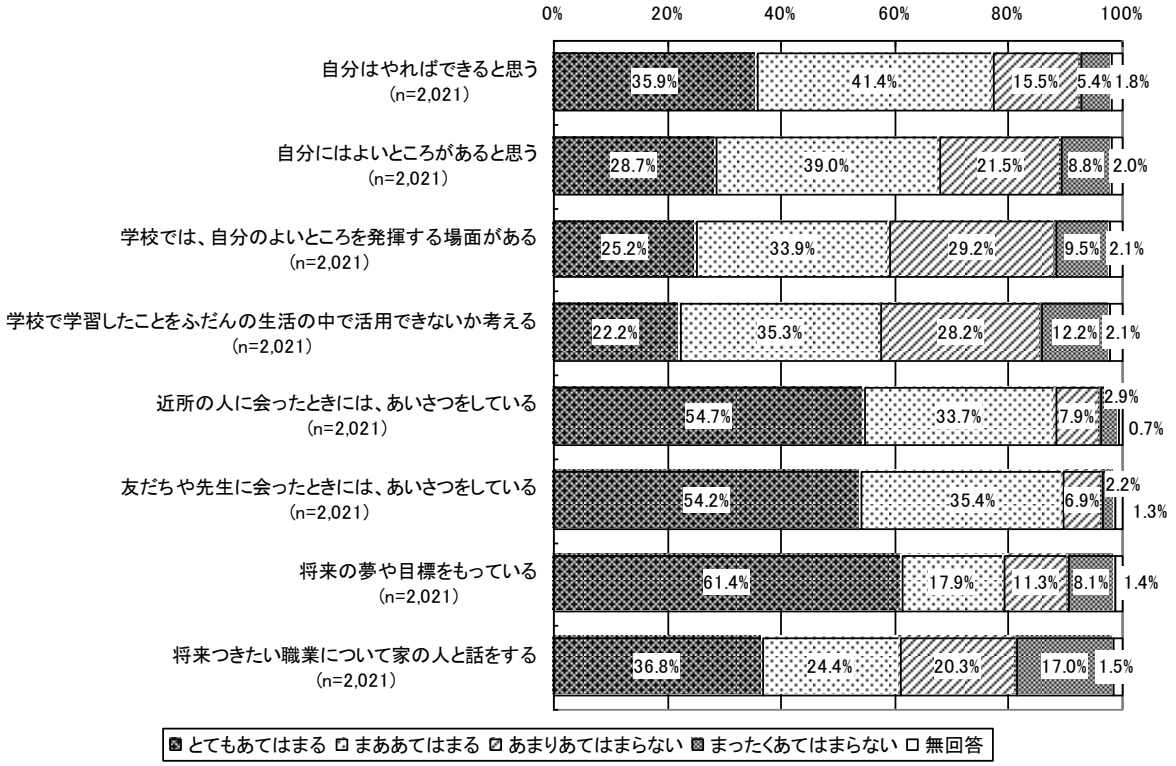
小学 3・4 年生に、自分にあてはまる項目について聞いたところ、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を合わせた割合では、「友だちや先生に会ったときには、あいさつをしている」が 87.6%で最も高く、次いで「近所の人に会ったときには、あいさつをしている」86.5%、「自分はやればできると思う」86.1%と続いている。

図表 2-９１　自分にあてはまること【小学３・４年生】



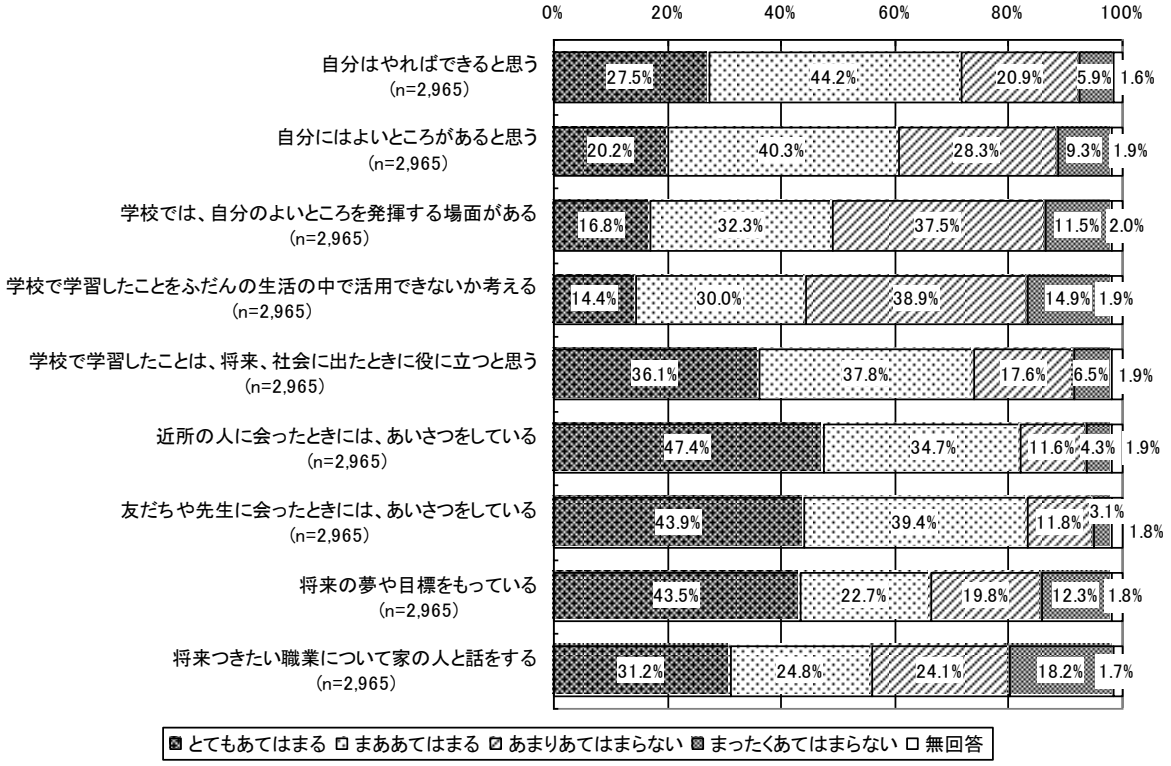
小学５・６年生でも同様に、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を合わせた割合をみると、「友だちや先生に会ったときには、あいさつをしている」「近所の人に会ったときには、あいさつをしている」と回答した割合が高く、それぞれ 89.6%、88.4%とあいさつについての回答が高い割合となっている。

図表 ２-９２　自分にあてはまること【小学５・６年生】



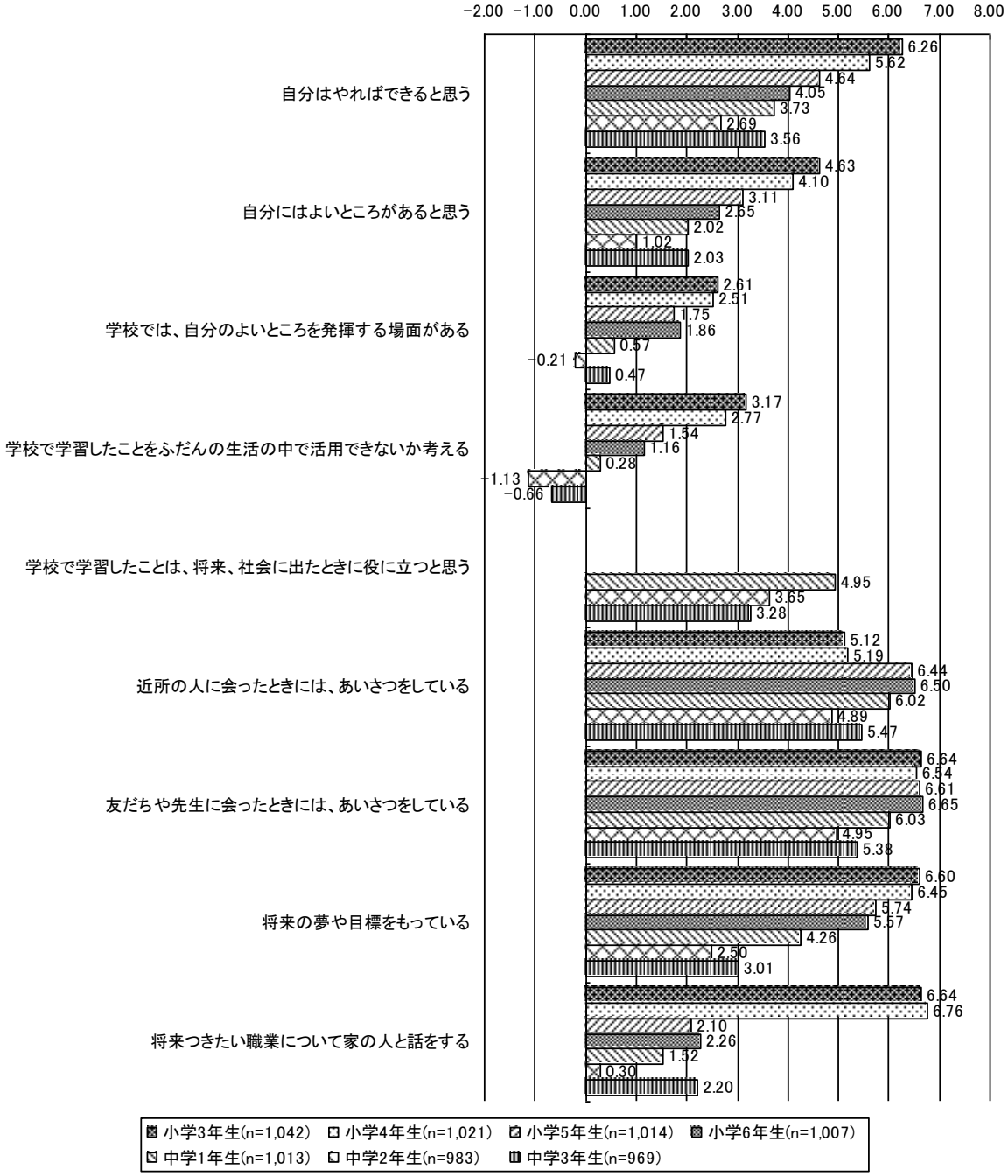
中学生においても、「とても/まああてはまる」を合わせた割合をみると、「友だちや先生に会ったときには、あいさつをしている」が 83.3%、「近所の人に会ったときには、あいさつをしている」が 82.1%と高い。一方、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を合わせた割合でみると、「学校で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える」が 53.8%と最も高くなっている。

図表 2-93 自分にあてはまること【中学生】



次に、指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて点数は低下傾向にあり、特に「将来つきたい職業について家の人と話をする」については、小学 3・4 年生で 6 点台と高い点数であるが、小学 5 年生以上の学年では大幅に低下している。また、中学 2 年生については、ほぼ全ての項目において最も低い点数となっており、低下の幅も大きい。なお、「あいさつ」については、全学年で 5～6 点前後と学年別の大きな変化はみられない。

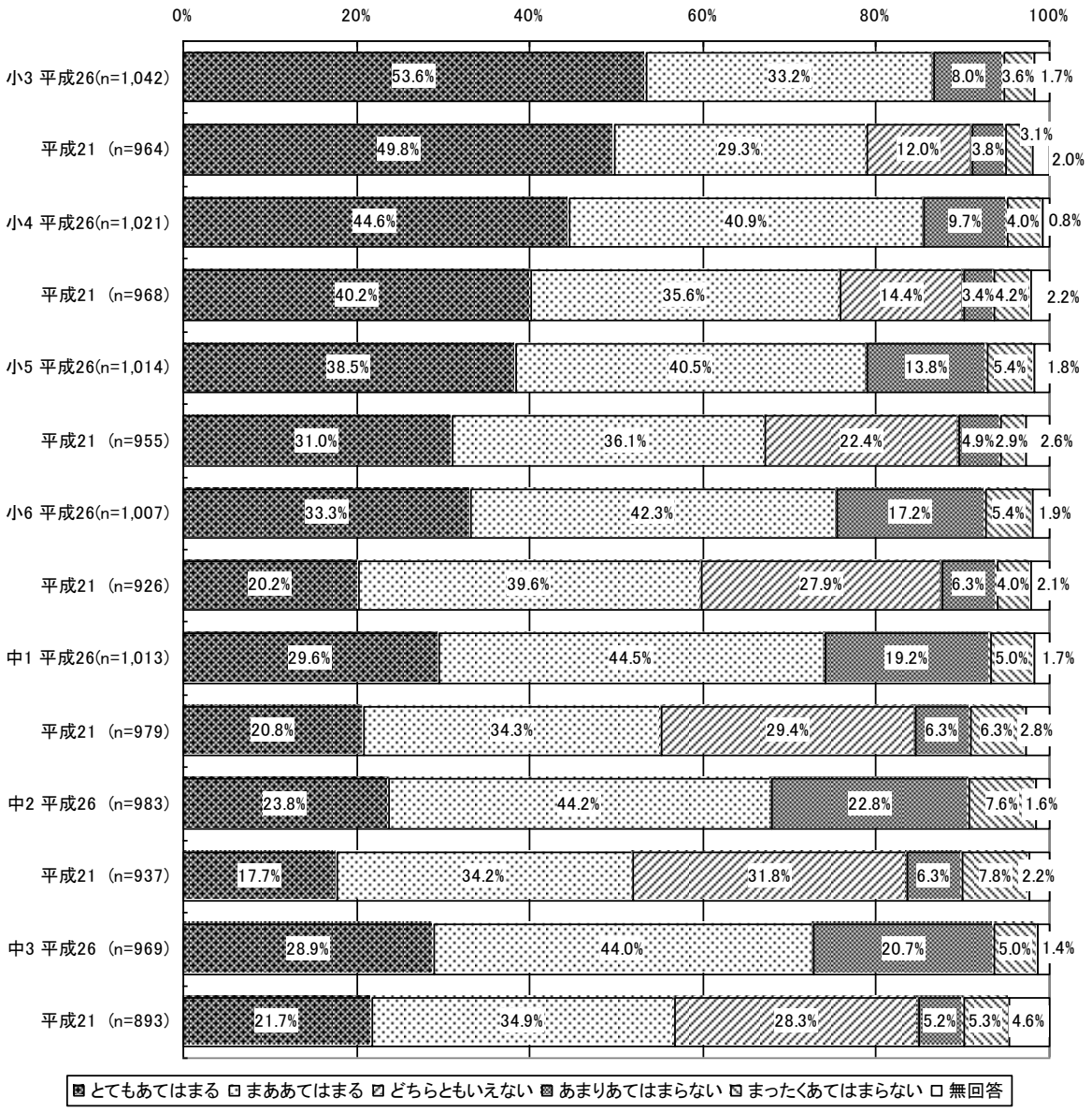
図表 2-94　自分にあてはまること【学年別】



※指標化については、2 ページ参照

「自分はやればできると思うか」について、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全学年で「とてもあてはまる」の割合が前回調査よりも上昇している。特に中学生については、中学 1 年生 8.8 ポイント、中学 2 年生 6.1 ポイント、中学 3 年生 7.2 ポイントの大幅な上昇がみられた。

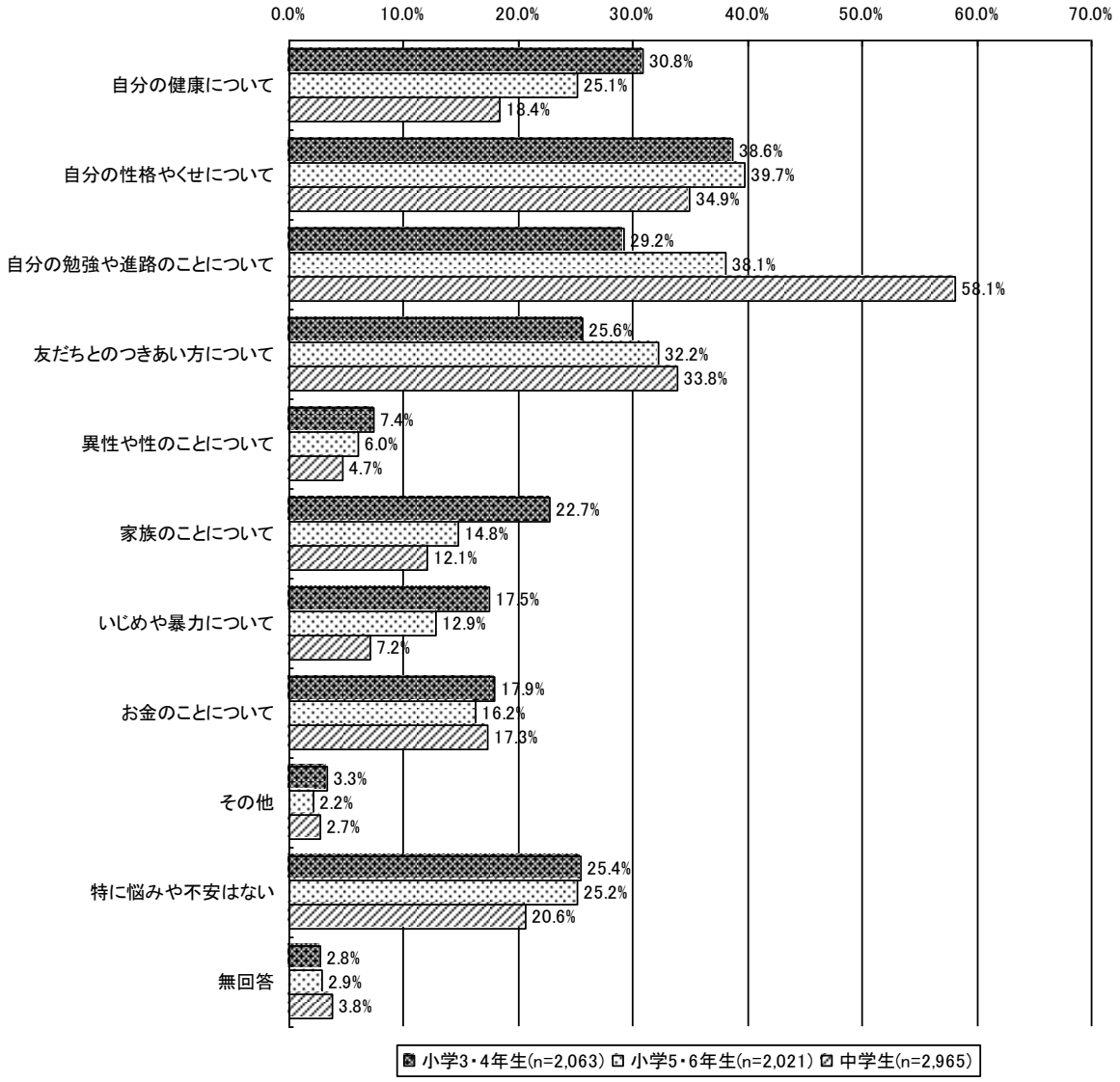
図表 2-95　自分はやればできると思うか【平成 21 年度調査との比較】



２９）悩んだり不安になったりしたこと

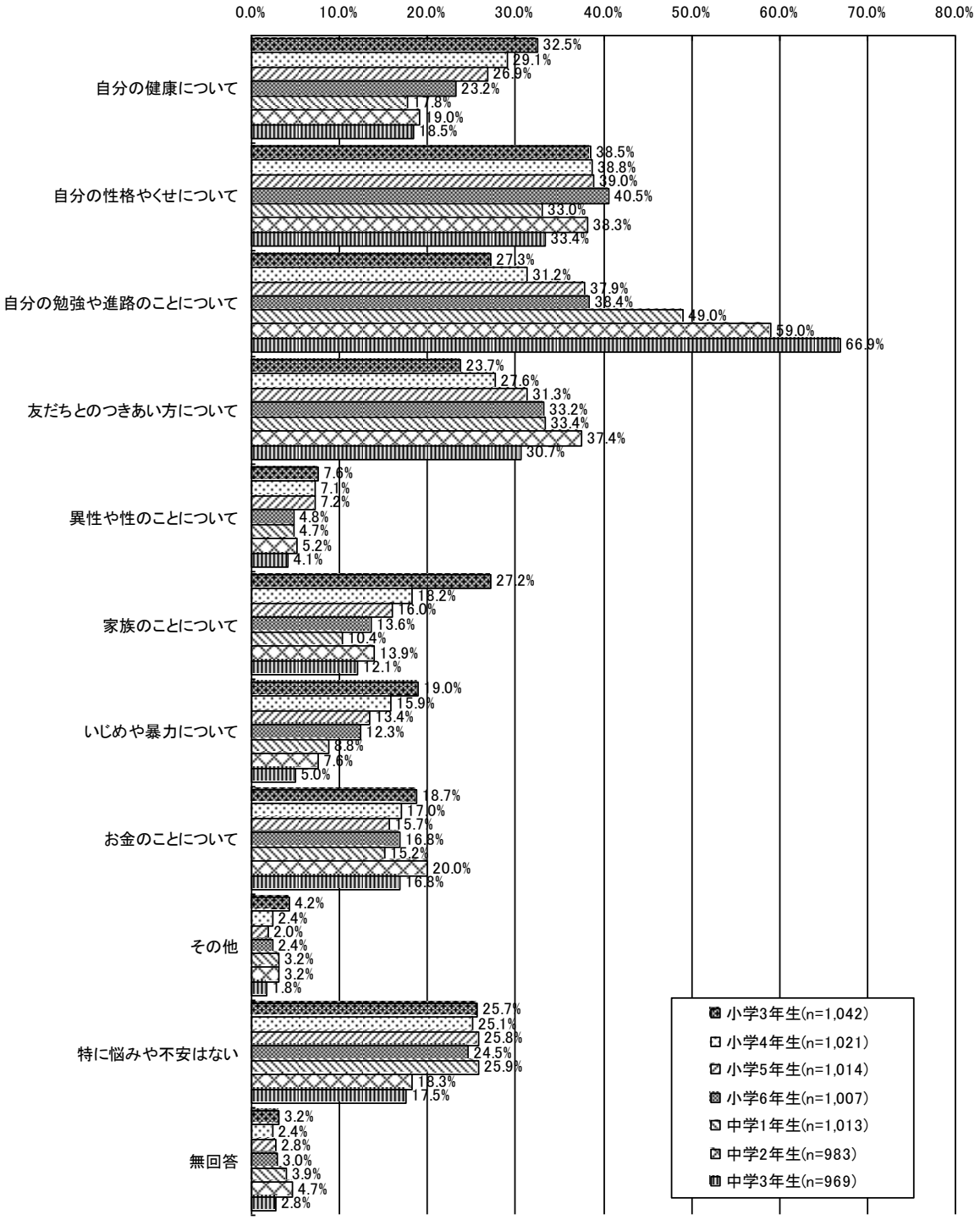
これまで悩んだり、不安になったりしたことについて聞いたところ、「自分の性格やくせについて」「自分の勉強や進路のことについて」「友だちとのつきあい方について」が高い割合となっている。特に中学生では、「自分の勉強や進路のことについて」が 58.1％と突出して高い。

図表 2-９６　悩んだり不安になったりしたこと



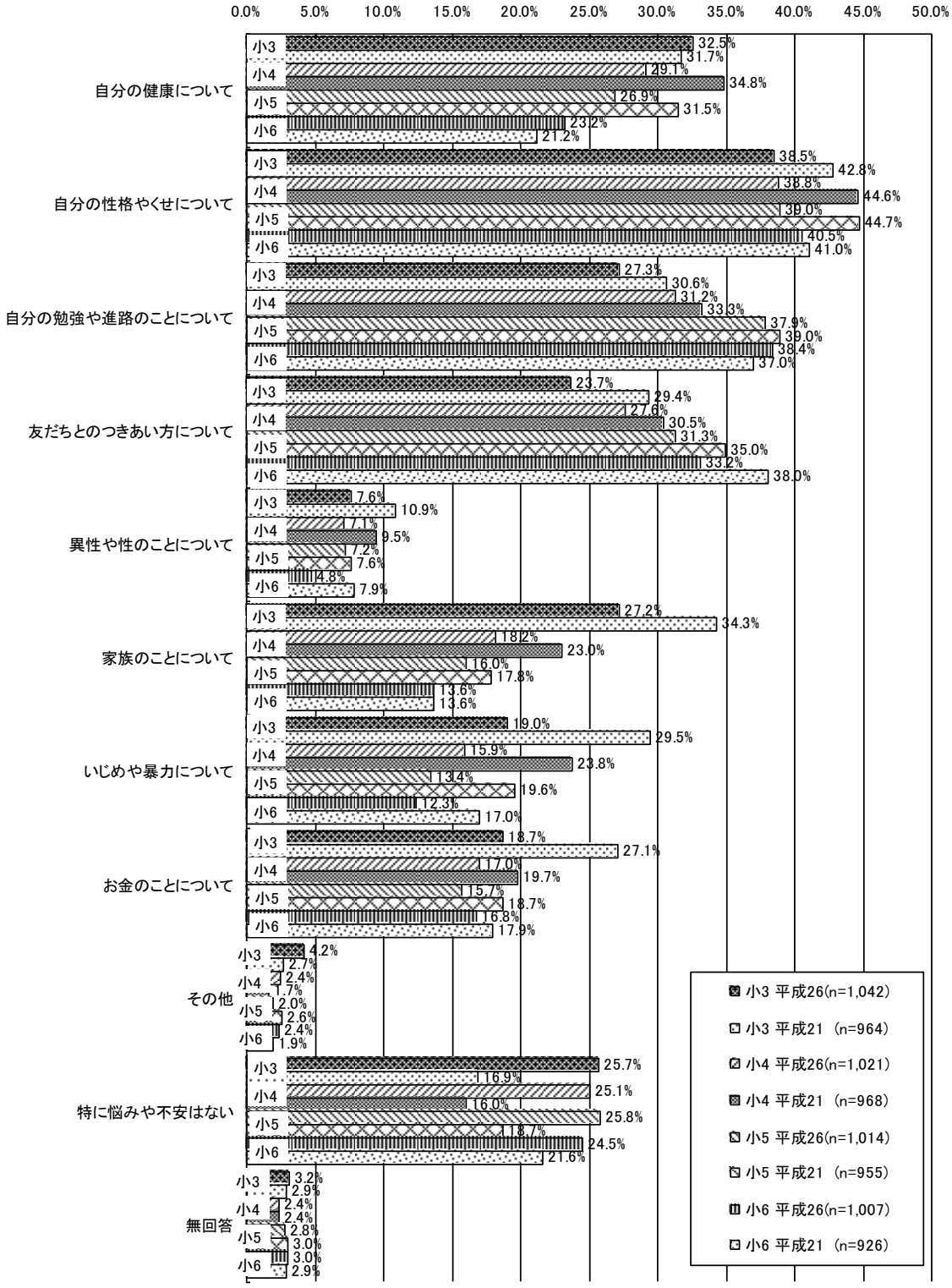
次に学年別でみると、「自分の勉強や進路のことについて」「友だちとのつきあい方について」は学年が上がるにつれて割合が高くなる傾向となっている。逆に、「自分の健康について」「家族のことについて」「いじめや暴力について」は、学年が上がるにつれて割合は低下している。

図表 2-97 悩んだり不安になったりしたこと【学年別】



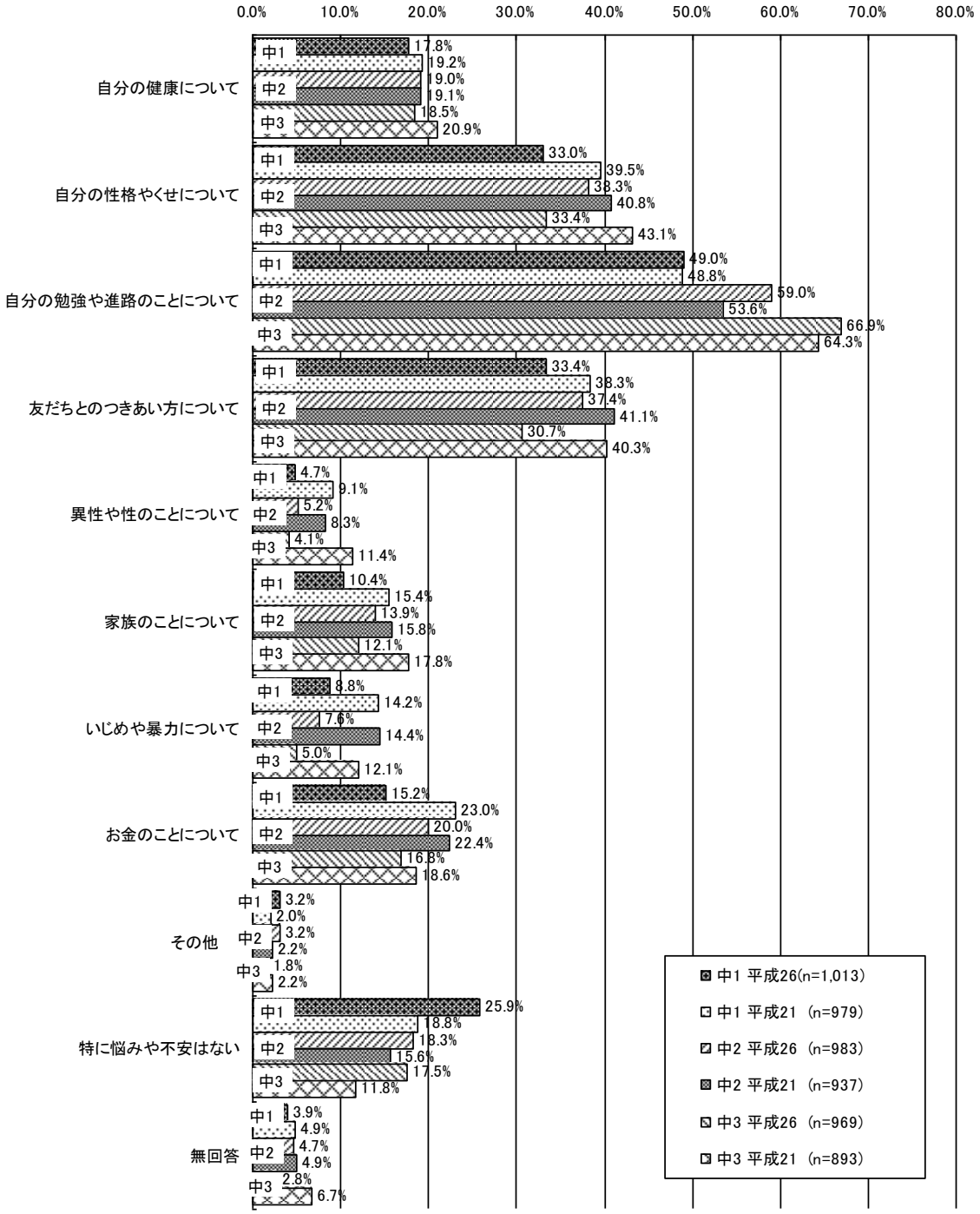
小学生について、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に悩みや不安の割合は前回調査より低下傾向にあり、「特に悩みや不安はない」と回答した割合が上昇している。

図表 2-９８　悩んだり不安になったりしたこと【小学生/平成 21 年度調査との比較】



中学生においても、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に悩みや不安を回答した割合は低下傾向にあるものの、「自分の勉強や進路のことについて」では全学年で上昇がみられた。

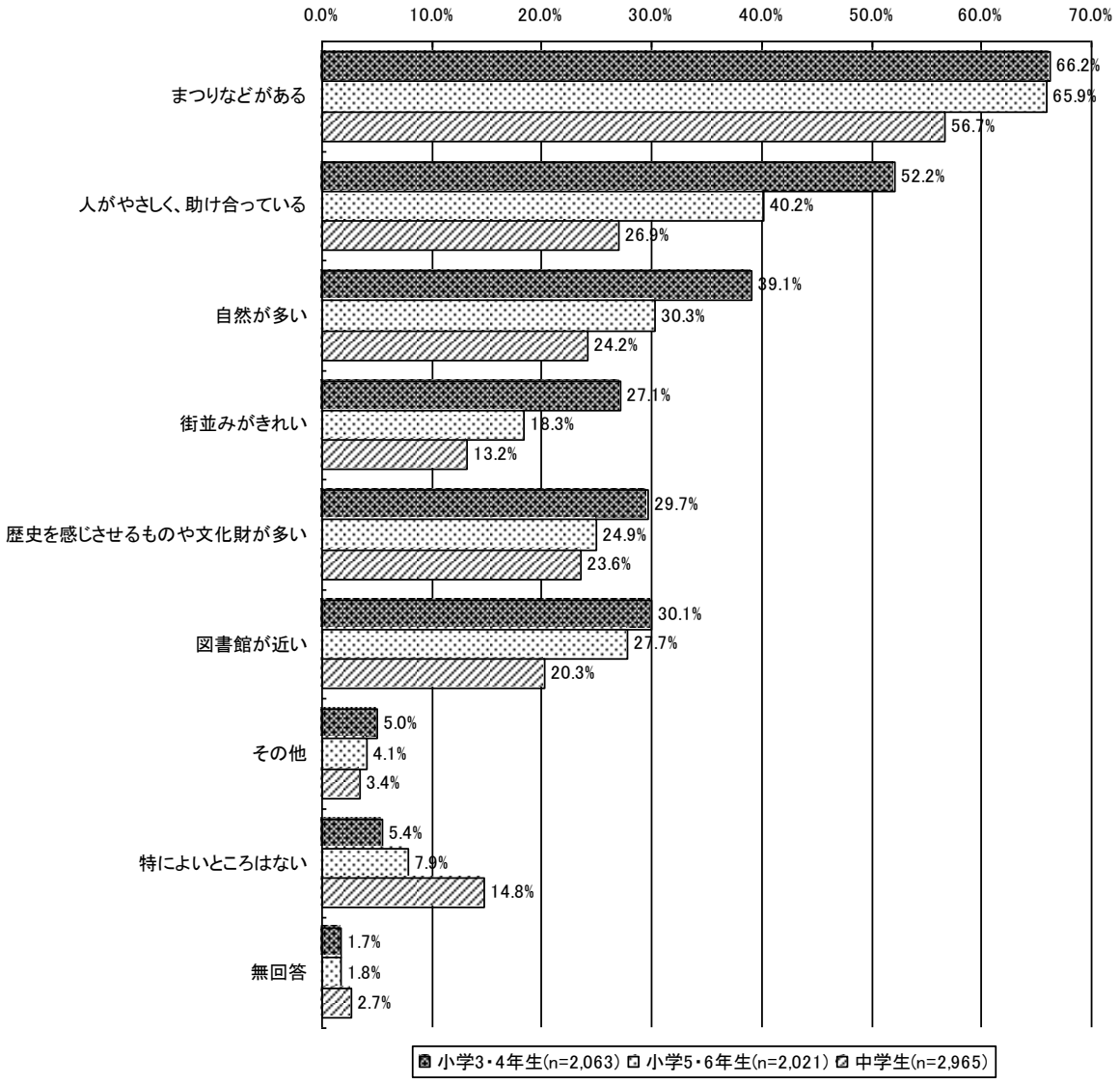
図表 2-９９　悩んだり不安になったりしたこと【中学生/平成 21 年度調査との比較】



３０）今住んでいる町や堺市のよいところ

今住んでいる町や堺市のよいところを聞くと、「まつりなどがある」が他の項目と比べて高く、次いで「人がやさしく、助け合っている」「自然が多い」と続いている。また、全体的に学年が上がるにつれて「よい」とする割合が低下する傾向となっている。

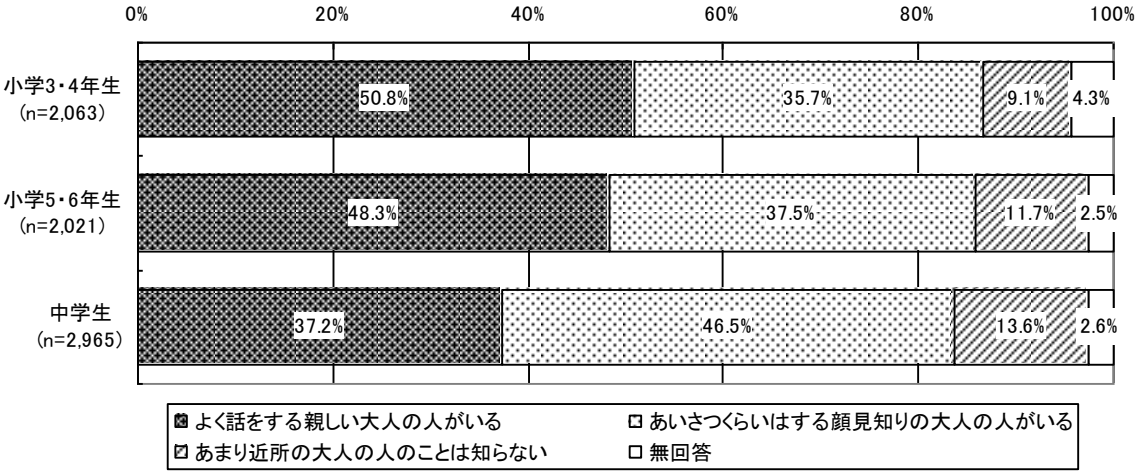
図表 2-１００　今住んでいる町や堺市のよいところ



３１）近所の大人で顔見知りの人がいるか

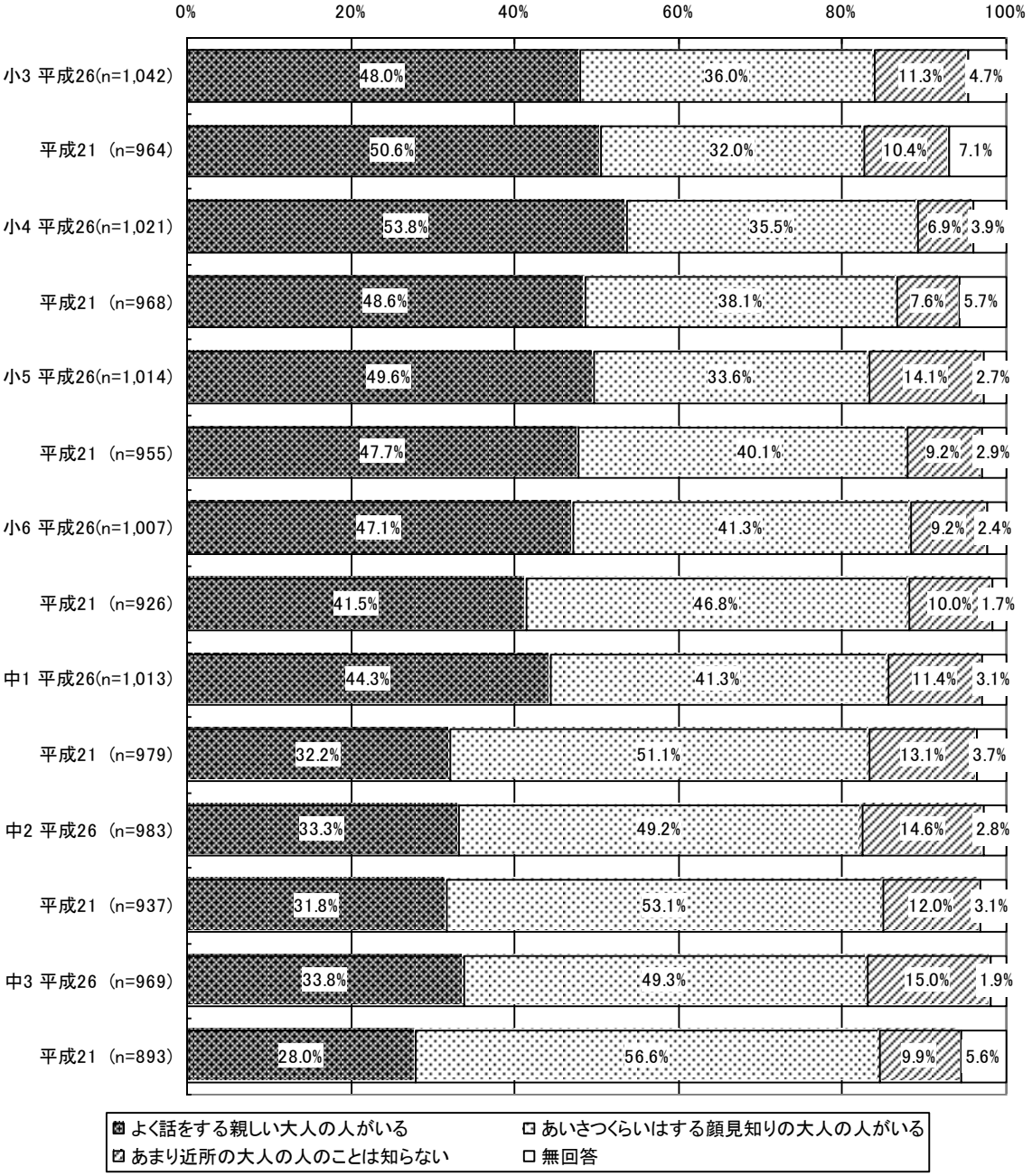
近所の大人で顔見知りがいるかについては、小学３・４年生、小学５・６年生で「よく話をする親しい大人の人がいる」の割合が約半数近くとなっている。一方、中学生では同割合は 37.2%と低下し、「あいさつくらいはする顔見知りの大人の人がいる」が 46.5%、「あまり近所の大人の人のことは知らない」が 13.6%と高くなっている。

図表 ２-１０１　近所の大人で顔見知りの人がいるか



次に、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に大きな変化はみられないが、小学 4 年生、中学 1 年生、中学 3 年生において、「よく話をする親しい大人の人がいる」の割合が増えており、小学 3 年生、小学 5 年生、中学 2 年生、中学 3 年生において、「あまり近所の大人の人のことは知らない」の割合が増えている。

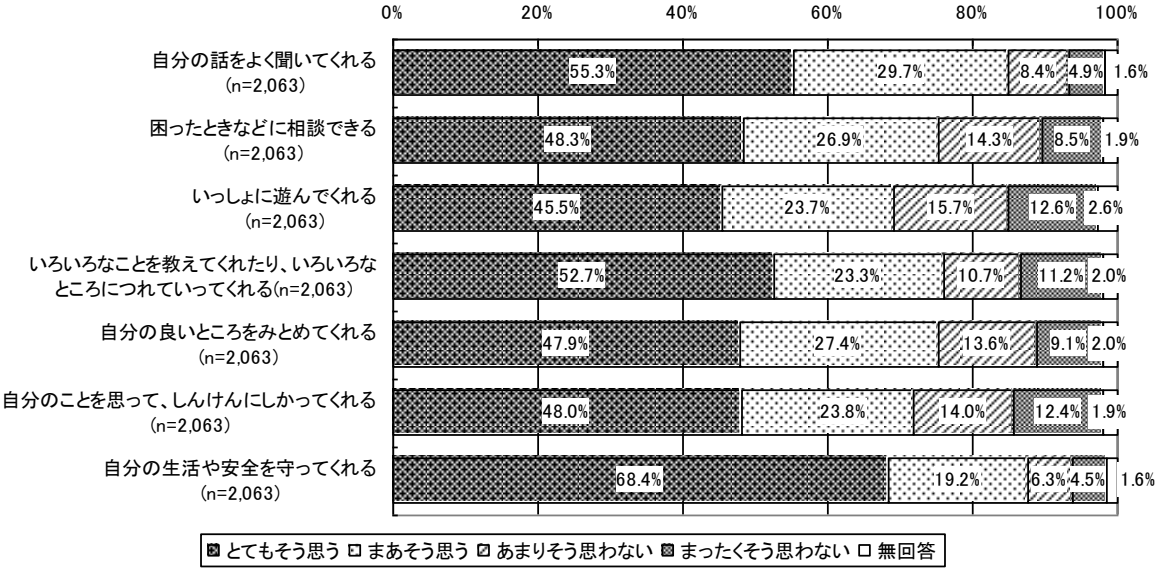
図表 2-１０２　近所の大人で顔見知りの人がいるか【平成 21 年度調査との比較】



３２）周りの大人に対して思っていること

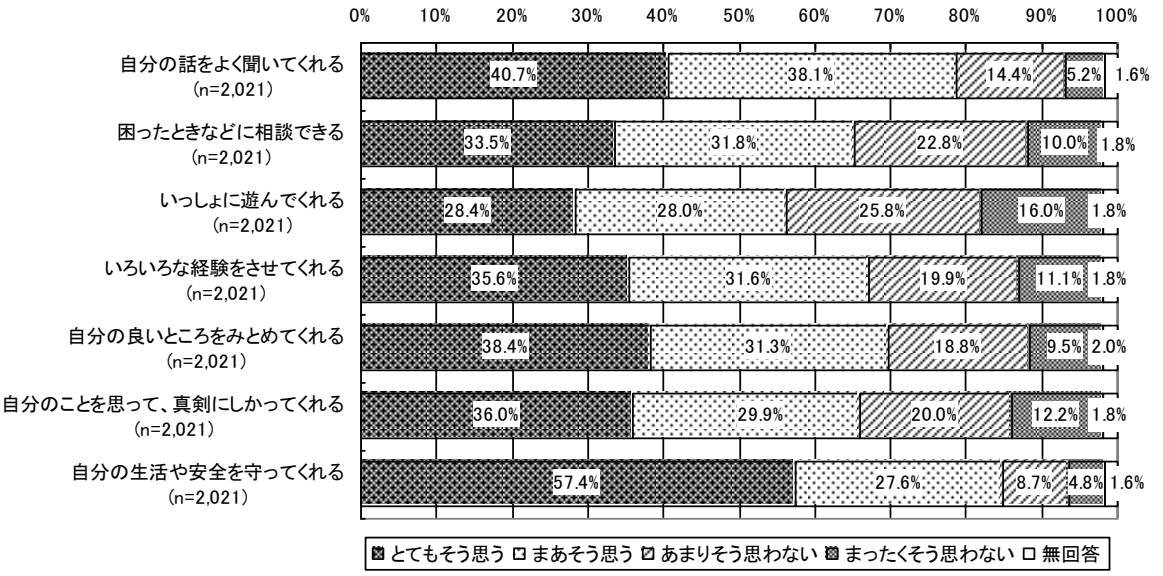
小学 3・4 年生に、周りの大人に対して思っていることを聞いたところ、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合では、「自分の生活や安全を守ってくれる」87.6%、「自分の話をよく聞いてくれる」85.0%が比較的高い割合となっている。

図表 2-１０３　周りの大人に対して思っていること【小学 3・4 年生】



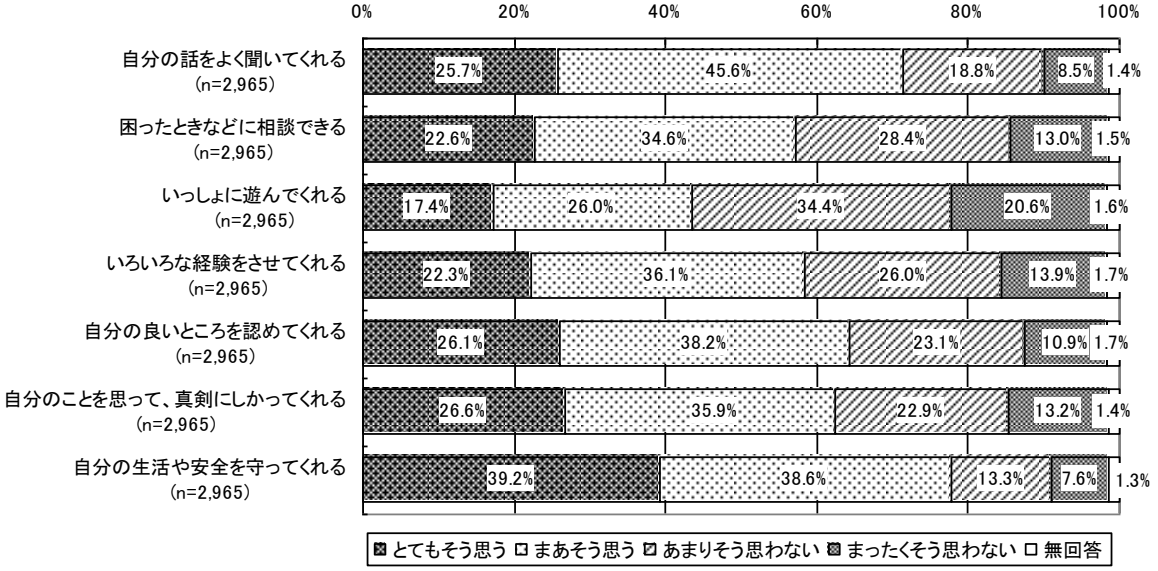
小学 5・6 年生においては、「とても/まあそう思う」を合わせた割合をみると「自分の生活や安全を守ってくれる」85.0%が最も高く、次いで「自分の話をよく聞いてくれる」78.8%と続いている。

図表 2-１０４　周りの大人に対して思っていること【小学 5・6 年生】



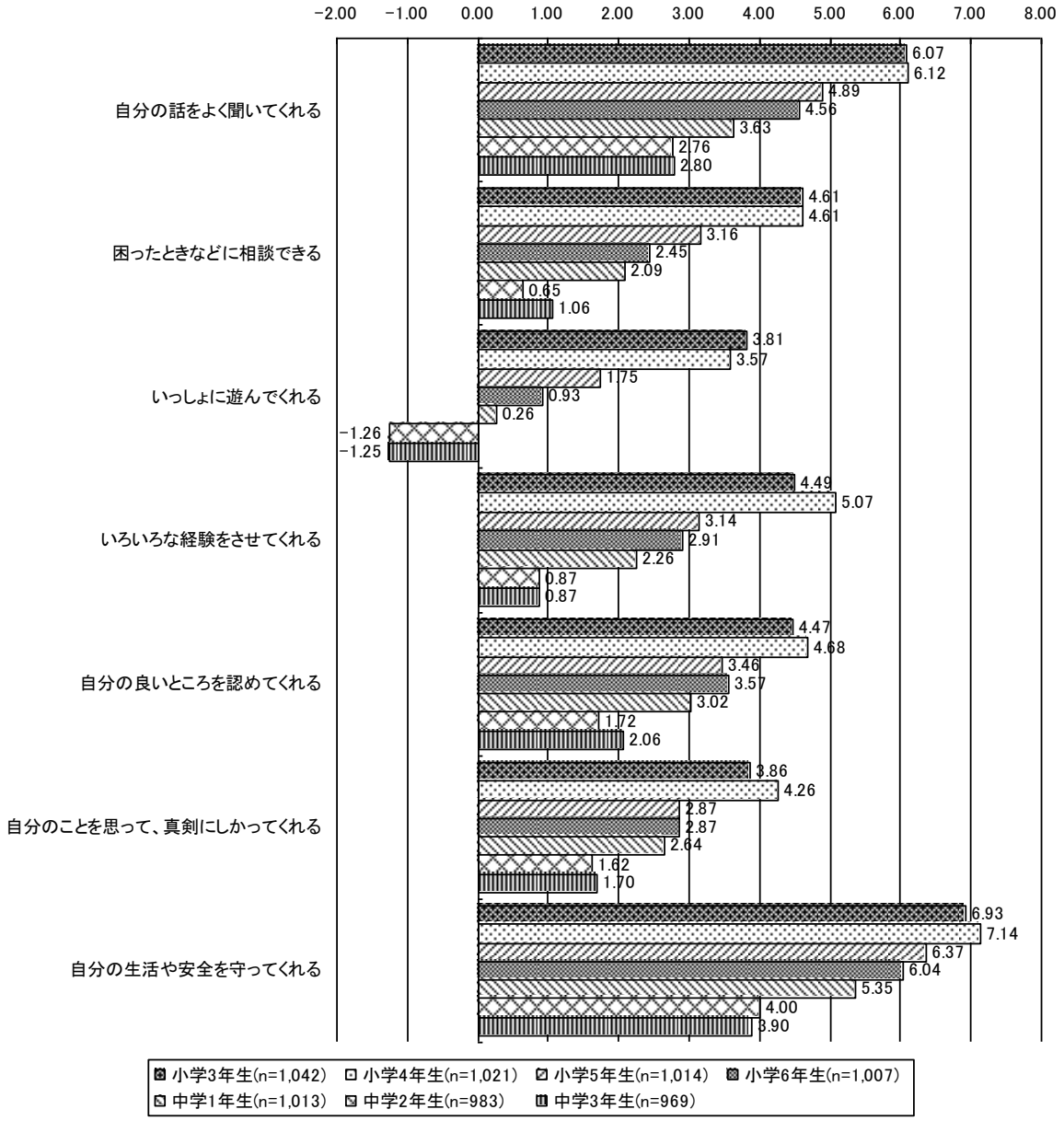
中学生についても同様に、「とても/まあそう思う」を合わせた割合をみると、「自分の生活や安全を守ってくれる」「自分の話をよく聞いてくれる」と回答した割合が 70%台で高い。

図表 2-105 周りの大人に対して思っていること【中学生】



次に、周りの大人に対して思っていることを指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて点数は低下する傾向となっており、中学２年生・中学３年生の「いっしょに遊んでくれる」割合ではマイナスのスコアとなっている。

図表 ２-１０６　周りの大人に対して思っていること【学年別】



※指標化については、２ページ参照

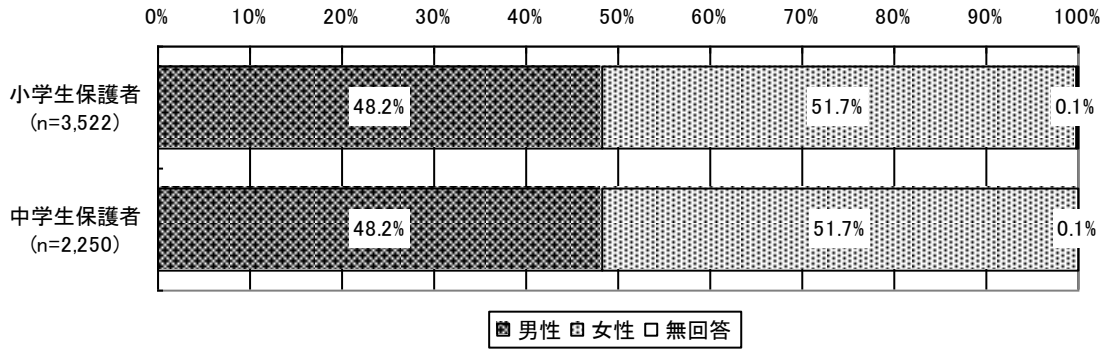
３．小中学生保護者調査の結果

（１)回答者の属性

１）子どもの性別

子どもの性別は、小学生保護者、中学生保護者とも、男女の割合はほぼ同程度となっている。

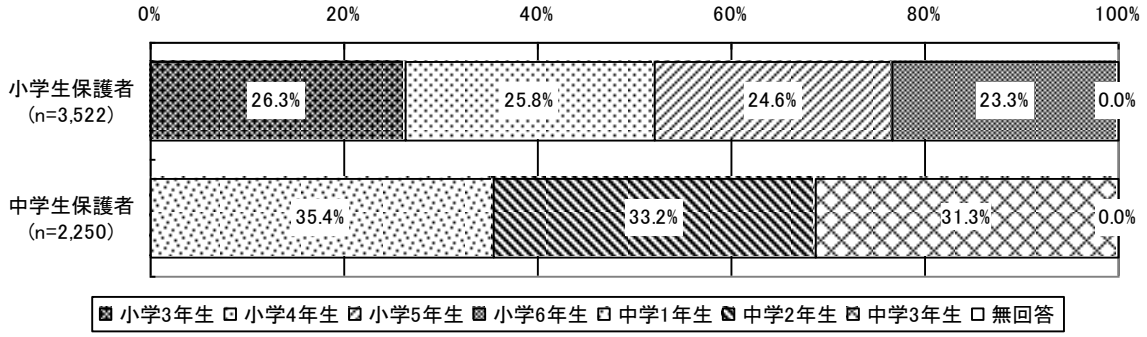
図表 ３-１　子どもの性別



２）子どもの学年

子どもの学年は、小学生保護者、中学生保護者とも、各学年でほぼ同程度の割合であった。

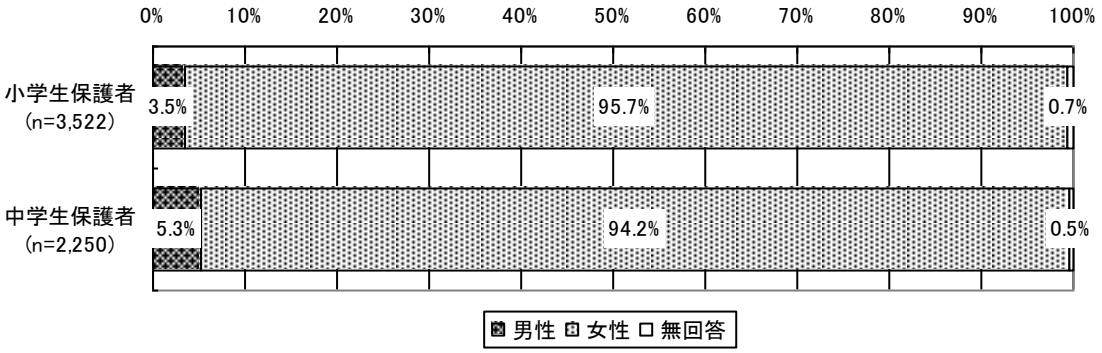
図表 ３-２　子どもの学年



３）回答者の性別

回答者の性別は、小学生保護者、中学生保護者とも、「女性」が９割以上を占めている。

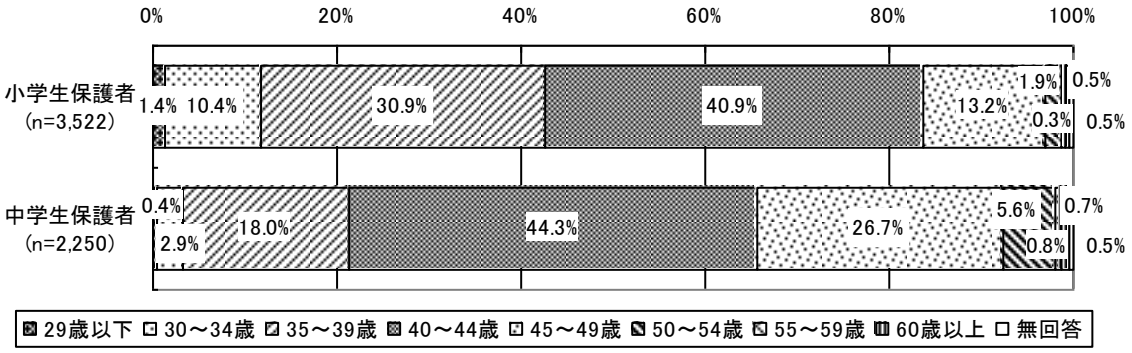
図表 ３-３　回答者の性別



４）回答者の年齢層

回答者の年齢層は、小学生保護者、中学生保護者とも「40～44 歳」の割合が最も高く、それぞれ 40.9%、44.3%となっている。

図表 ３-４　回答者の年齢層

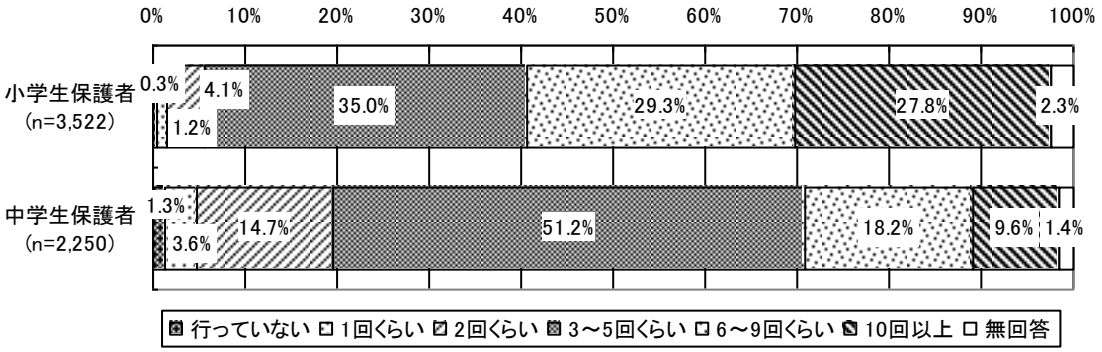


（２)学校との関わり

５）１年間で学校へ行った回数

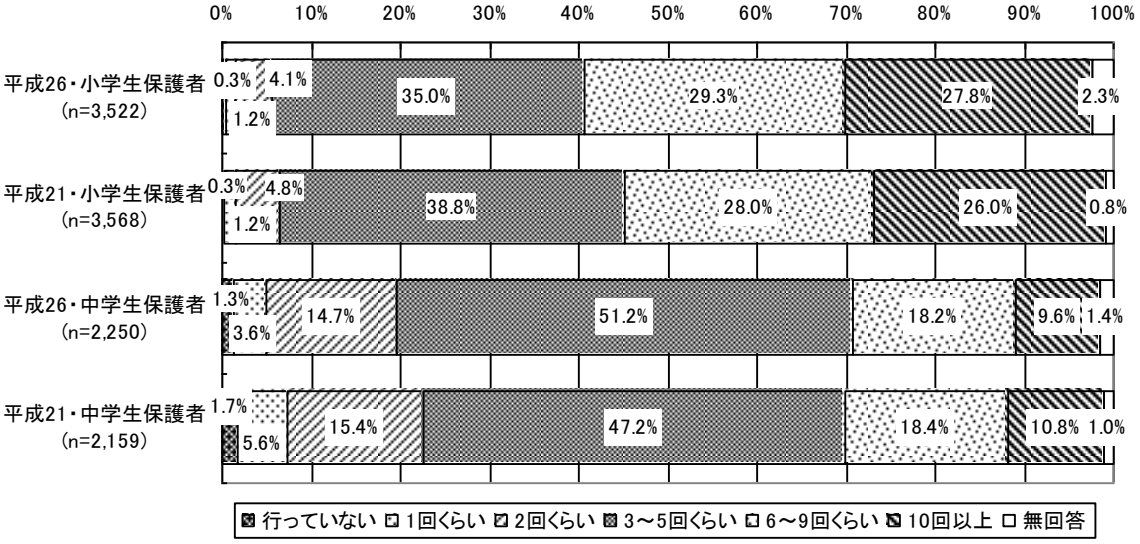
この 1 年間に学校へ行った回数を聞いたところ、小学生保護者、中学生保護者とも「3～5 回くらい」の割合が最も高い。また、小学生保護者では「10 回以上」と回答した割合が 27.8%と約 4 人に 1 人の割合であり、中学生保護者と比べて学校へ行った回数は多い。

図表 ３-５　１年間で学校へ行った回数



次に、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学生保護者、中学生保護者とも大きな変化はみられず、小学生保護者の「6～9 回くらい」「10 回以上」の割合が若干増加している程度である。

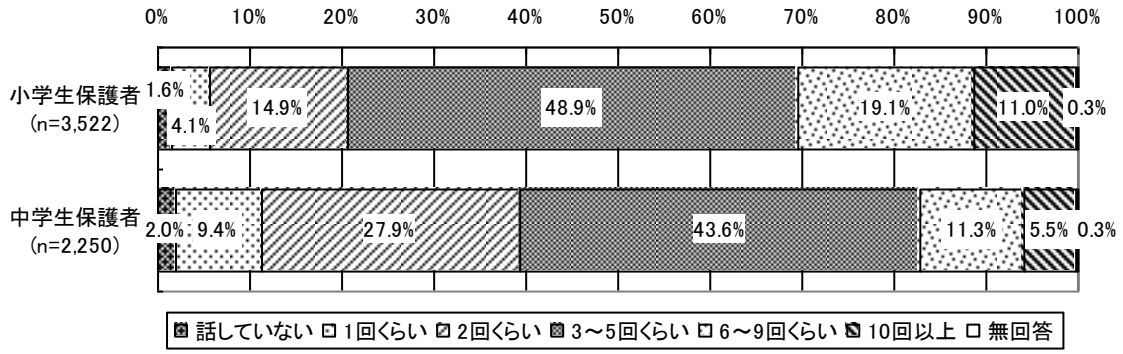
図表 ３-６　１年間で学校へ行った回数【平成 21 年度調査との比較】



６）１年間に担任教員と話した回数

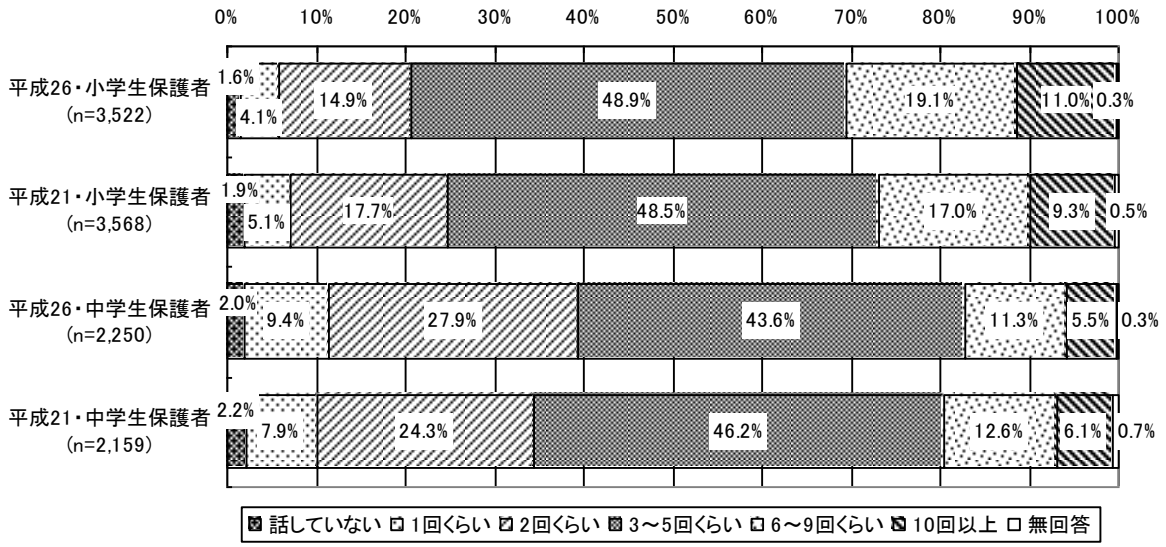
この１年間で担任教員と話した回数を聞いたところ、小学生保護者、中学生保護者とも、「3～5 回くらい」の割合が最も高く、小学生保護者の方がやや回数が多くなっている。

図表　３-７　１年間に担任教員と話した回数



平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学生保護者では「3 回以上」の回数が増加傾向にあり、逆に中学生保護者では「3 回以上」の回数は減少傾向となっている。

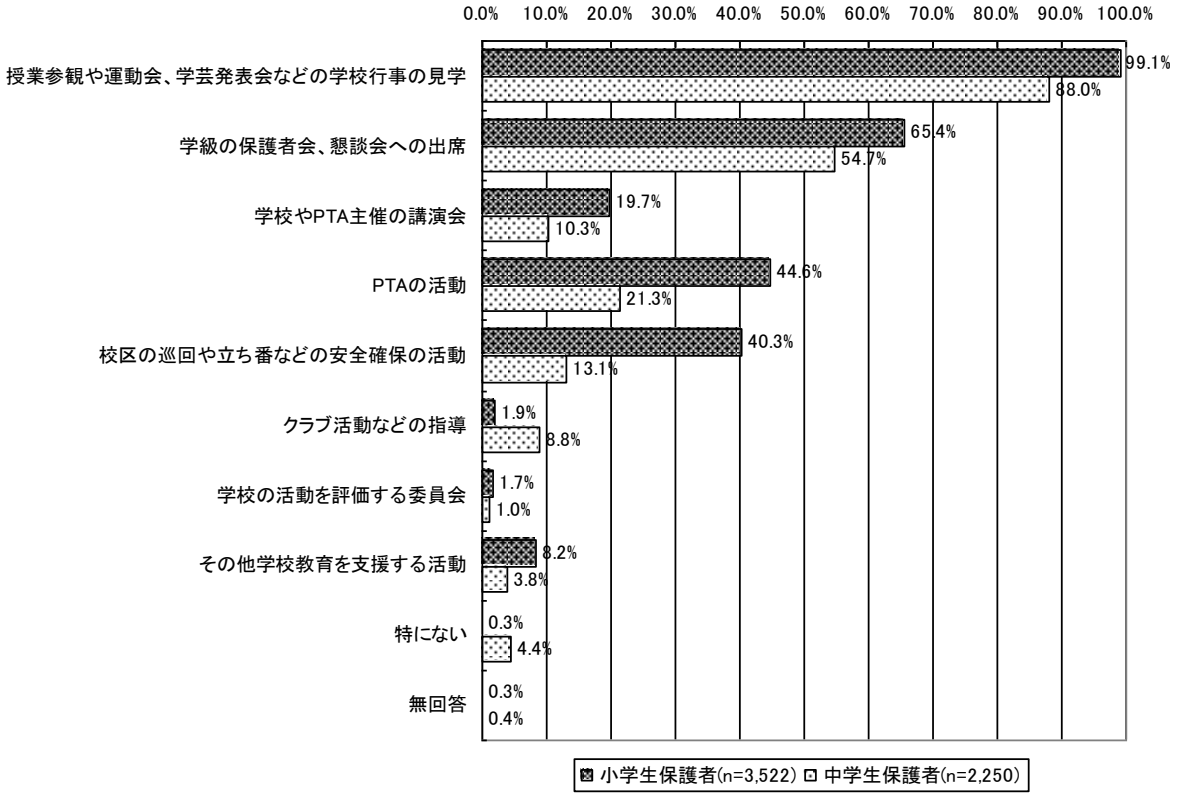
図表　３-８　１年間に担任教員と話した回数【平成 21 年度調査との比較】



7）今までに出席や参加した行事・活動

今までに出席や参加した学校の行事・活動を聞いたところ、小学生保護者、中学生保護者とも「授業参観や運動会、学芸発表会などの学校行事の見学」が最も高く、次いで「学級の保護者会、懇談会への出席」の割合が高い。また、小学生保護者では「PTA の活動」「校区の巡回や立ち番などの安全確保の活動」において、中学生保護者と比較して高い割合であった。

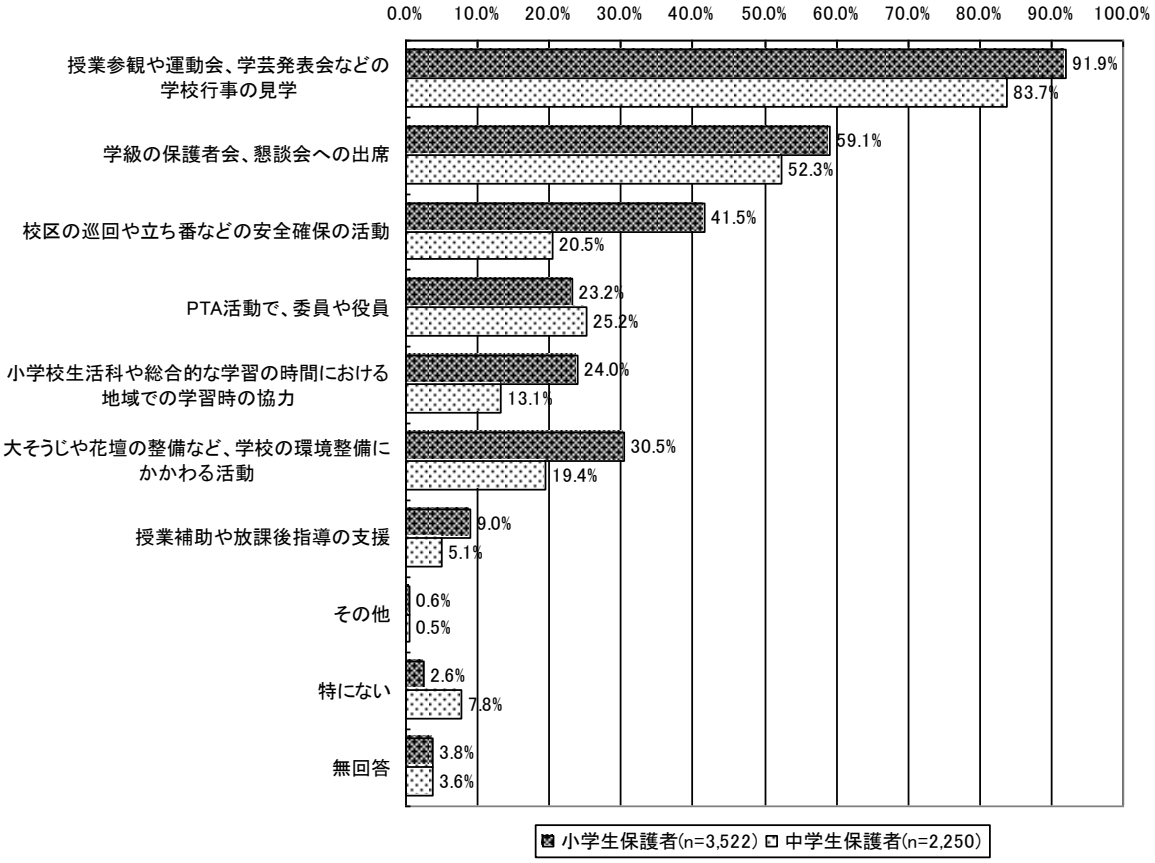
図表 3-9 今までに出席や参加した行事・活動



８）今後、協力したり、参加したりしてもよいと思う行事・活動

今後、学校と協力したり参加したりしてもよいと思う行事・活動について聞いたところ、小学生保護者、中学生保護者とも、「授業参観や運動会、学芸発表会などの学校行事の見学」が最も高く、次いで「学級の保護者会、懇談会への出席」となっている。また、中学生保護者と比較して、小学生保護者では、「校区の巡回や立ち番などの安全確保の活動」「大そうじや花壇の整備など、学校の環境整備にかかわる活動」の割合が高い。

図表 ３-１０　今後、協力したり、参加したりしてもよいと思う行事・活動

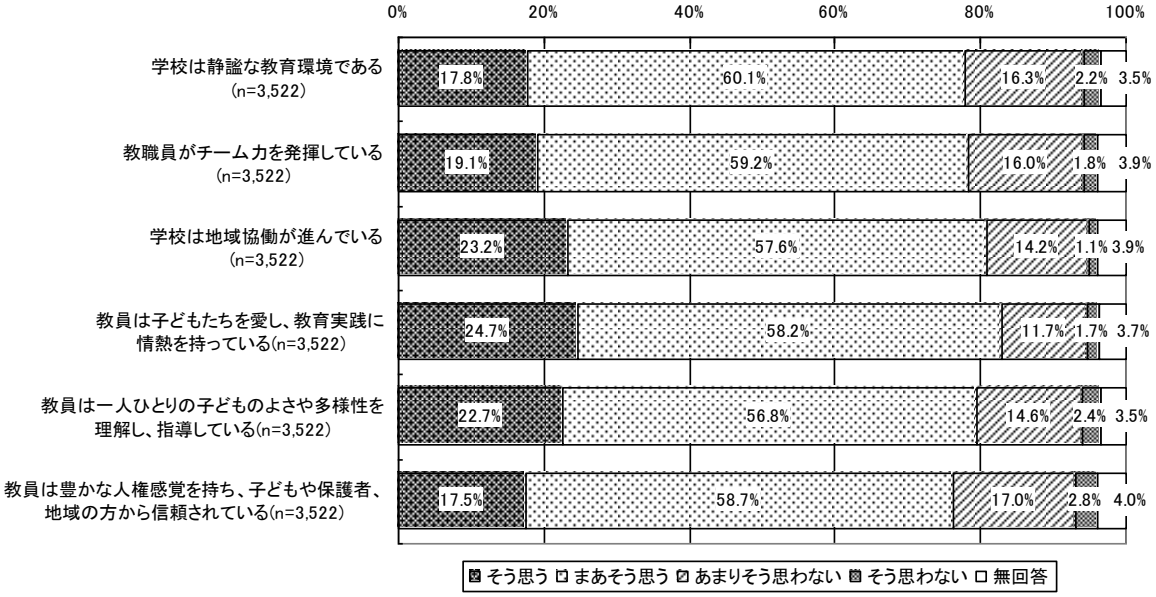


（３)学校教育について

９）学校・教員について感じること

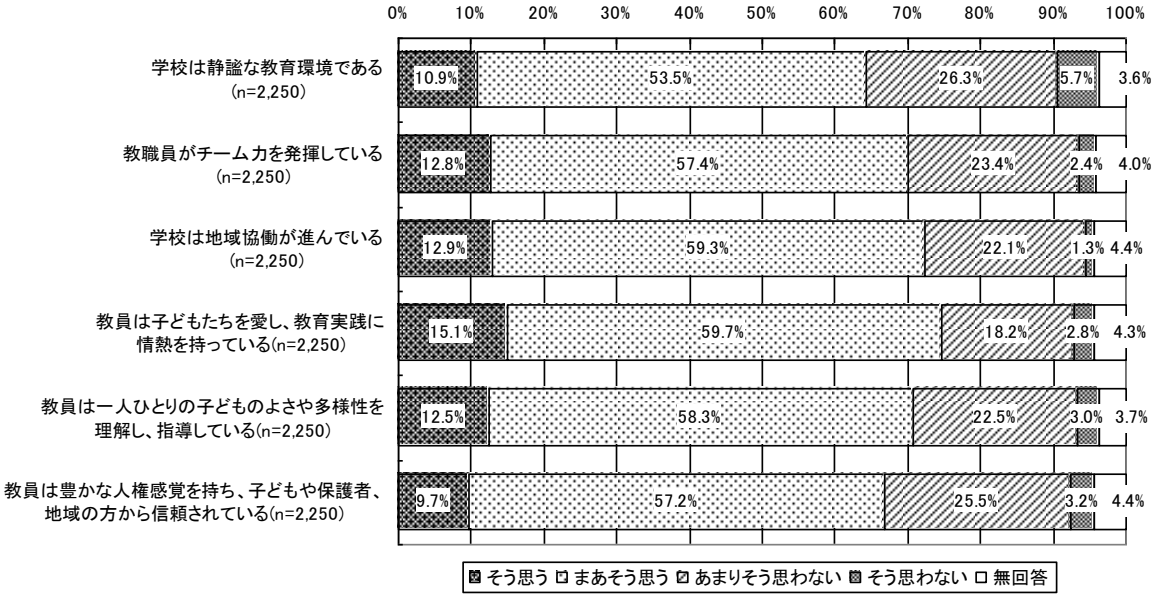
子どもが通っている学校や教員について感じることを小学生保護者に聞くと、「教員は子どもたちを愛し、教育実践に情熱を持っている」の「そう思う」が 24.7%で最も高く、次いで、「学校は地域協働が進んでいる」23.2%、「教員は一人ひとりの子どものよさや多様性を理解し、指導している」22.7%と続いている。なお、「そう思わない」の割合が最も高い項目は、「教員は豊かな人権感覚を持ち、子どもや保護者、地域の方から信頼されている」の 2.8%で、「あまりそう思わない」の 17.0%を合わせて約 2 割の保護者が「あまり/そう思わない」と回答している。

図表 ３-１１ 学校・教員について感じること【小学生保護者】



中学生保護者では、「教員は子どもたちを愛し、教育実践に情熱を持っている」の「そう思う」が 15.1%で最も高く、「まあそう思う」を合わせると 74.8%に上る。一方、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた割合でみると、「学校は静謐な教育環境である」の 32.0%が最も高く、次いで、「教員は豊かな人権感覚を持ち、子どもや保護者、地域の方から信頼されている」の 28.7%となっている。

図表 3-12 学校・教員について感じること【中学生保護者】

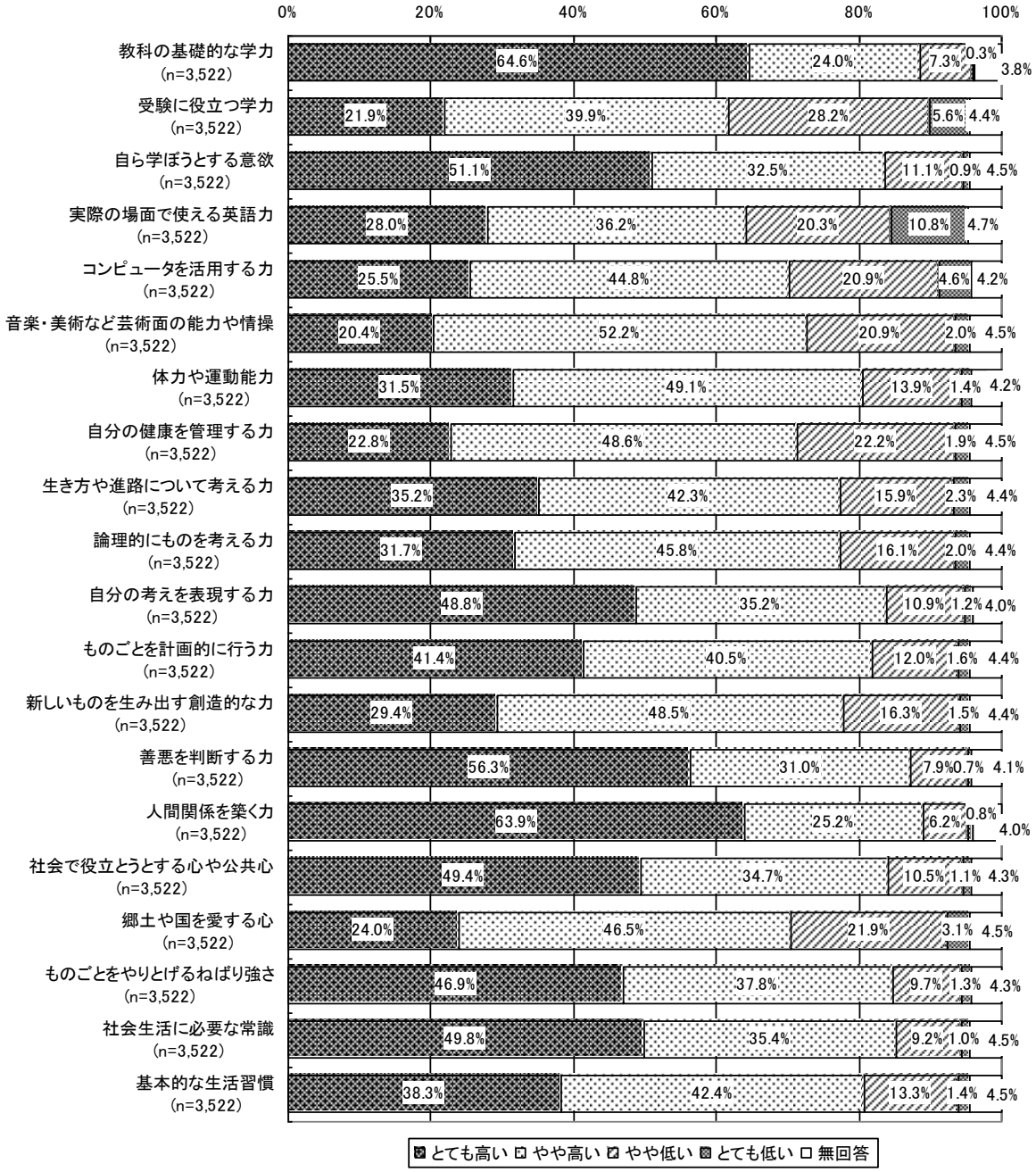


１０）学校教育及び学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度

①学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度

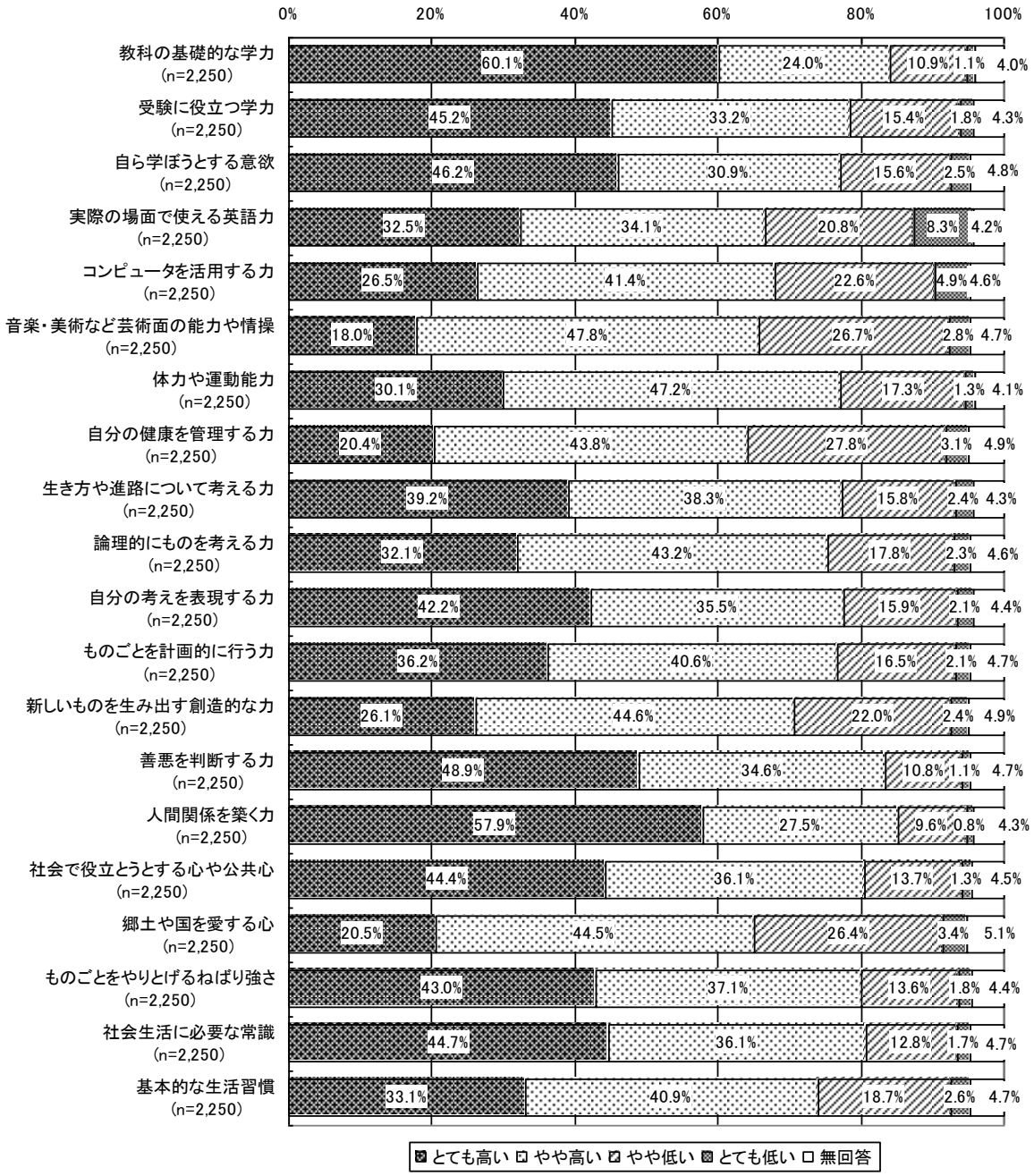
学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度を聞いたところ、小学生保護者において「とても高い」「やや高い」を合わせた割合では、「人間関係を築く力」の 89.1%が最も高く、他に「教科の基礎的な学力」88.6%、「善悪を判断する力」87.3%が高い割合となっている。一方、「とても低い」「やや低い」を合わせた割合をみると、「受験に役立つ学力」33.8%、「実際の場面で使える英語力」31.1%が 3 割を超える。

図表 3-１３　学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度【小学生保護者】



中学生保護者においても同様に、「とても/やや高い」を合わせた割合でみると、「人間関係を築く力」が 85.4%でトップ、次いで、「教科の基礎的な学力」84.1%、「善悪を判断する力」83.5%となっている。一方、「とても/やや低い」割合では、「自分の健康を管理する力」30.9%、「郷土や国を愛する心」29.8%などが高い割合となっている。

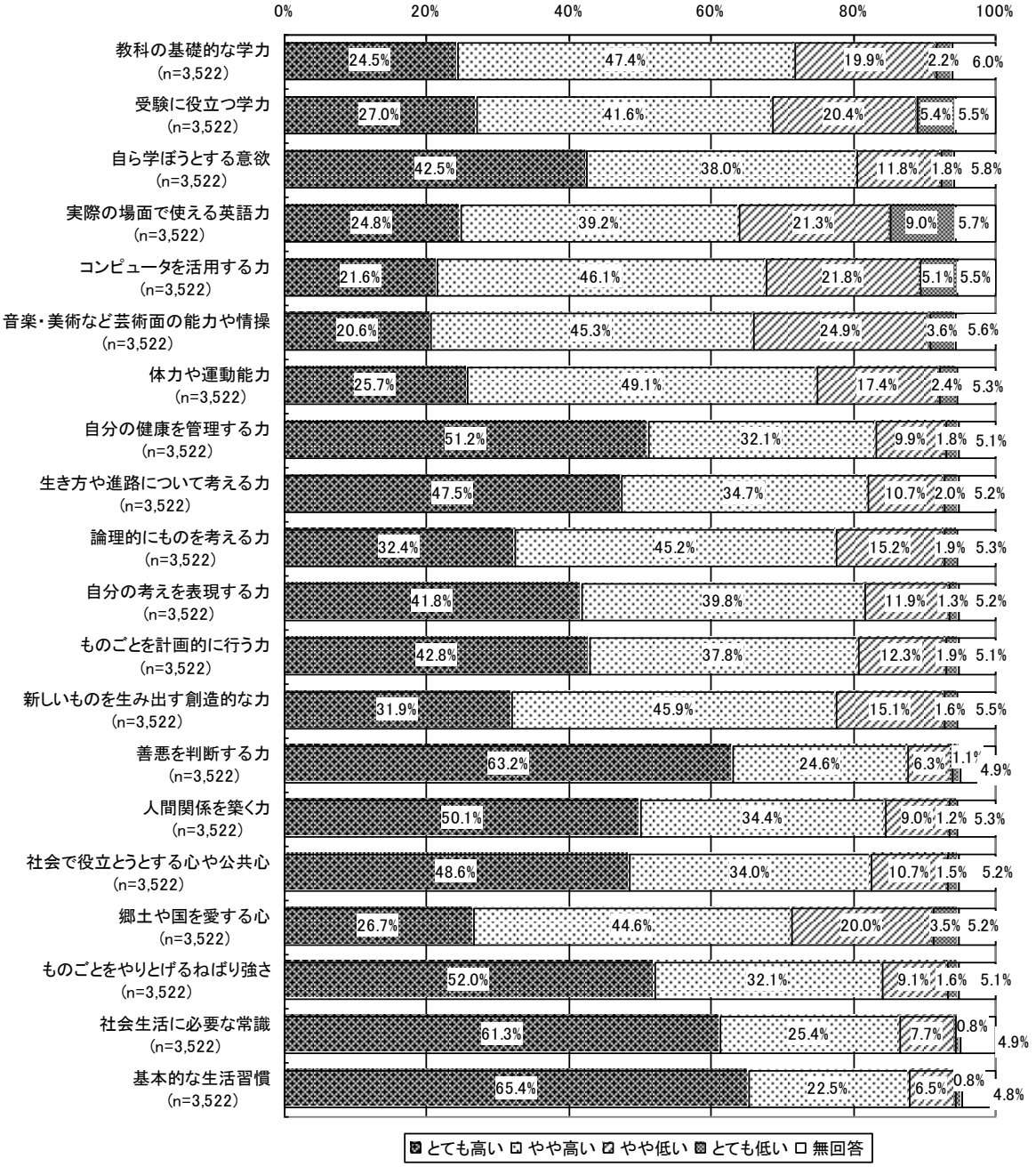
図表 3-14 学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度【中学生保護者】



②学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度

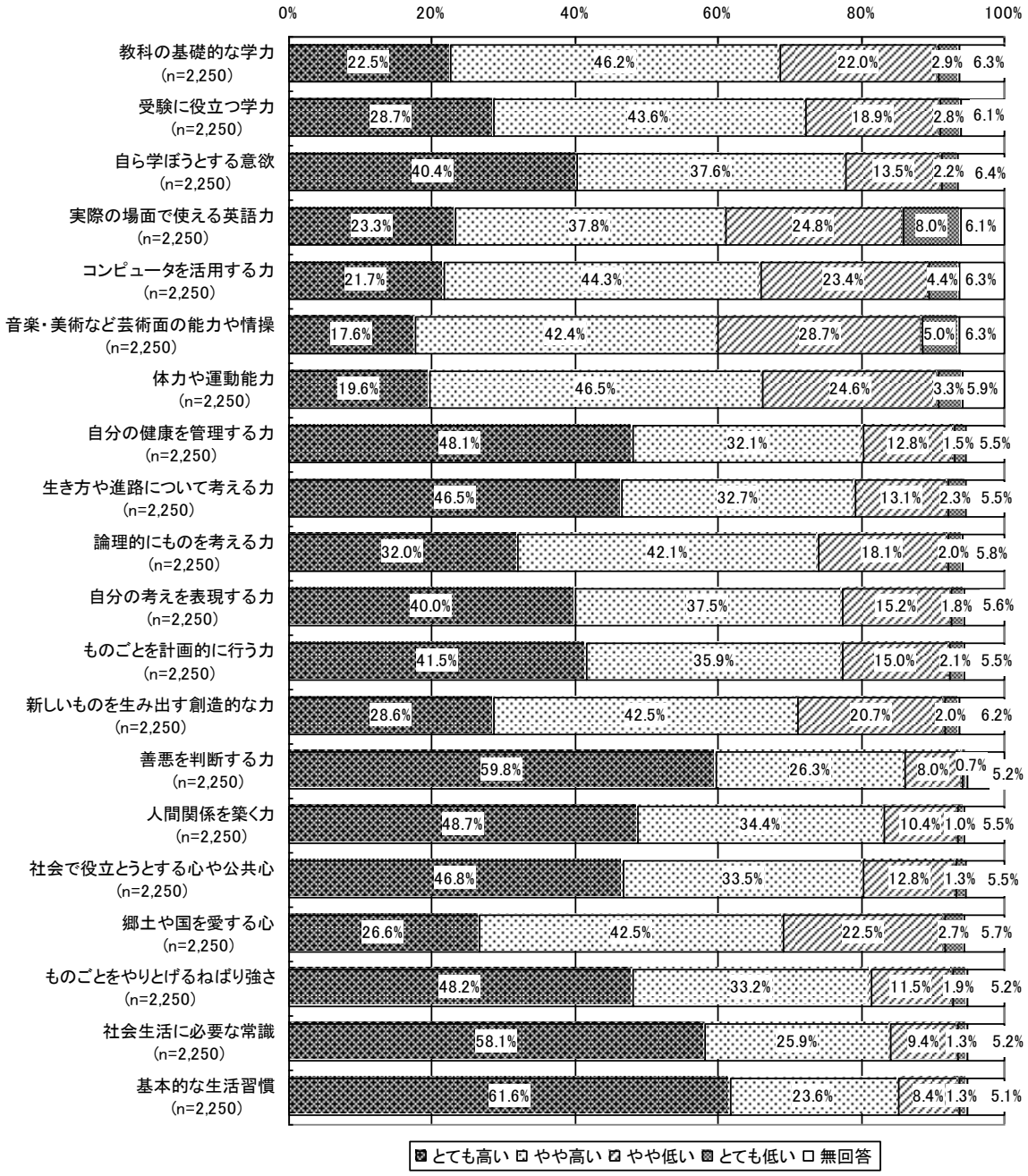
次に、学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度を聞いたところ、小学生保護者の「とても/やや高い」を合わせた割合でみると、「基本的な生活習慣」87.9%、「善悪を判断する力」87.8%、「社会生活に必要な常識」86.7%が高い割合となっている。一方、「とても/やや低い」を合わせた割合では、「実際の場面で使える英語力」30.3%が最も高く、次いで「音楽・美術など芸術面の能力や情操」28.5%となっている。

図表 3-15 学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度【小学生保護者】



中学生保護者では、「とても/やや高い」を合わせた割合において、「善悪を判断する力」86.1%が最も高い割合となっており、次いで、「基本的な生活習慣」85.2%、「社会生活に必要な常識」84.0%と続いている。一方、「とても/やや低い」を合わせた割合では、「音楽・美術など芸術面の能力や情操」33.7%と、「実際の場面で使える英語力」32.8%が高い割合であった。

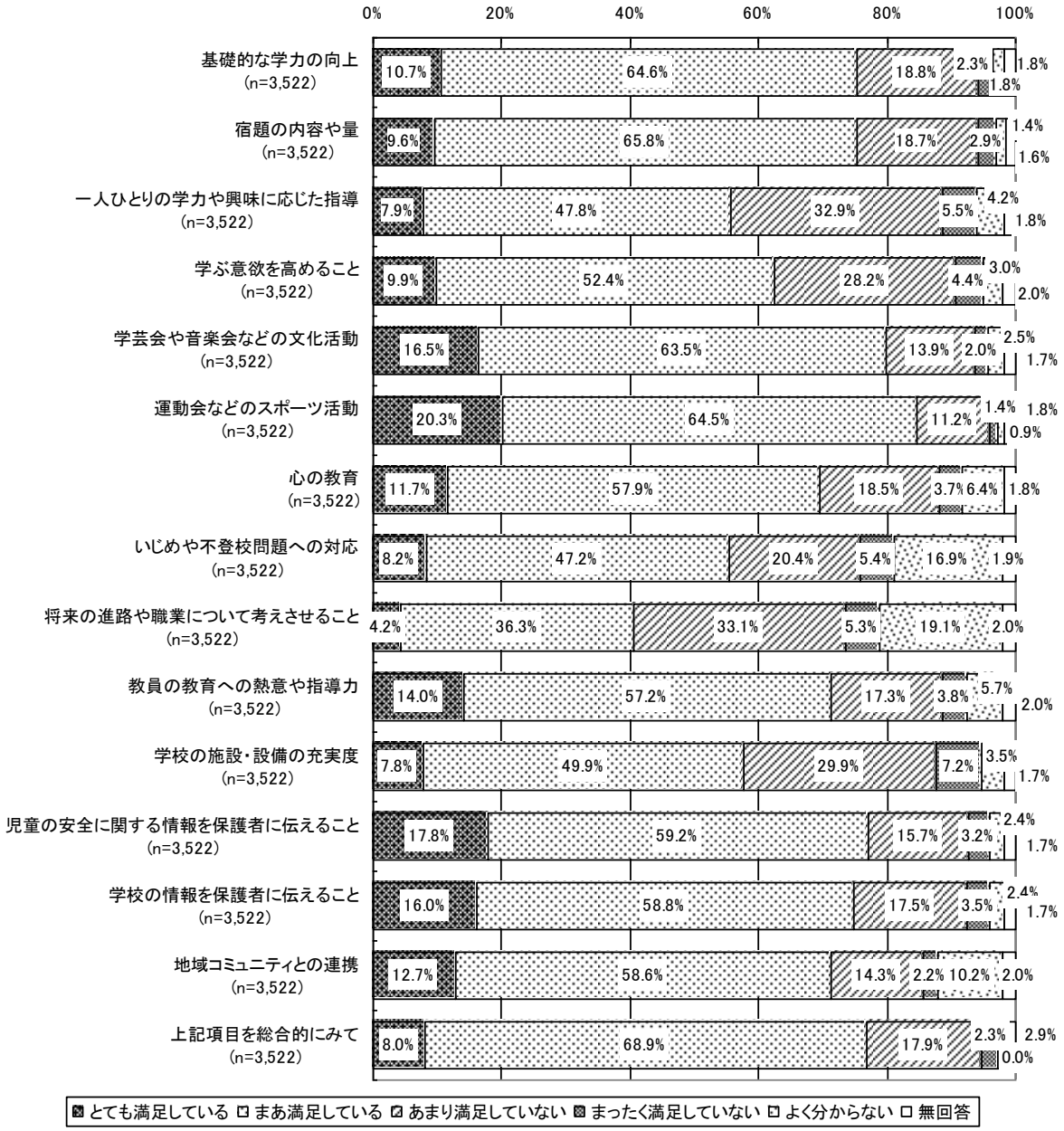
図表 3-16 学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度【中学生保護者】



１１）学校の指導や取り組みの満足度

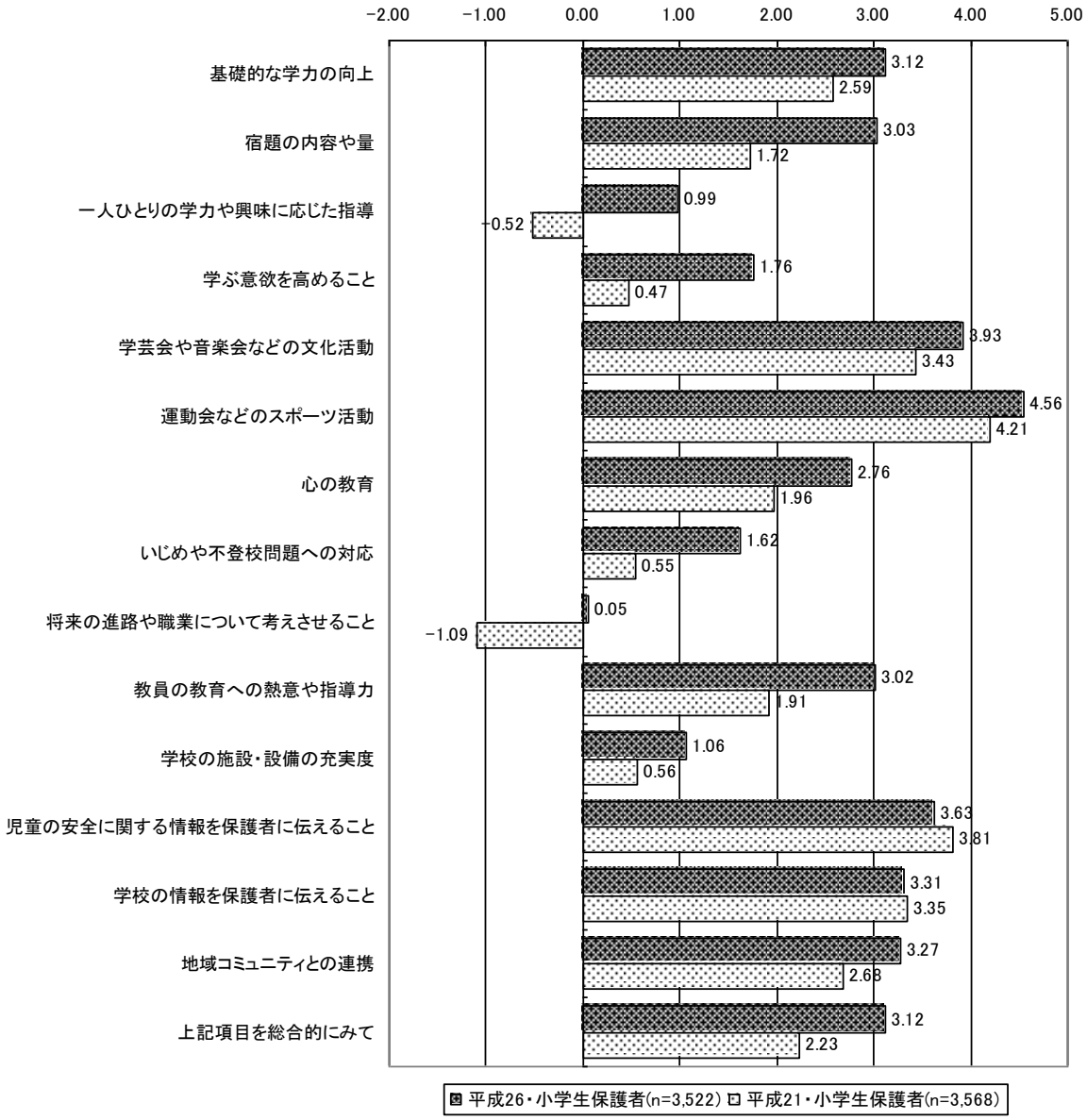
学校の指導や取り組みへの満足度を聞いたところ、小学生保護者の「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた概ね「満足している」割合は、「運動会などのスポーツ活動」の 84.8%が最も高く、次いで、「学芸会や音楽会などの文化活動」80.0%、「児童の安全に関する情報を保護者に伝えること」77.0%となっている。また、「まったく満足していない」「あまり満足していない」を合わせた割合では、「一人ひとりの学力や興味に応じた指導」「将来の進路や職業について考えさせること」がともに 38.4%で、約 4 割の小学生保護者が「満足していない」と回答した。

図表 ３-１７　学校の指導や取り組みの満足度【小学生保護者】



学校の指導や取り組みへの満足度を指標化して、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学生保護者では全体的に満足度は上昇しており、特に「一人ひとりの学力や興味に応じた指導」が 1.51 点、「宿題の内容や量」が 1.31 点、「学ぶ意欲を高めること」が 1.29 点と、それぞれ大きな上昇がみられた。一方、「児童の安全に関する情報を保護者に伝えること」「学校の情報を保護者に伝えること」では若干の減少がみられた。

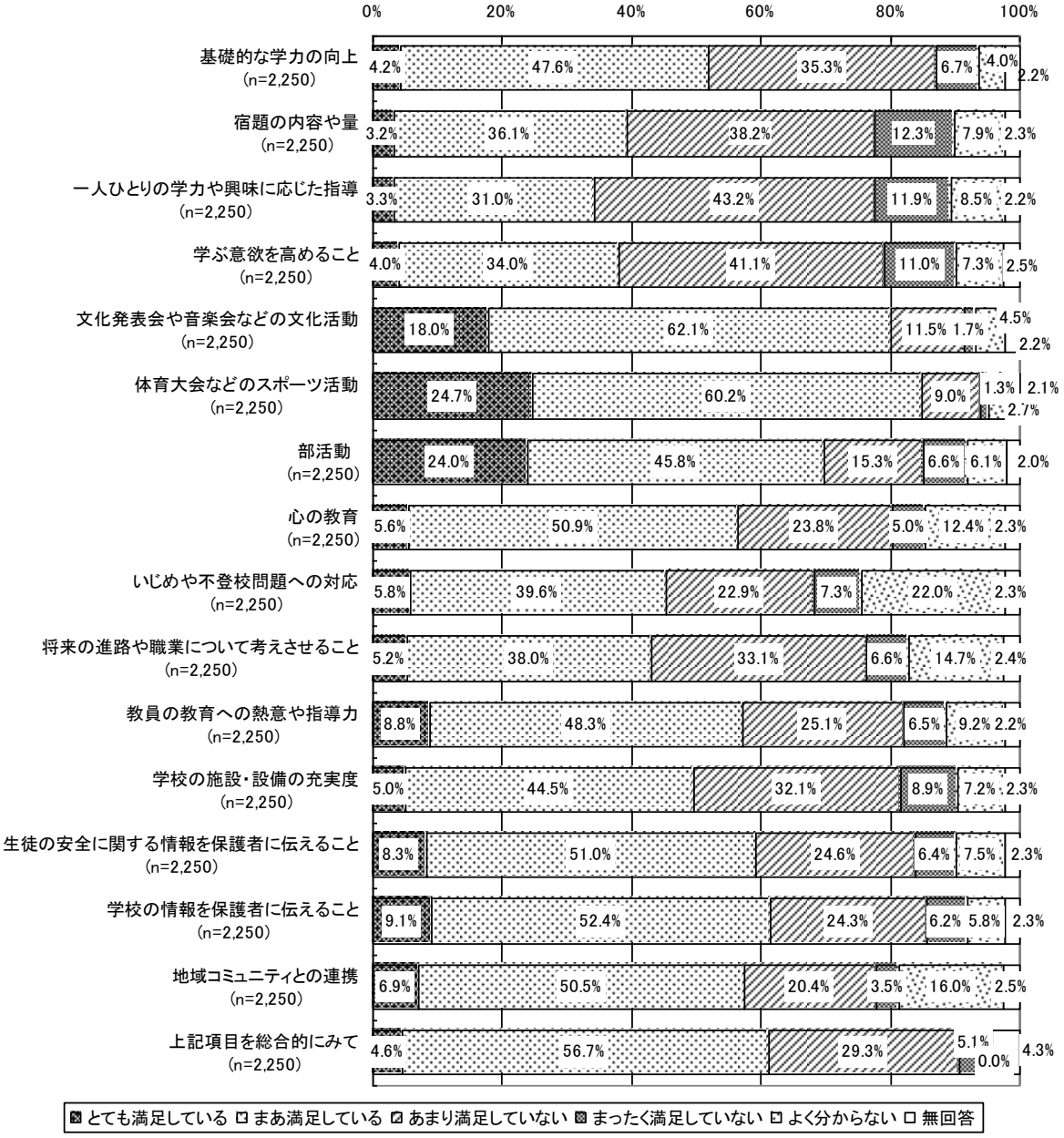
図表 ３-１８　学校の指導や取り組みの満足度【平成 21 年度調査との比較/小学生保護者】



※指標化については、2 ページ参照

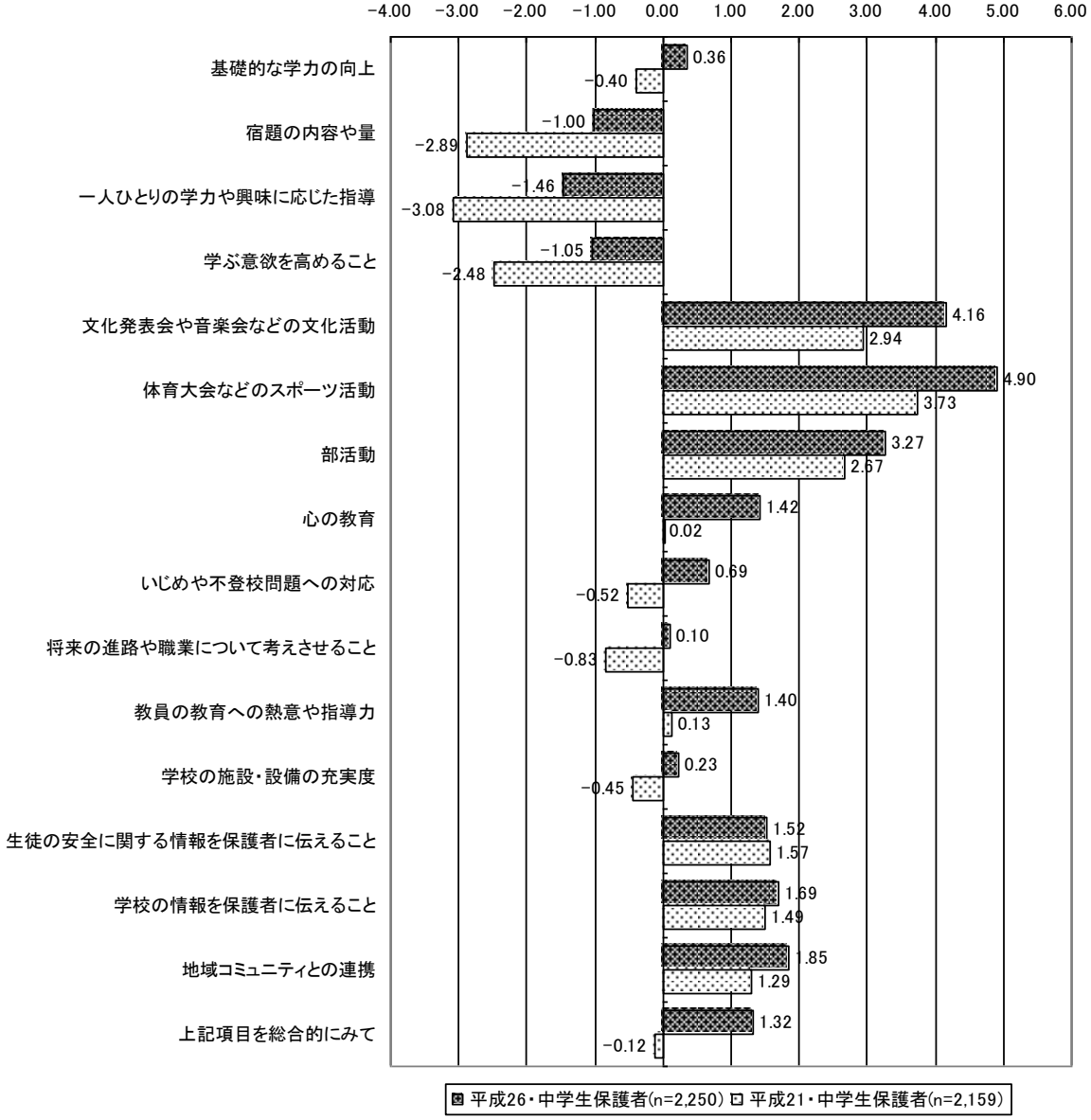
次に、中学生保護者の「とても/まあ満足している」を合わせた割合をみると、「体育大会などのスポーツ活動」84.9%、「文化発表会や音楽会などの文化活動」80.1%の 2 項目が 8 割を超えて高い。一方、「まったく/あまり満足していない」を合わせた割合では、「一人ひとりの学力や興味に応じた指導」「学ぶ意欲を高めること」「宿題の内容や量」において、それぞれ 55.1%、52.1%、50.5%と半数以上の保護者が「満足していない」と回答している。

図表 3-19 学校の指導や取り組みの満足度【中学生保護者】



学校の指導や取り組みへの満足度を指標化して、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学生保護者においても全体的に満足度は上昇しており、特に「宿題の内容や量」で 1.89 点、「一人ひとりの学力や興味に応じた指導」で 1.62 点と、それぞれ大きな上昇がみられた。

図表 ３-２０　学校の指導や取り組みの満足度【平成 21 年度調査との比較/中学生保護者】

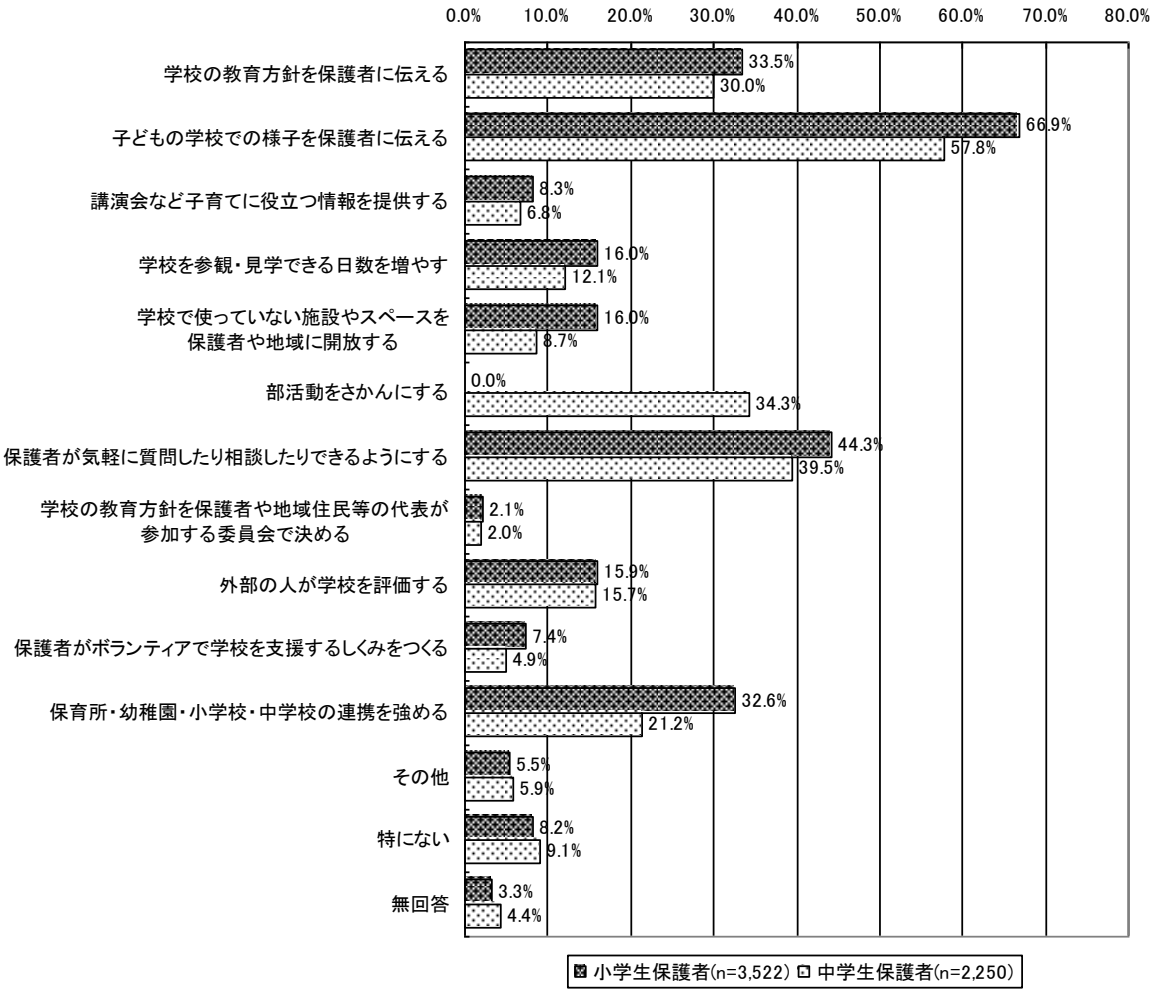


※指標化については、2 ページ参照

１２）学校や教育制度に望むこと

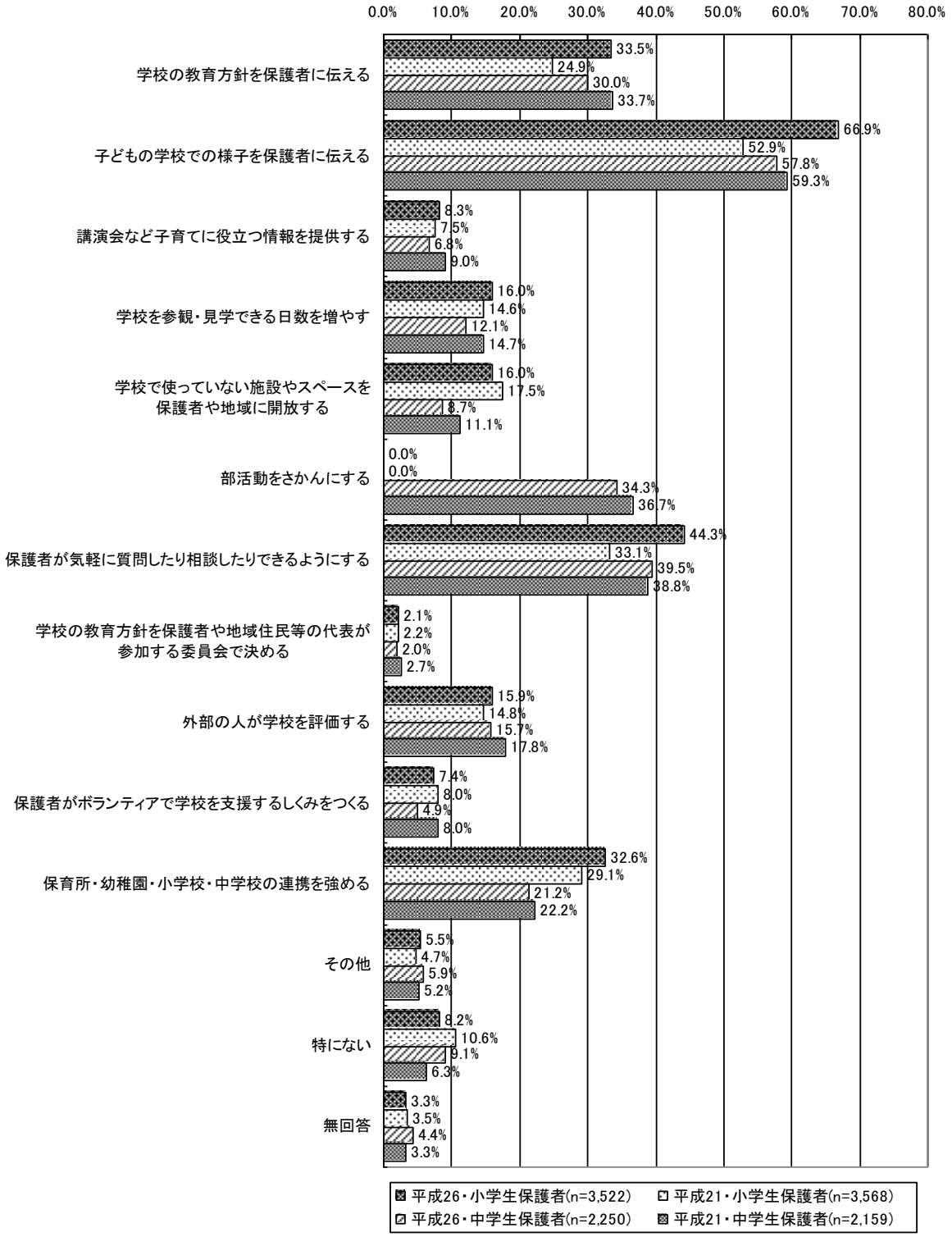
学校や教育制度に望むことを聞いたところ、小学生保護者、中学生保護者とも「子どもの学校での様子を保護者に伝える」の割合が最も高く、次いで「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」の割合が高い。他に、小学生保護者では「学校の教育方針を保護者に伝える」「保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携を高める」が３割を超えて高く、中学生保護者では「部活動をさかんにする」「学校の教育方針を保護者に伝える」が３割を超えて高くなっている。

図表 ３-２１　学校や教育制度に望むこと



次に、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に小学生保護者では上昇傾向、中学生保護者では低下傾向の項目が多くなっている。特に、小学生保護者では「子どもの学校の様子を保護者に伝える」で 14.0 ポイント、「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」で 11.2 ポイントの大幅な上昇となった。

図表 3-22　学校や教育制度に望むこと【平成 21 年度調査との比較】

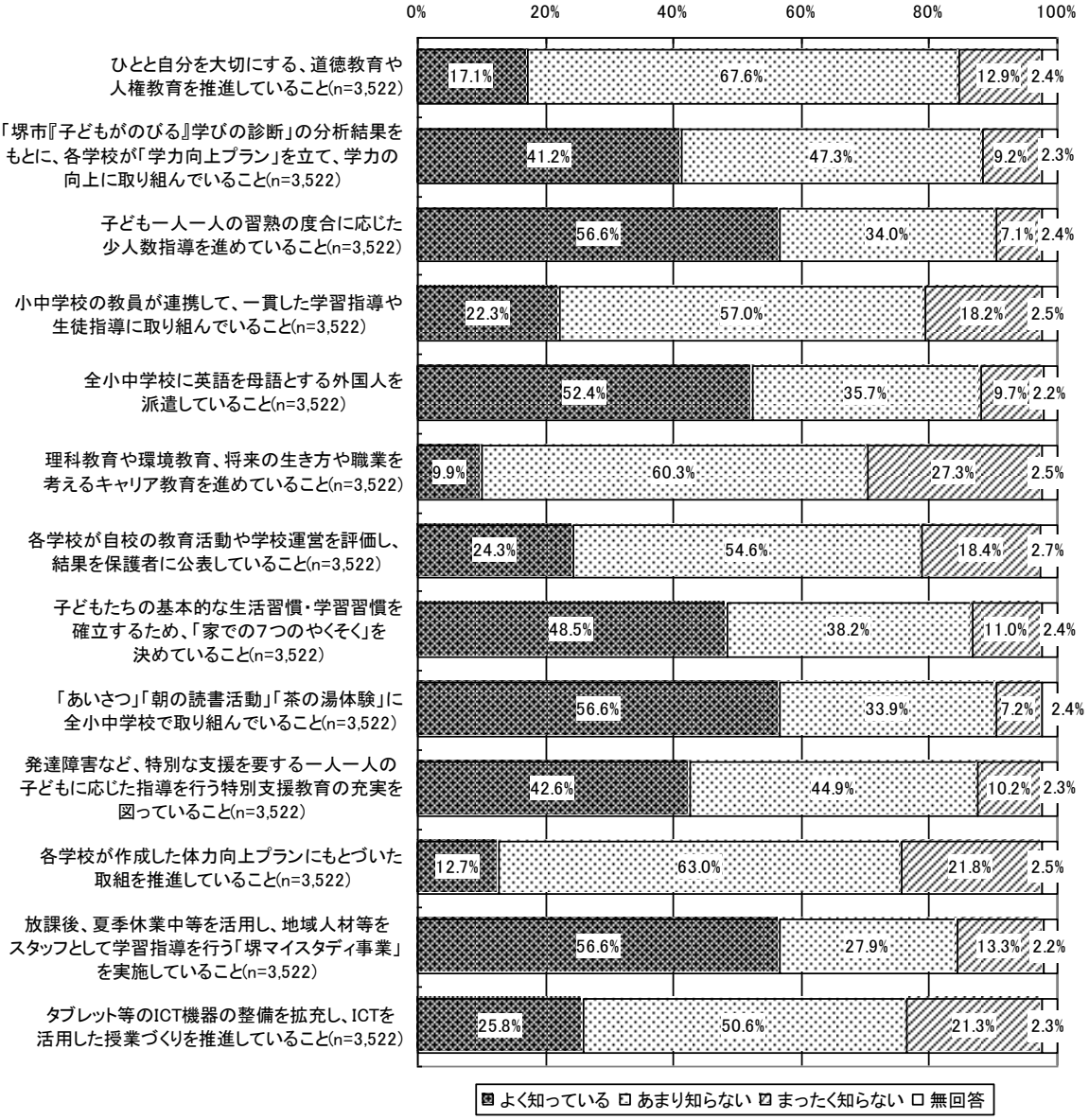


１３）教育委員会や学校の取り組みの認知度・重要度

①教育委員会や学校の取り組みの認知度

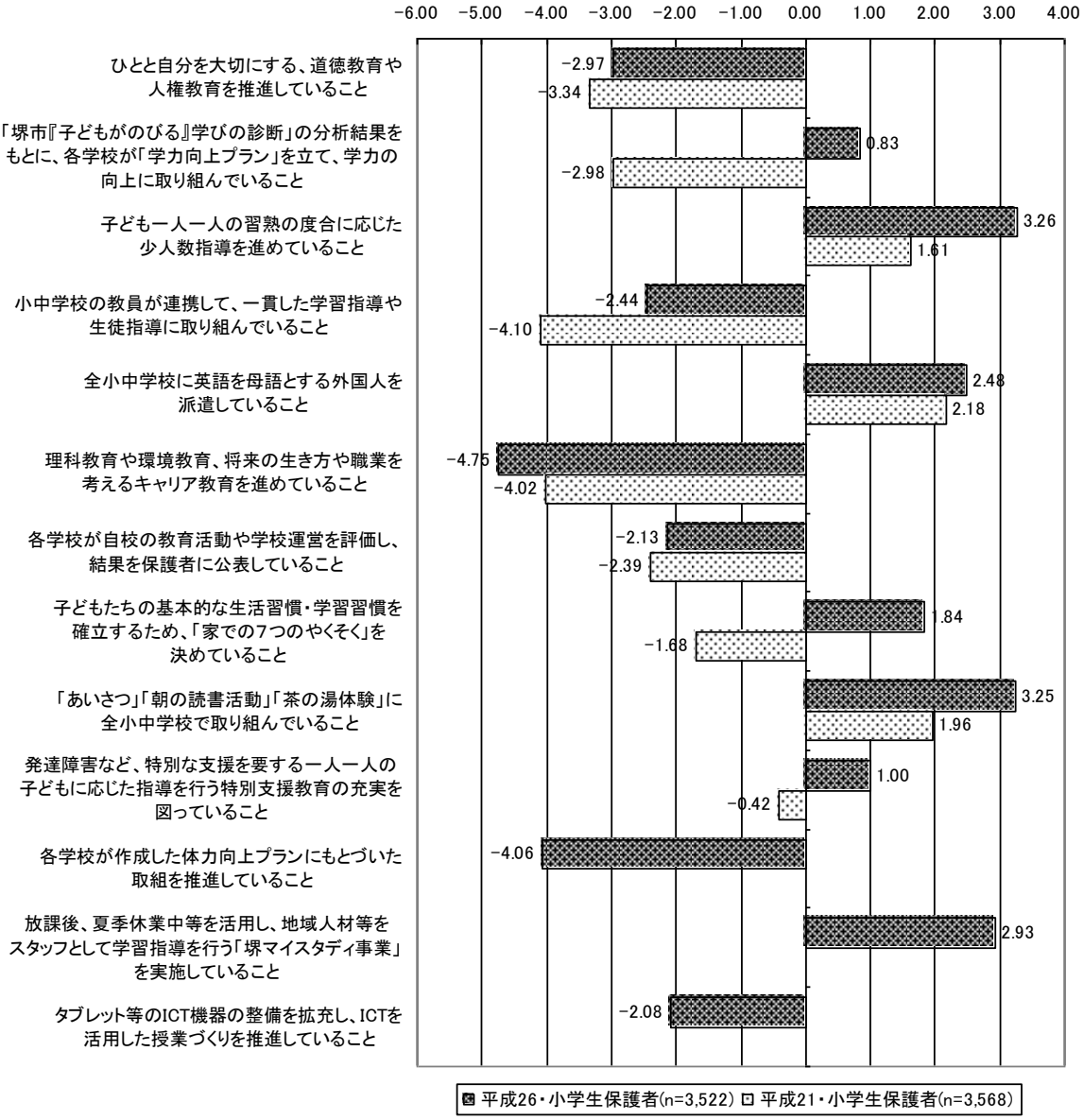
教育委員会や学校の取り組みの認知度を聞いたところ、小学生保護者では「子ども一人一人の習熟の度合に応じた少人数指導を進めていること」「「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に全小中学校で取り組んでいること」「放課後、夏季休業中等を活用し、地域人材等をスタッフとして学習指導を行う「堺マイスタディ事業」を実施していること」「全小中学校に英語を母語とする外国人を派遣していること」の 4 項目で、半数を超える保護者が「よく知っている」と回答した。一方、「まったく知らない」の割合が最も高い項目は、「理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」の27.3%であった。

図表 ３-２３　教育委員会や学校の取り組みの認知度【小学生保護者】



教育委員会や学校の取り組みの認知度を指標化して、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、「理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」を除く全ての項目で認知度の上昇がみられた。特に、「「堺市『子どもがのびる』学びの診断」の分析結果をもとに、各学校が「学力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること」で 3.81 点、「子どもたちの基本的な生活習慣・学習習慣を確立するため、「家での 7 つのやくそく」を決めていること」で 3.52 点と大きな上昇がみられた。

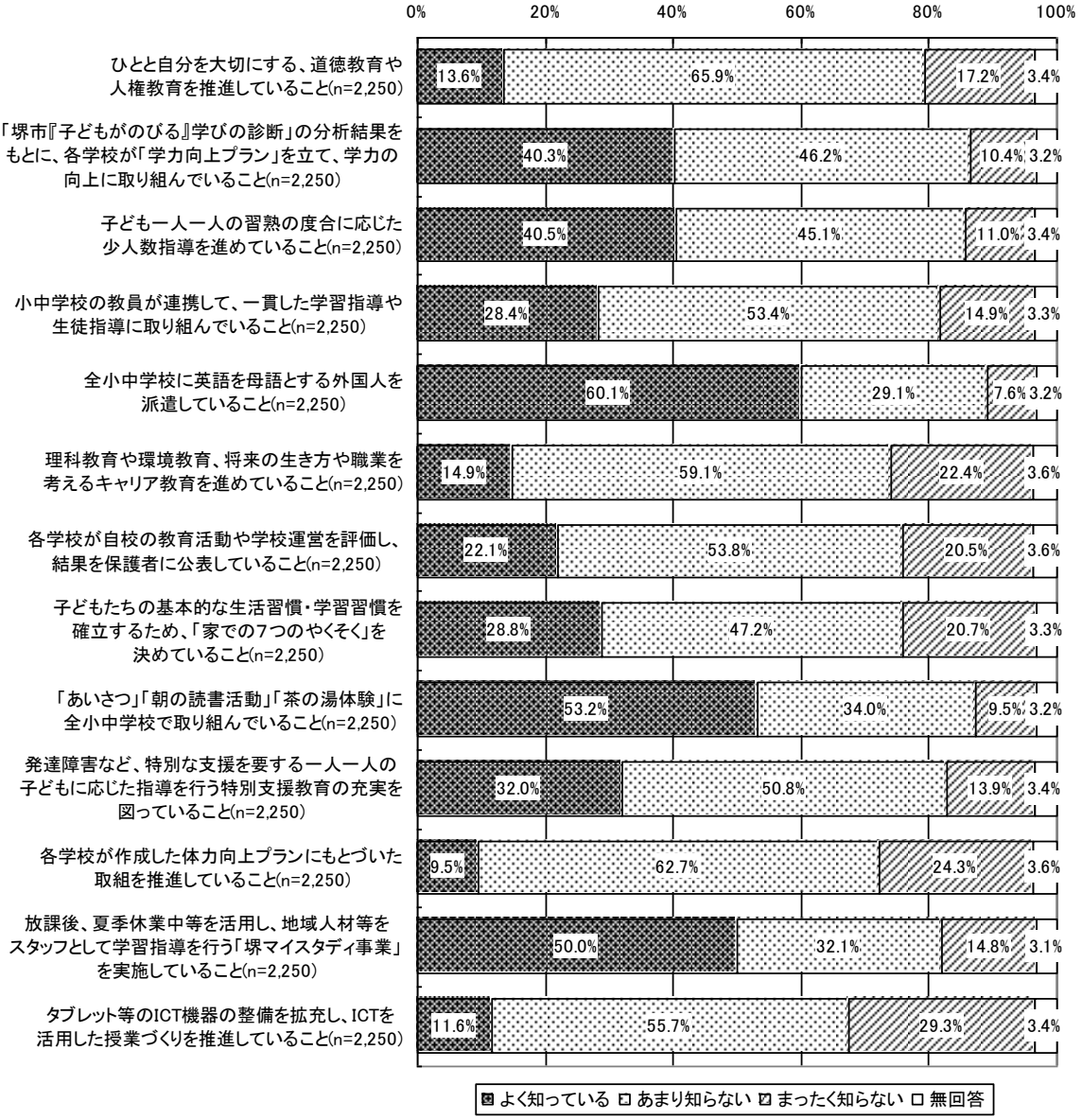
図表 ３-２４　教育委員会や学校の取り組みの認知度【平成 21 年度調査との比較/小学生保護者】



※指標化については、2 ページを参照

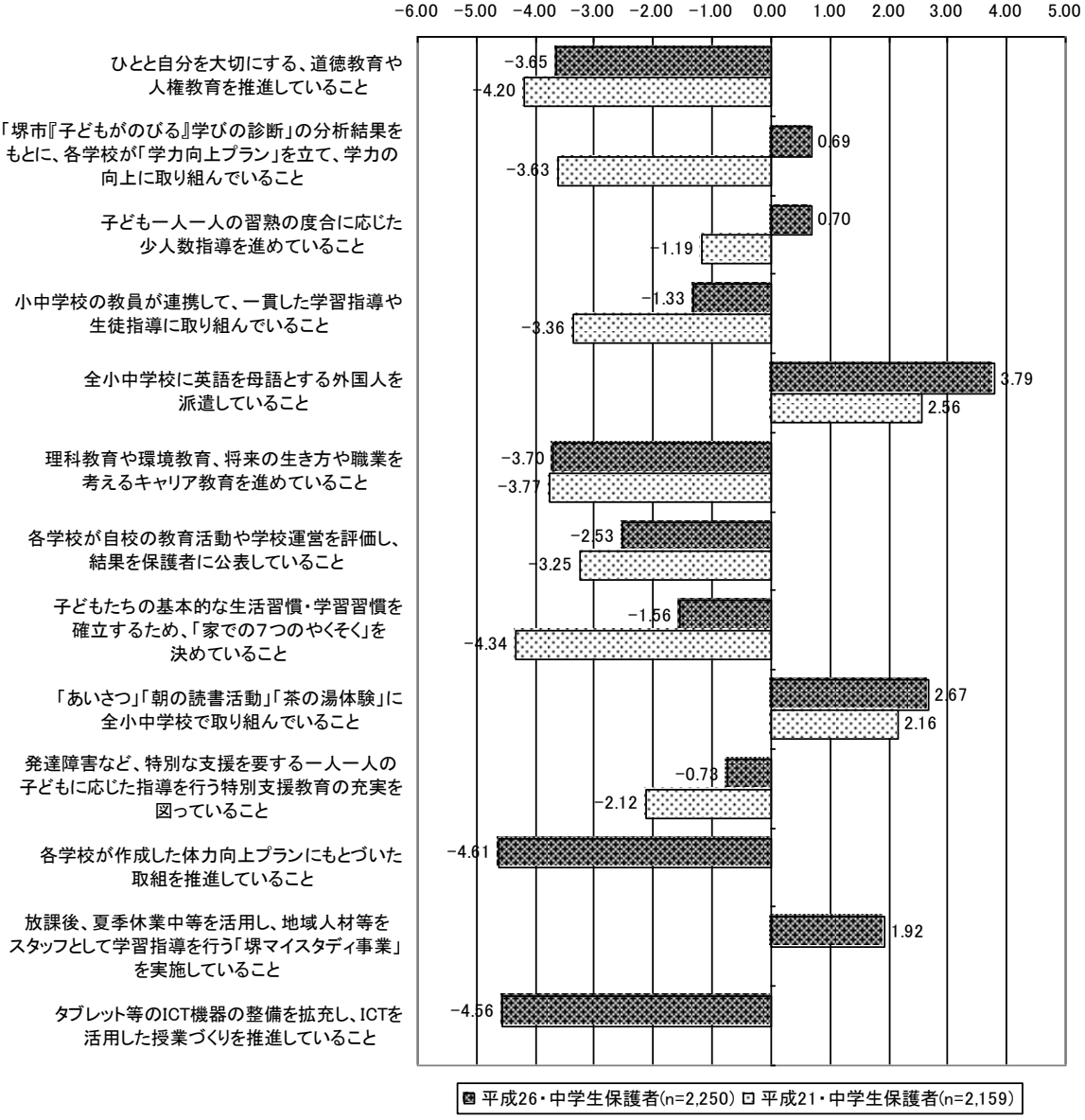
次に、中学生保護者の認知度をみると、「全小中学校に英語を母語とする外国人を派遣していること」で「よく知っている」が 60.1%と最も高く、次いで、「「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に全小中学校で取り組んでいること」53.2%、「放課後、夏季休業中等を活用し、地域人材等をスタッフとして学習指導を行う「堺マイスタディ事業」を実施していること」50.0%と続いている。

図表 3-25 教育委員会や学校の取り組みの認知度【中学生保護者】



認知度を指標化して平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学生保護者においては、全項目で前回調査よりも上昇がみられた。特に、「「堺市『子どもがのびる』学びの診断」の分析結果をもとに、各学校が「学力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること」では、4.32 点の非常に大きな認知度の上昇となった。

図表 3-２６ 教育委員会や学校の取り組みの認知度【平成 21 年度調査との比較/中学生保護者】

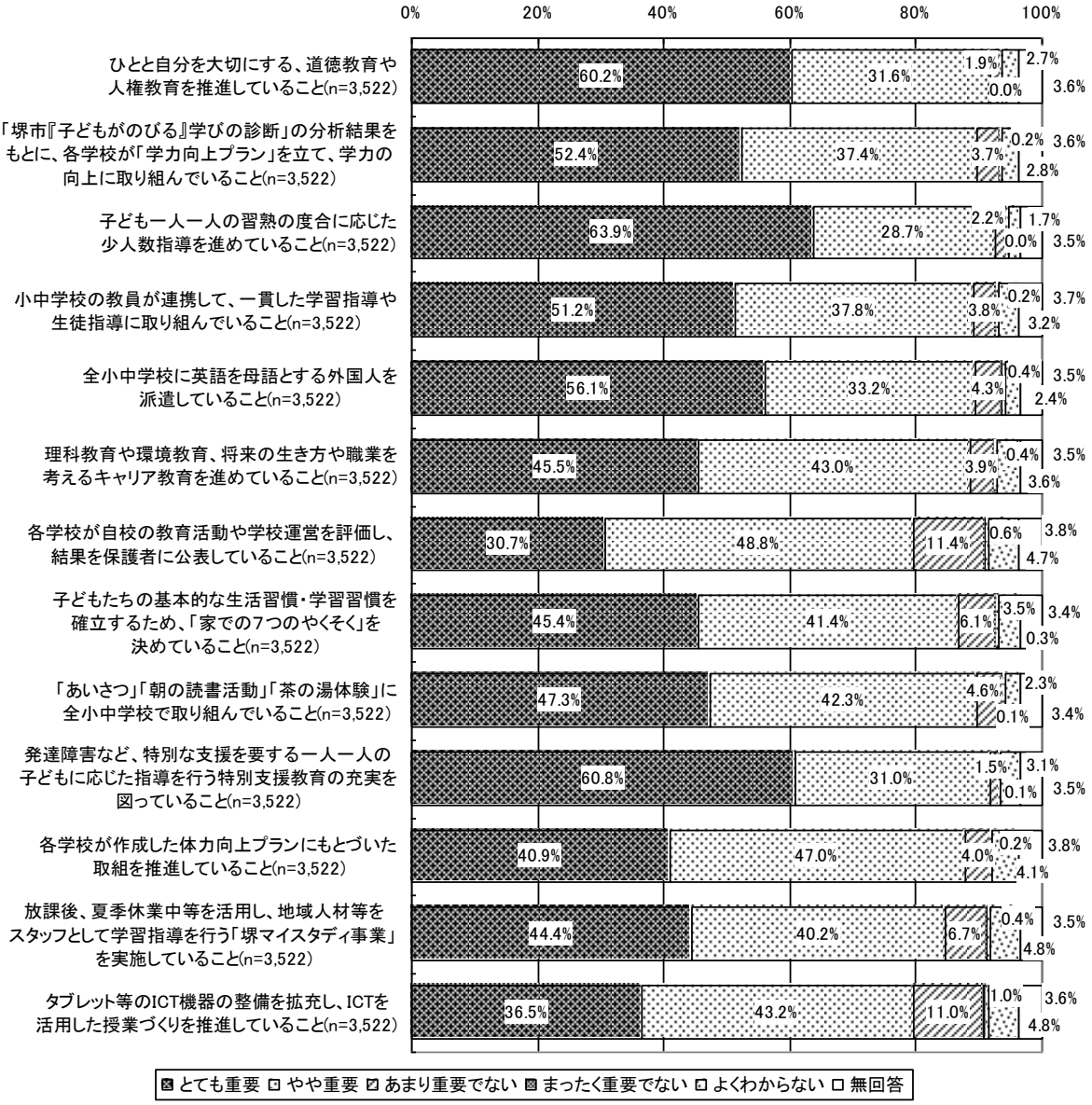


※指標化については、2 ページ参照

②教育委員会や学校の取り組みの重要度

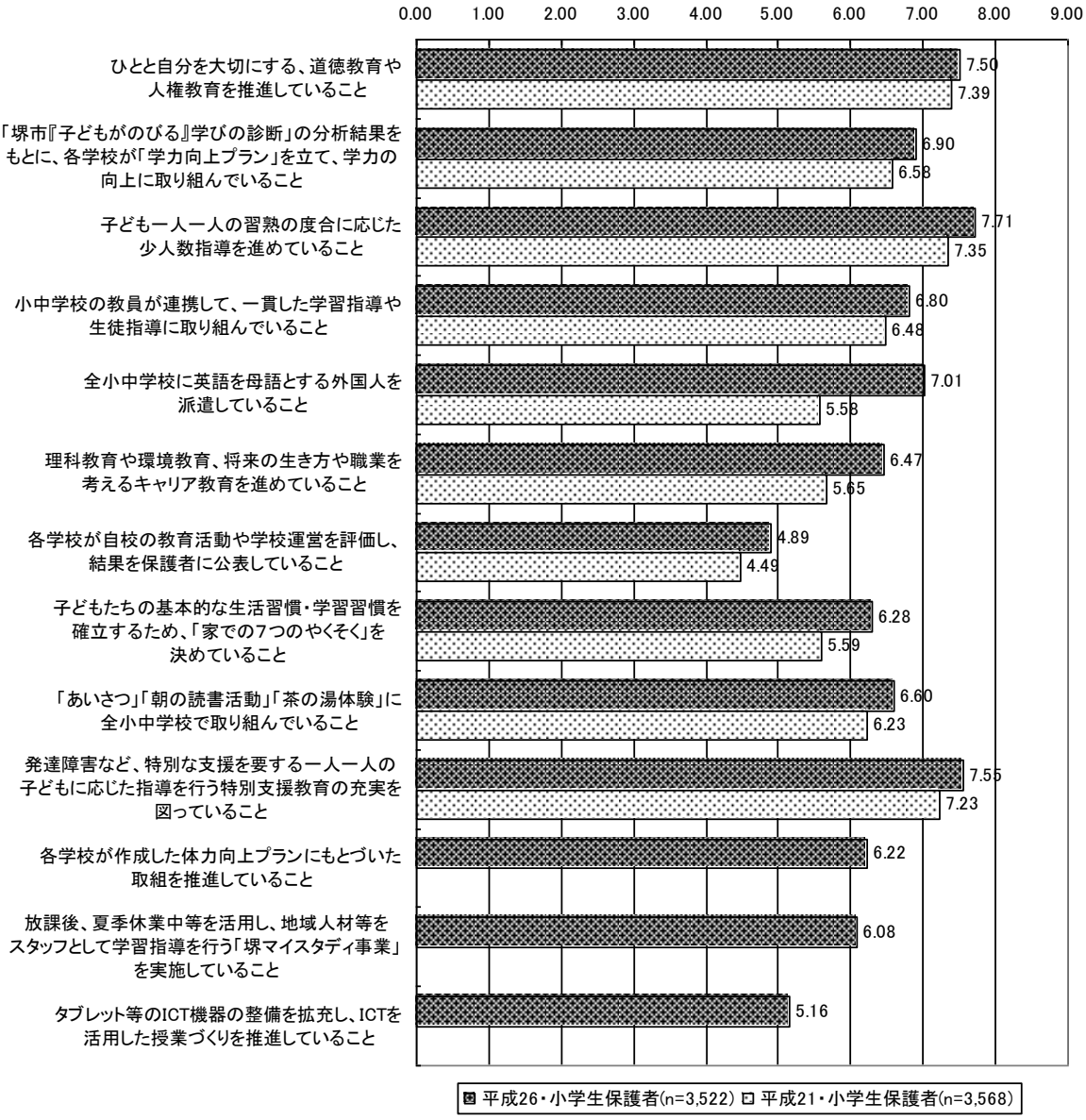
教育委員会や学校の取り組みについて、魅力ある教育を進める上での重要度を聞いたところ、小学生保護者では「子ども一人一人の習熟の度合に応じた少人数指導を進めていること」「発達障害など、特別な支援を要する一人一人の子どもに応じた指導を行う特別支援教育の充実を図っていること」「ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること」で、「とても重要」が 60%を超えて高い割合となっている。

図表 3-27 教育委員会や学校の取り組みの重要度【小学生保護者】



魅力ある教育を進める上での重要度を指標化し、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学生保護者では全ての項目で重要度が上昇傾向となっており、その中でも「全小中学校に英語を母語とする外国人を派遣していること」において、前回調査と比較して 1.43 点の大きな上昇がみられた。

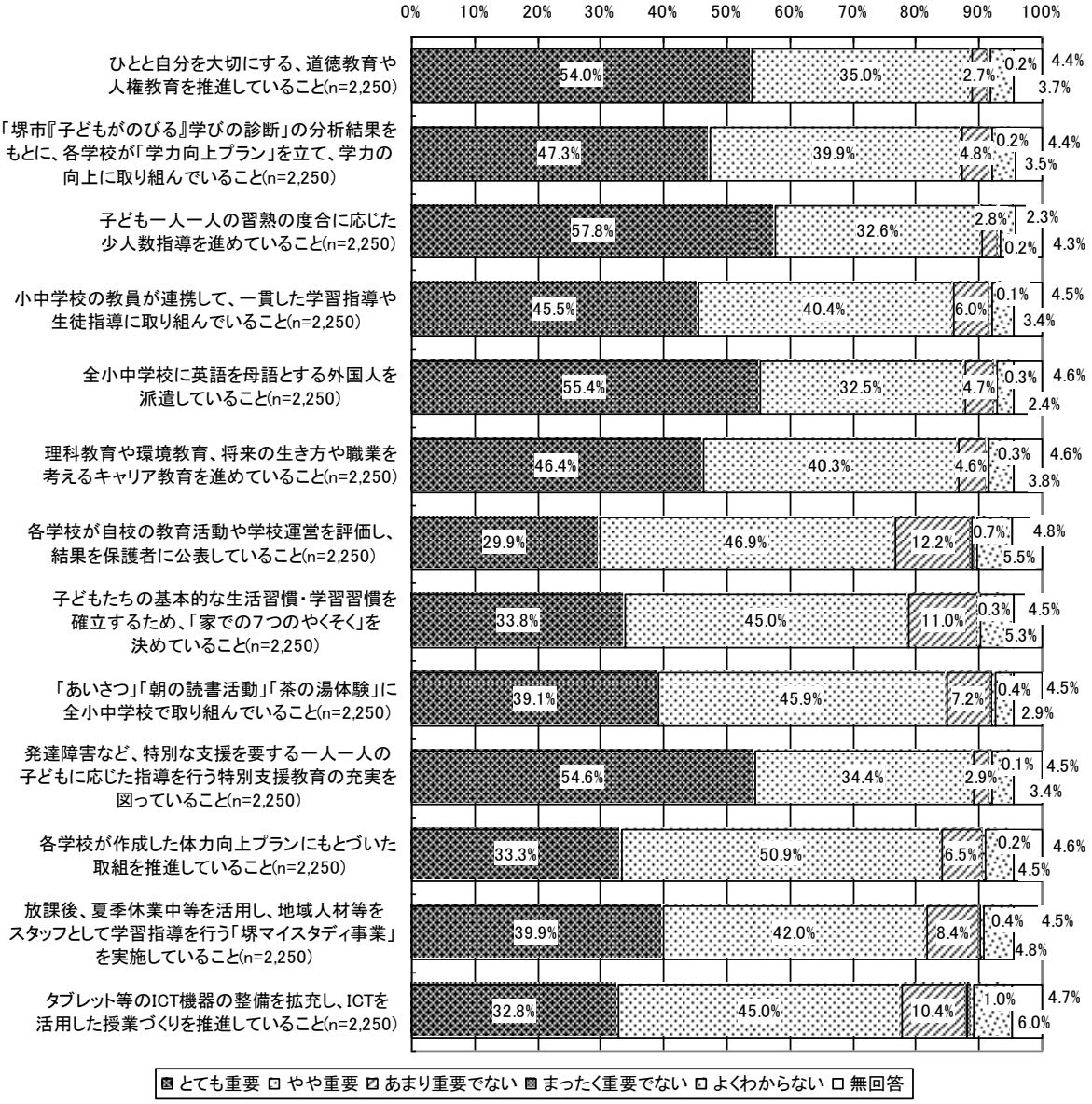
図表 ３-２８　教育委員会や学校の取り組みの重要度【平成 21 年度調査との比較/小学生保護者】



※指標化については、2 ページ参照

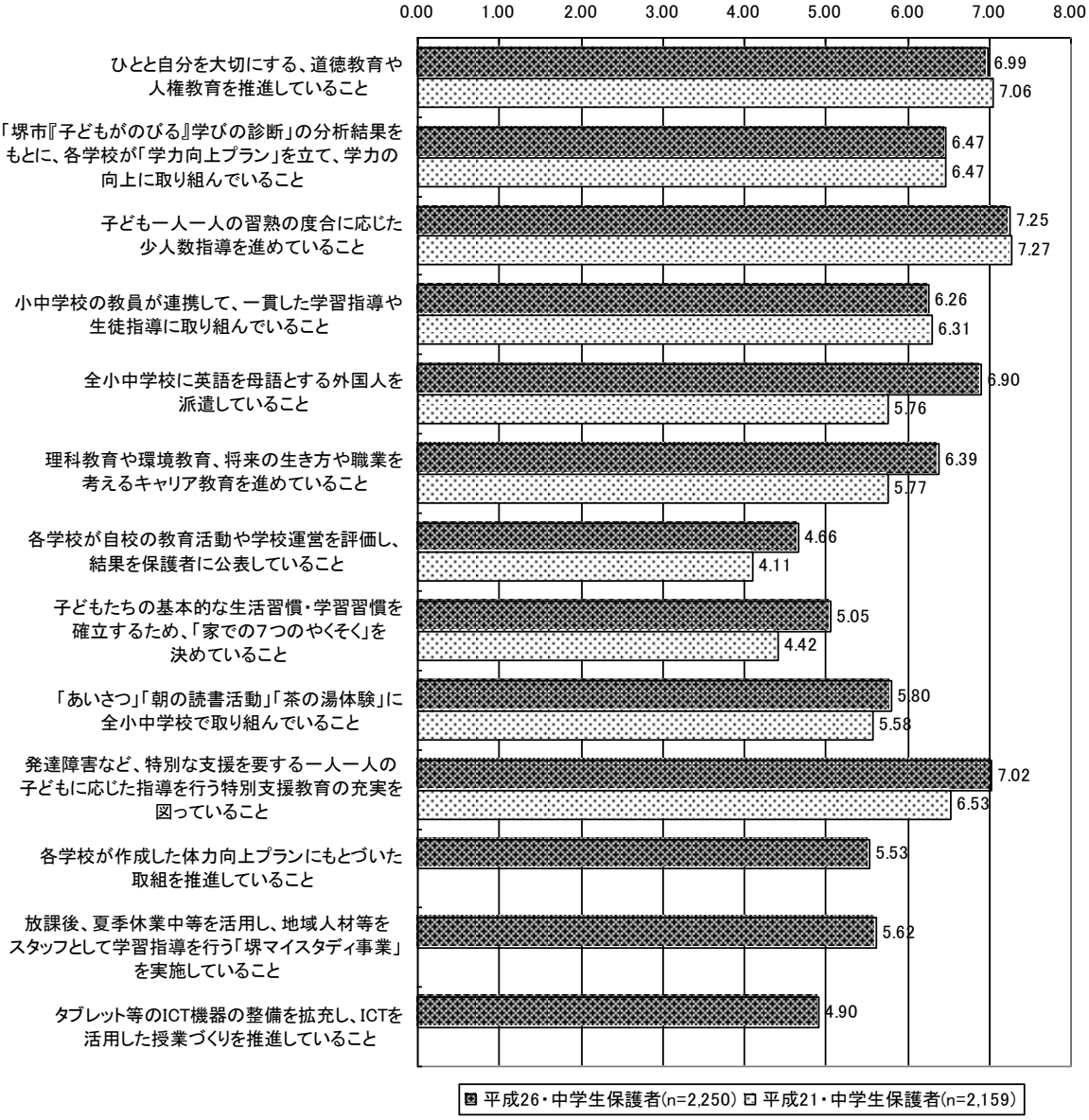
次に、中学生保護者をみると、「子ども一人一人の習熟の度合に応じた少人数指導を進めていること」で「とても重要」が 57.8%でトップ、次いで「全小中学校に英語を母語とする外国人を派遣していること」55.4%、「発達障害など、特別な支援を要する一人一人の子どもに応じた指導を行う特別支援教育の充実を図っていること」54.6%、「ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること」54.0%と続いている。

図表 3-29 教育委員会や学校の取り組みの重要度【中学生保護者】



重要度を平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学生保護者では「全小中学校に英語を母語とする外国人を派遣していること」「子どもたちの基本的な生活習慣・学習習慣を確立するため、「家での 7 つのやくそく」を決めていること」「理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」など 6 項目において、前回調査よりも上昇がみられた。

図表 ３-３０ 教育委員会や学校の取り組みの重要度【平成 21 年度調査との比較/中学生保護者】



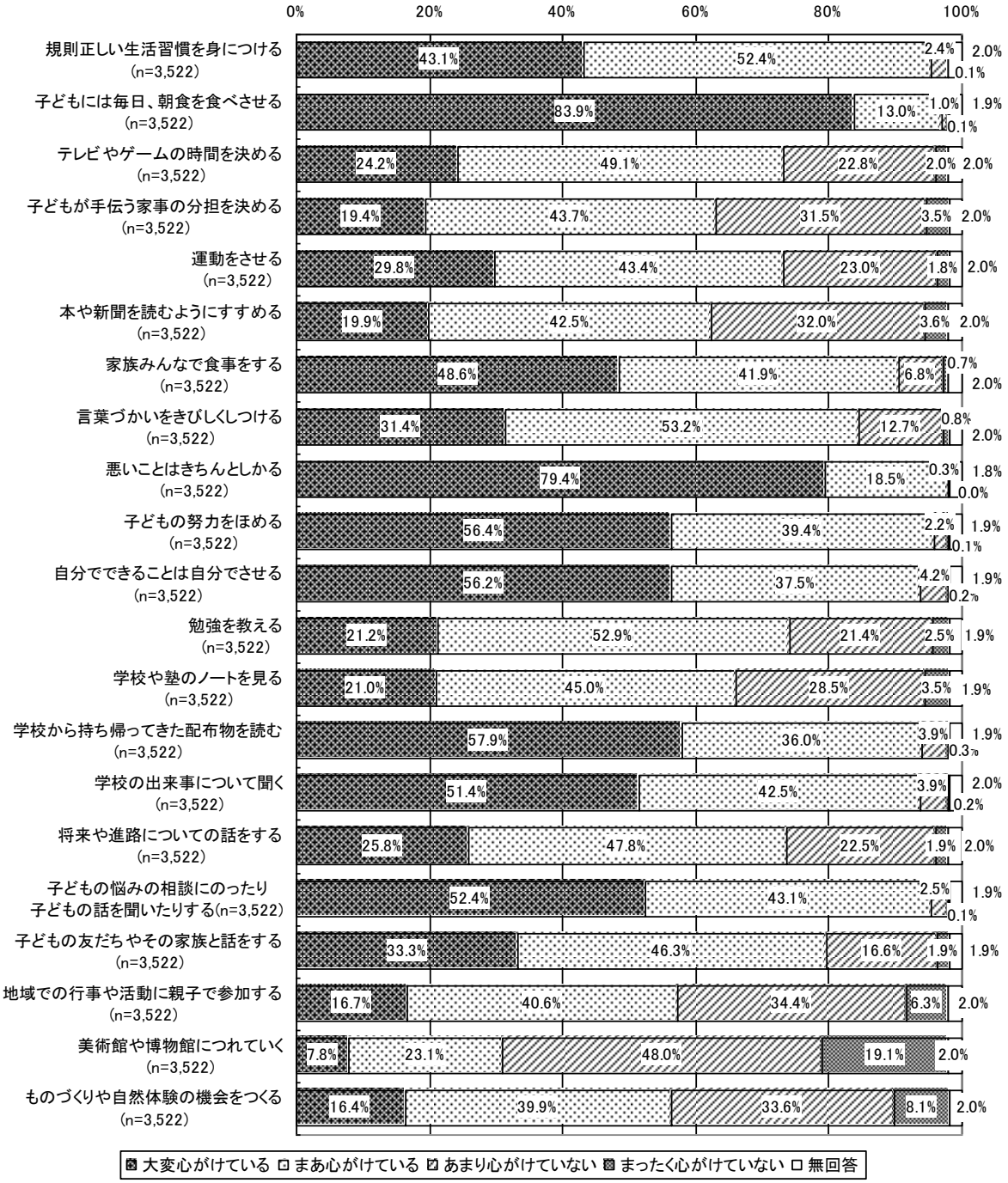
※指標化については、2 ページ参照

（４）家庭教育や放課後の子どもの様子について

１４）子どもとの関わりの中で家庭でしていること

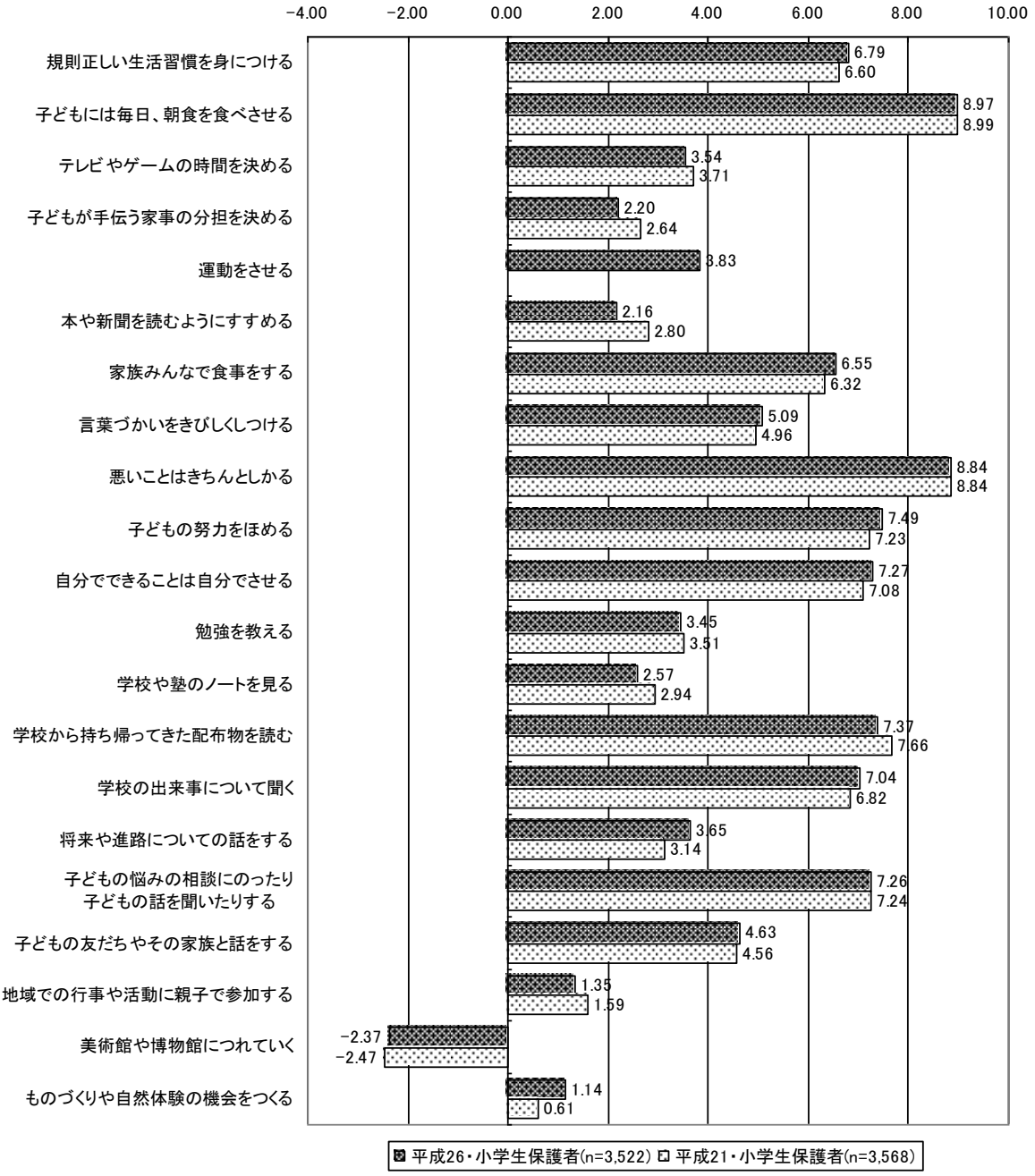
家庭での子どもとの関わりについて聞いたところ、小学生保護者では「子どもには毎日、朝食を食べさせる」「悪いことはきちんとしかる」において、「大変心がけている」がそれぞれ 83.9%、79.4%と高い割合となっている。

図表 ３-３１　子どもとの関わりの中で家庭でしていること【小学生保護者】



子どもとの関わりについて家庭で心がけていることを指標化し、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学生保護者では大きな変化はみられず、「ものづくりや自然体験の機会をつくる」「将来や進路についての話をする」で、それぞれ 0.53 点、0.51 点の上昇、「本や新聞を読むようにすすめる」で 0.64 点の低下がみられた程度であった。

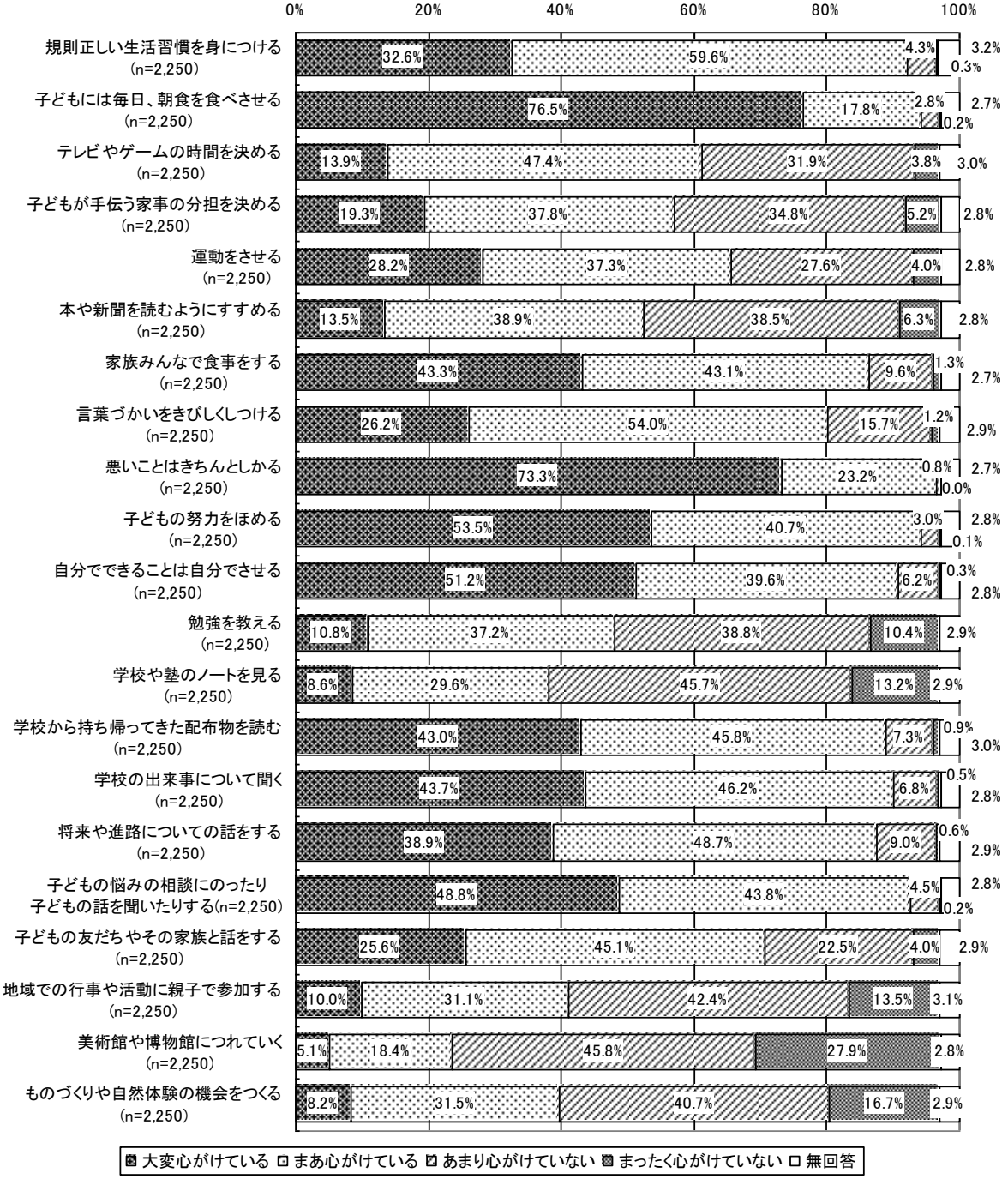
図表 3-32　子どもとの関わりの中で家庭でしていること
【平成 21 年度調査との比較/小学生保護者】



※指標化については、2 ページ参照

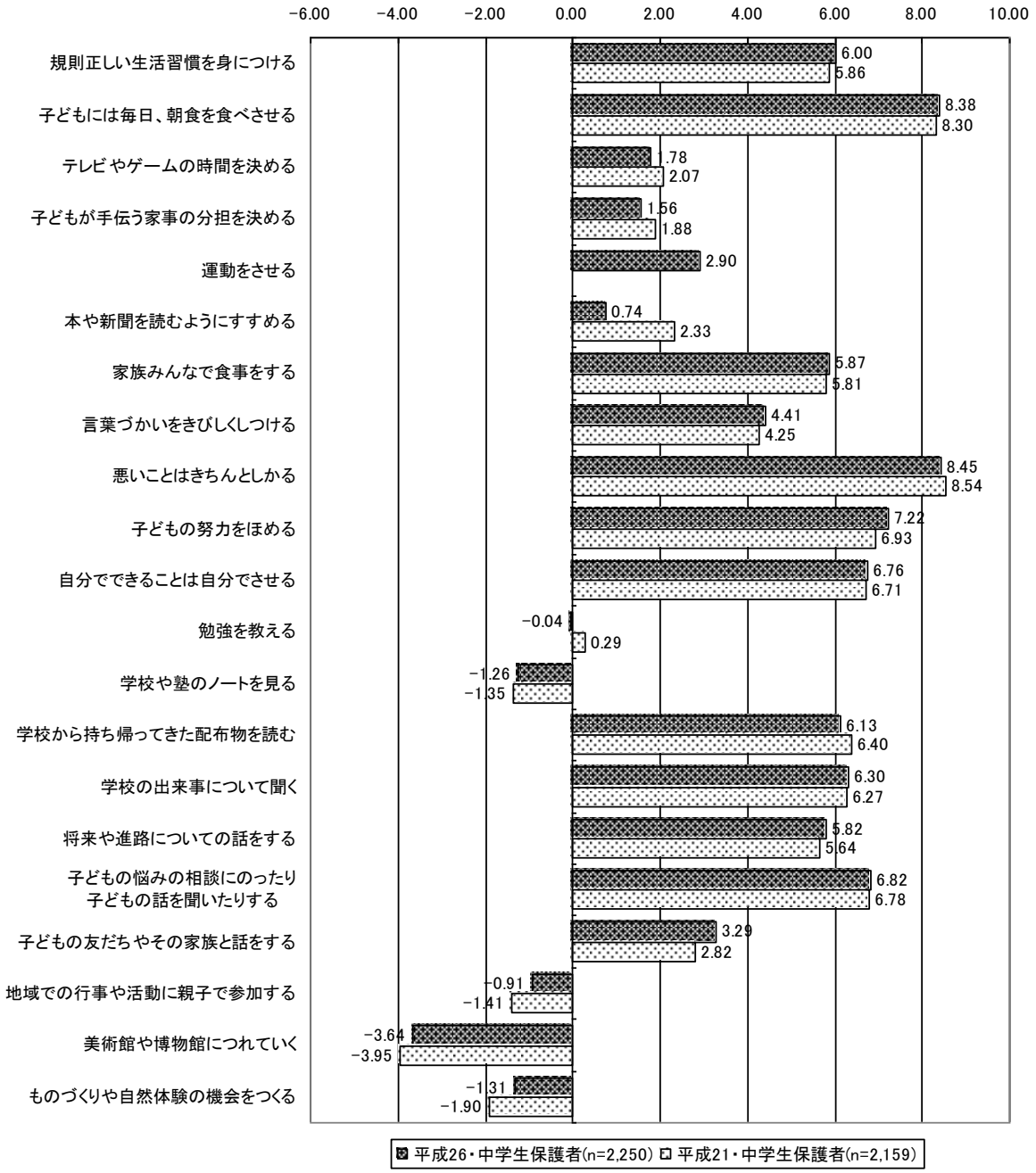
次に、中学生保護者をみると、「子どもには毎日、朝食を食べさせる」で「大変心がけている」が 76.5%で最も高く、次いで、「悪いことはきちんとしかる」73.3%となっている。また、「子どもの努力をほめる」「自分でできることは自分でさせる」においても、半数を超える保護者が「大変心がけている」と回答しており、比較的高い割合となっている。

図表 3-33 子どもとの関わりの中で家庭でしていること【中学生保護者】



家庭で心がけていることを指標化し、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、中学生保護者においても小学生保護者と同様に、全体的に大きな変化はみられないが、「本や新聞を読むようにすすめる」において 1.59 点の大きな低下がみられた。

図表 3-３４　子どもとの関わりの中で家庭でしていること
【平成 21 年度調査との比較/中学生保護者】

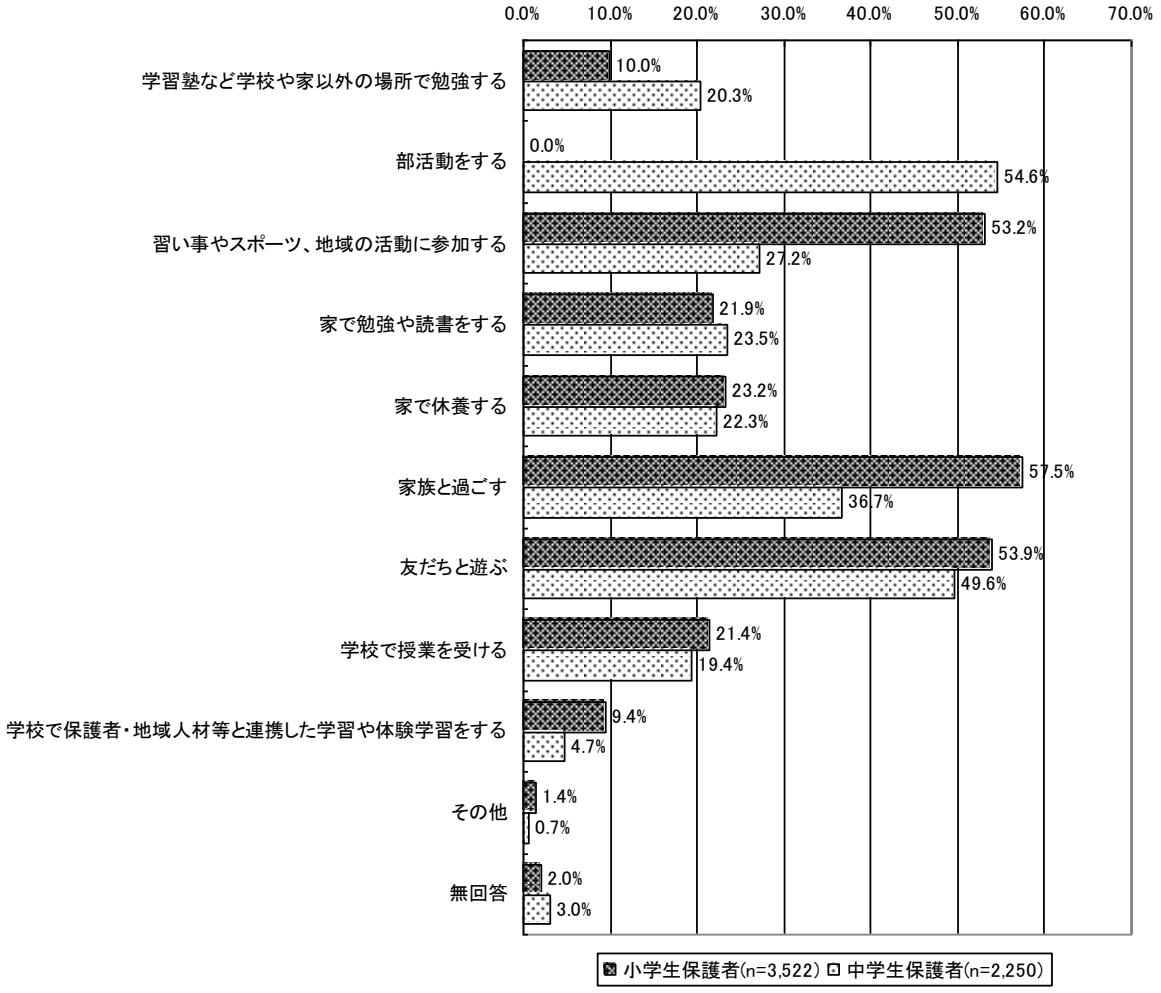


※指標化については、2 ページ参照

１５）子どもにしてほしい土曜日の過ごし方

子どもに、土曜日にどのように過ごしてほしいかを聞いたところ、小学生保護者では「家族と過ごす」「友だちと遊ぶ」「習い事やスポーツ、地域の活動に参加する」が半数を超えて高い割合となっている。一方、中学生保護者では、「部活動をする」が 54.6%で最も高く、次いで「友だちと遊ぶ」が 49.6%で高い割合となっている。

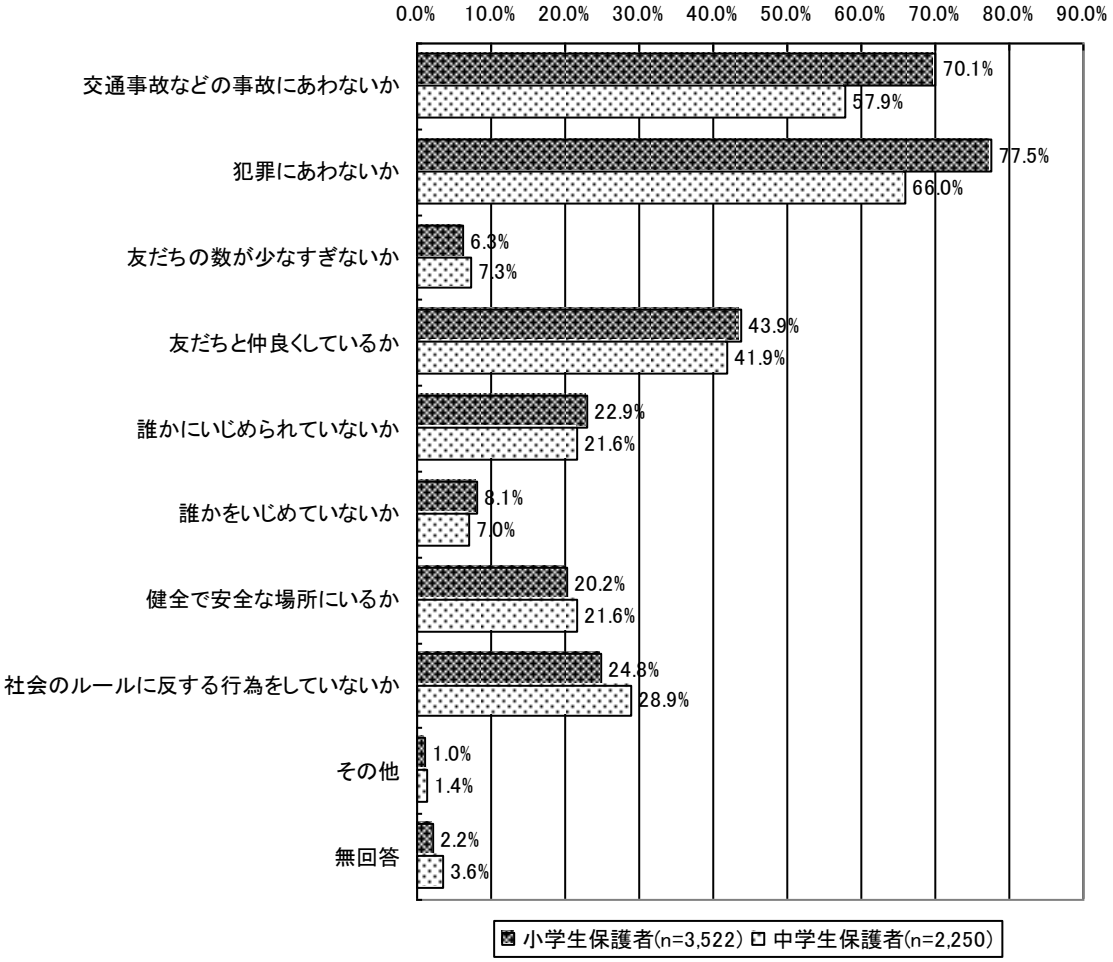
図表 3-３５　子どもにしてほしい土曜日の過ごし方



１６）子どもの生活の中で心配していること

子どもの生活の中で特に心配していることについて聞くと、小学生保護者、中学生保護者とも、「犯罪にあわないか」「交通事故などの事故にあわないか」の割合が高くなっている。

図表 3-３６　子どもの生活の中で心配していること



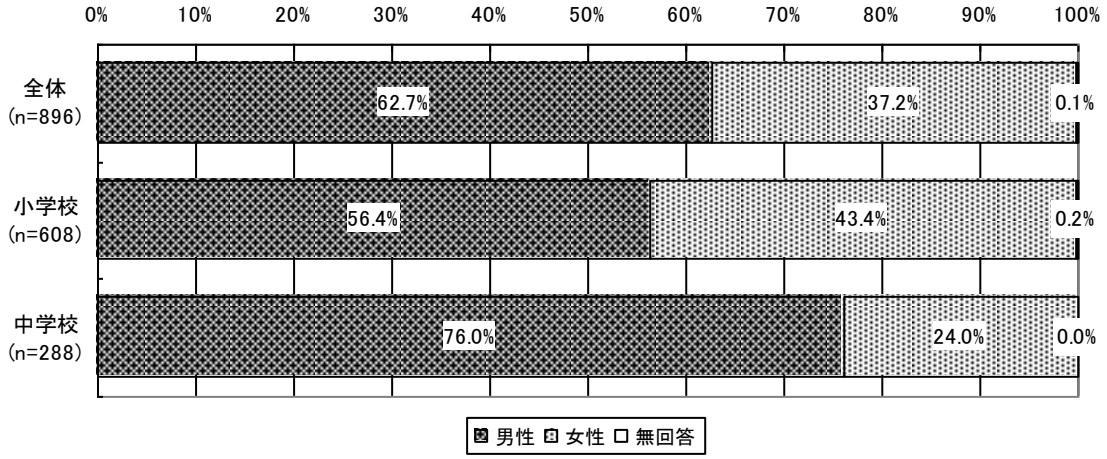
４．教員調査の結果

（１)回答者の属性

１）性別

教員の性別は、「男性」が 62.7%、「女性」が 37.2%となっている。小中学校別では、中学校で「男性」の教員の割合が高くなっている。

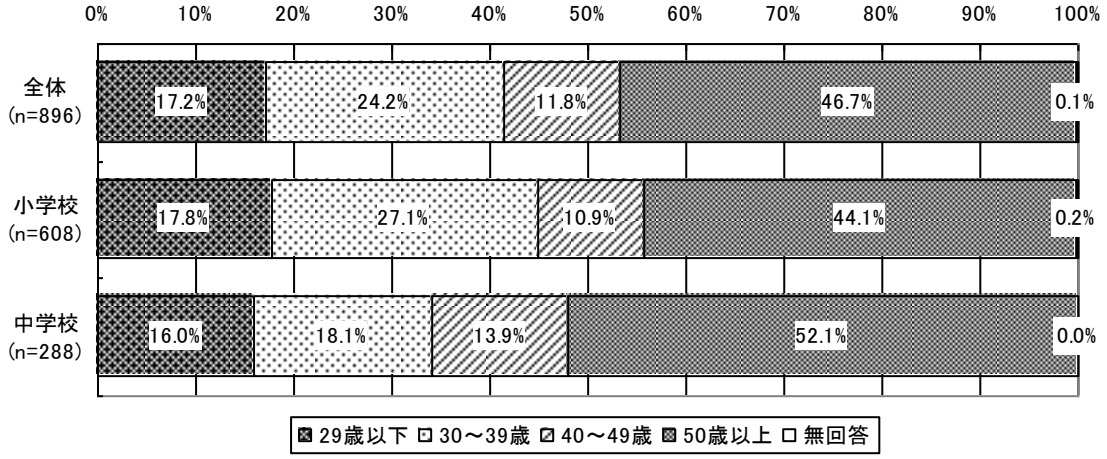
図表　４-１　性別



２）年齢

教員の年齢については、「50 歳以上」が 46.7%で最も高く、中学校では「50 歳以上」の教員が 52.1%と半数を超える。

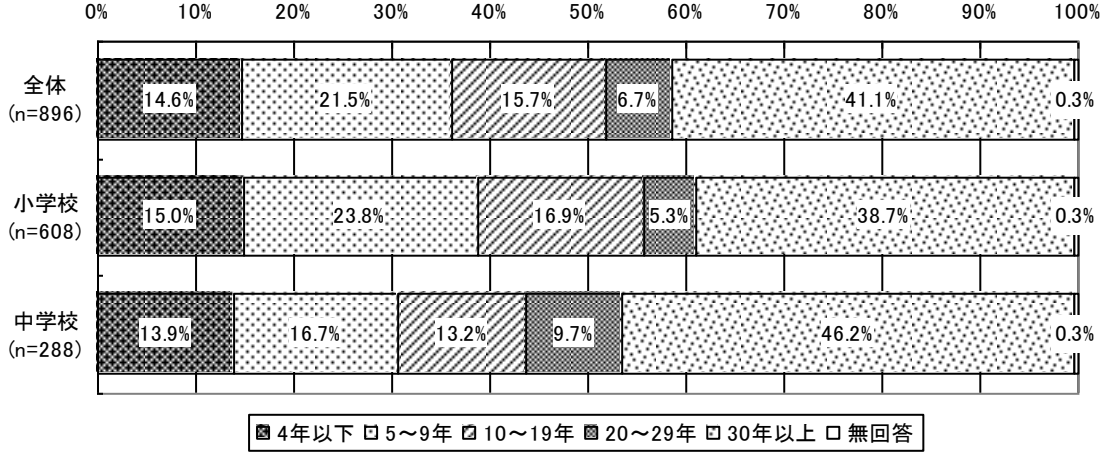
図表　４-２　年齢



３）教職経験

教員の教職経験を聞いたところ、「30 年以上」が 41.1%で最も高く、小中学校別では中学校の「30 年以上」の割合が高くなっている。

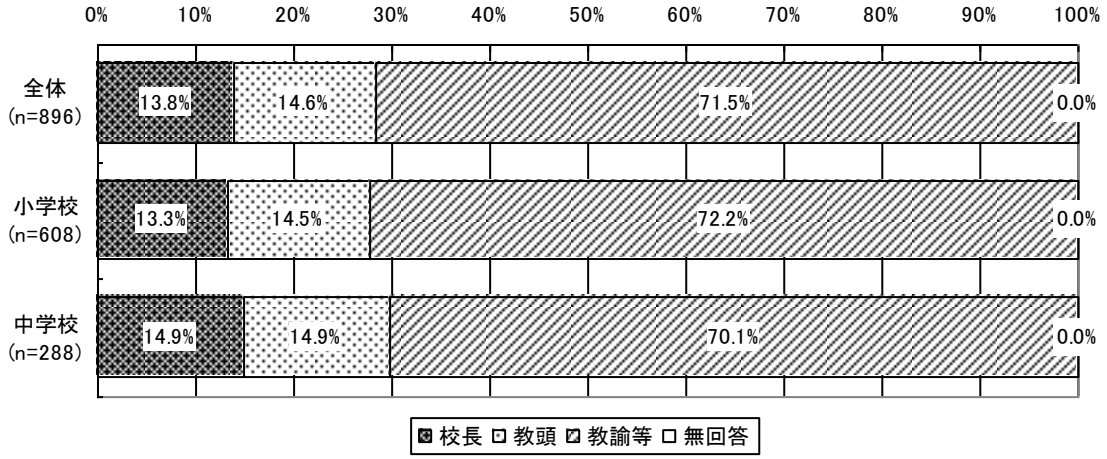
図表 4-3 教職経験



４）職名

教員の職名をみると、回答者の 71.5%が「教諭等」、14.6%が「教頭」、13.8%が「校長」となっている。

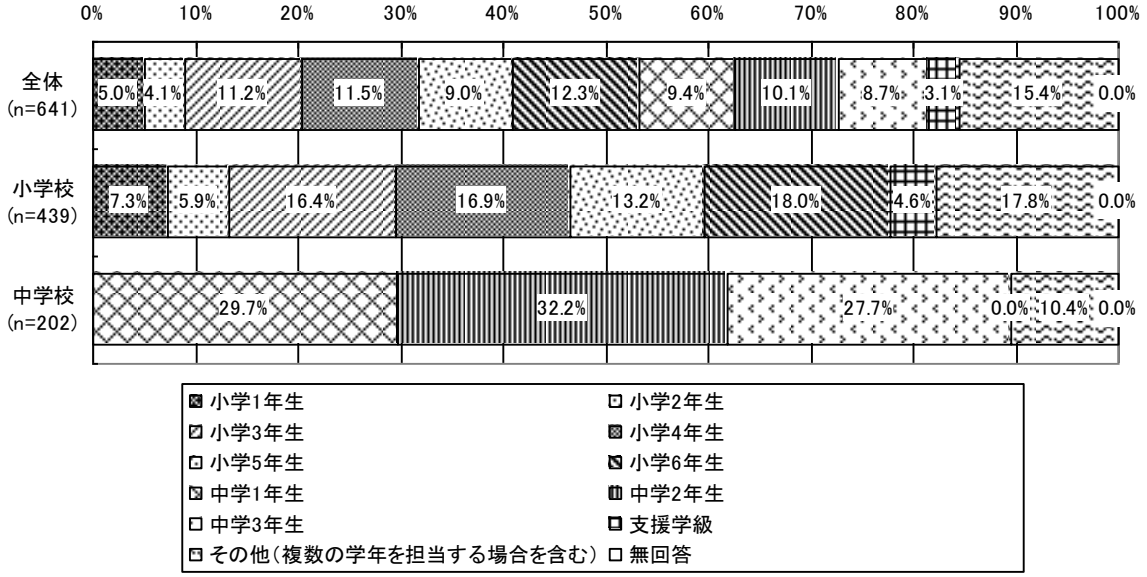
図表 4-4 職名



５）担当学年

教諭等と回答した教員に担当学年を聞いたところ、各学年でほぼ同程度の割合となっており、「支援学級」が 3.1%、「その他（複数の学年を担当する場合を含む）」が 15.4%であった。

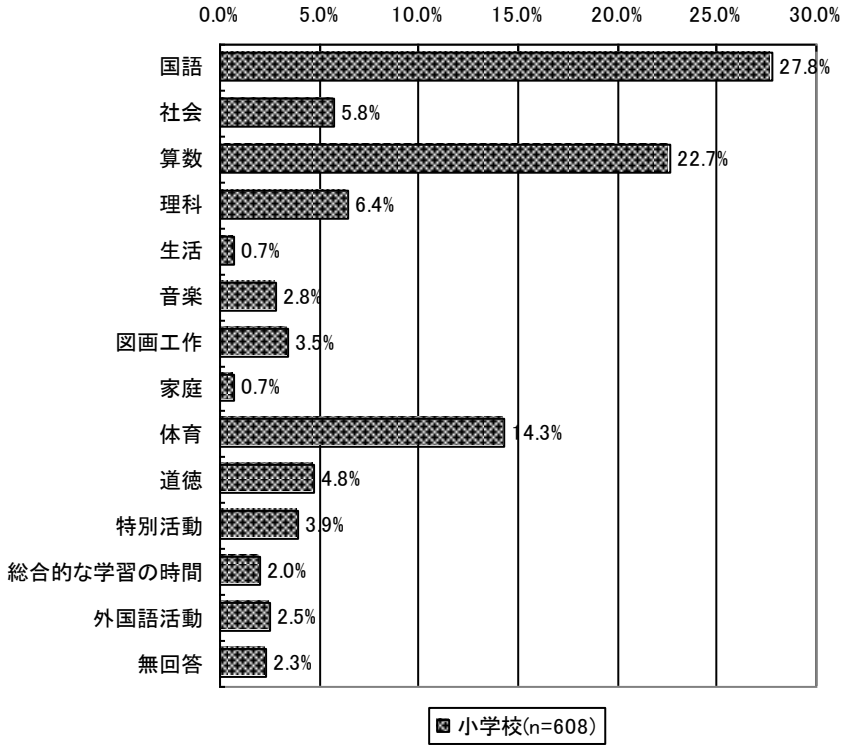
図表 4-5 担当学年



６）現在力を入れて研究している教科や時間（小学校）

小学校の教員に、現在力を入れて研究している教科や時間を聞いたところ、「国語」が27.8％で最も高く、次いで「算数」22.7％、「体育」14.3％、「理科」6.4％、「社会」5.8％と続いている。

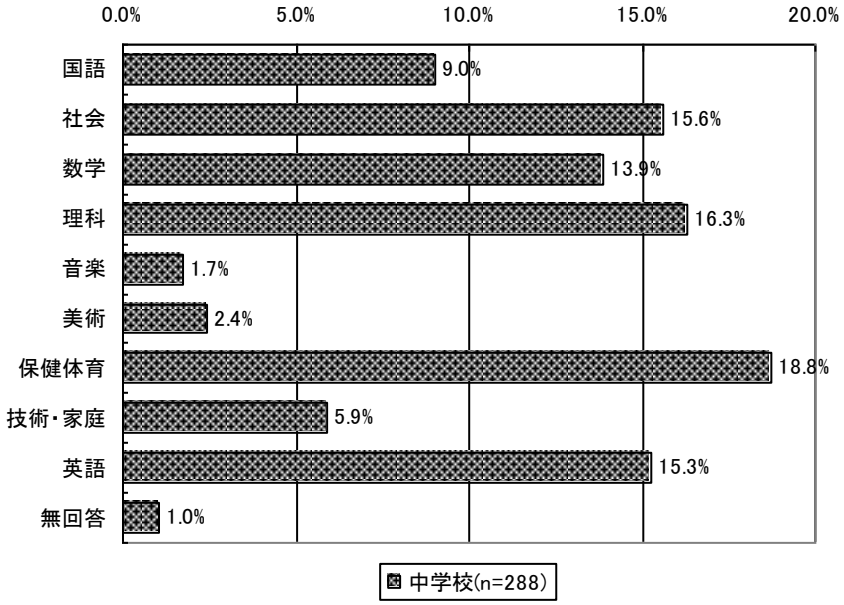
図表 4-6　現在力を入れて研究している教科や時間（小学校）



７）現在担当している教科（中学校）

中学校の教員に、現在担当している教科を聞いたところ、「保健体育」が 18.8%でトップ、次いで「理科」16.3%、「社会」15.6%、「英語」15.3%、「数学」13.9%であった。

図表 ４-７ 現在担当している教科（中学校）

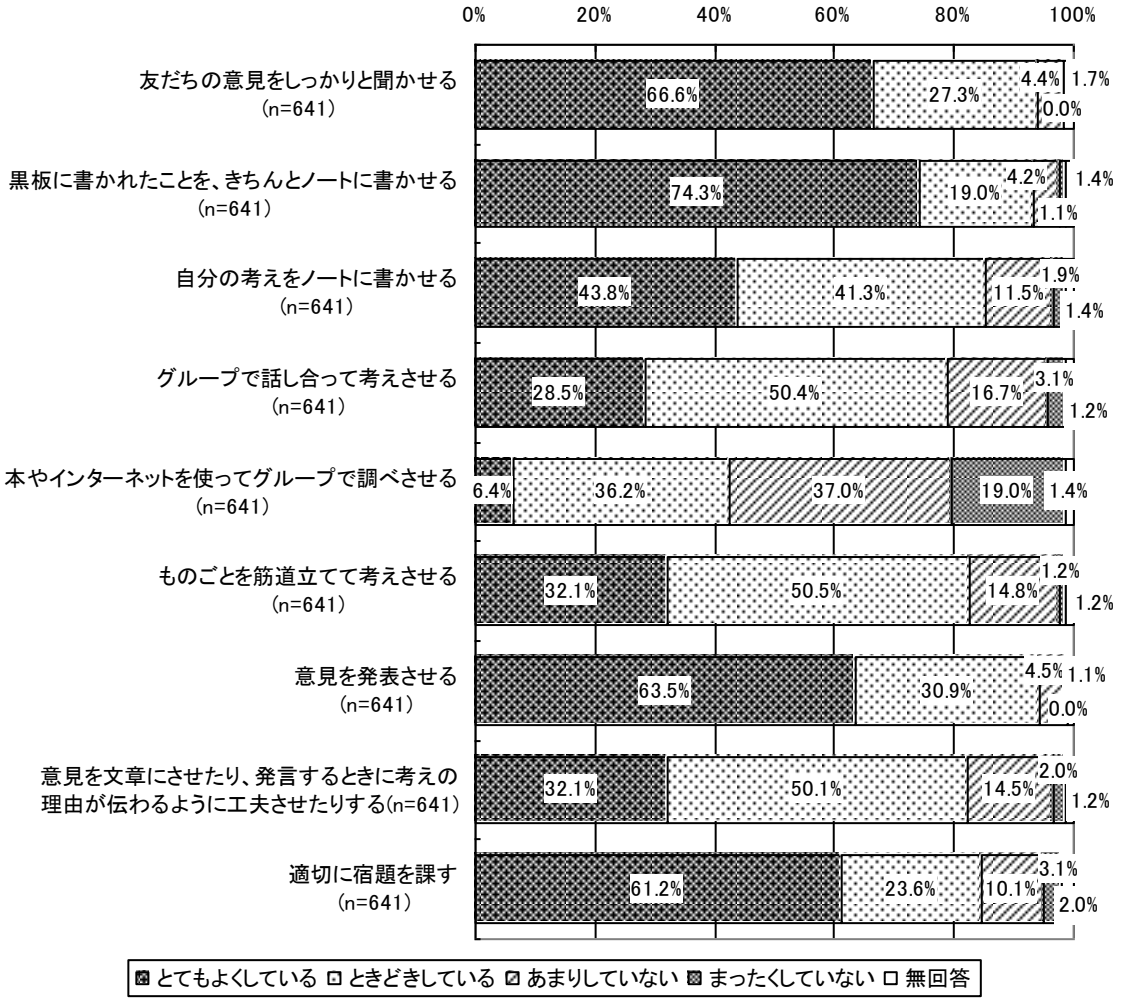


（２)学習指導などの状況

８）学習指導の中で児童生徒にさせていること

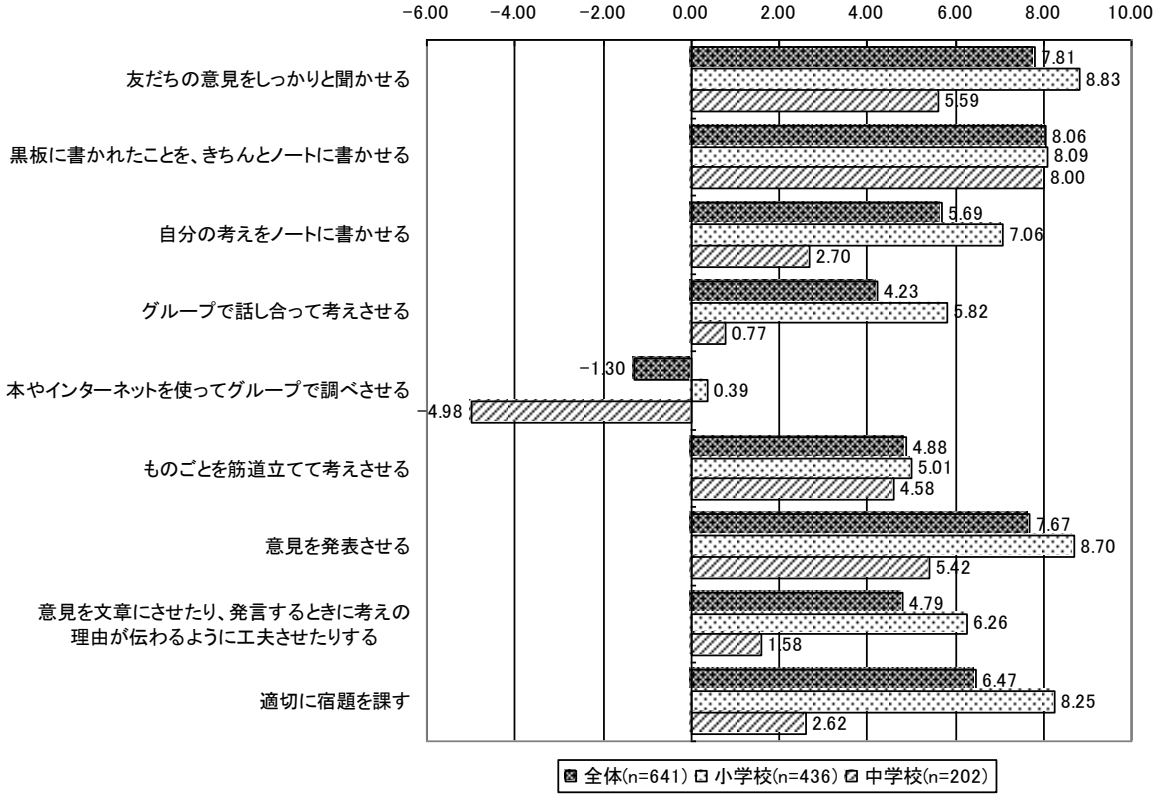
教諭等が、普段の学習指導の中で児童生徒にさせていることについて、「とてもよくしている」と「ときどきしている」を合わせた割合をみると、「意見を発表させる」94.4%、「友だちの意見をしっかりと聞かせる」93.9%、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書かせる」93.3%の 3 項目が 9 割を超えて高い割合となっている。一方、「あまりしていない」と「まったくしていない」を合わせた割合では、「本やインターネットを使ってグループで調べさせる」が 56.0%で、半数を超える教諭等が「あまり/まったくしていない」と回答している。

図表 4-8 学習指導の中で児童生徒にさせていること（教諭等）



次に、指標化して小中学校別に比較すると、全体的に小学校教員において中学校教員よりも高い点数となっており、特に「本やインターネットを使ってグループで調べさせる」「適切に宿題を課す」「グループで話し合って考えさせる」では、5 点以上の大きな開きがみられた。

図表 4-9 学習指導の中で児童生徒にさせていること（教諭等）【小中学校別】

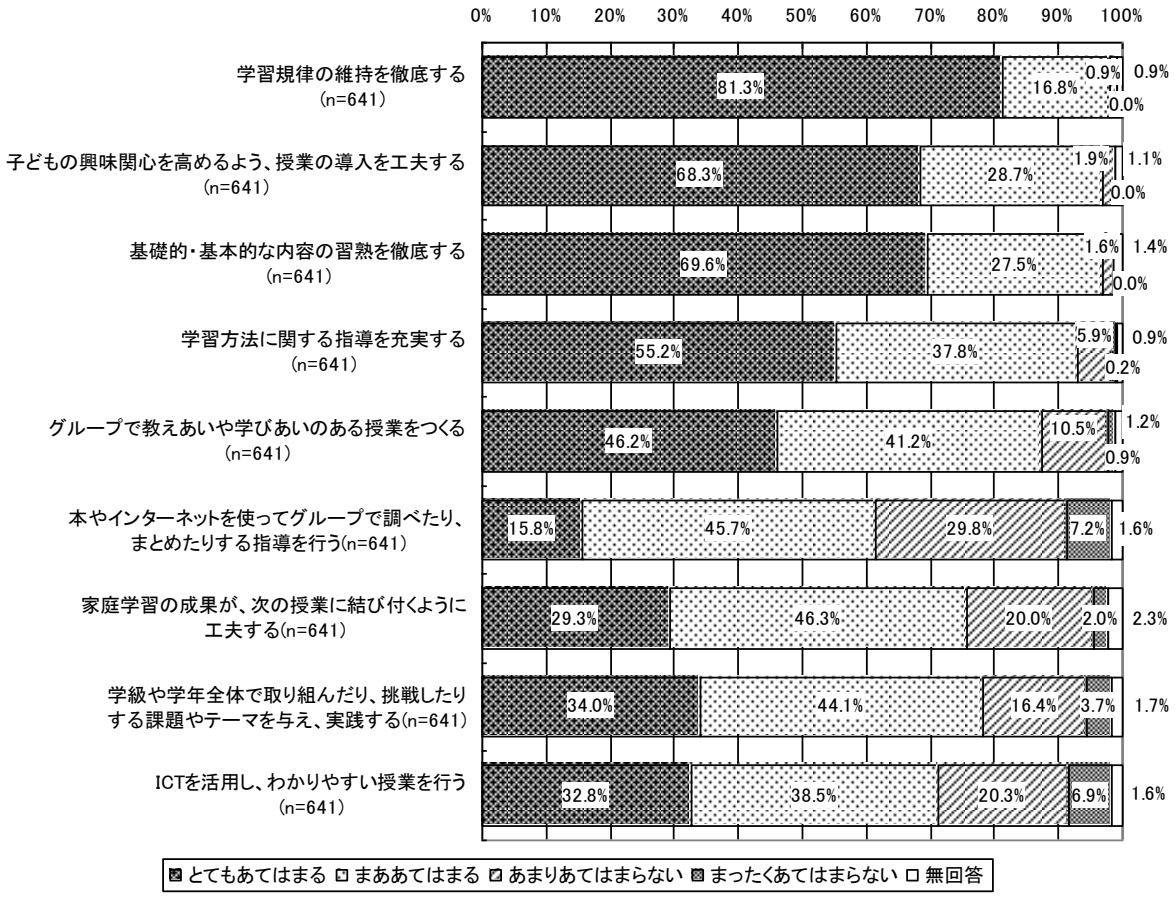


※指標化については、2 ページ参照

９）今後の学習指導の中で力を入れたいこと

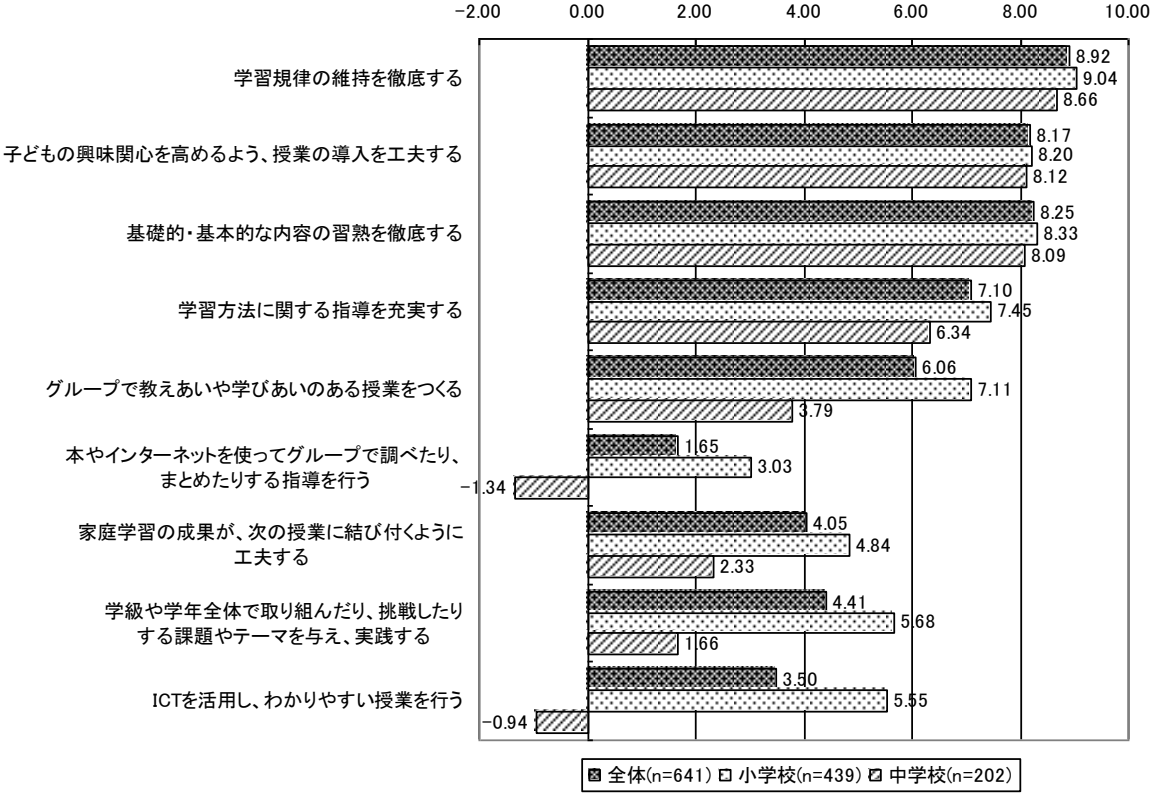
教諭等に、今後の学習指導の中で力を入れたいことを聞いたところ、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を合わせた割合では、「学習規律の維持を徹底する」「基礎的・基本的な内容の習熟を徹底する」「子どもの興味関心を高めるよう、授業の導入を工夫する」で、それぞれ 98.1%、97.1%、97.0%と 9 割を超えて高い割合となっている。一方、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせた割合では、「本やインターネットを使ってグループで調べたり、まとめたりする指導を行う」の 37.0%が最も高い。

図表 ４-１０　今後の学習指導の中で力を入れたいこと（教諭等）



次に、指標化して小中学校別に比較すると、全項目で小学校教員が高い点数となっている。特に「ICT を活用し、わかりやすい授業を行う」で 6.49 点、「本やインターネットを使ってグループで調べたり、まとめたりする指導を行う」で 4.37 点、「学級や学年全体で取り組んだり、挑戦したりする課題やテーマを与え、実践する」で 4.02 点と、小学校教員と中学校教員で大きな点数の開きがみられた。

図表 4-11 今後の学習指導の中で力を入れたいこと（教諭等）【小中学校別】

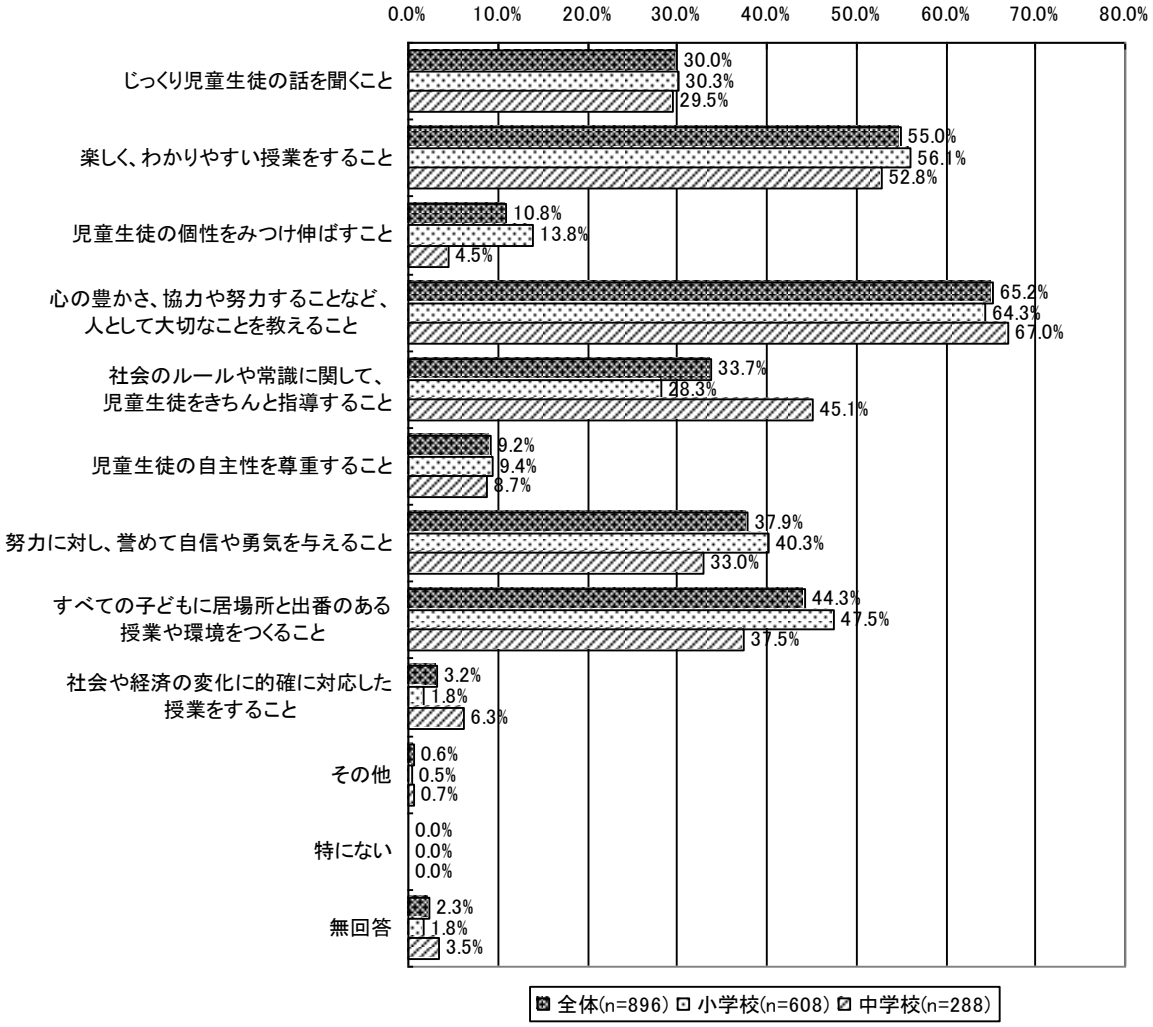


※指標化については、2 ページ参照

１０）児童生徒に対して一層力を入れようと考えていること

児童生徒に対して一層力を入れようと考えていることを聞いたところ、「心の豊かさ、協力や努力することなど、人として大切なことを教えること」が 65.2%で最も高く、次いで、「楽しく、わかりやすい授業をすること」55.0%、「すべての子どもに居場所と出番のある授業や環境をつくること」44.3%と続いている。また、小中学校別では、「社会のルールや常識に関して、児童生徒をきちんと指導すること」において、中学校教員が小学校教員よりも 16.8 ポイント高く、大きな差がみられた。

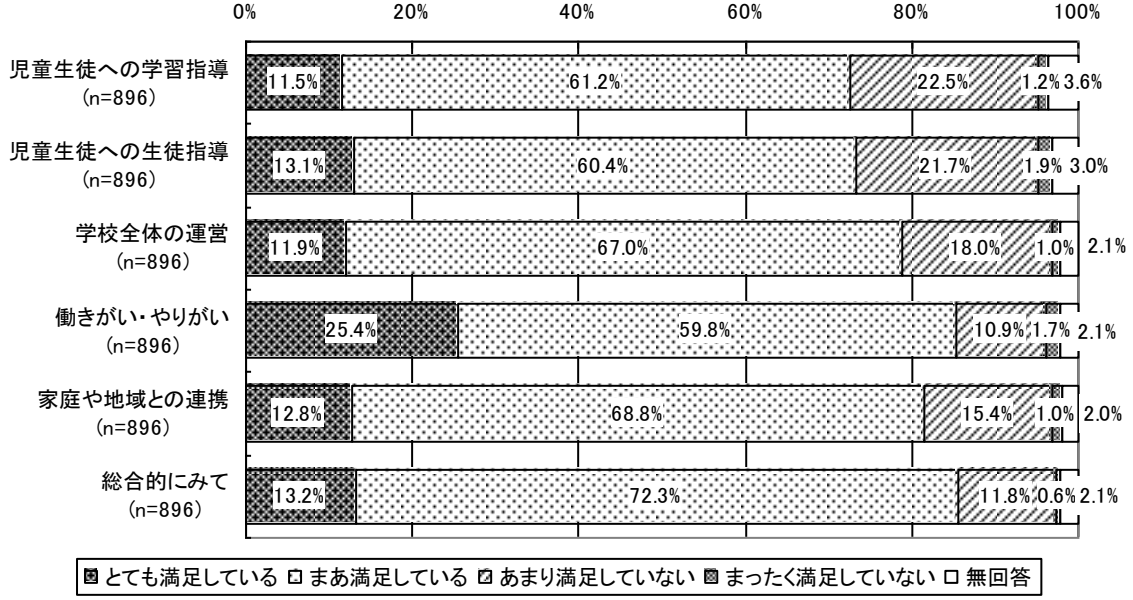
図表 4-１２　児童生徒に対して一層力を入れようと考えていること



１１）学校での勤務の満足度

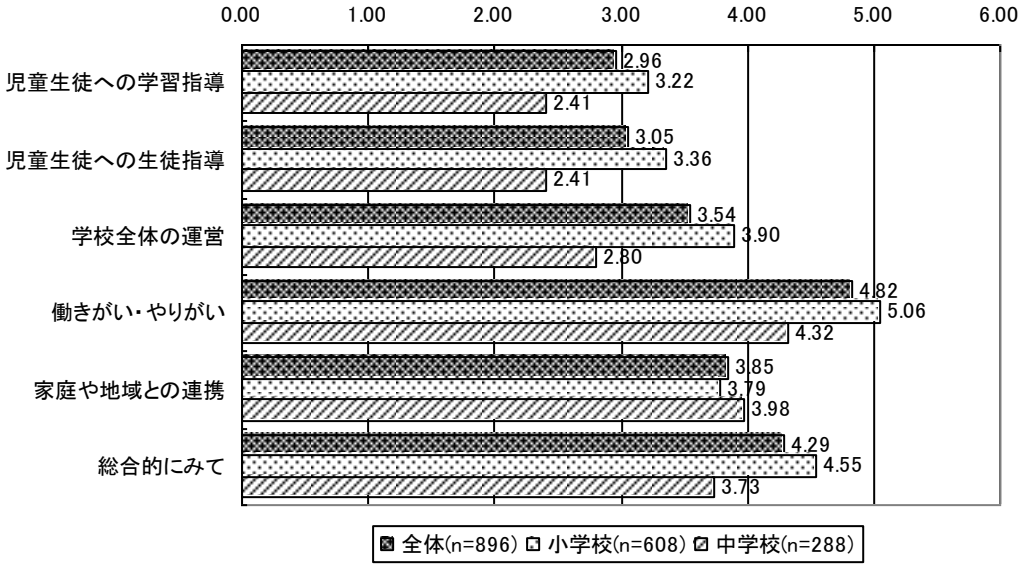
学校での勤務の満足度について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた概ね「満足している」と回答した割合は、いずれの項目でも 7 割を超えている。

図表 4-１３　学校での勤務の満足度



満足度を指標化して小中学校別に比較すると、「家庭や地域との連携」を除き、小学校教員の方が満足度が高い傾向がみられた。

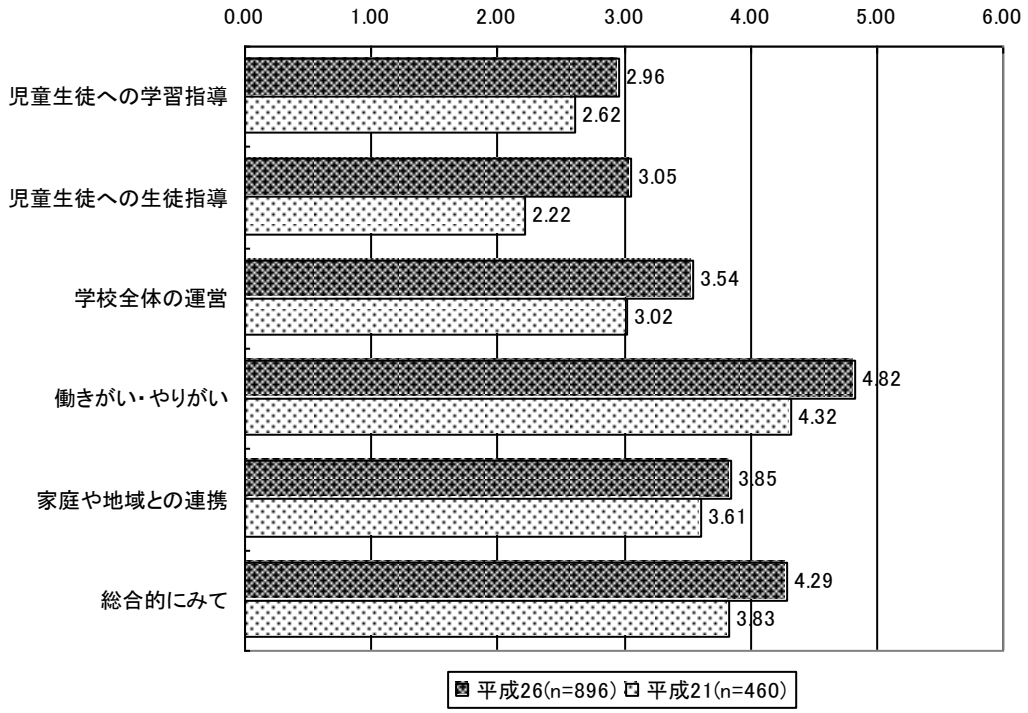
図表 4-１４　学校での勤務の満足度【小中学校別】



※指標化については、2 ページ参照

次に、満足度について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、前回調査よりも満足度は上昇しており、「児童生徒への生徒指導」で 0.83 点、「学校全体の運営」で 0.52 点、「働きがい・やりがい」で 0.50 点の上昇となっている。

図表 4-１５　学校での勤務の満足度【平成 21 年度調査との比較】

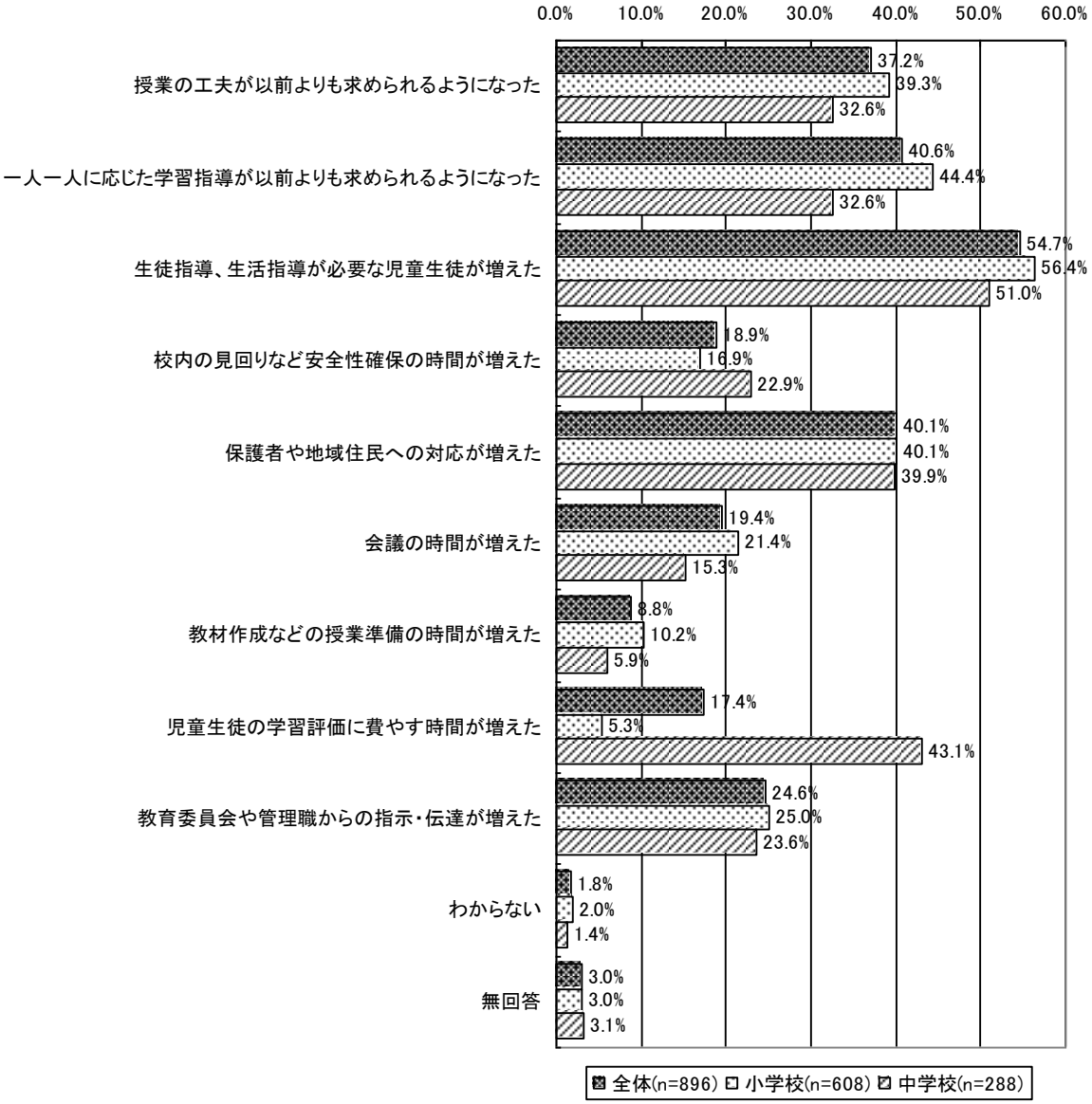


※指標化については、2 ページ参照

１２）勤務していて変化を感じること

勤務していて変化を感じることを聞くと、「生徒指導、生活指導が必要な児童生徒が増えた」の割合が 54.7%で最も高く、他に「一人一人に応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」40.6%、「保護者や地域住民への対応が増えた」40.1%が比較的高い割合となっている。また、中学校教員において「児童生徒の学習評価に費やす時間が増えた」の割合が 43.1%で、小学校教員と比べて非常に高く、突出している。

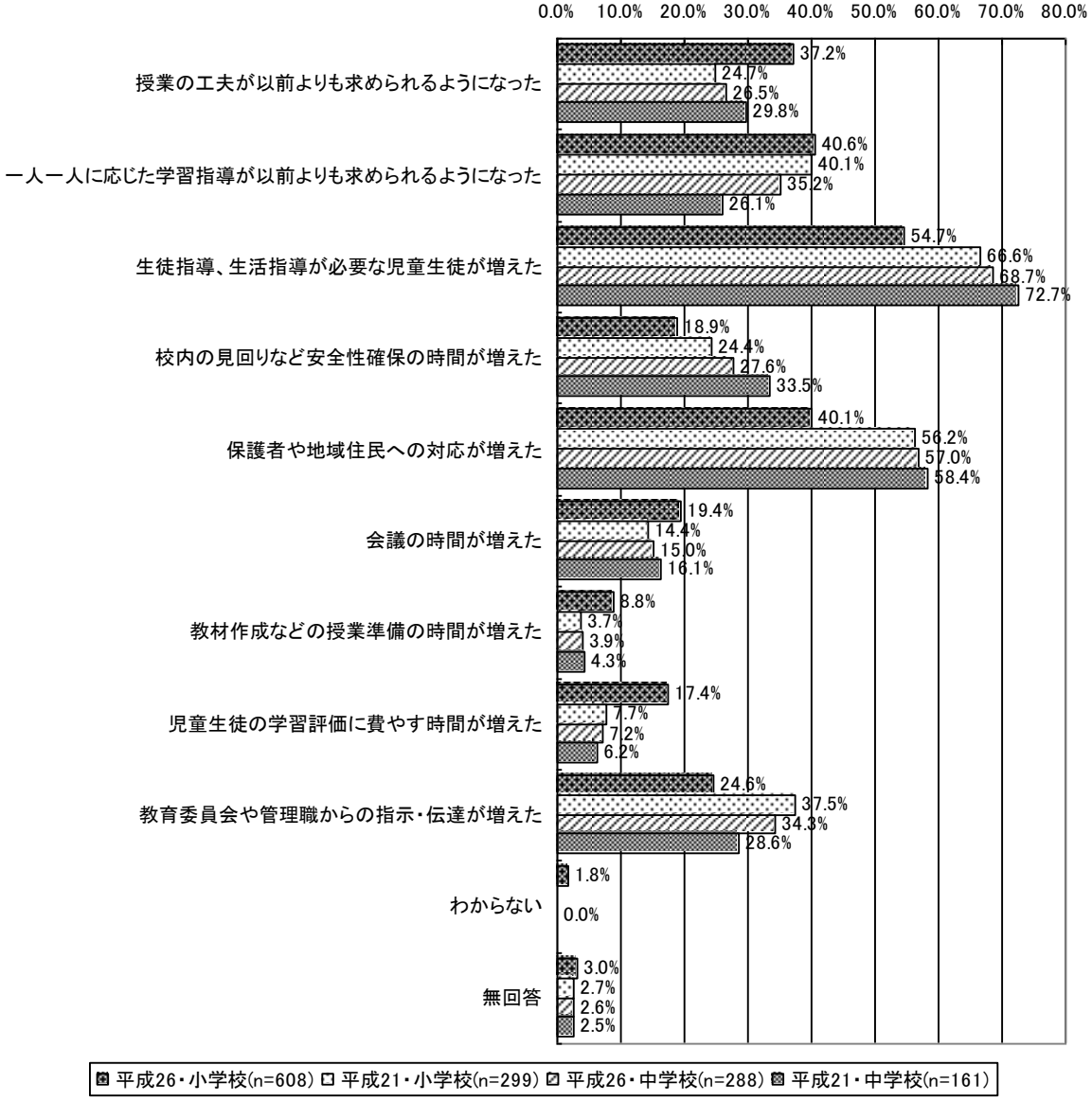
図表 4-１６　勤務していて変化を感じること



次に、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、小学校教員では「授業の工夫が以前よりも求められるようになった」で 12.5 ポイントの大きな上昇がみられたが、「保護者や地域住民への対応が増えた」「教育委員会や管理職からの指示・伝達が増えた」「生徒指導、生活指導が必要な児童生徒が増えた」においては、それぞれ 16.1 ポイント、12.9 ポイント、11.9 ポイントの大きな低下となっている。

一方、中学校教員では「一人一人に応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」において、9.1 ポイントの上昇がみられたが、10 ポイント以上の大きな変化はなかった。

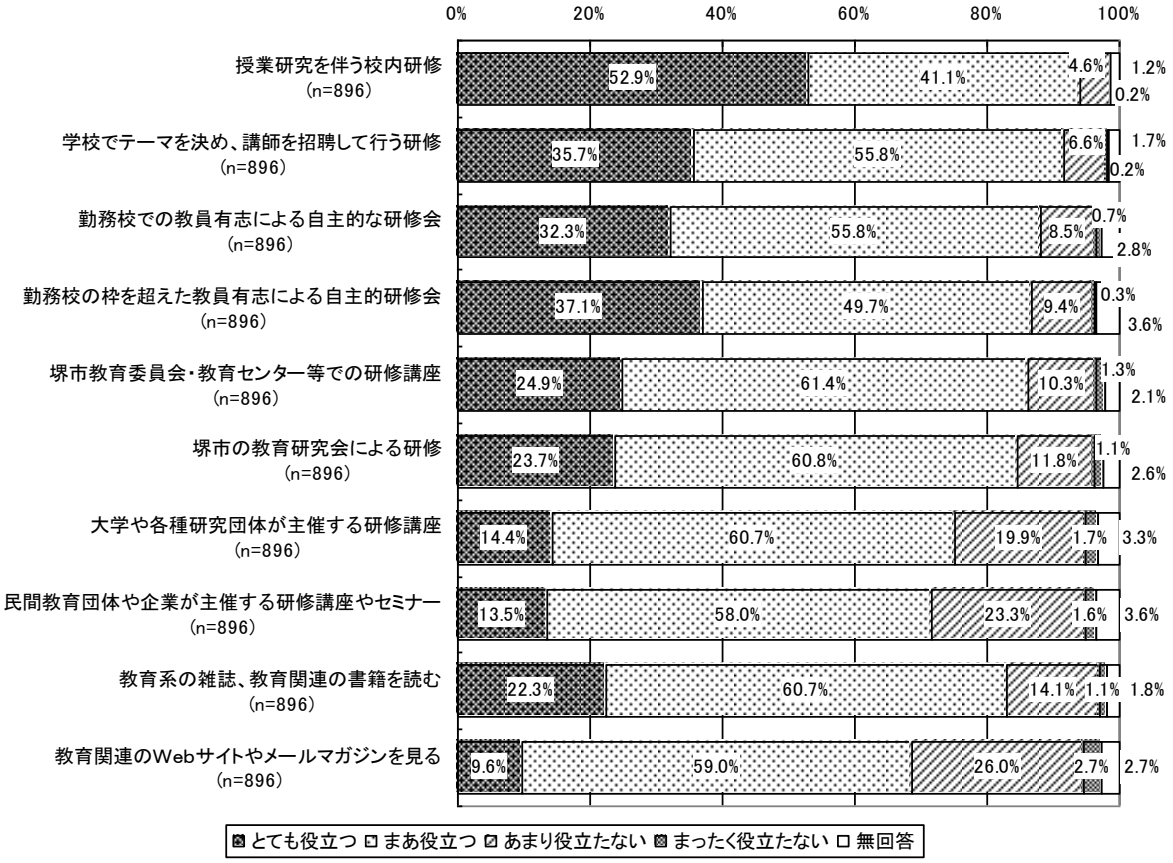
図表 4-17　勤務していて変化を感じること【平成 21 年度調査との比較】



１３）「教育力向上」に役立った研修

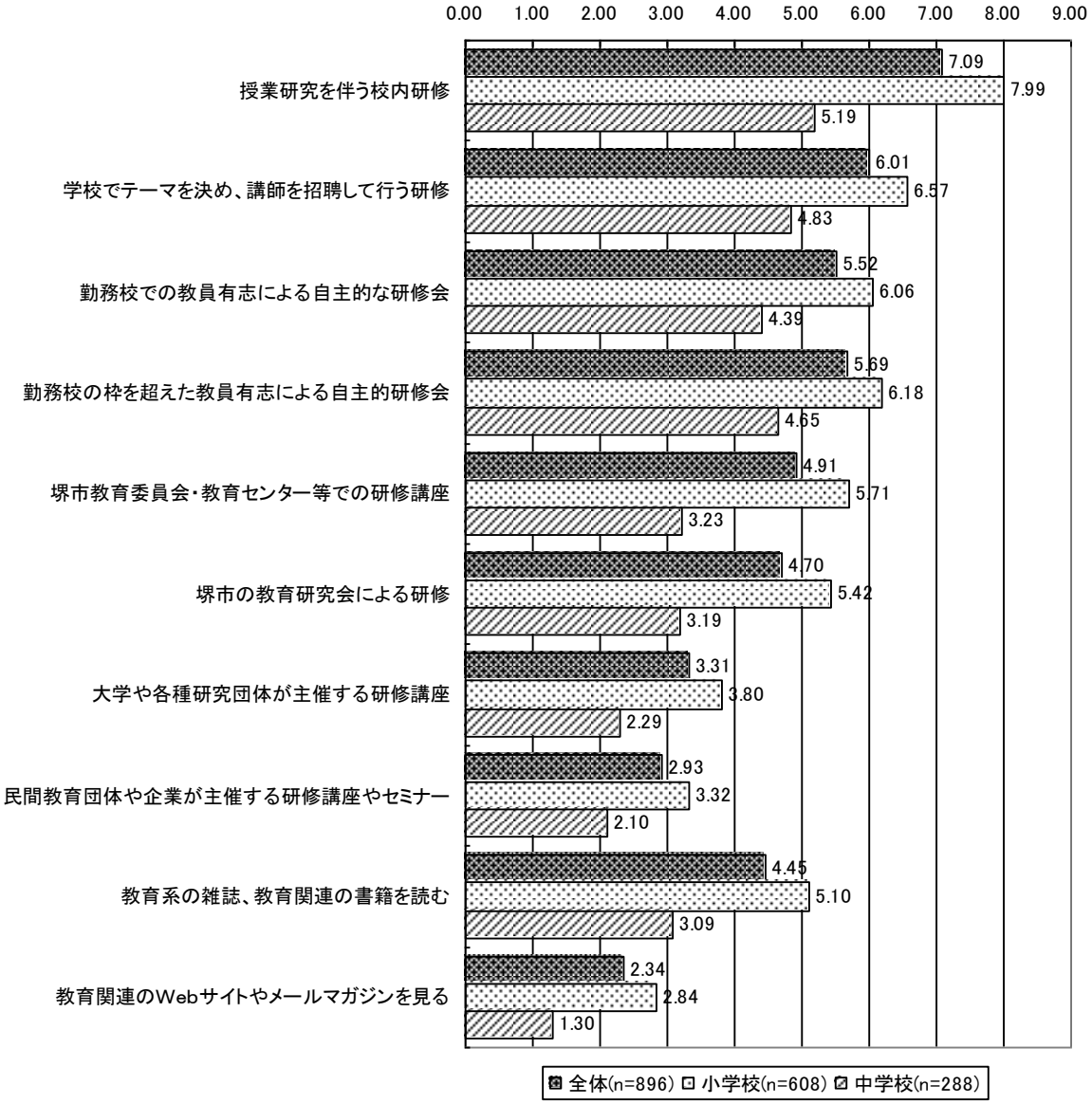
「教育力向上」に役立った研修について聞いたところ、いずれの項目でも「とても役立つ」「まあ役立つ」と回答した割合は高く、「授業研究を伴う校内研修」「学校でテーマを決め、講師を招聘して行う研修」の割合は９割に達している。

図表 ４-１８ 「教育力向上」に役立った研修



指標化して、小中学校別に比較すると、全ての研修について小学校教員の方が役立ったと感じる傾向がみられる。特に「授業研究を伴う校内研修」で 2.80 点、「堺市教育委員会・教育センター等での研修講座」で 2.48 点、「堺市の教育研究会による研修」で 2.23 点と、中学校教員より点数が高い。

図表 4-19 「教育力向上」に役立った研修【小中学校別】



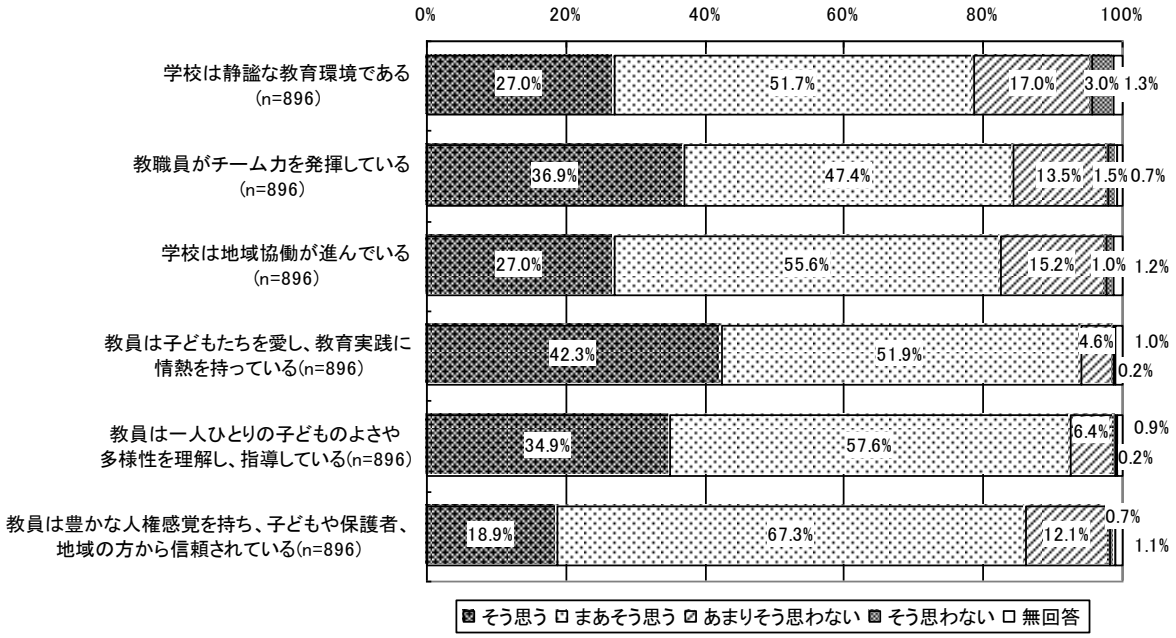
※指標化については、2 ページ参照

（３)学校教育について

１４）勤務する学校や教員について感じること

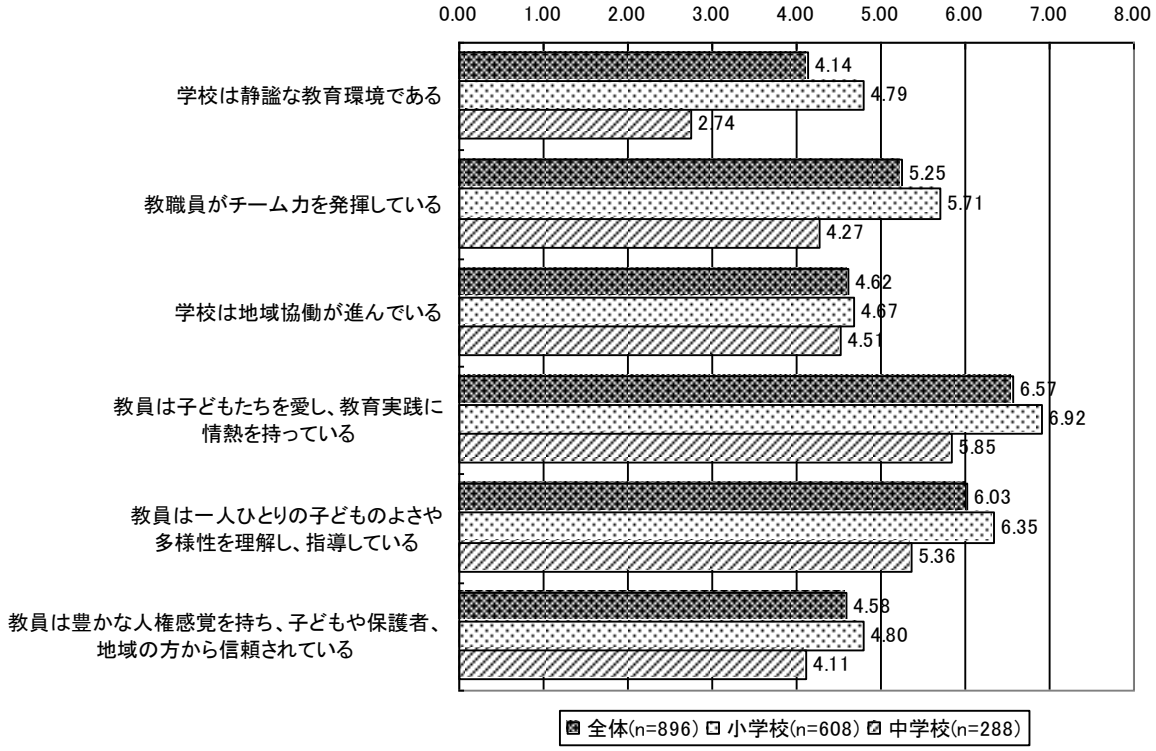
勤務する学校や教員について感じることについて、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合でみると、全ての項目で約８割～9 割以上の高い割合となっており、「教員は子どもたちを愛し、教育実践に情熱を持っている」の割合が 94.2%で最も高い。

図表 ４-２０ 勤務する学校や教員について感じること



次に、勤務する学校や教員について感じることを指標化して小中学校別に比較すると、全ての項目で小学校教員の点数が高く、特に「学校は静謐な教育環境である」では、2.05点の大きな点数の開きがみられた。

図表 4-２１　勤務する学校や教員について感じること【小中学校別】



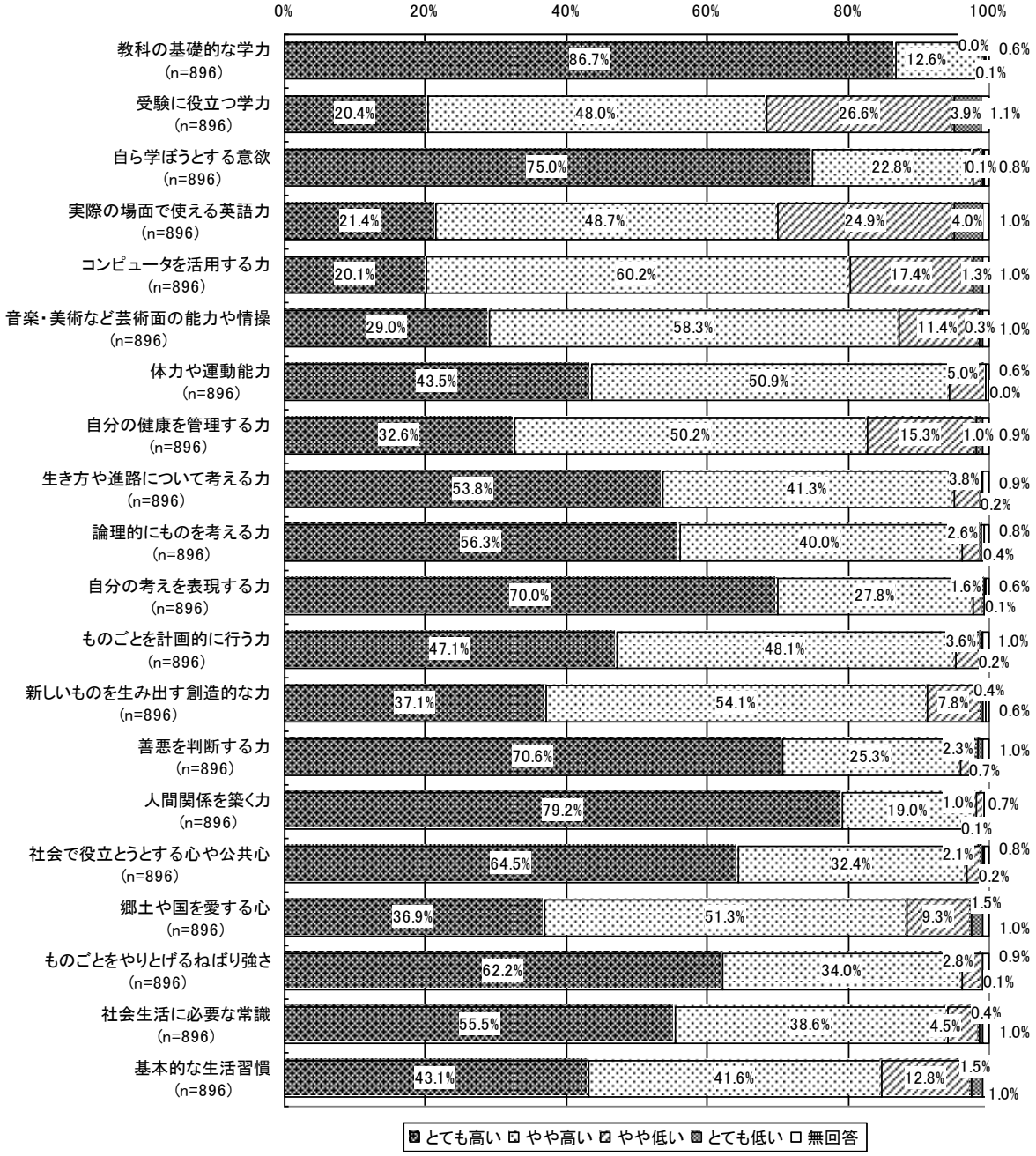
※指標化について、2ページ参照

１５）学校教育及び学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度

①学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度

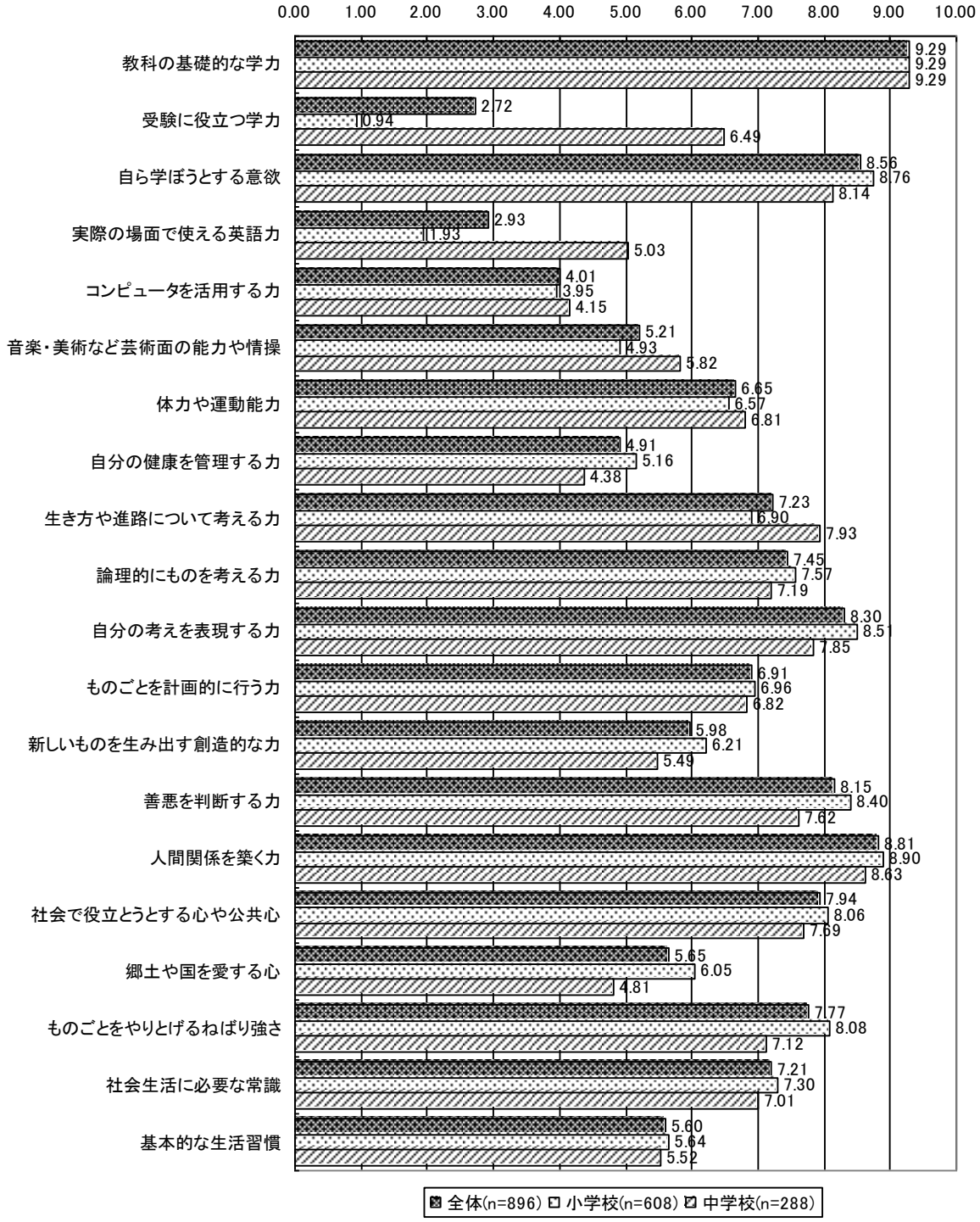
子どもが学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度を聞いたところ、「教科の基礎的な学力」で「とても高い」が 86.7%で最も高く、「やや高い」を合わせると、99.3%に上る。他に、「人間関係を築く力」79.2%、「自ら学ぼうとする意欲」75.0%、「善悪を判断する力」70.6%などが高い割合となっている。

図表 4-２２　学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度



次に、指標化して小中学校別に比較すると、小学校教員では「郷土や国を愛する心」「ものごとをやりとげるねばり強さ」などが中学校教員より高く、中学校教員では「受験に役立つ学力」「実際の場面で使える英語力」などが、小学校教員よりも高い傾向となっている。

図表 4-23 学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度【小中学校別】

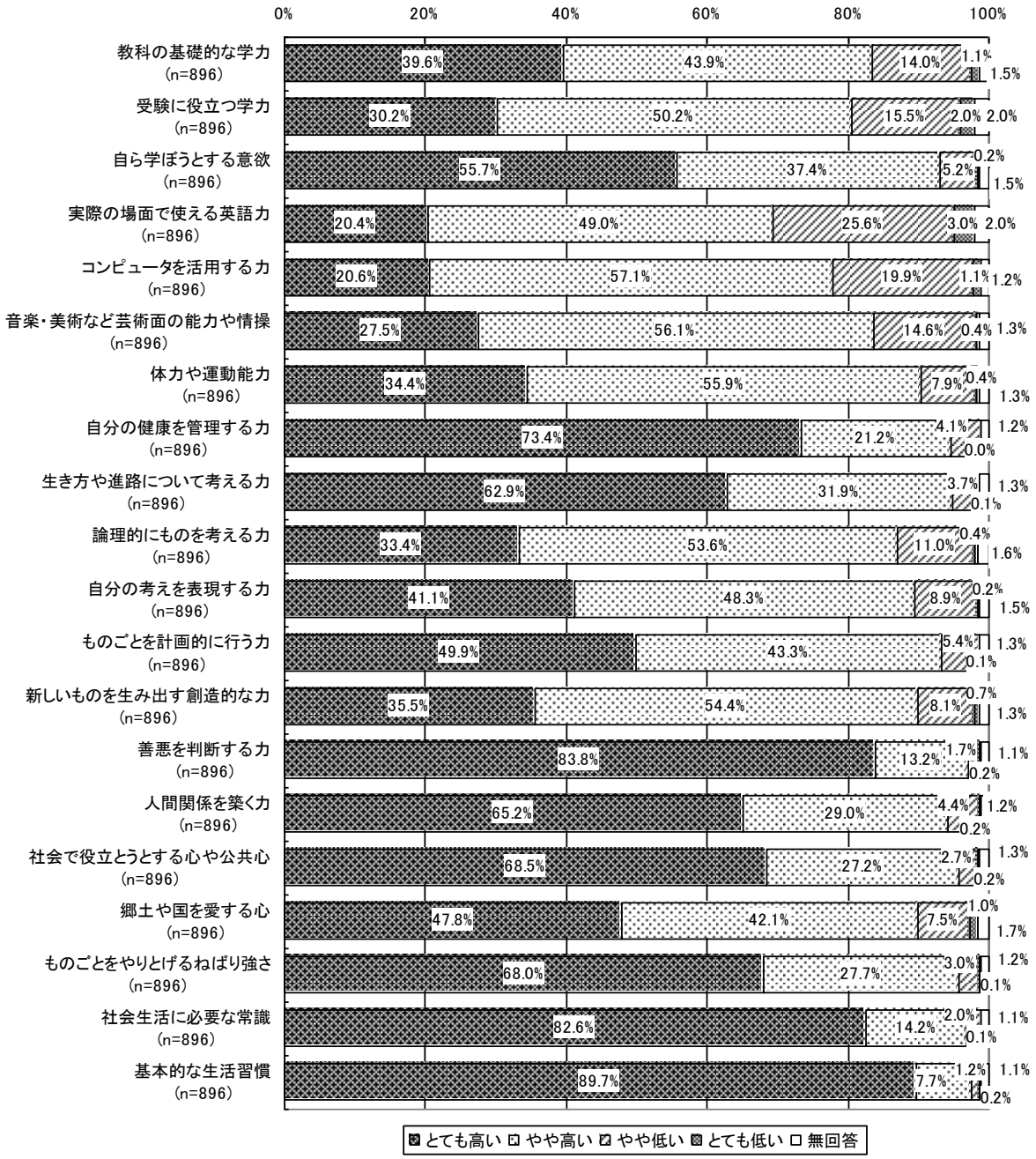


※指標化については、2ページ参照

②学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度

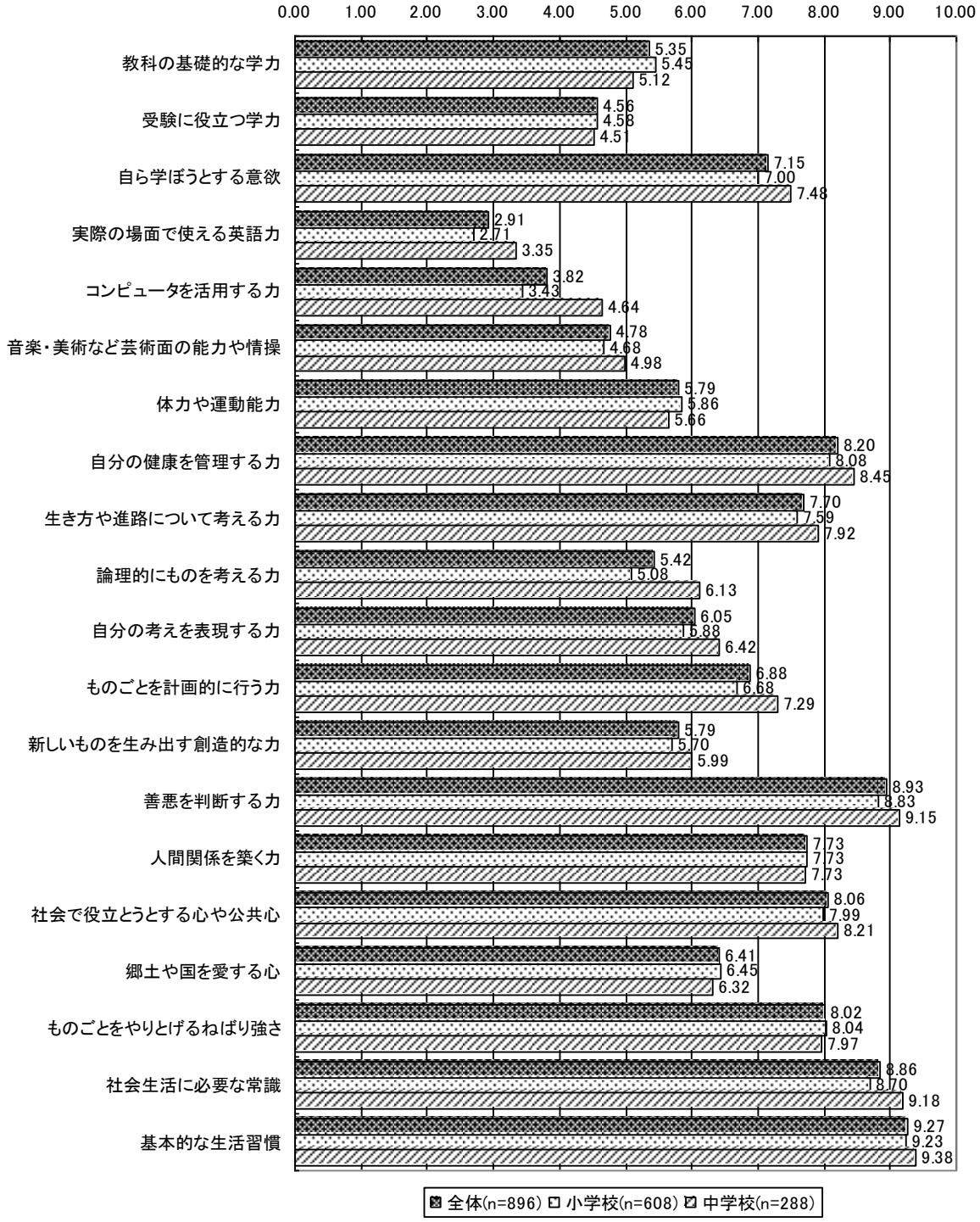
子どもが学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度については、「基本的な生活習慣」で「とても高い」が 89.7%で最も高く、次いで、「善悪を判断する力」83.8%、「社会生活に必要な常識」82.6%、「自分の健康を管理する力」73.4%と続いている。

図表 4-24 学校教育以外の場で身につける必要性のある能力や態度



次に、指標化して小中学校別に比較すると、全体的に中学校教員が必要性が高いと感じている傾向にある。特に「コンピュータを活用する力」「論理的にものを考える力」において、小学校教員との差が大きい。

図表 4-25 学校教育以外の場で身につける必要のある能力や態度【小中学校別】



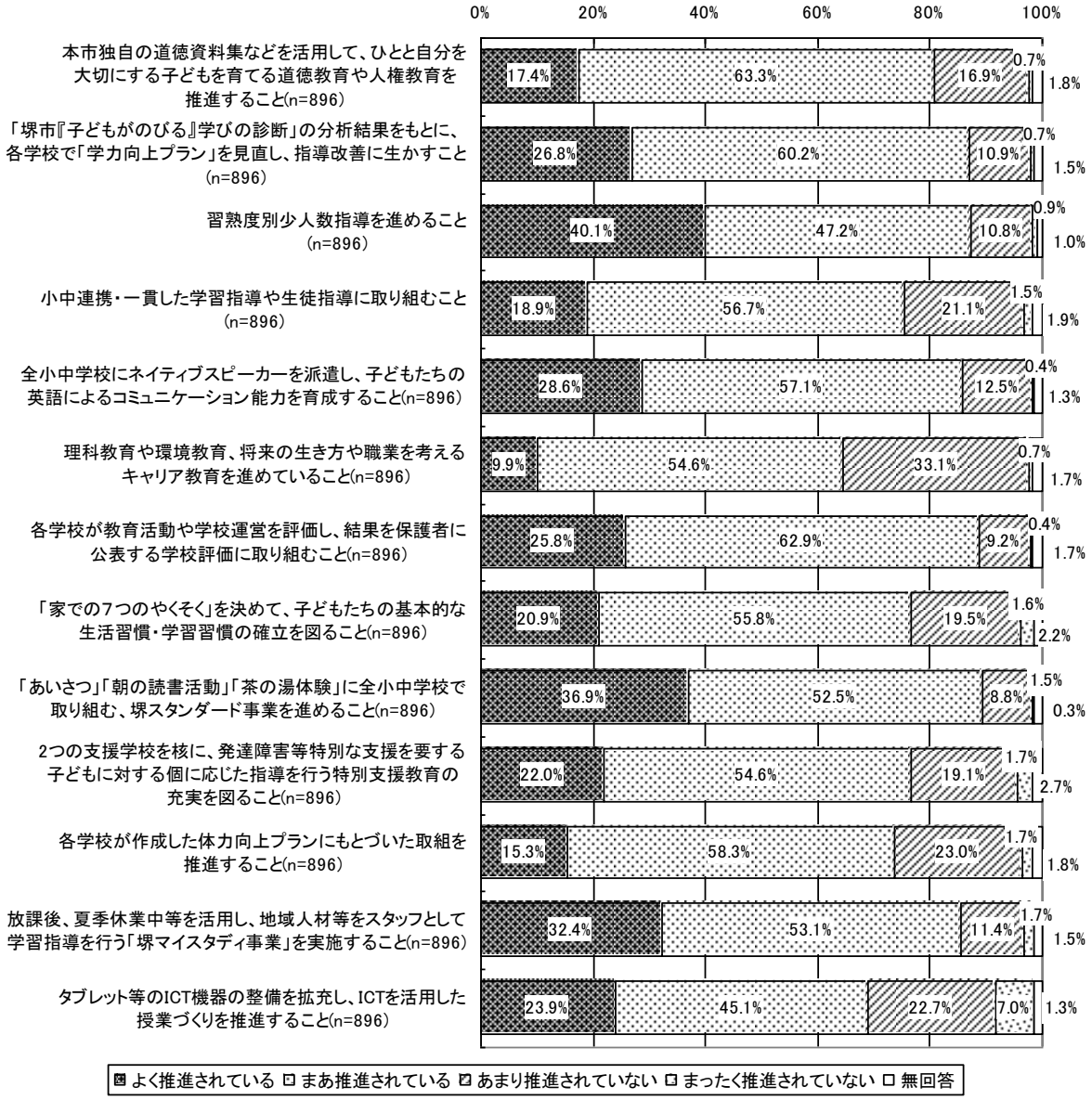
※指標化については、2ページ参照

１６）教育委員会や学校の取り組みの進捗度・重要度

①教育委員会や学校の取り組みの進捗度

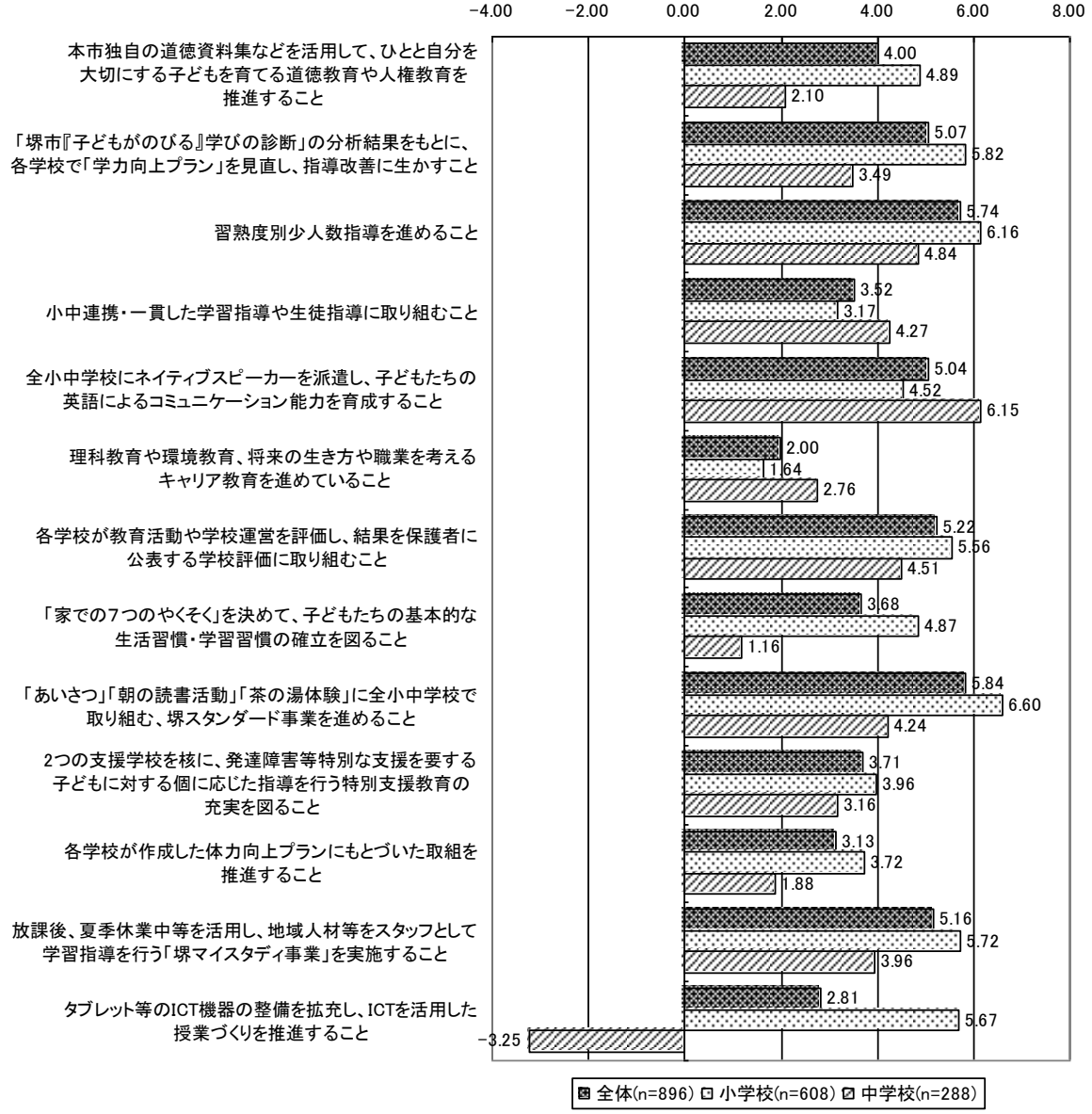
教育委員会や学校の取り組みの進捗度を聞いたところ、「習熟度別少人数指導を進めること」「「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に全小中学校で取り組む、堺スタンダード事業を進めること」などで「よく推進されている」の割合が高い。一方、「あまり推進されていない」と「まったく推進されていない」を合わせた割合では、「理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」が 33.8%で、最も高くなっている。

図表 4-２６　教育委員会や学校の取り組みの進捗度



次に、指標化して小中学校別に比較すると、「タブレット等の ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進すること」において、小学校教員での進捗度が 5.67 点であるのに対し、中学校教員はマイナス 3.25 点と、8.92 点の大きな開きがみられた。

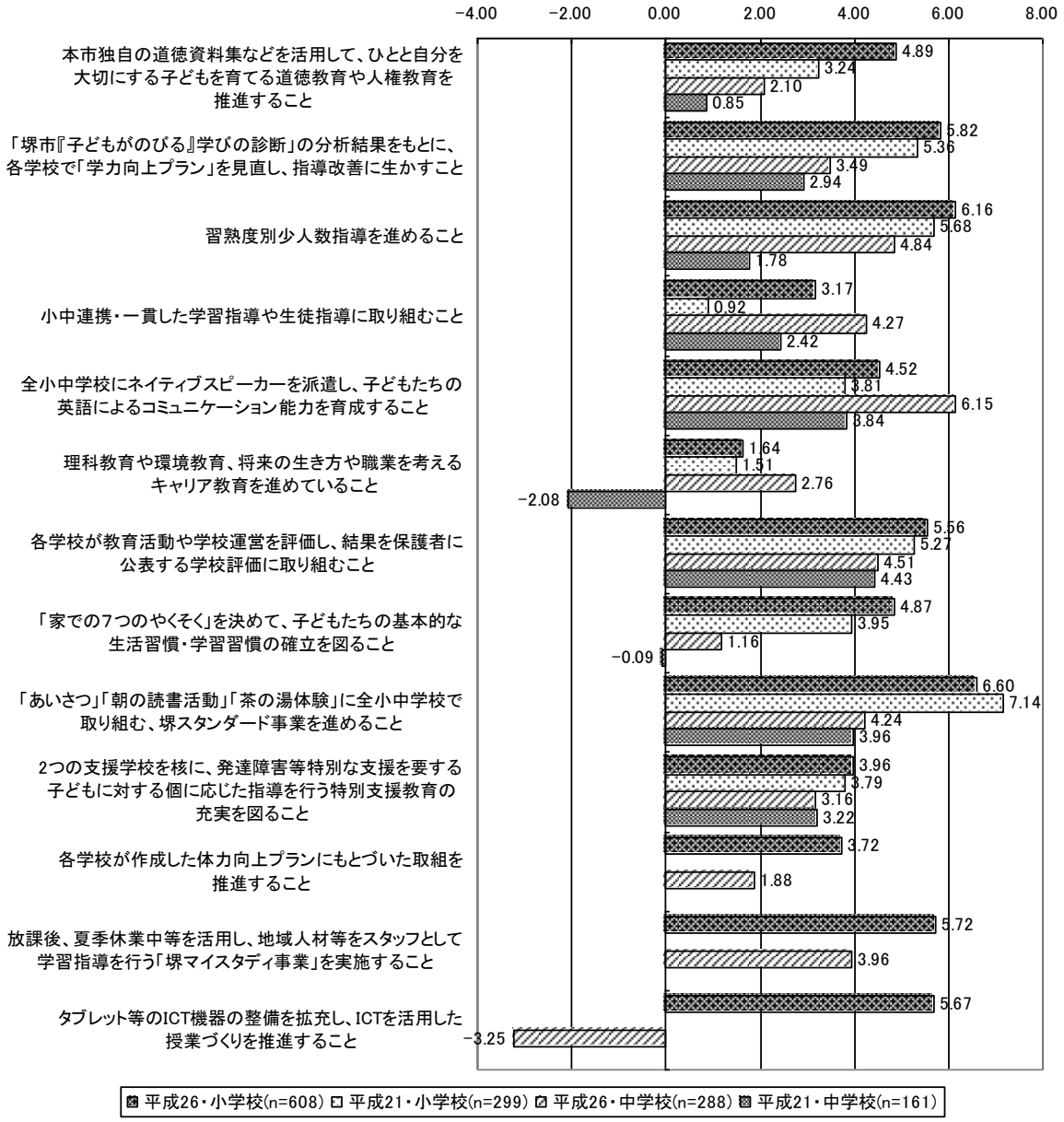
図表 4-27 教育委員会や学校の取り組みの進捗度【小中学校別】



※指標化については、2 ページ参照

次に、平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、全体的に前回調査よりも進捗度は上昇傾向にある。特に、小学校教員では「小中連携・一貫した学習指導や生徒指導に取り組むこと」で 2.25 点の大きな上昇となっており、中学校教員においては、「理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」が 4.84 点、「習熟度別少人数指導を進めること」が 3.06 点と、それぞれ大きな上昇がみられた。

図表 4-２８　教育委員会や学校の取り組みの進捗度【平成 21 年度調査との比較】

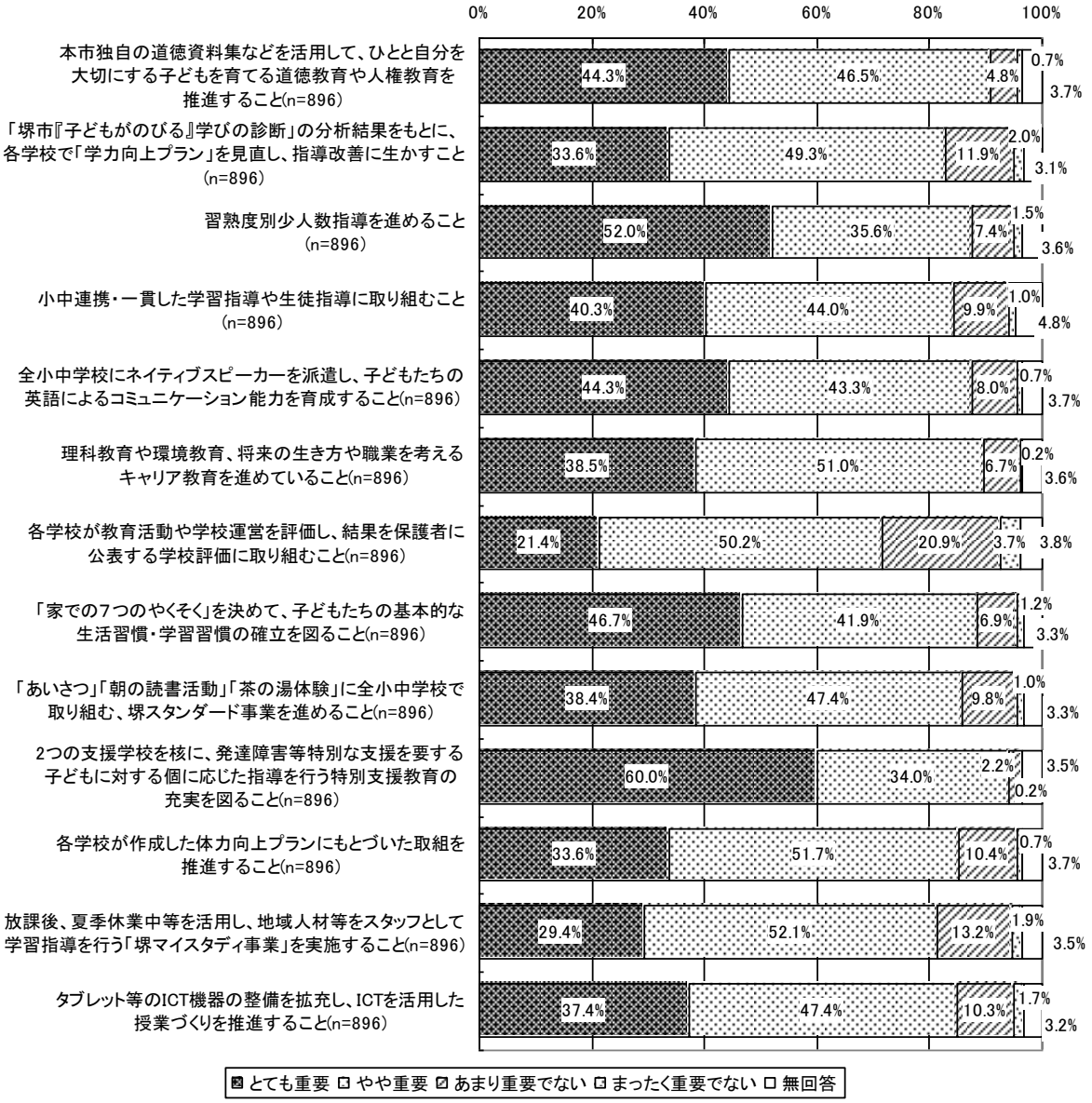


※指標化については、2 ページ参照

②教育委員会や学校の取り組みの重要度

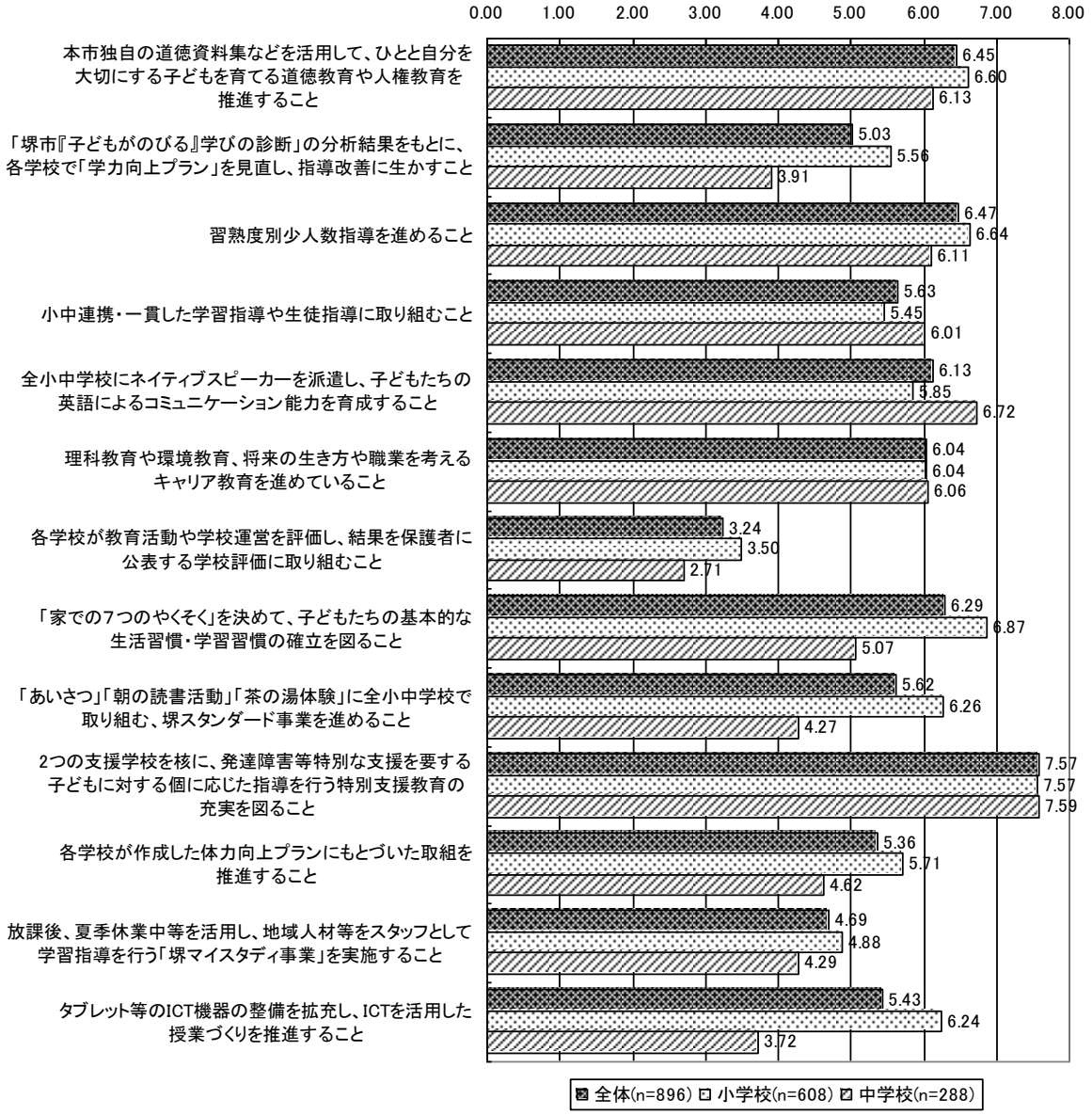
教育委員会や学校の取り組みの重要度を聞いたところ、「2 つの支援学校を核に、発達障害等特別な支援を要する子どもに対する個に応じた指導を行う特別支援教育の充実を図ること」で「とても重要」の割合が 60.0%で最も高く、次いで、「習熟度別少人数指導を進めること」52.0%と続いている。一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせた割合では、「各学校が教育活動や学校運営を評価し、結果を保護者に公表する学校評価に取り組むこと」が 24.6%で最も高く、教員の 4 人に 1 人は「重要でない」と回答している。

図表 4-２９ 教育委員会や学校の取り組みの重要度



次に指標化して小中学校別に比較すると、「タブレット等の ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進すること」「「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に全小中学校で取り組む、堺スタンダード事業を進めること」「「家での７つのやくそく」を決めて、子どもたちの基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図ること」において、小学校教員と中学校教員の差が大きく、小学校教員が中学校教員より重要度が高いとする傾向がみられた。

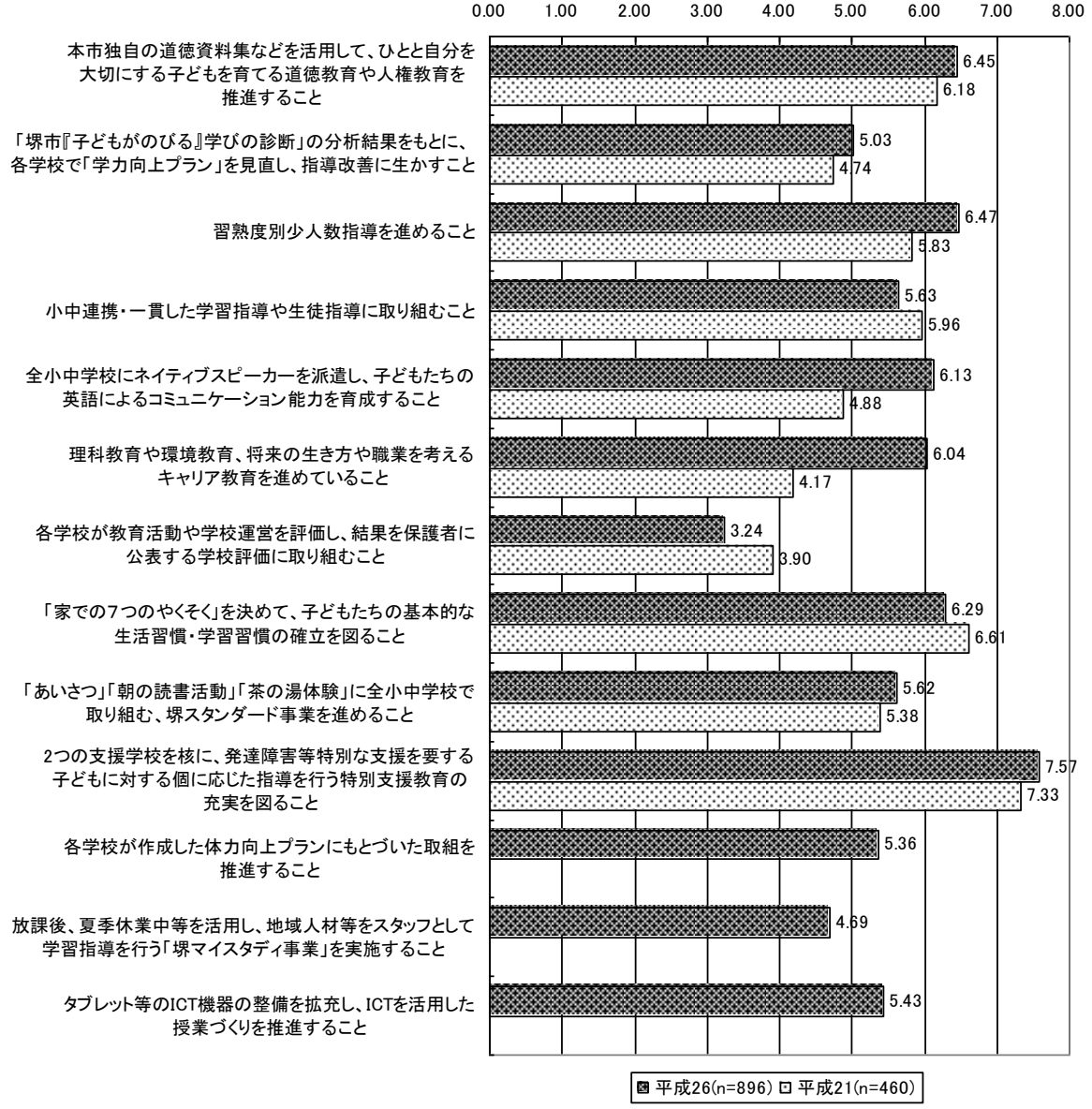
図表 ４-３０ 教育委員会や学校の取り組みの重要度【小中学校別】



※指標化については、2 ページ参照

指標化について平成 21 年度調査（平成 22 年 3 月）と比較すると、「理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」「全小中学校にネイティブスピーカーを派遣し、子どもたちの英語によるコミュニケーション能力を育成すること」は、前回調査よりも重要度が大きく上昇している。

図表 4-３１　教育委員会や学校の取り組みの重要度【平成 21 年度調査との比較】



※指標化については、2 ページ参照